《設置等の趣旨 資料目次》

資料番号	資料名	ページ
資料1	平成30年版厚生労働白書　第1部第4章（複雑化・多様化するニーズに対応した包括的な支援）	3
資料2	第3次周南市健康づくり計画（2020～2029）	5
資料3	関係機関からの新学部学科設置の要望書	8
資料4	国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針	16
資料5	令和4年版厚生労働白書－社会保障を支える人材の確保－	17
資料6	第3期スポーツ基本計画	21
資料7	令和4年版高齢社会白書	27
資料8	第3期スポーツ基本計画参考データ集	31
資料9	健康運動指導士とは	35
資料10	部活動指導員の制度化について	36
資料11	学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン	37
資料12	第3次周南市健康づくり計画	41
資料13	第2次周南市まちづくり総合計画後期基本計画	48
資料14	令和3年度周南市教育委員会の重点施策について	51
資料15	令和4年度高齢社会白書	53
資料16	医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ案（概要）	54
資料17	第8次医療計画、地域医療構想等について	55
資料18	保健師の人材確保・人材育成の体制整備に向けた統括保健師の役割保健師確保	56
資料19	地域保健行政の動向と保健師の役割	57
資料20	第7次山口県保健医療計画	58
資料21	令和3年度医療介護総合確保促進法に基づく山口県計画	62
資料22	「地域共生社会」の実現に向けて	63
資料23	『2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）』に基づくマンパワーのシミュレーション	66
資料24	第七次やまぐち高齢者プラン（令和3年度～5年度）	69
資料25	新たな児童虐待防止対策体制総合強化プラン	75
資料26	養成する人材像と3つのポリシーの相関図（スポーツ健康科学科）	77
資料27	カリキュラムマップ（スポーツ健康科学科）	78
資料28	看護学科が養成する人材像及び3つのポリシーの相関	79
資料29	カリキュラム・ポリシーと科目の相関（看護学科）	80
資料30	養成する人材像と3つのポリシーの相関図（福祉学科）	82
資料31	カリキュラムマップ（福祉学科）	83
資料32	カリキュラム・ポリシーと科目の相関（スポーツ健康科学科）	84
資料33	モデル・コア・カリキュラムとの整合性	87
資料34	カリキュラム・ポリシーと科目の相関（福祉学科）	136
資料35	履修モデル（スポーツ健康科学科）	139
資料36	履修モデル（看護学科・看護師課程）	140
資料37	履修モデル（看護学科・保健師課程）	141
資料38	履修モデル（福祉学科）	142
資料39	実習施設一覧（看護学科）	143
資料40	看護実習委託契約書（案）	145
資料41	実習施設における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び実習施設の法人機密情報の保護に関する誓約書（案）	149
資料42	看護学実習説明・協力依頼書（案）	150
資料43	看護学実習における学生受け持ち同意書（案）	151
資料44	看護学科実習委員会規程（案）	153
資料45	実習指導者連絡協議会	155

《設置等の趣旨 資料目次》

資料番号	資料名	ページ
資料46	看護学臨地実習要項（案）	157
資料47	各実習の教員配置	184
資料48	看護学臨地実習_実習スケジュール	224
資料49	ソーシャルワーク実習施設一覧	225
資料50	ソーシャルワーク実習の手引き（案）	226
資料51	ソーシャルワーク実習委託契約書（案）	261
資料52	個人情報保護及び守秘義務に関する誓約書（案）	263
資料53	実習指導者の配置計画	264
資料54	実習評価表（案）	265
資料55	キャリア形成活動評価表（案）	267
資料56	実習施設一覧（キャリア形成活動Ⅰ）	268
資料57	実習施設一覧（福祉学科）	269
資料58	地域福祉キャリア形成活動評価表（案）	271
資料59	教育課程と指定規則との対比表	272
資料60	選抜方法とアドミッション・ポリシーの相関表（スポーツ健康科学科）	274
資料61	選抜方法とアドミッション・ポリシーの相関表（看護学科）	275
資料62	選抜方法とアドミッション・ポリシーの相関表（福祉学科）	276
資料63	選抜方法一覧（スポーツ健康科学科）	277
資料64	選抜方法一覧（看護学科）	279
資料65	選抜方法一覧（福祉学科）	280
資料66	公立大学法人周南公立大学職員就業規則	281
資料67	公立大学法人周南公立大学職員の定年の特例に関する規程	311
資料68	令和9（2027）年度　全学部学科時間割	312
資料69	令和9（2027）年度　人間健康科学部看護学科時間割	318
資料70	令和9（2027）年度　人間健康科学部福祉学科時間割	322
資料71	学術雑誌等の一覧（スポーツ健康科学科）	323
資料72	学術雑誌等の一覧（看護学科）	324
資料73	学術雑誌等の一覧（福祉学科）	326
資料74	カリキュラムマップ（看護学科）	327

資料１

第４章　包摂と多様性がもたらす持続的な社会の発展に向けて

第１節　一億総活躍社会の実現

1 ニッポン一億総活躍プラン

（あらゆる場で誰もが活躍できる、全員参加型の社会の実現）

2016（平成28）年６月２日に、あらゆる場で誰もが活躍できる、全員参加型の社会を目指すため、「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定された。

同プランでは、少子高齢化の進行が、労働供給の減少のみならず、将来の経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、経済の持続可能性を危うくするという認識が、将来に対する不安・悲観へとつながっているとし、少子高齢化という構造的な課題に取り組み、女性も男性も、お年寄りも若者も、一度失敗を経験した方も、障害や難病のある方も、家庭で、職場で、地域で、あらゆる場で、誰もが包摂され活躍できる社会「一億総活躍社会」の実現を目指すとした。

一億総活躍社会とは、「成長と分配の好循環」を生み出していく新たな経済社会システムの提案である。すなわち、全ての人が包摂される社会、一億総活躍社会が実現できれば、安心感が醸成され、将来の見通しが確かになり、消費の底上げ、投資の拡大にもつながる。さらに、一人一人の多様な能力が十分に発揮され、多様性が認められる社会を実現できれば、新たな着想によるイノベーションの創出を通じて、生産性が向上し、経済成長を加速することが期待される。このように、「ニッポン一億総活躍プラン」では、アベノミクス（大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略）による成長の果実を活用して、子育て支援や社会保障の基盤を強化し、それが更に経済を強くするという新たな経済社会システム作りに挑戦するという「成長と分配の好循環」メカニズムを提示している（図表4-1-1）。

誰もが活躍できる一億総活躍社会を創っていくため、「ニッポン一億総活躍プラン」では、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」という新たな３本の矢を掲げているが、その中で特に本白書のテーマと関わりが深いのは「安心につながる社会保障」に向けた取組みの「健康寿命の延伸」、「障害者、難病患者、がん患者等の活躍支援」及び「地域共生社会の実現」である（図表4-1-2）。

2 働き方改革

（働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を目指して）

一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジが、働き方改革である。政府は、2017（平成29）年３月28日に「働き方改革実行計画」を働き方改革実現会議において決定した。

我が国の経済成長の隘路の根本には、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少という構造的な問題に加え、イノベーションの欠如による生産性向上の低迷、革新的技術への投資不足がある。日本経済の再生を実現するためには、投資やイノベーションの促進を通じた付

者雇用や治療と仕事の両立支援などの取組みを実施する上で、組織のトップによる意識改革の実行で組織内の機運を醸成することも有効である。

企業における意識改革や受け入れ体制の整備などを進めるため、国では、２で記載した事例の収集・分析・展開などの各支援施策に取り組んでいくこととしている。

（複雑化・多様化するニーズに対応した包括的な支援）

昨今では、様々な分野の問題が絡み合って複雑化したり、世帯単位で複数分野の課題を抱えるといった状況が見られる。高齢の親と働いていない独身の50代の子とが同居している世帯（いわゆる「8050問題」*4）、介護と育児に同時に直面する世帯（いわゆる「ダブルケア」）、障害のある子の親が高齢化し介護を要する世帯などの複合的な支援を必要とする人や世帯が見られる。このほか、障害や病気を有する家族やひきこもり状態にある家族を支える家族自身も、高齢化などにより問題を抱えているといった状況も見られる。

このような個人や世帯が抱える問題の複雑化・多様化に対しては、住民にとって最も身近な行政主体である市町村において、多機関の協働による包括的・総合的な相談体制の構築を進めている。改正後の社会福祉法では、地域子育て支援拠点、母子健康包括支援センター、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）に基づく利用者支援事業の実施事業所などの福祉の各分野における相談支援事業者が、利用者からの相談を通じて、利用者自身とその利用者の属する世帯が抱える生活課題を把握した場合に、必要に応じて適切な機関につないでいくことを努力義務としている。また、相談支援機関が協働して、課題を解決するネットワークの整備などを通じて、包括的な支援体制を整備していくことが市町村の努力義務とされ、これに加えて、世帯全体の複合化・複雑化した課題を受け止める包括的な相談支援体制づくりに取り組む自治体を支援する事業を実施している。

また、このような地域包括支援体制を確保していく上で、専門職の役割が重要となる。これまで保健医療福祉の対人支援を担う専門職は、それぞれの専門的資質を高める観点から専門分化された養成課程により養成されてきた。しかし、住民とともに地域のコミュニティをつくっていく、本人に寄り添いながら伴走型の支援を提供する、世帯単位で複合化・複雑化した課題に対応する、といった機能を果たしていくためには、これまでの専門分化された養成の仕組みだけでは十分とは言えない。また、保健医療福祉の中での人材移動を円滑にし、汎用性の高い多様な人材の育成を行うという視点も重要である。このため、専門性の確保に配慮しつつ、保健医療福祉の各資格に共通する基礎的な知識や素養を身につけ地域包括支援体制を担うことのできる専門人材を育成するため、保健医療福祉の共通基礎課程の創設に向けた検討を進めている。共通基礎課程創設までの間の当面の措置として、2018（平成30）年度から福祉系国家資格を持つ者への保育士養成課程・保育士試験科目の一部免除の措置を講じている*5。

＊4　平成28年度厚生労働省社会福祉推進事業「生活困窮者自立相談支援事業における中高年ひきこもり者とその家族への効果的な支援に関する研究報告書」（平成29年3月31日　一般社団法人インクルージョンネットかながわ）によると、80歳代の親と50歳代の無業のひきこもり者が同一世帯で生活していることを「8050問題」と呼んでいる。

＊5　福祉系国家資格所有者（介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士）が保育士試験を受験する際に、全9科目のうち3科目（社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護）の受験を免除する、介護福祉養成施設の卒業者が指定保育士養成施設で学ぶ場合に、必修科目のうち6科目（10単位）の履修免除を行うなどの措置を講じている。

資料２

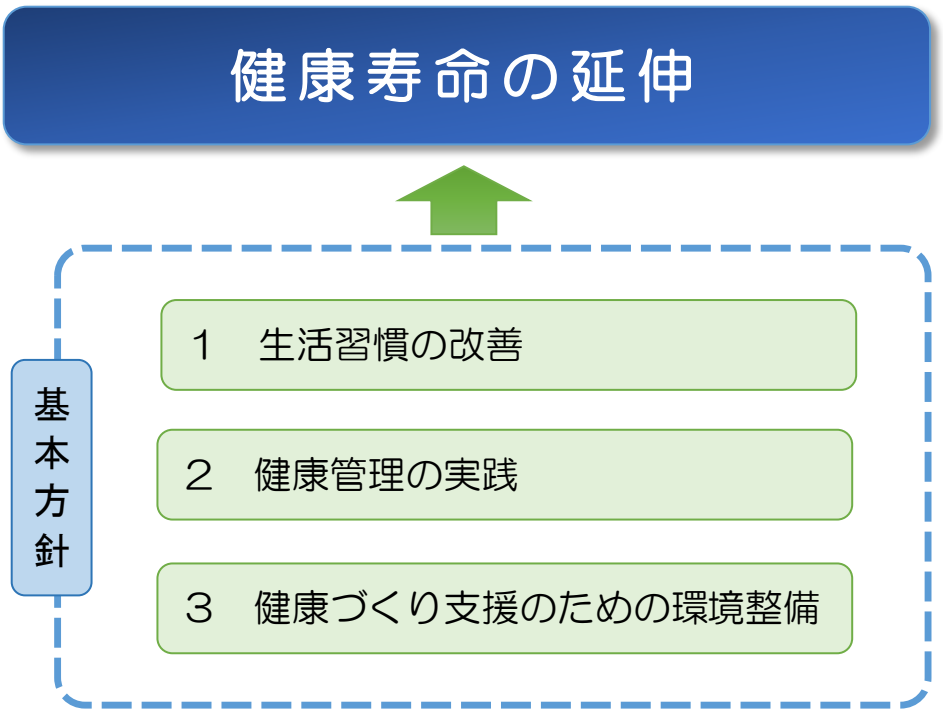
第３章

健康づくりの目標と取組（健康づくり計画）

1　健康づくりの基本的な考え方

（１）健康づくり計画の目標と基本方針

【健康づくり計画がめざすもの】



前計画期間中の取組により、市民の健康意識が着実に高まりつつある一方で、前計画策定時に抽出された本市の健康課題の多くは、現在も残っています。本計画においても、引き続き「ヘルスプロモーション」の考え方に基づき、これら健康課題の解消を図り、健康寿命の延伸の実現をめざします。

本市では、前計画期間中、企業、事業所、関係団体等と連携し、いつでも、どこでも、だれでも気軽に取り組める健康づくり「しゅうなんスマートライフチャレンジ」に取り組み、一定の成果を上げることができました。具体的なチャレンジメニューは、社会の情勢変化等に伴い、必要に応じて見直すことになりますが、本計画期間中においても、この取組を本市における健康づくりの主要事業と位置づけ、継続することとします。

なお、現状と課題の整理及びそれに対する具体的な取組の設定にあたっては、健康づくりの６つの分野（①栄養・食生活　②身体活動・運動　③こころの健康と休養　④歯・口腔　⑤たばこ・飲酒　⑥健康管理）ごとに整理し、生涯を通じた健康づくりを支援します。

（２）健康づくり計画の体系



※しゅうなんスマートライフチャレンジとは、国が推進する健康寿命を延ばす国民運動「スマートライフプロジェクト」の一環として、市民が自発的かつ積極的に健康の維持増進に取り組めることを目的とし、地域、企業、関係団体等と連携して進める「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に取り組める健康づくりチャレンジです。

下松企第１１８号
令和５年１月１３日

公立大学法人 周南公立大学
理事長　髙田　隆　様

下松市長　國井　益雄

周南公立大学の学部学科改組について

新春の候ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から本市の市政運営につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本市では、豊かな自然や快適な環境を背景に、これまで製造業の事業拡大による設備投資や企業立地等による雇用の創出、持続可能な地域づくりやコンパクトなまちづくりに向けた社会インフラの整備等、「都市と自然のバランスのとれた住みよさ日本一の星ふるまち」の実現に向け、下松市総合計画を柱とした施策を着実に進めております。

また、昨年８月には、貴学との包括連携協定を締結し、知的・人的資源の活用や幅広い分野での連携・協力を通じて、相互発展、人材育成、地域の振興など、本市の最も重要な施策の１つに掲げる「産官民による魅力あるまちづくりの推進」につながる効果的な取組を共に展開していくこととしたところであります。

このような中、貴学におかれましては、令和６年度に現在の学部学科を再編し、経済経営学部（経済経営学科）、人間健康科学部（スポーツ健康科学科、看護学科、福祉学科）、情報科学部（情報科学科）の３学部５学科へと改組する構想を打ち出されています。

このことは、周南地域におけるＤＸの推進、地域医療の発展及び健康福祉のまちづくり等を通じて、「知の拠点」として地域貢献をより高めていく取組であり、産学官連携により地域課題の解決に向け、大きく寄与していただけるものと考えるとともに、若い世代の地域への定着、地域人材の育成など人づくりの好循環につながるものと期待しております。

つきましては、貴学における学部学科改組の構想の趣旨に賛同するとともに、本市の課題解決の観点からも、ぜひとも実現していただきますようお願いいたします。

光企第２５３号
令和５年１月１６日

公立大学法人周南公立大学
理事長　髙　田　　隆　様

光市長　　市　川　　熙

周南公立大学の学部学科の改組について

新春の候ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から本市の市政運営につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、「第３次光市総合計画」に基づき、市民力や地域力の源となる様々な「つながり」をキーワードに、誰もが笑顔で心豊かに暮らし続けることができる「ゆたかな社会」の実現に向けたまちづくりを進めています。

また、昨年８月には、貴学との包括連携協定を締結し、地域課題や人材育成、産業振興等の幅広い分野において、相互に連携を深めているところであります。

こうした中、貴学におかれましては、令和６年度の学部学科改編を目指し、経済経営学部（経済経営学科）、人間健康科学部（スポーツ健康科学科、看護学科、福祉学科）、情報科学部（情報科学科）の３学部５学科へと改組する構想を打ち出されています。

本構想の実現により、健康、福祉、スポーツ、医療看護、情報など多分野における充実した教育研究、また産学官をはじめとした幅広い地域連携によって、周南地域の発展が期待され、地元企業への就職や若者によるにぎわいづくりなど、地域に多様な「つながり」を生み出し、本市が目指す「ゆたかな社会」の実現に大きく寄与するものと考えられます。

つきましては、貴学における学部学科改組の構想の趣旨に賛同するとともに、本市の課題解決の観点からも、ぜひとも実現していただきますようお願いいたします。

山看協総務第８９号
令和４年１２月８日

公立大学法人　周南公立大学
理事長　髙　田　　隆　様

公益社団法人山口県看護協会
会　長　　西　生　敏　代

周南公立大学における人間健康科学部看護学科設置について（要望書）

本協会は、看護職能団体として「生きるを、ともに、つくる。」（日本看護協会タグライン）の役割を果たすべく、社会変革に対応し地域の皆様が安心して、その人らしい生活を営む社会の一助となれるよう、「全世代を対象とした地域における看護力の強化と連携」、「看護職の就業と定着の促進」、「看護の質の向上とキャリア形成の促進」、「組織力の強化」、「地域における健康危機管理体制の強化」を５つの重点方針として定め、様々な取組を進めております。

貴学におかれましては、地域貢献大学としての役割を果たすべく、前身の徳山大学を公立化し、本年度より周南公立大学として新たな船出をされ、さらには、令和６年度には、人間健康科学部看護学科の設置を構想されております。

本協会の取組のさらなる推進においても、山口県東部において初となる４年制の看護師養成機関の開設に期待をしており、貴学看護学科のミッションとなる、豊かな人間性や高い倫理観、幅広い教養、そして、高度な知識と実践力を有する人材育成、また、開かれた大学としての地域連携、教育・研究成果の還元を通じて、地域の健康・医療・福祉の向上に寄与されるものと考えております。

つきましては、貴学の人間健康科学部看護学科の設置構想の趣旨に賛同するとともに、令和６年度での確実な設置を要望いたします。

周南社協業発第１８６号
令和４年１２月２日

公立大学法人　周南公立大学
理事長　高田　　隆　様

社会福祉法人　周南市社会福祉協議会
会　長　　佐原昌弘

周南公立大学人間健康科学部福祉学科の設置について（要望書）

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は本会事業の推進に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会におきましては、住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現をめざし、住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施を行っております。

貴学におかれましては、より高度な福祉人材の養成をめざし、令和６年度に福祉情報学部人間コミュニケーション学科を人間健康科学部福祉学科へと学部学科の改組を行うための準備を進められておられます。

山口県東部唯一の４年制大学、また、地域の「知の拠点」として、これまで以上に充実した教育研究環境の中、地域の well-being を高めるため、複雑化・多様化する福祉現場において、関係機関との連携、他業種との連携を図り、ソーシャルワーク能力を発揮できる人材を輩出していただけることと、大いに期待を寄せているところです。

っきましては、貴学とのより緊密な連携体制を構築してまいりたいと考えていることから、貴学の人間健康科学部福祉学科の設置に賛同するとともに、早期の実現を要望いたします。

周体協令和４第９４号

令和４年１２月　８日

公立大学法人 周南公立大学

理事長　髙田　隆　様

公益財団法人 周南市体育協会

会 長　黒神　直大

人間健康科学部スポーツ健康科学科の設置について（要望書）

本協会は、周南市民のスポーツの統一組織として、市民の体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、もってスポーツの振興に寄与することを目的としており、その達成に向け、幅広い事業活動に取り組んでいます。

貴大学におかれましては、当協会加盟の「学生スポーツ連盟」を徳山工業高等専門学校と共に形成され、産学官の連携に力を注ぎ、医学的・保健衛生学的な基礎知識と幅広い教養を備え、スポーツをレクリエーション、介護予防など様々な角度から捉えながら、健康で幸福な人と地域社会の創造に貢献する人材を育成するため、令和６年度に、人間健康科学部スポーツ健康科学科の設置を目指されています。

このことは、本協会の取組のさらなる推進をはじめ、「スポーツそのものが有する価値（Well-being）」や「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」を更に高めることを目的としたスポーツ庁の『第３期スポーツ基本計画』や、「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で、生涯にわたりスポーツ活動に親しむことができるまちづくりを基本理念とした『周南市スポーツ推進計画』の様々な取組に寄与できるものと考えています。

また、同学部には、看護学科と福祉学科の設置も構想され、各種団体・機関との緊密な連携や多職種連携による、スポーツ環境の充実等にも期待をしています。

つきましては、貴大学の人間健康科学部スポーツ健康学科の設置の趣旨に賛同するとともに、令和６年度での設置を要望いたします。

新商議発第２８号

令和４年１２月１５日

公立大学法人 周南公立大学

理事長　髙田　隆　様

新南陽商工会議所

会 頭　赤坂　徳靖

周南公立大学における学部学科の改組について（要望書）

近年、地方における人口減少、経済の衰退が顕著となっており、地域の特色を生かしたまちづくり、地方創生が今まさに求められています。

そのような中、文部科学省が設置する教育未来創造会議においては、我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について議論されており、高等教育機関の教育力・研究力を活用したまちづくりの必要性は今後ますます高まるものと考えています。

周南公立大学におかれましては、地域住民や産業界からのニーズを踏まえ、現在の経済学部（現代経済学科、ビジネス戦略学科）と福祉情報学部（人間コミュニケーション学科）の２学部３学科を、令和６年度より、経済経営学部（経済経営学科）、人間健康科学部（スポーツ健康科学科、看護学科、福祉学科）、情報科学部（情報科学科）の３学部５学科へと改組する構想を打ち出されています。

人生１００年時代やデジタル社会の到来といった「変化する時代」に対応し、地域社会や企業経営の課題解決、健康寿命の延伸、看護人材の養成、地域福祉の向上、地域のDX化など、地域貢献大学としての役割を推進するための構想であり、地域の商工業の発展、地域活性化、また、若者によるさらなる賑わいの創出、地元定着を図る上でも大きな期待を寄せているところです。

また、地域の「知の拠点」として、シンクタンク機能を発揮し、幅広く市民が各学科

における専門的な学びを享受できるリカレント教育の充実や、企業団体への研究成果や知見の提供等にも、活発に取り組んでいただきたいと考えています。

つきましては、周南公立大学の令和６年度における学部学科改組の構想に賛同するとともに、令和６年度での確実な実現を要望いたします。

令和５年１月２０日

公立大学法人周南公立大学
理事長　髙田　隆　様

周南公立大学新学部・新学科の創設について（要望）

公立大学法人周南公立大学におかれましては、令和４年４月に「地域に輝く大学」を目指し開学され、まちづくりの中核となる大学としての役割を果たすため、日々努力を続けておられますことは、地元経済界にとりましても大変心強く、敬意を表する次第でございます。

現在、周南地域は、人口減少と若者の県外流出を抑制し、若者の地元定住と都市部からの移住促進を図ることが喫緊の課題となっています。

このような状況下において、周南公立大学の存在はまさに「地域の宝」であり、さらなる飛躍に向け、現在の２学部３学科から２０２４年４月には経済経営学部、情報科学部、人間健康科学部の３学部、経済経営学科、情報科学科、スポーツ健康科学科、看護学科、福祉学科の５学科への改編が実現すれば、地域課題の解決に多大なる貢献をもたらすことは必至であると確信いたしております。

新学部・新学科の創設は、若者が地元の大学に進学できるだけでなく、都市部からの学生による雇用創出や学卒者の地元定着率の向上、さらには、大学との協働による教育・研究活動や教職員・学生との接点から生まれる社会的・経済的効果が期待でき、大学を核とした地域の活性化につながります。

また、地域産業の振興を担い、社会的な課題解決に貢献できる人材を輩出するなど、地域でグローバルな視点を持った人材が活躍することが期待されます。

さらに、当地域に今後の時代を担う人材の育成の拠点となる学部・学科が設置されることは、まちづくりや地域産業を担う高度な人材育成にも寄与し、大きな意味を持つものと考えます。

徳山商工会議所は、周南公立大学の新学部・新学科創設に向けた活動を全面的に賛同するとともに、創設に向けて早急に取り組まれることを強く要望いたします。

徳山商工会議所
会頭　原田　康宏

○厚生労働省告示第四百三十号

健康増進法（平成十四年法律第百三号）第七条第一項の規定に基づき、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針）平成十五年厚生労働省告示第百九十五号）の全部を次のように改正し、平成二十五年四月一日から適用することとしたので、同条第四項の規定に基づき公表する。

平成二十四年七月十日

厚生労働大臣　小宮山洋子

国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針

この方針は、21 世紀の我が国において少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、生活習慣及び社会環境の改善を通じて、子どもから高齢者まで全ての国民が共に支え合いながら希望や生きがいを持ち、ライフステージ（乳幼児期、青壮年期、高齢期等の人の生涯における各段階をいう。以下同じ。）に応じて、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現し、その結果、社会保障制度が持続可能なものとなるよう、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な事項を示し、平成 25 年度から平成 34 年度までの「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本 21（第二次））」（以下「国民運動」という。）を推進するものである。

第一　国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向

一　健康寿命の延伸と健康格差の縮小

我が国における高齢化の進展及び疾病構造の変化を踏まえ、生活習慣病の予防、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上等により、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間をいう。以下同じ。）の延伸を実現する。

また、あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより、健康格差（地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差をいう。以下同じ。）の縮小を実現する。

二　生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底（ＮＣＤの予防）

がん、循環器疾患、糖尿病及びＣＯＰＤ（慢性閉塞性肺疾患をいう。以下同じ。）に対処するため、食生活の改善や運動習慣の定着等による一次予防（生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病の発症を予防することをいう。）に重点を置いた対策を推進するとともに、合併症の発症や症状の進展等の重症化予防に重点を置いた対策を推進する。

（注）がん、循環器疾患、糖尿病及びＣＯＰＤは、それぞれ我が国においては生活習慣病の一つとして位置づけられている。一方、国際的には、これら四つの疾患を重要なＮＣＤ（非感染性疾患をいう。以下同じ。）として捉え、予防及び管理のための包括的な対策を講じることが重視されているところである。

三　社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

国民が自立した日常生活を営むことを目指し、乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、心身機能の維持及び向上につながる対策に取り組む。

また、生活習慣病を予防し、又はその発症時期を遅らせることができるよう、子どもの頃から健康な生活習慣づくりに取り組む。

さらに、働く世代のメンタルヘルス対策等により、ライフステージに応じた「こころの健康づくり」に取り組む。

四　健康を支え、守るための社会環境の整備

個人の健康は、家庭、学校、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、社会全体として、個人の健康を支え、守る環境づくりに努めていくことが重要であり、行政機関のみならず、広く国民の健康づくりを支援する企業、民間団体等の積極的な参加協力を得るなど、国民が主体的に行う健康づくりの取組を総合的に支援する環境を整備する。

また、地域や世代間の相互扶助など、地域や社会の絆、職場の支援等が機能することにより、時間的又は精神的にゆとりのある生活の確保が困難な者や、健康づくりに関心のない者等も含めて、社会全体が相互に支え合いながら、国民の健康を守る環境を整備する。

令和4年版

厚生労働白書

（令和３年度厚生労働行政年次報告）

―社会保障を支える人材の確保―

厚 生 労 働 省

(7) がん患者の治療と仕事の両立の推進

がん医療の進歩により、がんは長く付き合う病気となり、がん患者・経験者が、働きながらがん治療を受けられる可能性が高まっている。このため、がんになっても自分らしく活き活きと働き、安心して暮らせる社会の構築が重要となっている。2016（平成28）年2月には、企業における治療と仕事の両立支援の取組みを促進するため、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」を策定した（2022（令和4）年3月改訂）。第三期の基本計画においても、がん患者の就労支援を含む「がんとの共生」を柱の一つとして位置づけ、引き続き、がん患者などの就労を含めた社会的な問題について取り組むこととしている。2017（平成29）年度に、患者自身や就労支援に携わる者が、がん患者などのおかれた事情を総合的に把握するためのツールとして、「治療と仕事両立プラン」を開発し、2018（平成30）年度より、そのプランを活用した就労支援を行う「がん患者の仕事と治療の両立支援モデル事業」を実施した。同モデル事業のノウハウを各地に広めていけるよう、関係者・機関と有機的な連携の下、「がん患者の就労に関する総合支援事業」などの取組みにより、がん患者の就労支援を一層推進していく。

(8) がん研究の推進

がん研究は、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣の3大臣確認の下、2014（平成26）年3月に「がん研究10か年戦略」を基軸として、健康・医療戦略に基づく医療分野の研究開発に関する方針を踏まえ、がんの根治を目指した治療法の開発に加え、がん患者とその家族のニーズに応じた苦痛の軽減や、がんの予防と早期発見、がんとの共生といった観点を重視して推進している。また、「ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト」として、「がん研究10か年戦略」に基づき、基礎研究の有望な成果を臨床研究などへ導出し、がん医療の実用化を加速させてきた。2019（平成31）年1月より、「今後のがん研究のあり方に関する有識者会議」を開催し、これまでのがん研究の評価や今後のあるべき方向性などを議論し、同年4月に「「がん研究10か年戦略」の推進に関する報告書（中間評価）」を取りまとめた。本中間評価に基づき、科学技術の進展や臨床ニーズに見合った研究を推進していく。

2 国民健康づくり運動の展開

がん、循環器疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの生活習慣病は、日本人の死因の約5割を占めるなど、日本人の健康にとって大きな課題となっている。また、死亡のリスク要因を見てみると、喫煙などの個人の生活習慣と、これらと関係する高血圧、高血糖などが上位となっている（**図表8-4-2**）。厚生労働省では、2000（平成12）年から生活習慣の改善などに関する目標を盛り込んだ「21世紀における国民健康づくり運動」（「健康日本21」）を開始し、一次予防の観点を重視しながら健康増進を図るための国民運動を進めてきた。その間、2003（平成15）年には、健康増進法が施行され、2011（平成23）年からは、幅広い企業連携を主体とした取組みとして「スマート・ライフ・プロジェクト」を開始するなど、様々な取組みを進めてきた。「スマート・ライフ・プロジェクト」に取り組む企業・団体・自治体数は420団体（2012（平成24）年）から6,853団体（2022（令和4）年3月）に増加しており、引き続き参加団体の増加に対する

取組みを推進していく。2013（平成25）年度からは、「健康日本21」の取組み結果などを踏まえて、「健康日本21（第二次）」を開始し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を最終的な目標として掲げた。健康寿命とは「日常生活に制限のない期間の平均」の値を国民生活基礎調査と生命表を用いて推計したものであり、「健康日本21（第二次）」では、今後延伸が予想される平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加を目標として掲げている。2010（平成22）年の健康寿命は男性70.42年、女性73.62年であるが、直近の2019（令和元）年では男性72.68年、女性75.38年となっており、男性で2.26年、女性で1.76年延伸している。これは同期間中の平均寿命の延び（男性で1.86年（79.55年→81.41年）、女性で1.15年（86.30年→87.45年））を上回るものとなっており、引き続き国民の健康づくりに資する取組みを続けていく。

近年、がん、循環器疾患、糖尿病、COPDなどを非感染性疾患（Non Communicable Diseases：NCDs）という概念で一括りにとらえ、包括的な社会政策として取り組むことが国際的な潮流となっている。これは、NCDsの発症や重症化は、個人の意識や行動だけでなく、個人を取り巻く社会環境による影響が大きいため、地域、職場等における環境要因や経済的要因等の幅広い視点から、社会政策として包括的に健康対策に取り組む必要があるという考えに基づくものである。「健康日本21（第二次）」の推進に当たっては、こうした視点に立った対応が求められる。

非感染性疾患対策の重要性が増大していることや、近年の地域保健を取り巻く環境が変化していることを踏まえ、2012年に「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」を改正し、地域のソーシャルキャピタル（信頼、社会規範、ネットワークといった社会関係資本等）を活用して、住民による自助及び共助への支援の推進や地域の特性をいかした健康なまちづくりの推進を図るなど、地域保健対策の推進の基本的な方向性や重要事項を改めて示すとともに、2013（平成25）年に「地域における保健師の保健活動に関する指針」を改正し、地域保健を担う行政保健師が保健活動を行う上で留意すべき事項を示した。本指針において、各自治体は体系的な人材育成を図ることとされており、2016（平成28）年3月、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ」で自治体における保健師の人材育成体制構築に向けた推進策が示された。これらを踏まえて、自治体保健師の更なる資質向上及び人材育成体制の構築を推進している。

熱中症予防については、熱中症対策推進会議において、4～9月を熱中症予防強化のためのキャンペーン期間と定め、7・8月に留まらずに時期に応じた適切な呼びかけを行うこととしている。

理栄養士等の確保や継続的に人材を供給できる体制の整備を進めている。さらに、がん、腎臓病、摂食嚥下、在宅等、特定の領域別に特化した知識・技術を深めた管理栄養士を育成するため、管理栄養士専門分野別人材育成事業を実施している。

(2) 身体活動

身体活動（生活活動・運動）には、生活習慣病に至るリスクを下げる効果があるため、厚生労働省では、2006（平成18）年に「健康づくりのための運動基準2006～身体活動・運動・体力～報告書」（以下「旧基準」という。）と「健康づくりのための運動指針2006～生活習慣病予防のために～〈エクササイズガイド2006〉」を策定し、これらを活用して身体活動・運動に関する普及啓発等に取り組んできた。

2013（平成25）年度から開始した「健康日本21（第二次）」では、①日常生活における歩数の増加、②運動習慣者の割合の増加、③住民が運動しやすいまちづくり・環境整備に取り組む自治体数の増加、についての具体的な数値目標を設定している。上記の旧基準等の策定から6年以上経過し、身体活動に関する新たな科学的知見が蓄積されてきたこと、国民の歩数の減少等が指摘されており、身体活動の重要性について普及啓発を一層推進する必要があること等を踏まえ、「健康日本21（第二次）」の始期に合わせて旧基準の改定を行い、「健康づくりのための身体活動基準2013」を策定した。

旧基準と異なる主な点は、①身体活動全体に着目することの重要性が国内外で高まっていることから、「運動基準」から「身体活動基準」に名称を改めたこと、②身体活動の増加でリスクを低減できるものとして、従来の糖尿病・循環器疾患等に加え、がん、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）及び認知症が含まれることを明示したこと、③子どもから高齢者までライフステージに応じた基準を検討し、科学的根拠があるものについて基準を定めたこと、④保健指導の現場で生活習慣病予備群の方々にも安全に運動指導を行っていただけるよう、保健指導の一環として運動指導を検討する際の具体的な手順を示したこと、⑤身体活動を推進するための社会環境整備を重視し、まちづくりや職場づくりにおける保健事業の活用例を紹介したことである。

また、新たな基準の内容を、指針として国民にわかりやすく伝えるため、親しみやすいパンフレットを作成し、自治体や団体、個人でカスタマイズして自由に印刷・配布できる電子媒体で提供することとした（**図表8-4-4**）。

これらにより、身体活動に関する普及啓発を推進し、「健康日本21（第二次）」の目標達成に向けて取り組んでいくこととしている。

スポーツ基本計画

令和４年３月 25 日
文部科学省

第３章　今後５年間に総合的かつ計画的に取り組む施策

第３章では、第１章・第２章に掲げた施策も含めて、スポーツ庁として今後５年間に総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策群について、それぞれ「政策目標」を掲げた上で、「現状」を分析し、「今後の施策目標」「具体的施策」を以下のとおりとする。

まず、スポーツの振興を図るための施策として（１）「多様な主体におけるスポーツの機会創出」、（２）「スポーツ界におけるＤＸの推進、」（３）「国際競技力の向上」、（４）「スポーツの国際交流・協力」を提示する。

次に、スポーツによる社会活性化・社会課題の解決を図るための施策として、（５）「スポーツによる健康増進」、（６）「スポーツの成長産業化」、（７）「スポーツによる地方創生、まちづくり」、（８）「スポーツを通じた共生社会の実現」を提示する。

最後に、上記の施策を実現するための必要となる基盤や体制を確保するための施策として、（９）「担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化」、（１０）「スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」」、（１１）「スポーツを実施する者の安全・安心の確保」、（１２）「スポーツ・インテグリティの確保」を提示する。

（１）多様な主体におけるスポーツの機会創出

【政策目標】

国民のスポーツ実施率を向上させ、日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会を構築する。

①　広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出

［現状］

- 成人の週１回以上のスポーツ実施率は 56.4%（障害者は 31.0%）（令和３年度）であり、成人のスポーツ非実施者（過去１年間に１度もスポーツを実施していない者）の割合は 18.0%（障害者は 41.3%）（令和３年度）である。
- 成人の１回 30 分以上の運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合（令和元年度）は男性が 33.4%、女性が 25.1%である[28]。
- スポーツを行う理由は、健康、体力増進・維持、楽しみ・気晴らし、運動不足を感じるから等様々であり、スポーツ実施を阻害する要因は、仕事や家事が忙しいから、面倒くさいから、年をとったから等世代によって異なる。

［今後の施策目標］

[28]　（出典）厚生労働省：国民健康・栄養調査報告

［今後の施策目標］

✔　東京大会における知見・経験をレガシーとして生かしつつ、アスリートと児童生徒との交流など、スポーツを通じて展開される特色ある教育活動を推進する。

✔　アーカイブ化・ネットワーク化を推進し、貴重なスポーツ資料の散逸・劣化を防ぐとともに、アーカイブ化・ネットワーク化を通じて広く二次利用を可能とする。

［具体的施策］

ア　国は、オリ・パラや国際的なスポーツ大会の意義等について、学習指導要領を踏まえた指導が継続的になされるよう取り組む。具体的には、ＪＯＣ・ＪＰＣ・大学・地方公共団体等の関係機関と連携を図り、オリ・パラ教育等の様々なスポーツを通じて展開される特色ある教育活動を支援するとともに、多様な事例の収集・情報提供を行う。

イ　地方公共団体は、スポーツ担当部局と教育委員会との連携を密に図りつつ、必要に応じてＪＯＣ・ＪＰＣや企業等の取組も活用し、様々な競技のアスリートと児童生徒との交流活動、体験活動の機会、国際交流活動等を継続的に提供するよう努める。

ウ　ＪＳＣは、スポーツ・デジタル・アーカイブに係るガイドラインを踏まえ、国立国会図書館が運用するデジタル・アーカイブのプラットフォームである「ＪＡＰＡＮ　ＳＥＡＲＣＨ」等との連携を視野に入れた形で、スポーツ資料のアーカイブ化・ネットワーク化を引き続き推進する。

（５）スポーツによる健康増進

【政策目標】

地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、関係省庁で連携しつつ、スポーツを通じた健康増進により健康長寿社会の実現を目指す。また、厚生労働省の策定する「健康日本21」[48]に掲げる健康寿命の延伸に、スポーツ実施率の向上を通じて貢献する。

①　健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進

［現状］

・　スポーツによる健康増進に関するエビデンスが蓄積されてきているが、それらをまとめ、活用するための体制が整備されていない。

・　健康診断においては有所見でも自己認識としては健康と認識している人も多い現状が見られるが、健康であると自己認識している人については、健康のためにスポーツを

[48] 健康増進法に基づき策定された「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針（平成15年厚生労働省告示第195号）」のこと。国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向や国民の健康の増進の目標に関する事項等を定めている。

しようと思う人は少ないとの指摘がある[49]。

［今後の施策目標］

✔ スポーツと健康の関係やスポーツ実施促進の効果的な方法等についての科学的知見を蓄積し、蓄積された科学的知見の普及・活用を通じてスポーツを通した健康増進を図る。

✔ １回 30 分以上の軽く汗をかく運動を週２回以上実施し、１年以上継続している運動習慣者の割合の増加を目指す。（再掲）

［具体的施策］

ア 国は、地方公共団体等に対し、各地域の実態（住民の特性・施設の整備状況等）に応じた効果的なスポーツ実施促進施策について調査・検討を行えるよう支援する。

イ 国は、関係省庁や研究機関と連携して、心身の健康に資するスポーツや、スポーツ実施率の向上政策、スポーツを通じた社会課題解決推進のための政策に資する研究を支援し、これらの科学的根拠をまとめる体制を構築するとともに、地方公共団体やスポーツ関係団体に対し、まとめた科学的根拠を分かりやすい情報にし、普及啓発する。

ウ 国は、地方公共団体やスポーツ関係団体、民間事業者、経済団体等に対し、科学的根拠に基づき、スポーツによる健康づくり、コンディショニングの方法、栄養・休養の取り方や厚生労働省の「健康づくりのための身体活動基準・身体活動指針」等の健康に資するスポーツに関する情報を分かりやすく発信する。

※本項にも位置付けられる既出施策：（１）「① 広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出」エ(P. 29)

② 医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進

［現状］

・ 国民医療費が年間 40 兆円を越える規模となり、高齢化等によりその更なる拡大が予想される中、スポーツによる医療費抑制に係る研究成果は数多く報告されており、スポーツによる健康増進に対する期待が高まっている。

・ スポーツによる健康増進の効果についての各種事業における好事例等の成果物の利活用や効果的な情報発信、好事例の横展開が不足している。

・ 健康のためのスポーツ促進に当たって、医療・介護とスポーツの連携や教育・福祉関係部局・地方行政との連携に課題がある。

・ 年代別のスポーツ実施率は、働く世代・子育て世代の 20～50 代で落ち込む傾向があ

[49] 自分の健康状態について「健康」「どちらかといえば健康」と回答する人の割合：約 80%（令和３年度「スポーツ実施状況等に関する世論調査」）、
健康診断（職域）における有所見率：約 55%（平成 30 年 労働安全衛生法に基づく定期健康診断結果より）

る。また、テレワークの浸透や外出制限等により運動不足やそれを一因とする耐糖能異常、脂質異常、高血圧、肥満等の生活習慣病、メンタルヘルス不調の課題が増加している（再掲）

［今後の施策目標］

✔ 地域において科学的根拠に基づいた安全かつ効果的なスポーツの習慣化を促進することで、住民の健康増進を図る。

✔ 教育・福祉関係部局・地方行政との連携や医療・介護とスポーツの連携を促進し、医療・介護の場からスポーツの場へ誘導する仕組みを構築する。

✔ 従業員の健康づくりのためにスポーツの実施に積極的に取り組む民間事業者の増加により、働く世代・子育て世代のスポーツを通じた健康増進を図る。

［具体的施策］

ア　国は、地方公共団体、学校、地域のスポーツクラブ、医療関係団体、民間事業者等に対し、これまで運動が禁忌とされていた患者でもスポーツの実施により予後が良好になると認められる場合が増えてきたことも踏まえ、スポーツによる幅広い健康増進効果やスポーツ実施促進の効果的な取組方法等についての情報を共有し、普及啓発活動を行えるよう、支援する。

イ　国は、科学的根拠に基づき、健康づくりに資するスポーツに関する情報の周知や、地域住民の健康状態に応じた安全かつ効果的な運動・スポーツプログラムの提供を支援する。

ウ　国は、地方公共団体や民間事業者が行った健康増進に資する取組をまとめ、好事例の横展開を図るとともに、地方公共団体や民間事業者が施策の助言を受けられる機会を提供する。

エ　国は、（公社）日本医師会の協力を得て、医師が作成する運動処方の情報に基づき、地域の運動・スポーツ教室、スポーツクラブ等において適切なプログラムが提供され、安全かつ効果的に楽しく運動・スポーツを実践できる環境の整備を支援する。また、医師が安心して高齢者に運動・スポーツを推奨できるよう、運動・スポーツ施設の特徴等の見える化[50]を促進する。

オ　国は、地方公共団体が行う介護とスポーツの連携を促進する事例の創出を支援するとともに、運動処方の情報から安全かつ効果的に楽しく運動・スポーツを実践するためのプログラム作成ができる指導者等の専門家の養成を支援する。

カ　民間事業者は、職域健診の結果に基づく事後措置や特定保健指導等において、医師、保健師等から従業員やその家族に対し、スポーツの実施を通じた健康保持増進につい

[50] 例えば、各運動・スポーツ施設にはどのような指導者が在籍していて、またどのようなプログラムや設備が整っているのかを情報として見える化することが考えられる。

て必要な指導を行う。国は、民間事業者や保険者等と連携し、従業員に自らの体力の現状を把握させ、スポーツ実施を通じた健康保持増進の必要性に関する気づきを与えられるよう、健康診断等の際に体力テストを併せて行う等の取組を検討する。

キ　国は、地方公共団体に対して、スポーツを通じて地域住民の健康増進を推進するため、「スポーツ健康都市宣言」やそれに類する宣言を行うよう働きかける。

※本項にも位置付けられる既述施策：（１）「①　広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出」イ(P. 29)、「③　女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上」キ(P. 35)

（６）スポーツの成長産業化

【政策目標】

スポーツ市場を拡大し、その収益をスポーツ環境の改善に還元し、スポーツ参画人口の拡大につなげるという好循環を生み出すことにより、スポーツ市場規模 5.5 兆円を 2025 年までに 15 兆円に拡大することを目指す。

［現状］

・　日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）やジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（Ｂリーグ）等の地域密着型のプロスポーツリーグ等において、地域とともに成長しようとする活動が拡大しつつある。

・　第２期計画でスポーツ市場規模を 2020 年までに 10 兆円、2025 年までに 15 兆円とする目標を掲げており、統計数値が利用可能な直近のデータである 2018 年までは約９兆円と順調に推移。しかし、その後は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けている可能性がある。

［今後の施策目標］

✔　新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたスポーツ産業を再び活性化させるとともに、成長産業化への道筋を明確なものとする。

［具体的施策］

ア　国は、地方公共団体が中心となって取り組むスタジアム・アリーナ整備について、民間活力も活用し、スポーツの成長産業化及び地域活性化を実現する基盤として着実に推進する。具体的には、目標とする 2025 年までの 20 拠点選定に向けて地方公共団体及び民間事業者に対する専門的知見 ・国内外の先進事例情報等の提供や地域における関係者間での協議を促進するとともに、選定拠点を核にした情報集約の場を設け、拠点それぞれが蓄積した経験・ノウハウを集約し、その展開を図る。

2 健康・福祉

(1) 健康

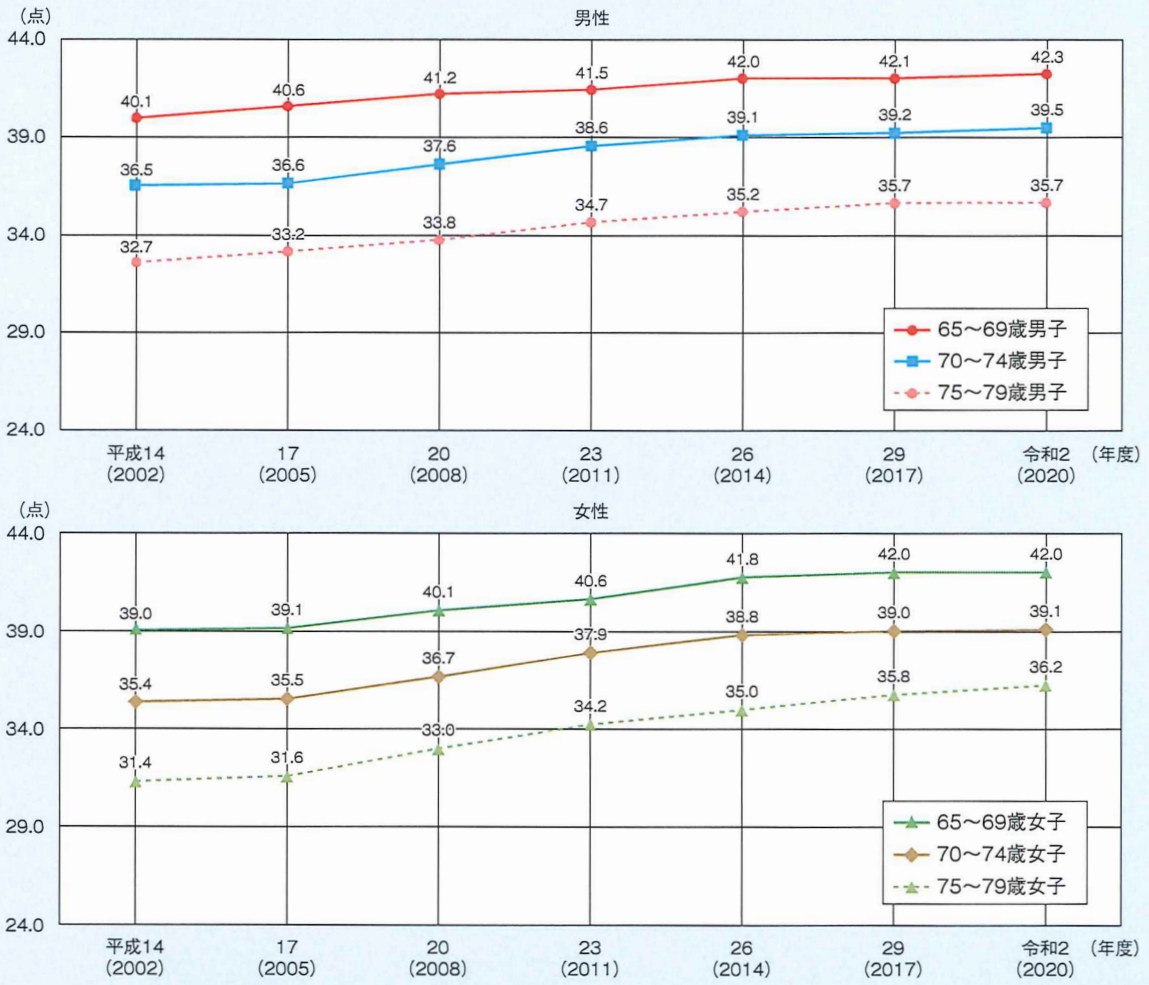
ア 65歳以上の者の新体力テストの合計点は向上傾向

令和2年度の65～69歳の男女、70～74歳の男女、75～79歳の男女の新体力テスト（握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行）の合計点は、それぞれ平成23年の合計点を上回っている（図1－2－2－1）。

イ 健康寿命は延伸し、平均寿命と比較しても延びが大きい

日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、令和元年時点で男性が72.68年、女性が75.38年となっており、それぞれ平成22年と比べて延びている（平成22年→令和元年：男性2.26年、女性1.76年）。さらに、同期間における健康寿命の延びは、平均寿命の延び（平成22年→令和元年：男性1.86年、女性1.15年）を上回っている（図1－2－2－2）。

図1－2－2－1　新体力テストの合計点



資料：スポーツ庁「体力・運動能力調査」
(注1) 図は、3点移動平均法を用いて平滑化してある。
(注2) 合計点は、新体力テスト実施要項の「項目別得点表」による。得点基準は、男女により異なる。
(注3) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため実施時期や標本数等が異なる。

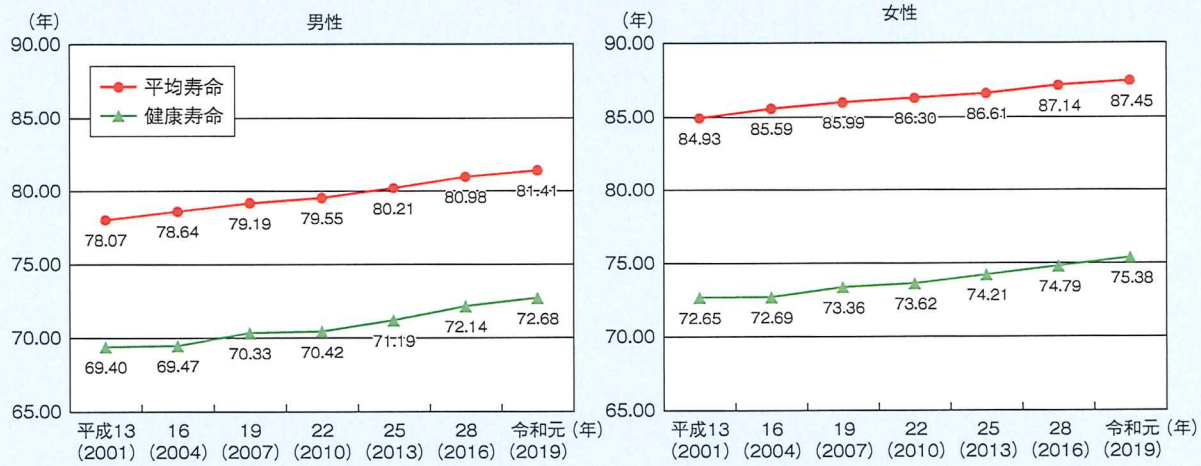
ウ　75歳以上の運動習慣のある者の割合は、男性46.9%、女性37.8%で、男性の割合が高い

運動習慣のある者の割合（令和元年）を見ると、65～74歳で男性38.0%、女性31.1%、75歳以上で男性46.9%、女性37.8%と男性の割合が女性よりも高くなっている。また、男性、女性いずれも、それぞれの20～64歳の23.5%、16.9%と比べ高い水準となっている（図1－2－2－3）。

エ　65歳以上の者の死因は「悪性新生物（がん）」が最も多い

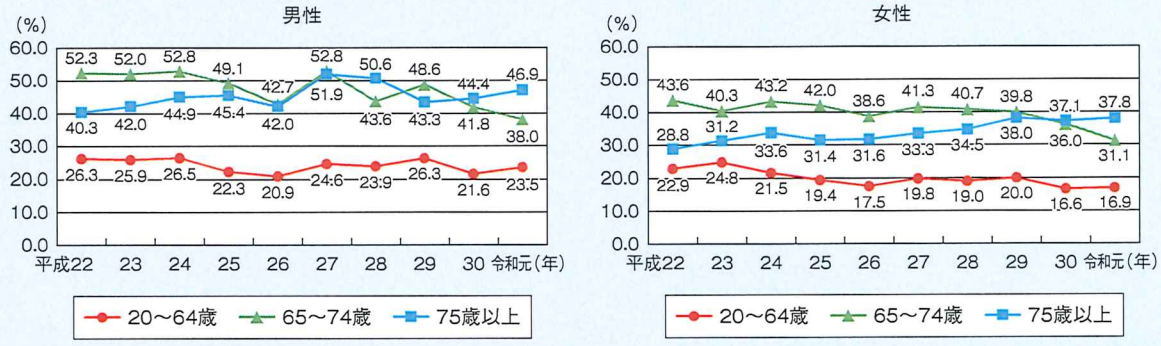
65歳以上の者の死因別の死亡率（令和2年の65歳以上人口10万人当たりの死亡数）を見ると、「悪性新生物（がん）」が927.6と最も高く、次いで、「心疾患（高血圧性を除く）」が532.6、「老衰」が369.4の順になっている（図1－2－2－4）。

図1－2－2－2　健康寿命と平均寿命の推移



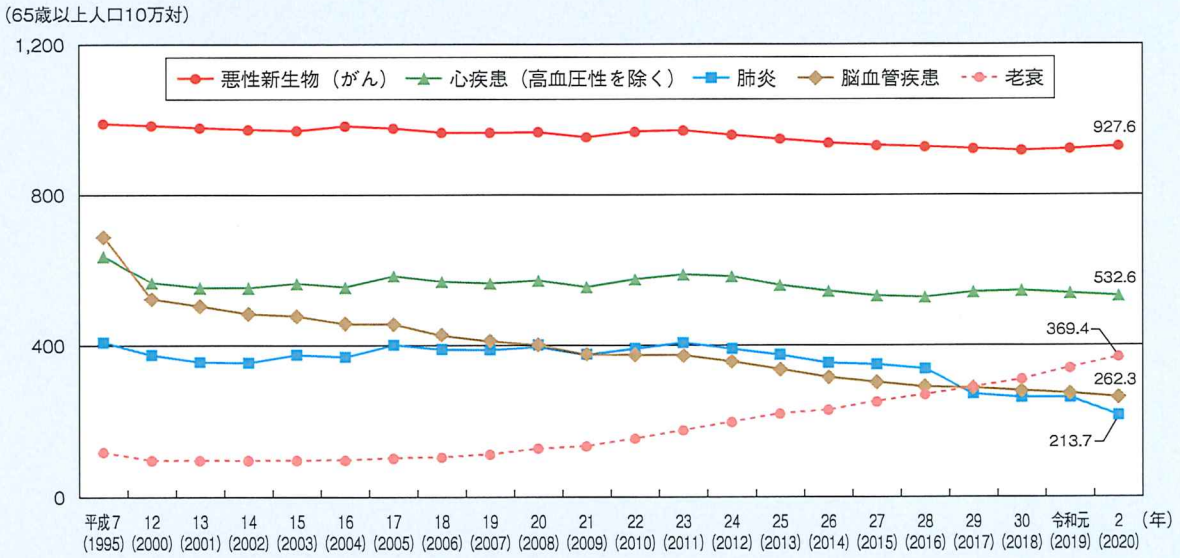
資料：平均寿命：平成13･16･19･25･28年･令和元年は、厚生労働省「簡易生命表」、平成22年は「完全生命表」
健康寿命：厚生労働省「第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会資料」

図1－2－2－3　65歳以上の運動習慣者の割合



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」
(注1) 調査対象は、全国の20歳以上の男女
(注2) 身体状況調査の問診において「医師等からの運動禁止の有無」に「無」と回答し、「運動習慣」の全ての質問に回答した者を集計対象とした。
(注3)「運動習慣者」とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続していると回答した者

図１－２－２－４　主な死因別死亡率の推移（65歳以上の者）



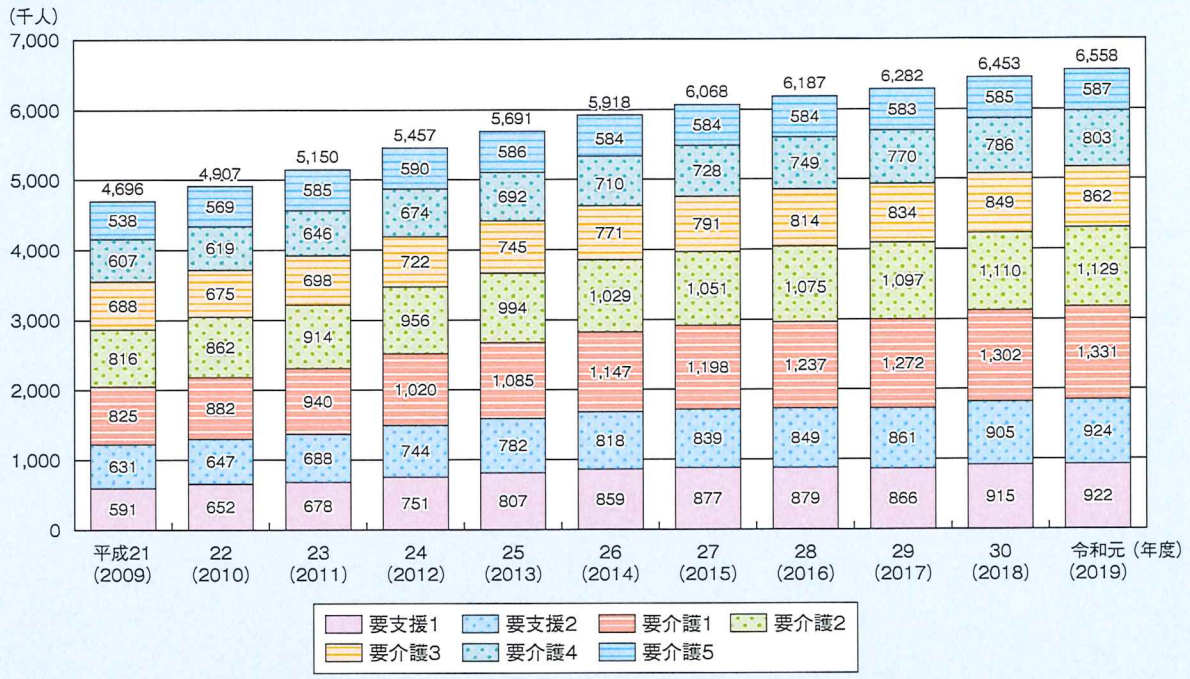
資料：厚生労働省「人口動態統計」

(2) 65歳以上の者の介護

ア　65歳以上の者の要介護者等数は増加しており、特に75歳以上で割合が高い

介護保険制度における要介護又は要支援の認定を受けた人（以下「要介護者等」という。）は、令和元年度で655.8万人となっており、平成21年度（469.6万人）から186.2万人増加している（図１－２－２－５）。また、要介護者等は、第１号被保険者の18.4％を占めている。

図１－２－２－５　第１号被保険者（65歳以上）の要介護度別認定者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」
(注)　平成22(2010)年度は東日本大震災の影響により、報告が困難であった福島県の５町１村（広野町、楢葉町、富岡町、川内村、双葉町、新地町）を除いて集計した値

また、65～74歳と75歳以上の被保険者について、それぞれ要支援、要介護の認定を受けた人の割合を見ると、65～74歳では1.4%、2.9%であるのに対して、75歳以上では8.8%、23.1%となっており、75歳以上になると要介護の認定を受ける人の割合が大きく上昇する（表1－2－2－6）。

表1－2－2－6　要介護認定の状況

単位：千人、（ ）内は%

65～74歳		75歳以上	
要支援	要介護	要支援	要介護
234 (1.4)	493 (2.9)	1,613 (8.8)	4,219 (23.1)

資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」（令和元年度）より算出
（注1）経過的要介護の者を除く。
（注2）（ ）内は、65～74歳、75歳以上それぞれの被保険者に占める割合

要介護者等（総数）について、介護が必要になった主な原因について見ると、「認知症」が18.1%と最も多く、次いで、「脳血管疾患（脳卒中）」が15.0%、「高齢による衰弱」が13.3%、「骨折・転倒」が13.0%となっている。また、男女別に見ると、男性は「脳血管疾患（脳卒中）」が24.5%、女性は「認知症」が19.9%と最も多くなっている（図1－2－2－7）。

イ　主に家族（とりわけ女性）が介護者となっており、「老老介護」も相当数存在

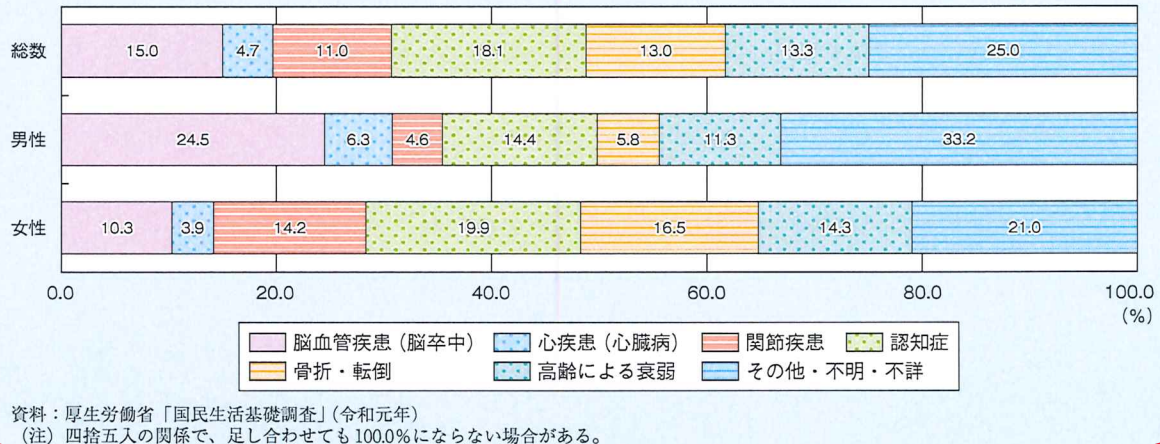
要介護者等から見た主な介護者の続柄を見ると、同居している人が54.4%となっている。その主な内訳を見ると、配偶者が23.8%、子が20.7%、子の配偶者が7.5%となっている。また、性別については、男性が35.0%、女性が65.0%と女性が多くなっている。

要介護者等と同居している主な介護者の年齢について見ると、男性では72.4%、女性では73.8%が60歳以上であり、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在していることが分かる（図1－2－2－8）。

ウ　要介護４では45.8%、要介護５では56.7%がほとんど終日介護を行っている

令和元年の同居している主な介護者が1日のうち介護に要している時間を見ると、「必要なときに手をかす程度」が47.9%と最も多い一方で、「ほとんど終日」も19.3%となっている。要介護度別に見ると、要支援1から要介護2ま

図1－2－2－7　65歳以上の要介護者等の性別に見た介護が必要となった主な原因



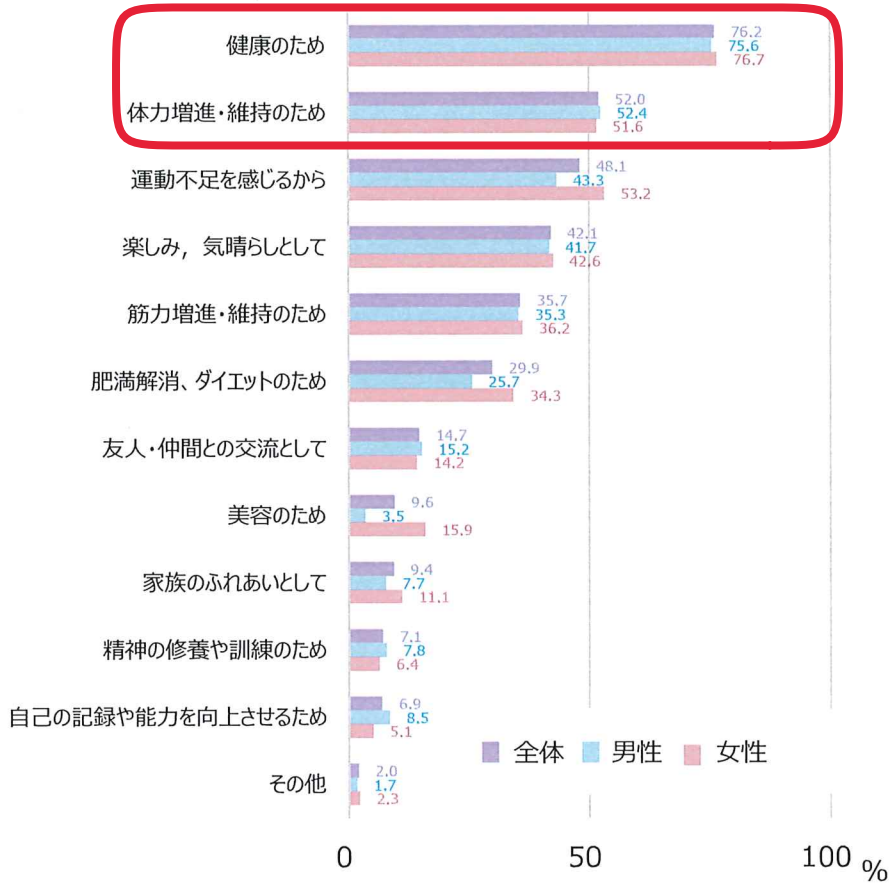
資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（令和元年）
（注）四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

第３期スポーツ基本計画
参考データ集

スポーツの実施要因・阻害要因

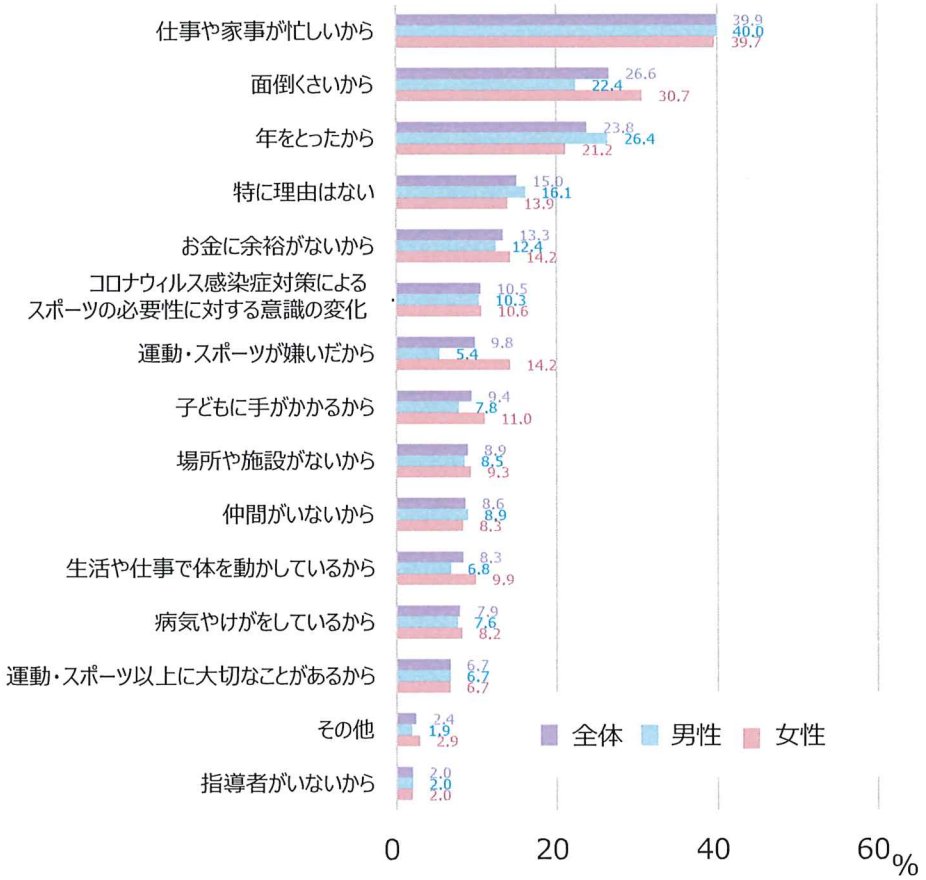
○　令和３年度の運動・スポーツを実施した理由は「健康のため」（76.2%）、「体力増進・維持のため」（52.0%）、「運動不足を感じるから」（48.1%）が続いている。
○　スポーツの阻害要因は「仕事や家事が忙しいから」（39.9%）、「面倒くさいから」（26.6%）、「年をとったから」（23.8%）と続いている。

運動・スポーツを実施した理由



(出典)スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（令和３年度）

運動・スポーツを実施する頻度が減ったまたはこれ以上増やせない理由（複数回答可）



(出典)スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（令和３年度）

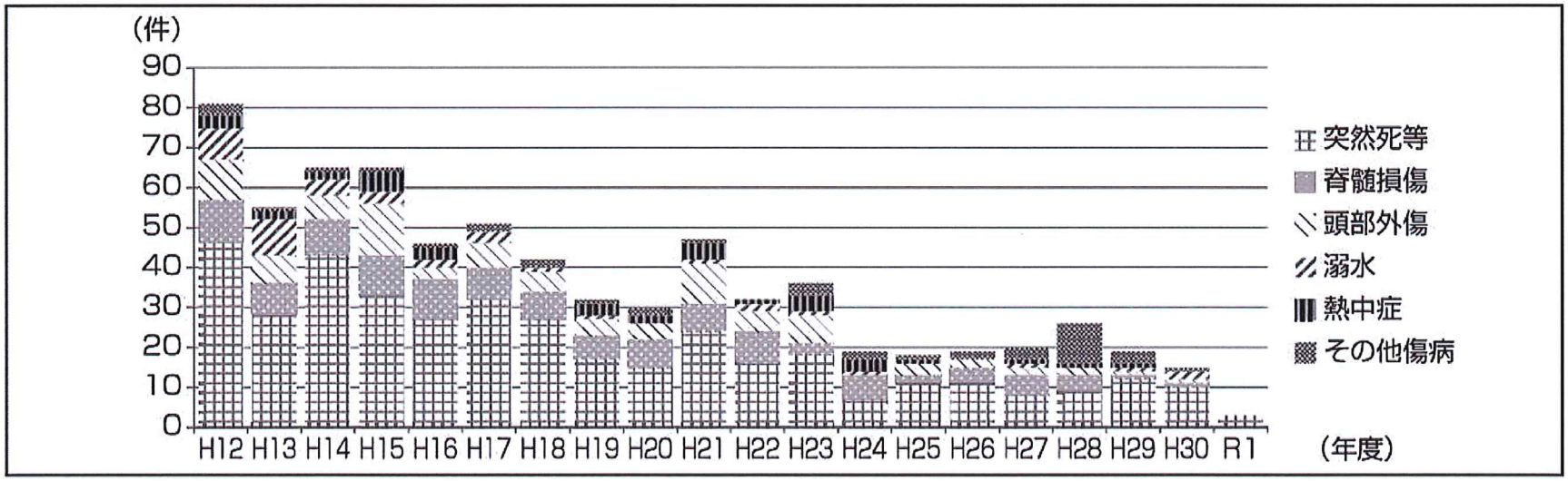
学校管理下における死亡事故・重障害事故の傾向

○ 過去２０年間に発生した体育活動中における事故の年次推移は以下のとおり。

○ 減少傾向にあるものの、依然として一定程度発生している状況にある。

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	総計
突然死等	46	28	43	33	27	32	27	17	15	24	16	18	7	11	11	8	9	12	10	3	397
脊髄損傷	11	8	9	10	10	8	7	6	7	7	8	3	6	2	4	5	4	1	1	0	117
頭部外傷	10	7	6	13	3	6	5	4	4	10	5	7	0	3	2	2	2	1	1	0	91
溺水	8	9	4	3	2	3	1	1	0	1	2	1	1	0	0	1	0	1	2	0	40
熱中症	3	2	2	5	3	0	0	3	2	4	1	4	3	1	0	1	1	1	0	0	36
その他傷病	3	1	1	1	1	2	2	1	2	1	0	3	2	1	2	3	10	3	1	0	40
合計	81	55	65	65	46	51	42	32	30	47	32	36	19	18	19	20	26	19	15	3	721

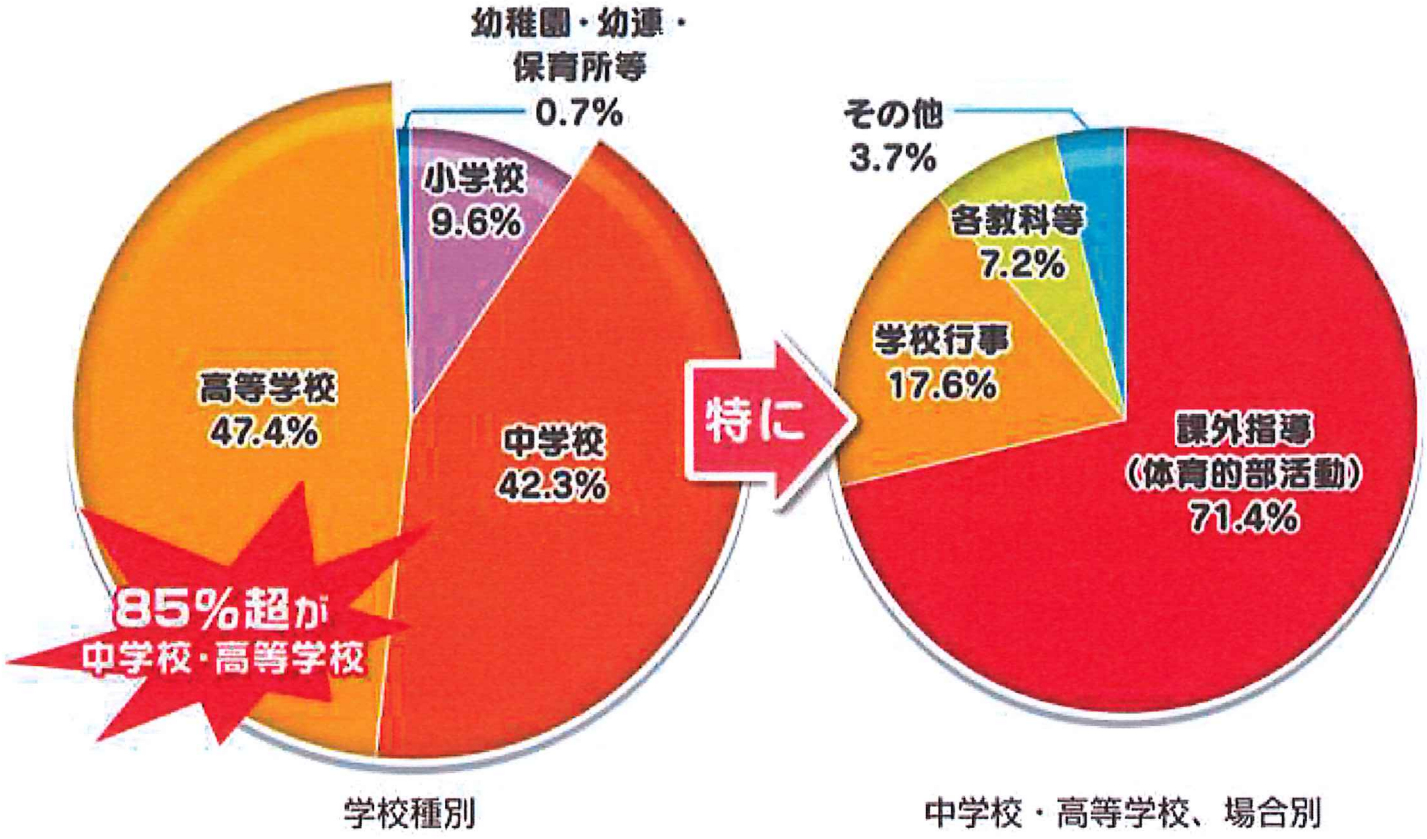
※「その他傷病」は「窒息(溺死以外)」「内臓損傷」等



『令和２年度学校における体育活動での事故防止対策推進事業成果報告書』より

学校管理下における熱中症の発生状況

○ 学校における熱中症の発生状況は、中学校・高等学校で８５％を超えており、
その７０％以上が運動部活動中である。



『学校の管理下の災害』医療費給付割合より

健康運動指導士とは

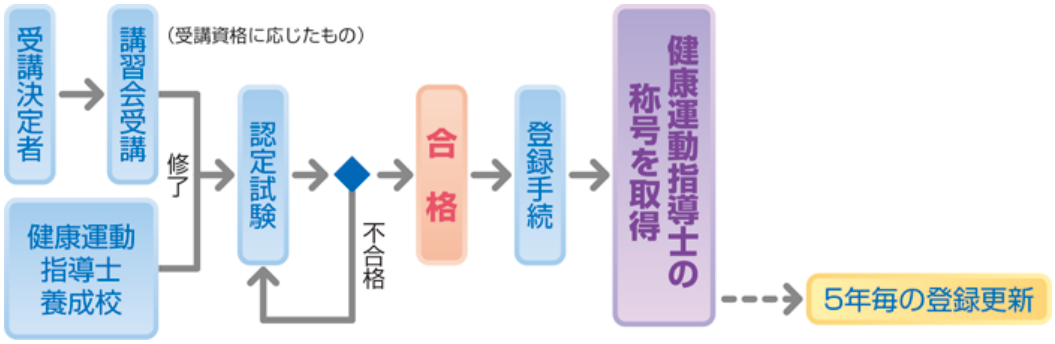
1. 健康運動指導士とは

個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムの作成及び指導を行う者

健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいいます。
この健康運動指導士の養成事業は、昭和63年から厚生大臣の認定事業として、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、生活習慣病を予防し、健康水準を保持・増進する観点から大きく貢献してまいりました。平成18年度からは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団独自の事業として継続して実施しております。
今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増しており、とくに平成20年度から実施の特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担うことについて、健康運動指導士への期待がますます高まっているところです。
公益財団法人健康・体力づくり事業財団としては、平成19年度に健康運動指導士の養成カリキュラム、資格取得方法等に至るまで大幅な見直しを行なったことを踏まえ、ハイリスク者も対象にした安全で効果的な運動指導を行なうことのできる専門家を目指す上で健康運動指導士をまず取得すべき標準的な資格であると位置付け、質の高い人材の養成、確保を積極的に図っているところです。

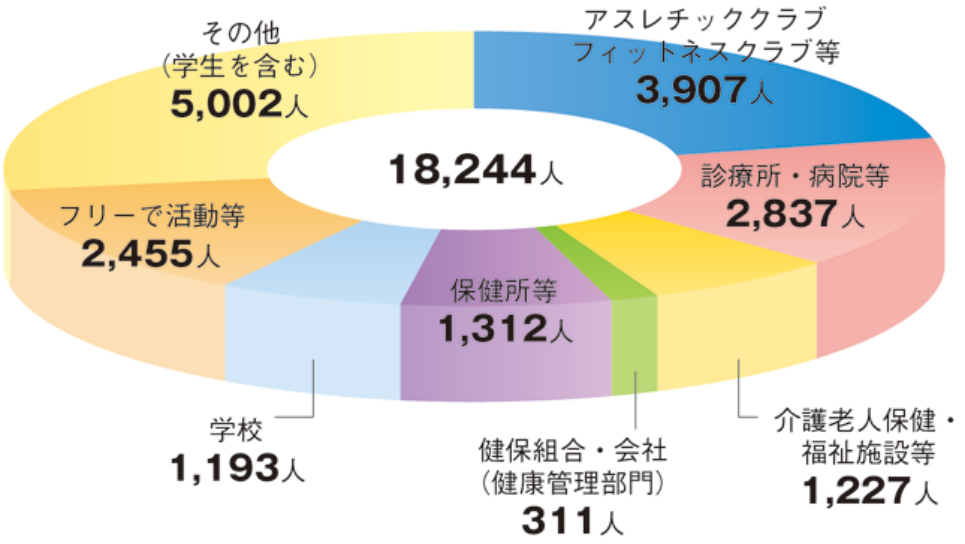
2. 健康運動指導士の称号は、このようにして取得します。

健康運動指導士の称号を取得するには、次図のように、健康運動指導士養成講習会を受講するか、又は、健康運動指導士養成校の養成講座を修了して、健康運動指導士認定試験に合格した上で、健康運動指導士台帳に登録されなければなりません(講習会、養成校の認定、認定試験、登録いずれも当財団が実施)。



3. 健康運動指導士は、このようなところで活躍しております。

令和4年12月1日現在、健康運動指導士として当財団に登録されている方は、全国で18,244人(女性11,594人、男性6,650人)おり、それらの方々の職場は、次グラフのとおりです。
最近は、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等で活躍している方の増加が目立っております。



健康運動指導士養成校のご紹介

部活動指導員の制度化について

部活動指導員の制度化（H29.4.1施行）

学校教育法施行規則
第七十八条の二
部活動指導員は、中学校におけるスポーツ、文化、科学等に関する教育活動（中学校の教育課程として行われるものを除く。）**に係る技術的な指導に従事する。**

※　義務教育学校の後期課程、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の中学部及び高等部については準用規定。

任用に当たっての体制整備

規則等の策定

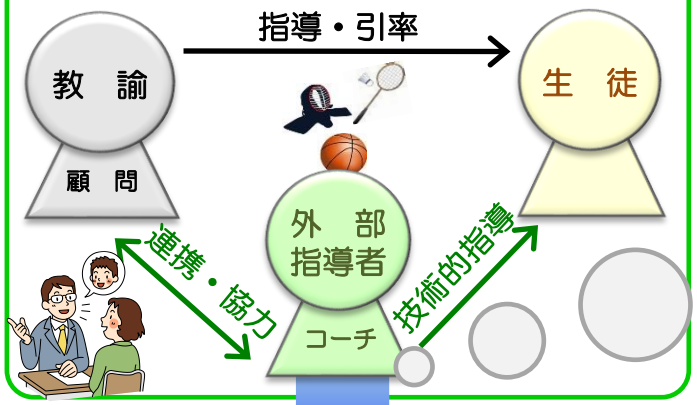
学校設置者は、身分、任用、職務、災害補償、服務等に関する事項等必要な事項を定めた部活動指導員に関する規則等を策定。

研修の実施

学校設置者及び学校は、部活動指導員に対し、部活動の位置付けと教育的意義等について、事前に研修を行うほか、その後も定期的に研修を行う。

外部指導者の活用（従来）

外部指導者は、顧問の教諭等と連携・協力しながら部活動のコーチ等として技術的な指導を行う。





活動中の事故等に対する**責任の所在が不明確**であることなどから、外部指導者だけでは、**大会等に生徒を引率できない**

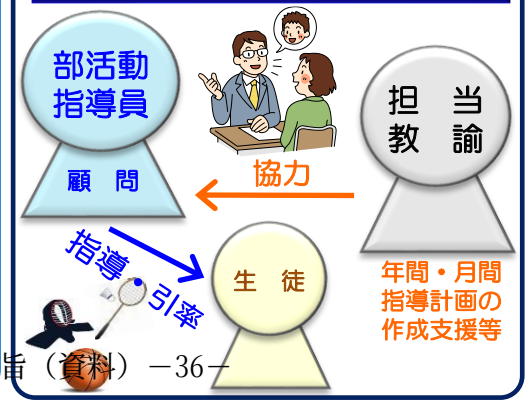
部活動指導員の任用

＜職　務＞

- ✓ 実技指導
- ✓ 安全・障害予防に関する知識・技能の指導
- ✓ 学校外での活動(大会・練習試合等)の引率
- ✓ 用具・施設の点検・管理
- ✓ 部活動の管理運営(会計管理等)
- ✓ 保護者等への連絡
- ✓ 年間・月間指導計画の作成
- ✓ 生徒指導に係る対応
- ✓ 事故が発生した場合の現場対応　等

部活動指導員は、**部活動の顧問として技術的な指導を行うとともに、担当教諭等と日常的に指導内容や生徒の様子、事故が発生した場合の対応等について情報交換を行う**等の連携を十分に図る。

ケース１
部活動指導員が顧問



ケース２
部活動指導員及び教諭が顧問



学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン

令和４年12月

スポーツ庁

文化庁

スポーツ庁

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

ーツ・文化芸術活動を行える環境となり、地域全体としてより幅広いニーズに応えられるようになること、生涯を通じた運動習慣作りや文化芸術等の愛好が促進されること、行政やスポーツ・文化芸術団体、学校等との緊密な連携や、指導者等の活用が充実することが期待できる。

２　適切な運営や効率的・効果的な活動の推進

（１）参加者

従来の学校部活動に所属していた生徒はもとより、学校部活動に所属していない生徒、運動や歌、楽器、絵を描くことなどが苦手な生徒、障害のある生徒など、希望する全ての生徒を想定する。

（２）運営団体・実施主体

① 地域スポーツ・文化芸術団体等の整備充実

【地域スポーツ団体等】

ア　市区町村は、関係者の協力を得て、地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実を支援する。その際、運営団体・実施主体は、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団[13]、体育・スポーツ協会、競技団体、クラブチーム、プロスポーツチーム、民間事業者、フィットネスジム、大学など多様なものを想定する。また、地域学校協働本部や保護者会、同窓会、複数の学校の運動部が統合して設立する団体など、学校と関係する組織・団体も想定する。なお、市区町村が運営団体となることも想定される。

イ　都道府県及び市区町村並びにJSPOをはじめとしたスポーツ団体等は、『スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞』を運営団体・実施主体等に対して広く周知・徹底する。また、運営団体・実施主体は、『スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞』に準拠した運営を行うことが求められる。

【地域文化芸術団体等】

市区町村は、関係者の協力を得て、地域クラブ活動の運営団体・実施主体の

---

[13] JSPOにおいては、令和４年４月から、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の運用を47都道府県で開始している。また、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団が融合した取組を検討している。

整備充実を支援する。その際、運営団体・実施主体は、文化芸術団体等に加え、地域学校協働本部や保護者会、同窓会、複数の学校の文化部が統合して設立する団体など、学校と関係する組織・団体も想定する。なお、市区町村が運営団体となることも想定される。

② 関係者間の連携体制の構築等

ア　都道府県及び市区町村は、首長部局や教育委員会の中の地域スポーツ・文化振興担当部署や社会教育・生涯学習担当部署、学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ・文化芸術団体、学校、保護者等の関係者からなる協議会などにおいて、定期的・恒常的な情報共有・連絡調整を行い、緊密に連携する体制を整備する。

イ　地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、例えば、年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会の日程等）及び毎月の活動計画（活動日時・場所、休養日及び大会参加日等）を策定し、公表する。その際、協議会等の場も活用し、地域におけるスポーツ・文化芸術団体等での活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含む管理責任の主体を明確にし、共通理解を図る。

（３）指導者

① 指導者の質の保障

【地域スポーツクラブ活動】

ア　都道府県及び市区町村は、生徒にとってふさわしい地域スポーツ環境を整備するため、各地域において、専門性や資質・能力を有する指導者を確保する。
　また、スポーツ団体等は、生徒の多様なニーズに応えられる指導者の養成や資質向上の取組を進める。

イ　JSPO は、より多くの指導者が自ら公認スポーツ指導者資格取得を目指すような制度設計に取り組む。その際、指導技術の担保や生徒の安全・健康面の配慮など、生徒への適切な指導力等の質のみならず、暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメント等の行為も根絶する。

ウ　公益財団法人日本パラスポーツ協会及び各競技団体は、障害者スポーツ指導資格の取得を促進するとともに、研修機会を充実する。

エ　指導者は、スポーツに精通したスポーツドクターや有資格のトレーナー等

と緊密に連携するなど、生徒を安全・健康管理等の面で支える。

オ　スポーツ団体等は、指導者に暴力等の問題となる行動が見られた場合への対応について、自ら設ける相談窓口のほか、JSPO 等の統括団体が設ける相談窓口を活用し、公平・公正に対処する。都道府県や市区町村などスポーツ団体とは別の第三者が相談を受け付け、各競技団体等と連携しながら対応する仕組みも必要に応じて検討する。

【地域文化クラブ活動】

ア　都道府県及び市区町村は、生徒にとってふさわしい文化芸術等に親しむ環境を整備するため、各地域において、専門性や資質・能力を有する指導者を確保する。また、文化芸術団体等は、生徒の多様なニーズに応えられる指導者の養成や資質向上の取組を進める。

イ　文化芸術団体等は、指導者の質を保障するための研修等実施の際、これまでの文化部活動の意義や役割について、地域単位の活動においても継承・発展させ、新しい価値が創出されるよう、学校教育関係者等と必要な連携をしつつ、発達段階やニーズに応じた多様な活動ができるように留意する。特に、練習が過度な負担とならないようにするとともに、生徒の安全の確保や暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメント等の行為も根絶する。また、指導者に当該行為が見られた場合への公平・公正な対処について、自ら設ける相談窓口の設置及びその周知や、都道府県や市区町村など文化芸術団体とは別の第三者が相談を受け付け、各団体等と連携しながら対応する仕組みの検討等を進める。さらには、文化芸術活動で留意する必要がある著作権について研修等を行い、地域における文化芸術活動の中で指導者の理解を深める。

②　適切な指導の実施

ア　地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、Ⅰ２（１）に準じ、参加者の心身の健康管理、事故防止を徹底し、体罰・ハラスメントを根絶する。都道府県及び市区町村は、適宜、指導助言を行う。

イ　指導者は、Ⅰ２（１）に準じ、生徒との十分なコミュニケーションを図りつつ、適切な休養、過度の練習の防止や合理的かつ効率的・効果的な練習の積極的な導入等を行う。

　また、専門的知見を有する保健体育担当の教師や養護教諭等の協力を得て、発達の個人差や女子の成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を修得する。



第３次周南市健康づくり計画

（第3次周南市食育推進計画・周南市自殺対策計画）

令和2（2020）年度～令和11（2029）年度

令和2（2020）年3月

周南市

第2章

周南市の現状

2　平均寿命と健康寿命

ここで言う健康寿命とは「日常生活動作が自立している期間の平均」のことで、平均寿命から介護が必要になる（介護保険の要介護度 2～5）期間を差し引いた寿命のことです。

本市の平成 27 年の健康寿命は、男性で 79.3 歳、女性で 83.8 歳となっており、平均寿命と同様、女性の方が高くなっています。しかし、支援や介護が必要となる期間は、男性の 1.1 年に対し女性は 2.8 年と長くなっています。

なお、山口県の平均値と比較すると、男女ともに健康寿命は県平均と同水準ですが、支援や介護が必要となる期間は男女ともやや短くなっています。

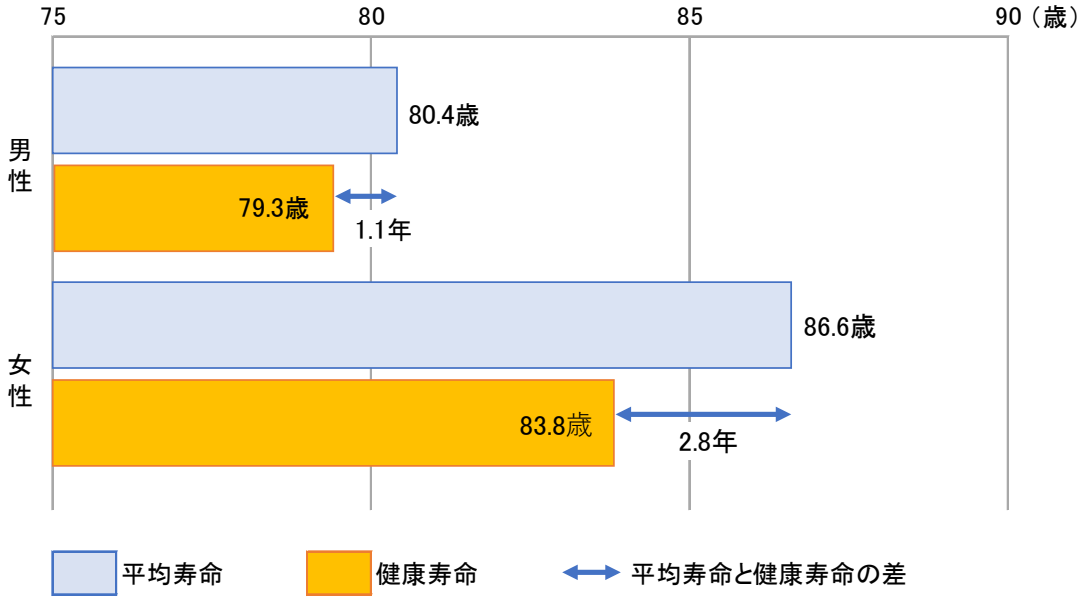
平均寿命と健康寿命

（単位：歳、年）

項目	区分	男性		女性	
		平成22年	平成27年	平成22年	平成27年
平均寿命（①）	周南市	78.9	80.4	86.0	86.6
	山口県	79.0	80.5	86.1	86.9
健康寿命（②）	周南市	77.6	79.3	83.0	83.8
	山口県	77.7	79.2	83.0	83.8
支援や介護が必要となる期間（①-②）	周南市	1.3	1.1	3.0	2.8
	山口県	1.3	1.3	3.1	3.1

資料：平均寿命は厚生労働省生命表、健康寿命は山口県健康福祉部健康増進課調べ

■周南市の平均寿命と健康寿命（平成 27 年）



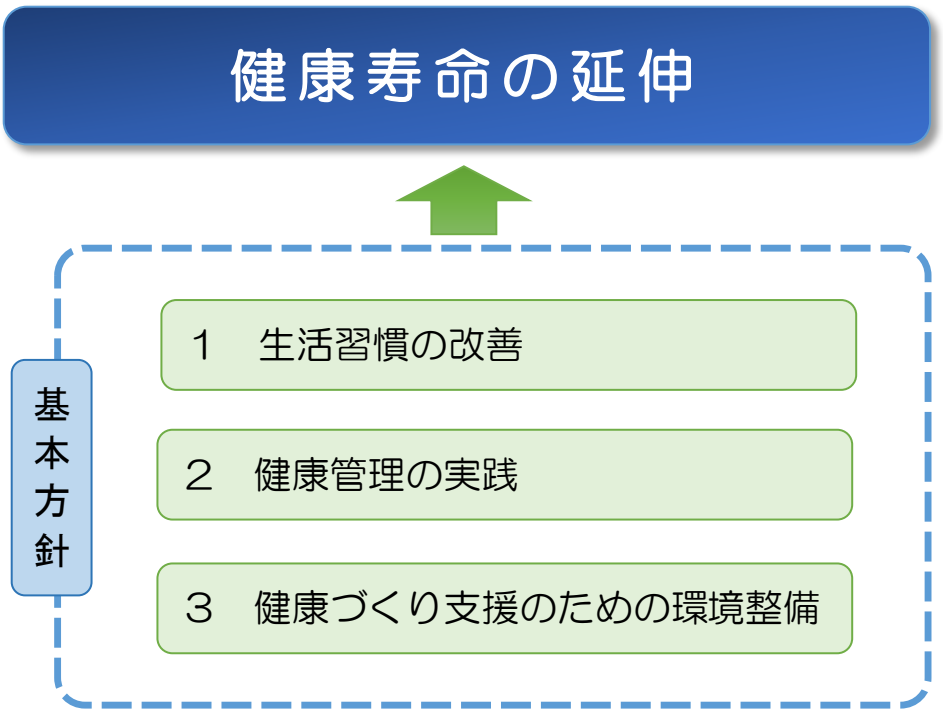
第3章

健康づくりの目標と取組
（健康づくり計画）

1　健康づくりの基本的な考え方

（１）健康づくり計画の目標と基本方針

【健康づくり計画がめざすもの】



前計画期間中の取組により、市民の健康意識が着実に高まりつつある一方で、前計画策定時に抽出された本市の健康課題の多くは、現在も残っています。本計画においても、引き続き「ヘルスプロモーション」の考え方に基づき、これら健康課題の解消を図り、健康寿命の延伸の実現をめざします。

本市では、前計画期間中、企業、事業所、関係団体等と連携し、いつでも、どこでも、だれでも気軽に取り組める健康づくり「しゅうなんスマートライフチャレンジ」に取り組み、一定の成果を上げることができました。具体的なチャレンジメニューは、社会の情勢変化等に伴い、必要に応じて見直すことになりますが、本計画期間中においても、この取組を本市における健康づくりの主要事業と位置づけ、継続することとします。

なお、現状と課題の整理及びそれに対する具体的な取組の設定にあたっては、健康づくりの６つの分野（①栄養・食生活　②身体活動・運動　③こころの健康と休養　④歯・口腔　⑤たばこ・飲酒　⑥健康管理）ごとに整理し、生涯を通じた健康づくりを支援します。

（２）健康づくり計画の体系



※しゅうなんスマートライフチャレンジとは、国が推進する健康寿命を延ばす国民運動「スマートライフプロジェクト」の一環として、市民が自発的かつ積極的に健康の維持増進に取り組めることを目的とし、地域、企業、関係団体等と連携して進める「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に取り組める健康づくりチャレンジです。

（２）目標

◆ 日々の生活の中で意識的に身体を動かそう
◆ 自分に合った運動を見つけ、続けよう
◆ 積極的に外に出よう

◆日々の生活の中で意識的に身体を動かそう

運動は心臓や肺の機能を高め、筋肉や骨を強くします。また、継続的な運動の実施は肥満の予防、善玉コレステロールの増加など生活習慣病の予防や、ストレス解消にも大きな効果があります。

運動習慣を持たない人も、通勤・通学時の歩行や家事など、日常生活の中での活動量を意識的に増やすことを心がけましょう。

◆自分に合った運動を見つけ、続けよう

「運動」と聞くだけで「激しいランニングやスポーツをしないといけない」というイメージを持ってしまいがちですが、必ずしも激しい運動をする必要はありません。必要なのは、身体を鍛えるトレーニングではなく、自分の健康を維持増進する程度の運動です。ウォーキングやストレッチなど簡単な運動でよく、大切なのは無理せず継続的な運動を心がけることです。自分に合った運動を見つけて、週末などの余暇時間に取り入れましょう。

◆積極的に外に出よう

外に出ることは身体を動かすことにつながります。子どもの時から外遊びの習慣を身につけ、生涯を通して積極的に外に出るよう努めましょう。

特に、高齢者の閉じこもりは、身体的生活機能だけでなく、精神的・社会的生活機能の低下を招きます。介護予防の観点からも積極的に短時間でも外出の機会を増やすことが重要です。

また、歩行速度が速い高齢者ほど生活機能を維持しやすく余命も長いことが知られています。日頃から積極的に歩くことで、ロコモティブシンドロームを予防しましょう。

資料13

第2次 周南市 まちづくり総合計画

しゅうなん共創共生プラン

後期基本計画







5-4 健康づくりの推進

基本方向(施策方針)

市民一人ひとりの主体的な生活習慣改善への取組の推進や、関係機関との連携により、健康寿命の延伸を目指します。

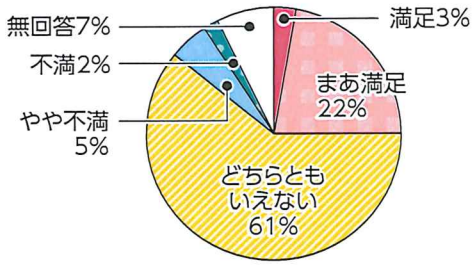
これまでの主な取組・成果

◇実施した主要施策・事業等

- 健康寿命の延伸を目的として、「しゅうなんスマートライフチャレンジ」を実施し、平成30(2018)年度は、協賛事業者134の登録と4,980人の参加がありました。
- 歯と口腔の健康づくりを推進するため「周南市民の健康を支える歯と口腔に関する条例」を制定しました。
- 「第2次周南市食育推進計画」に基づき、関係機関との連携により、食育を推進してきました。第2次計画の評価では、栄養バランスに配慮した小中学生の割合が増加しました。
- 各種がん検診・肝炎ウイルス検診・歯周疾患検診を実施しました。また、がん検診と特定健康診査の受診券を一体化し、受診しやすい体制整備に取り組みました。
- 心の健康づくりの一環として、ゲートキーパー研修会を開催し、延べ875人の参加がありました。
- BCG・4種混合・日本脳炎・高齢者のインフルエンザなどの定期予防接種、風しんワクチン接種費用の一部助成を行いました。

◇市民の意識

■健康づくり活動の推進



現状と課題

- 市民が生涯にわたり健康に過ごすために、自発的かつ積極的な健康づくりの取組として「しゅうなんスマートライフチャレンジ」を推進し、健康寿命の延伸に努めました。今後も、生活習慣病の予防等の取組を継続していく必要があります。
- 食育では、「野菜を食べる人の割合が少ない」「よく噛んで食べる人の割合が少ない」などの課題があり、継続して推進する必要があります。
- 特定健康診査・がん検診の内容や検診体制を見直しましたが、受診者数は伸び悩んでいます。
- 心の健康づくりでは、ゲートキーパーの役割を担える人材を増やすため、ゲートキーパー研修会を実施しました。今後も、ゲートキーパー

研修会の参加者を増やし、正しい知識の普及が必要です。

●感染症の発症予防のため、予防接種の高い接種率を維持することが必要です。

推進施策の展開

◇健康寿命を延ばす健康づくりの推進

●「第3次周南市健康づくり計画」に基づき、だれでも気軽に実践できる生活習慣病予防をはじめとする健康づくりを地域全体に推進します。

●食育に関する普及啓発に努めるとともに、庁内関係課及び民間も含めた関係機関と連携しながら、ライフスタイルに応じた食育を推進します。

●「周南市民の健康を支える歯と口腔に関する条例」に基づき、歯と口腔の健康づくりを推進します。

◇特定健康診査・がん検診の推進

●特定健康診査・がん検診の周知とともに、関係機関との連携を強化します。

◇自殺対策の推進

●誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すため「周南市自殺対策計画」に基づきゲートキーパー研修等、正しい知識の普及啓発を行います。

◇感染症対策の充実

●感染症発症予防のため、定期予防接種の接種率維持・向上を図ります。

主な指標

主な指標	現状値（2018年度）	目標値（2023年度）
特定健康診査受診率 ※周南市国民健康保険第2期データヘルス計画に基づき設定	32.3%	60.0%

関連する個別計画

●第3次周南市健康づくり計画
【計画期間：令和2～11年度】

●周南市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画
【計画期間：平成30～令和5年度】

●周南市国民健康保険第2期データヘルス計画
【計画期間：平成30～令和5年度】

●第3次周南市地域福祉計画
【計画期間：平成28～令和2年度】



運動講座の様子

令和3年度　周南市教育委員会の重点施策について

教育部

所属課	事業名	令和3年度 予算額及び財源内訳 ※( ):前年度当初予算額　単位:千円	事業目的及び事業概要	令和3年度実施事業の内容
学校教育課	⑫部活動指導員配置事業 **≪新規≫**	現計予算額　2,641　(0) 財源：国県 1,404／地方債／その他 1,000／一財 237 ＊「その他」の財源は「子ども未来夢基金」より全額充当	専門的知識・技術を有する外部指導者による指導により、生徒の技術向上等、部活動の充実を図ります。教員の部活動指導に係る負担軽減により、生徒指導等、教育環境の充実を図ります。 《全体事業計画》 事業期間　令和3年度～毎年度実施 概算事業費　2,641千円	●中学校の部活動において、生徒の能力に応じた適切な練習法の導入等、部活動の質的向上を図るため、専門的知識・技術を有する外部指導員を6名配置 ●教員の部活動指導に係る負担を軽減し、生徒指導や授業準備等、専門性を活かした業務の時間を確保
	⑬やまぐち部活動改革推進事業 **≪新規≫**	現計予算額　2,700　(0) 財源：国県 2,700／地方債／その他／一財	専門的知識・技術を有する外部指導者による指導により、生徒の技術向上等、部活動の充実を図ります。教員の部活動指導に係る負担軽減を図ります。 《全体事業計画》 事業期間　令和3年度 概算事業費　2,700千円	●国が進める、休日（土・日・祝日）の部活動に係る地域スポーツ・文化活動への段階的移行を踏まえ、中学校1校において地域指導者6名を配置し、実践研究を実施 ●教員の休日の部活動指導に係る負担を軽減し、ワーク・ライフ・バランスの取れた働き方を推進
学校給食課	⑭学校給食管理運営事業 ≪継続≫	現計予算額　604,548　(599,253) 財源：国県／地方債／その他 1,635／一財 602,913 ＊「その他」の財源のうち1,300千円は「子ども未来夢基金」から充当	各学校給食センターの円滑な運営により、児童生徒に安心安全でおいしい学校給食を安定供給します。 《全体事業計画》 事業期間：毎年度実施	●市内6か所の学校給食センターの管理運営 ●新南陽学校給食センターにおいて、PFI事業者が行う運営・維持管理業務のモニタリングを実施
	⑮学校給食センター解体事業 **≪継続≫**	現計予算額　112,707　(5,923) 財源：国県／地方債 96,900／その他／一財 15,807	新たに新南陽学校給食センターを設置したことに伴い、既存の2センター（徳山西、新南陽）を解体・除去し、その後の土地売却・転用等により、跡地の有効活用を図ります。 《全体事業計画》 事業期間：令和2年度～令和5年度 概算事業費：257,386千円	●旧徳山西学校給食センターを解体 (1)　解体工事 (2)　解体前の廃棄物処理、工損調査

３．部活動指導員配置事業・やまぐち部活動改革推進事業

【部活動指導員配置事業（予算額：2,641 千円）】

○１人ひとりの生徒の能力に応じた適切な練習法の導入等、部活動の質的向上を図るため、専門的知識・技能を有する外部人材６名を部活動指導員として中学校に配置。

○教員の部活動指導に係る負担軽減等、持続可能な部活動運営体制の構築及び教職員のワーク・ライフ・バランスの実現を図る。

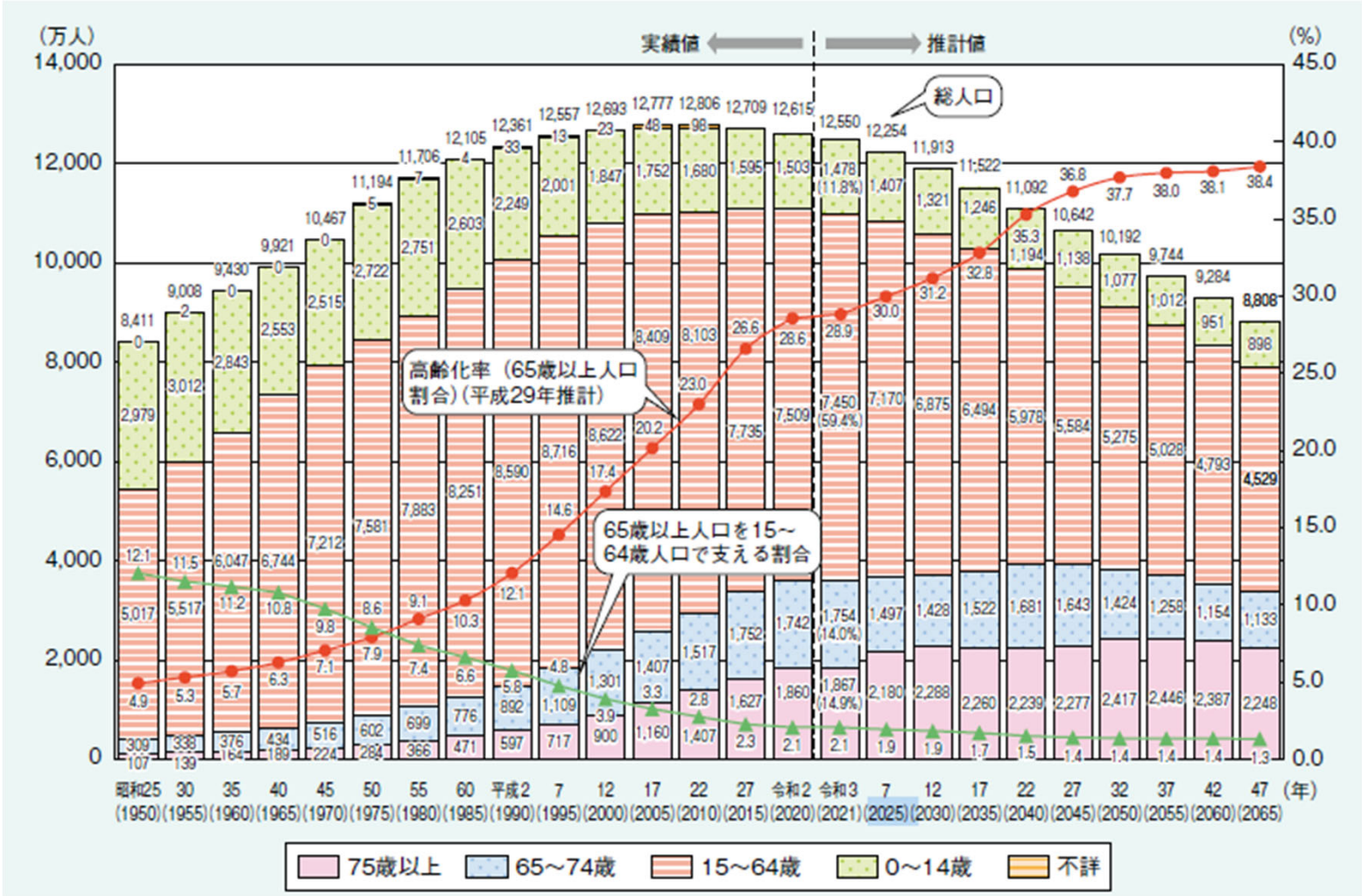
【やまぐち部活動改革推進事業（予算額：2,700 千円）】

○令和５（2023）年以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向け、地域人材や運営団体の確保、費用負担の在り方等の課題や成果を整理・検証するため、拠点校（秋月中学校）において実践研究を実施。

○教員の部活動指導に係る負担軽減等、持続可能な地域スポーツ・文化活動組織体制の構築及び教職員のワーク・ライフ・バランスの実現を図る。

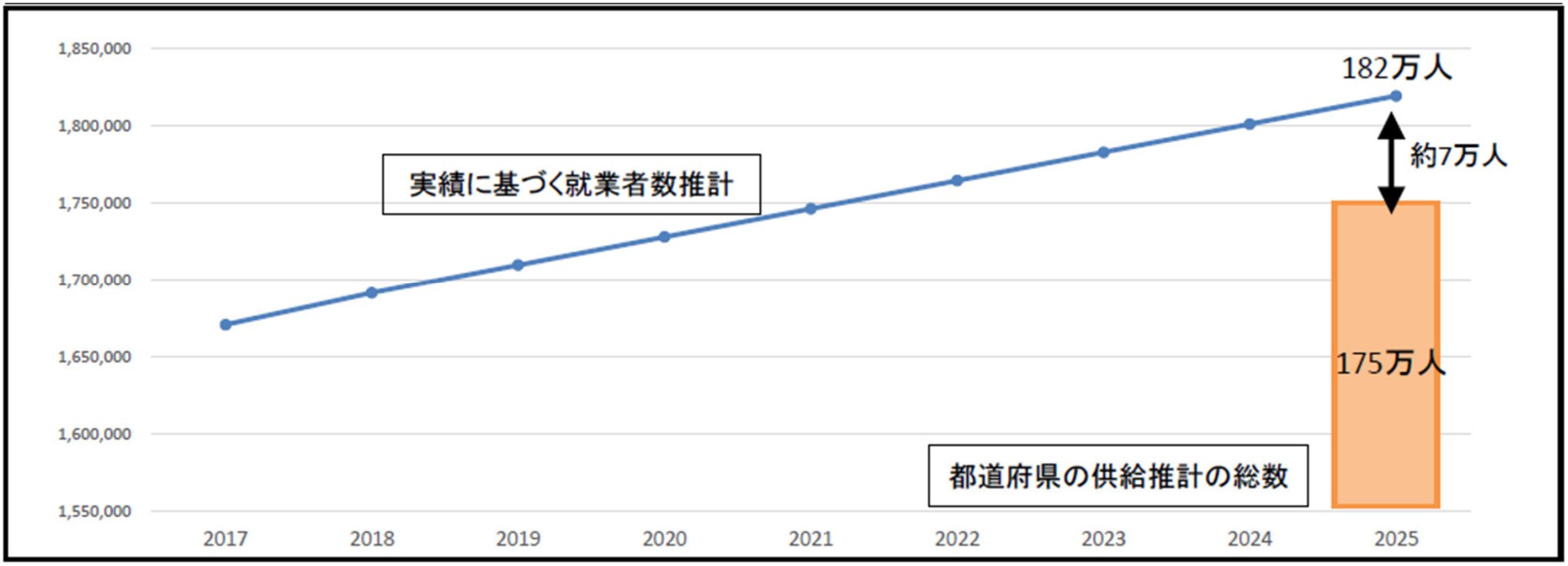
	部活動指導員配置事業	やまぐち部活動改革推進事業
配置校	秋月中（４部活）、岐陽中（１部活）、富田中（１部活）	秋月中（６部活） 男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、 軟式野球部、卓球部、女子バレーボール部、吹奏楽部
身　分	市会計年度任用職員として任用された学校職員	地域のスポーツ・文化活動の指導者
事業内容	主に平日の部活動において、顧問教諭と連携して指導にあたるとともに、必要に応じて、休日の指導や大会等へも引率指導にあたる。	休日の部活動を地域部活動とみなし、地域部活動の指導者として指導。
勤務（指導）時間	原則として１日に２時間程度、１週間あたり７時間以内とし、年間２４５時間を上限。	土・日又は祝日については原則３時間以内、１週間あたり１日を基本とし、年間４３日を上限。
大会・練習試合等の引率	山口県中学校体育連盟の大会等公式戦にも引率可。	山口県中学校体育連盟の大会等、学校教育の部活動として参加する大会等には参加できない。練習試合や教会等、地域のクラブチーム等で参加できるものは参加可。

高齢化の推移と将来推計



令和４年度版　高齢者白書（内閣府）より

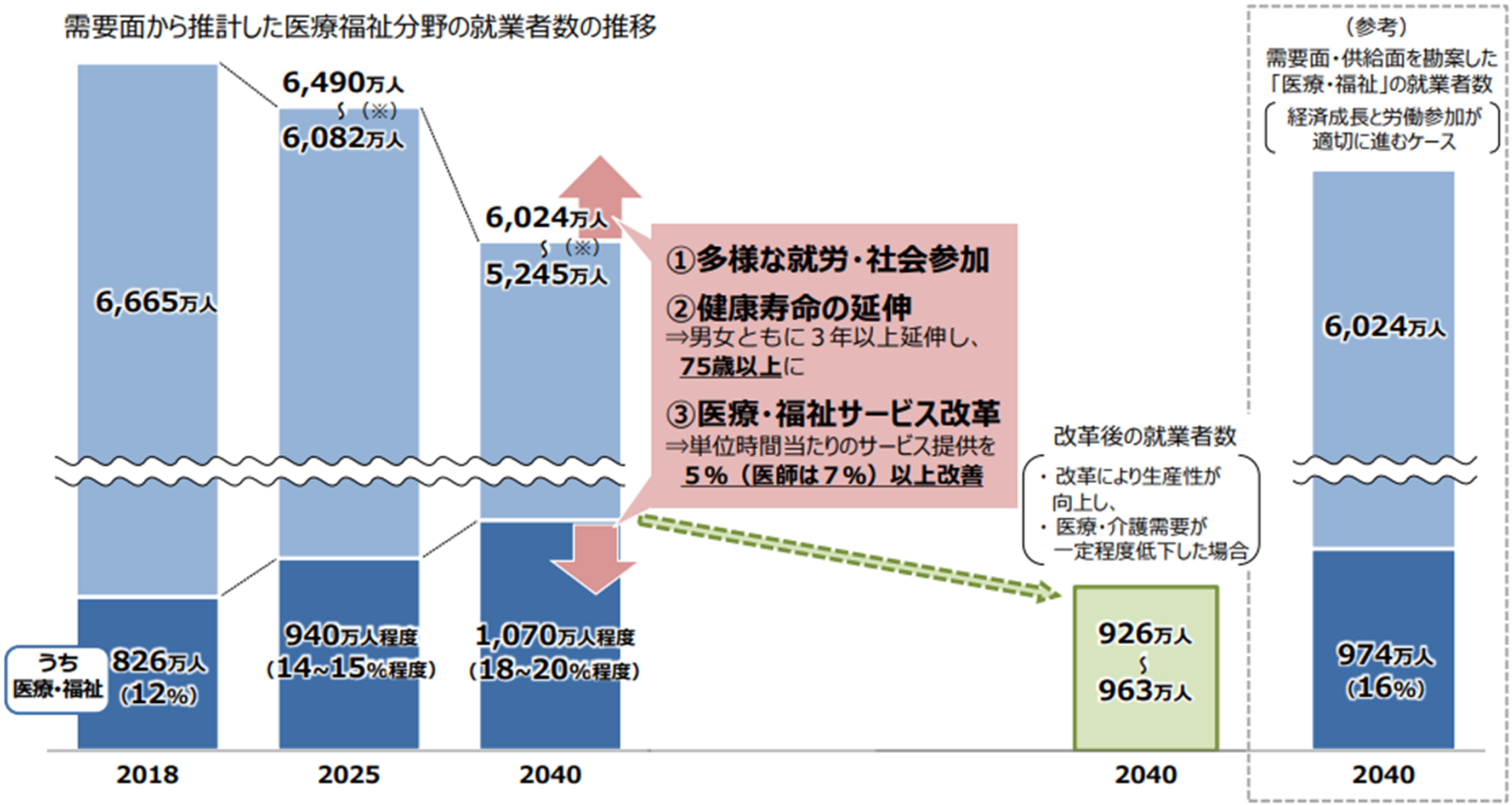
看護職の供給数と必要数の差



医療従事者の需給に関する検討会2019（厚生労働省）より

マンパワー①　2025年以降、人材確保がますます課題となる

○2040年には就業者数が大きく減少する中で、医療・福祉職種の人材は現在より多く必要となる。



※総就業者数は独立行政法人労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計」（2019年３月）による。
　総就業者数のうち、下の数値は経済成長と労働参加が進まないケース、上の数値は進むケースを記載。
※2018年度の医療・福祉の就業者数は推計値である。

14

人材確保に関する現状と課題

平成30年度厚生労働省保健指導支援事業「自治体における保健師の人材確保モデル開発事業」報告書

- 募集人員に対して応募者数が十分に確保できない
- 中堅期の30代、40代の保健師の確保が困難である
- 保健師養成機関の学生に自治体保健師の保健活動、その魅力を伝えることができない
- 無料職業紹介事業所の利用が少なく、効果的に情報が公開されていない
- 小規模市町村における計画的な保健師採用の難しさ

新型コロナウイルス感染症への対応においては…

急増する陽性者、接触者に対応する保健師の確保
- ・各部署に分散配置されている保健師の動員
- ・業務経験があり即応できる人材の確保
- ・増員・動員のためのルール、しくみづくり（組織横断的な調整）

全庁体制、受援体制の構築

業務の効率化：ICTの活用、アウトソーシング

地域における保健師の保健活動に関する指針
＜保健師の保健活動の基本的な方向性＞

※所属する組織や部署にかかわらず留意すべき事項

1　地域診断に基づくPDCAサイクルの実施

地区活動や統計情報等に基づき、住民の健康状態や生活環境の実態を把握し、地域において取り組むべき健康課題を明らかにすることにより健康課題の優先度を判断。PDCAサイクルに基づく地域保健関連施策の展開及び評価。

2　個別課題から地域課題への視点及び活動の展開

個々の住民の健康問題の把握にとどまらず、集団に共通する地域の健康課題や地域保健関連施策を総合的に捉える視点を持った活動の実施。健康課題の解決に向けて住民や組織同士をつなぎ、住民の主体的な行動の促進。

3　予防的介入の重視

生活習慣病等の疾病の発症・重症化予防を徹底することで、要医療や要介護状態になることの防止。虐待などに関連する潜在的な健康問題を予見して、住民に対する必要な情報の提供や早期介入等。

4　地区活動に立脚した活動の強化

訪問指導、健康相談、健康教育、地区組織等の育成等を通じて積極的に地域に出向き、地区活動により、住民の生活の実態や健康問題の背景にある要因の把握。地区活動を通じてソーシャルキャピタルの醸成を図り、それらを活用して住民と協働し、住民の自助及び共助を支援し主体的かつ継続的な健康づくりの推進。

5　地区担当制の推進

分野横断的に担当地区を決めて保健活動を行う地区担当制等の体制の下、住民、世帯及び地域全体の健康課題を把握し、世帯や地域の健康課題に横断的・包括的に関わり、地域の実情に応じた必要な支援をコーディネートするなど、担当する地区に責任をもった保健活動の推進。

6　地域特性に応じた健康なまちづくりの推進

ソーシャルキャピタルを醸成し、学校や企業等の関係機関との幅広い連携を図りつつ、社会環境の改善に取り組むなど、地域特性に応じた健康なまちづくりの推進。

7　部署横断的な保健活動の連携及び協働

保健師相互の連携を図るとともに、他職種の職員、関係機関、住民等と連携・協働した保健活動の実施。必要に応じて部門や部署を越えて課題等を共有し、健康課題の解決に向けて共に検討するなど、部署横断的な連携・協働。

8　地域のケアシステムの構築

保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの総合的な調整及び不足しているサービスの開発等地域のケアシステムの構築。

9　各種保健医療福祉計画の策定及び実施

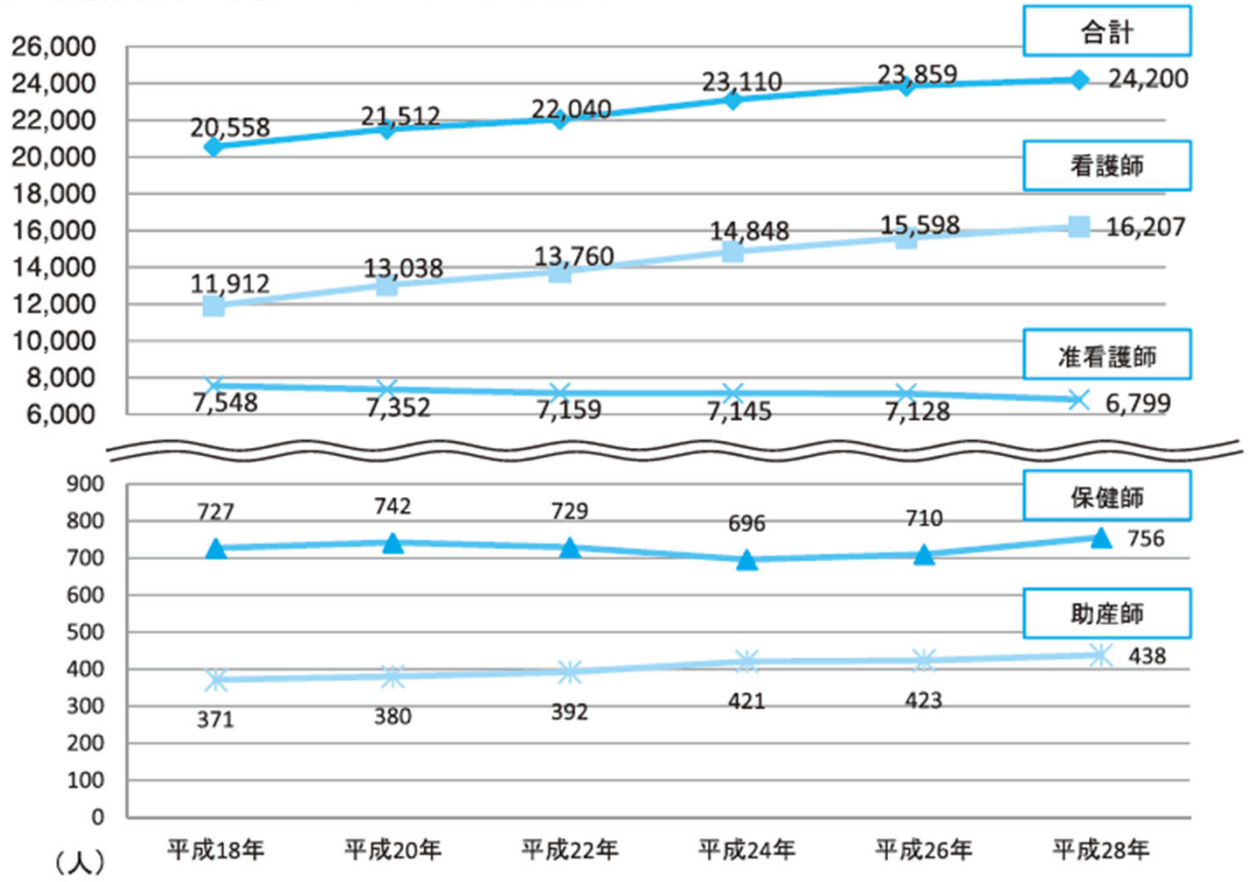
住民、関係者、関係機関等と協働した各種保健医療福祉計画の策定。それらの計画が適切かつ効果的に実施されるよう各種保健医療福祉計画の進行管理・評価の関係者・関係機関等と協働した実施。

10　人材育成

主体的に自己啓発に努め、最新の保健、医療、福祉、介護等に関する知識及び技術の習得。連携、調整や行政運営に関する能力及び保健、医療、福祉及び介護の人材育成に関する能力の習得。

5

図　看護職員数の推移（平成 28 年 12 月末現在）



資料：衛生行政報告例

表１　年齢別看護職員構成比の推移（平成 28 年 12 月現在）　（単位：％）

		～29歳	30～39歳	40～59歳	50～59歳	60歳～
H18	全　国	23.7	29.2	25.8	17.5	3.8
	山口県	20.8	27.9	26.9	20.1	4.3
H28	全　国	17.7	24.5	27.8	20.6	9.4
	山口県	15.6	22.6	28.4	22.2	11.2

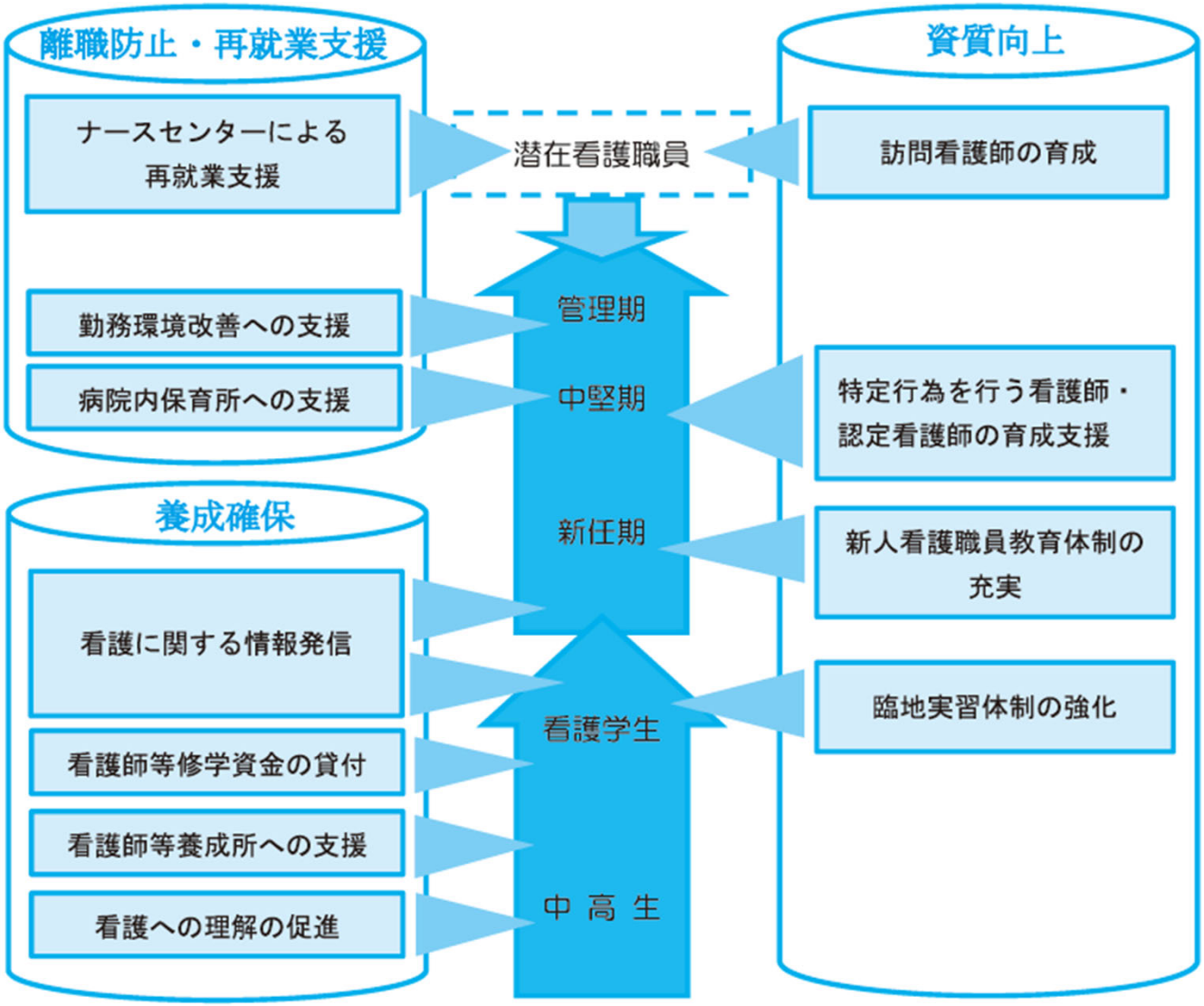
資料：衛生行政報告例

岩　国	柳　井	周　南	山　口 防　府	宇　部 小野田	下　関	長　門	萩	山口県
1,644.7	2,143.8	1,397.2	1,634.3	2,025.8	1,797.7	1,854.3	1,813.5	1,735.9

山口県内の医療圏別の看護職員数（人口10万対　平成28年12月現在）

平成28年度衛生行政報告書より

山口県の看護職員確保対策の体系



新卒看護職員の県内就業率※の年次推移

区　分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
県内就業率	65.5%	65.4%	64.6%	61.6%	70.3%

※新卒看護職員の県内就業率＝新卒看護職員のうち県内に就業した者÷新卒看護職員

「地域共生社会」の実現に向けて

（当面の改革工程）

平成 29 年 2 月 7 日

厚生労働省　「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部

「地域共生社会」の実現が求められる背景

歴史的に見ると、かつて我が国では、地域の相互扶助や家族同士の助け合いにより、人々の暮らしが支えられてきた。日常生活における不安や悩みを相談できる相手や、世帯の状況の変化を周囲が気づき支えるという人間関係が身近にあり、子育てや介護などで支援が必要な場合も、地域や家族が主にそれを担っていた。

戦後、高度成長期を経て今日に至るまで、工業化に伴う人々の都市部への移動、個人主義化や核家族化、共働き世帯の増加などの社会の変化の過程において、地域や家庭が果たしてきた役割の一部を代替する必要性が高まってきた。これに応える形で、疾病や障害・介護、出産・子育てなど、人生において支援が必要となる典型的な要因を想定し、高齢者、障害者、子どもなどの対象者ごとに、公的な支援制度が整備され、質量ともに公的支援の充実が図られてきた。

（「縦割り」の限界を克服する必要性）

しかしながら、昨今、様々な分野の課題が絡み合って複雑化したり、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、複合的な支援を必要とするといった状況がみられ、対象者ごとに『縦割り』で整備された公的な支援制度の下で、対応が困難なケースが浮き彫りとなっている。例えば、介護と育児に同時に直面する世帯（いわゆる「ダブルケア」）や、障害を持つ子と要介護の親の世帯への支援が課題となっている。また、精神疾患患者や、がん患者、難病患者など、地域生活を送る上で、福祉分野に加え、保健医療や就労などの分野にまたがって支援を必要とする方も増えてきている。

さらに、急速な人口減少が進んでおり、地域によっては、利用者数が減少し、専門人材の確保が困難になることで、対象者ごとに公的支援の提供機関を安定的に運営することが難しくなってきている。

地域における多様な支援ニーズに的確に対応していくためには、公的支援が、個人の抱える個別課題に対応するだけでなく、個人や世帯が抱える様々な課題に包括的に対応していくこと、また、地域の実情に応じて、高齢・障害といった分野をまたがって総合的に支援を提供しやすくすることが必要となっている。

これが、公的支援のあり方を『縦割り』から『丸ごと』へと転換する改革が必要な背景である。

（「つながり」の再構築の必要性）

このような公的支援制度の課題に加えて、人々の暮らしにおいては、「社会的孤立」の問題や、制度が対象としないような身近な生活課題（例：電球の取り換え、ごみ出し、買い物や通院のための移動）への支援の必要性の高まりといった課題が顕在化している。また、軽度の認知症や精神障害が疑われ様々な問題を抱えているが公的支援制度の受給要件を満たさない「制度の狭間」の問題も存在する。

こうした課題の多くは、かつては、地域や家族などのつながりの中で対応されてき

た。しかし、高齢化や人口減少の急速な進行を背景に、地域でのつながりは弱まっている。また、高齢化や生涯未婚率の上昇により、高齢者のみの世帯や単身世帯の増加などにより、家庭の機能の低下も生じている。さらに、会社への帰属意識が低下し、職場での人間関係も希薄化する傾向にある。このような日常の様々な場面における「つながり」の弱まりを背景に、「社会的孤立」や「制度の狭間」などの課題が表面化している。

かつての我が国がそうであったように、人生における様々な困難に直面した場合でも、人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せずにその人らしい生活を送ることができる。また、公的支援が「支え手」「受け手」という固定した関係の下で提供されるのに対し、人と人とのつながりや支え合いにおいては、支援の必要な人を含め誰もが役割を持ち、それぞれが、日々の生活における安心感と生きがいを得ることができる。このような人と人とのつながりの再構築が求められている。

地域は、高齢者、障害者、子どもなど世代や背景の異なるすべての人々の生活の本拠である。地域を基盤として人と人とのつながりを育むことで、誰もが尊重され包摂を受けながら、その人らしい生活を実現できる社会を構築していくことにつながる。また、今後、高齢化により、より多くの人の生活の中心が職場から地域に移っていく。人々の生活の基盤としての地域の重要性が一層高まる中、地域において、住民がつながり支え合う取組を育んでいくことが必要となっている。

このようなつながりのある地域をつくる取組は、自分の暮らす地域をより良くしたいという地域住民の主体性に基づいて、『他人事』ではなく『我が事』として行われてこそ、参加する人の暮らしの豊かさを高めることができ、持続していく。また、社会保障などの分野の枠を超えて地域全体が連帯し、地域の様々な資源を活かしながら取り組むことで、人々の暮らしにも地域社会にも豊かさを生み出す。

これが、『我が事』・『丸ごと』の地域づくりを育む仕組みへと転換していく改革が必要な背景である。

（「地域共生社会」の目指すもの）

「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すものである。

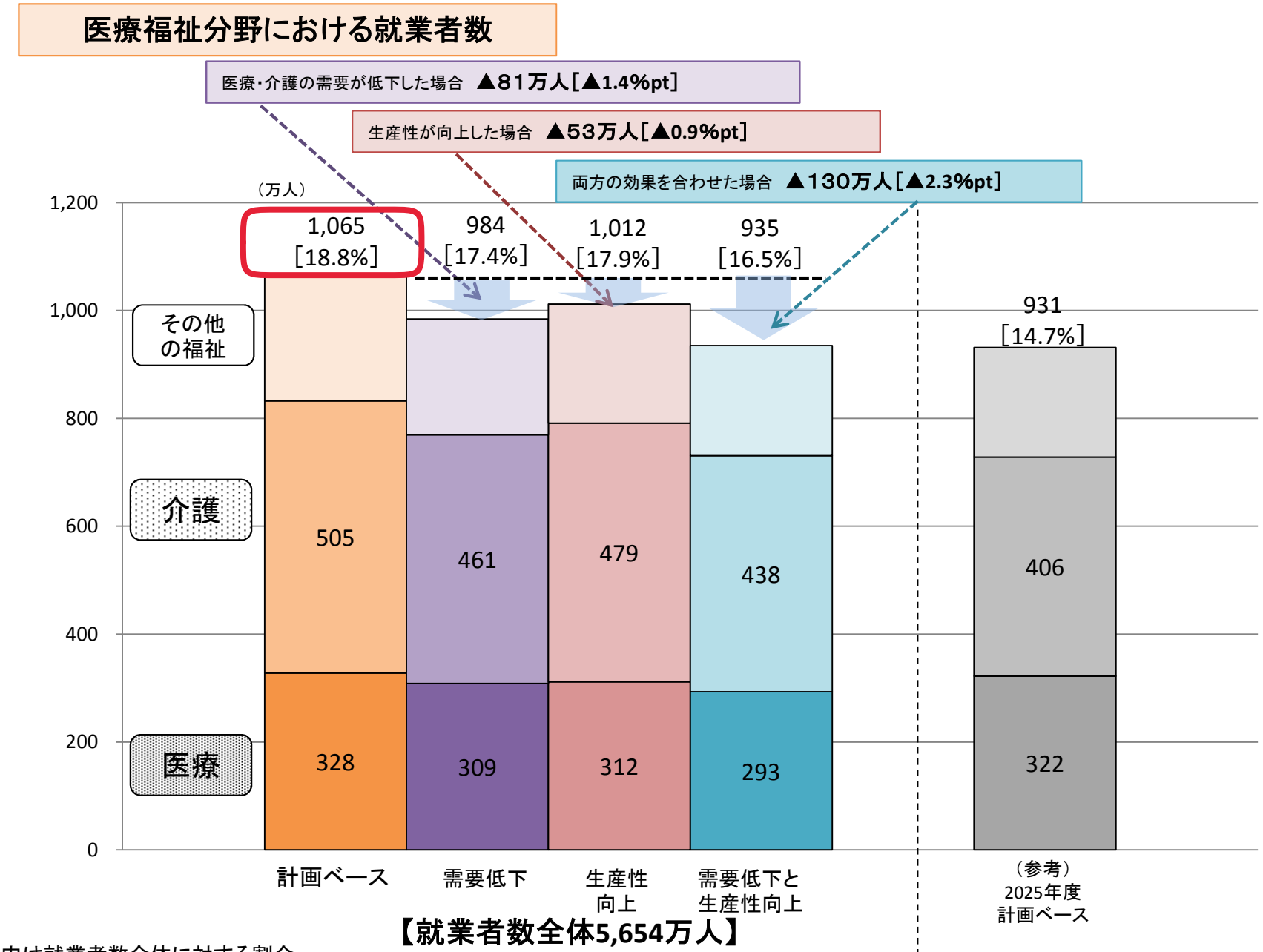
厚生労働省においては、「地域共生社会」の実現を基本コンセプトとして、今後の改革を進めていく。予算による対応に加え、本年の介護保険制度の見直し、平成 30 年度の介護・障害福祉の報酬改定、さらには、平成 30 年度に予定される生活困窮者自立支援制度の見直しなど、2020 年代初頭の全面展開を目指し改革を実行していく。

「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」に基づく マンパワーのシミュレーション

厚生労働省

平成30年５月21日

シミュレーション結果　（2040年度）



（注1）［　］内は就業者数全体に対する割合。

（注2）需要の低下について、高齢期の受療率低下は、入院・外来で2.5歳分程度受療率低下、介護では1歳分程度認定率低下を仮定。

（注3）医療福祉分野における就業者の見通しについては、①医療・介護分野の就業者数については、それぞれの需要の変化に応じて就業者数が変化すると仮定して就業者数を計算。②その他の福祉分野を含めた医療福祉分野全体の就業者数については、医療・介護分野の就業者数の変化率を用いて機械的に計算。③医療福祉分野の短時間雇用者の比率等の雇用形態別の状況等については、現状のまま推移すると仮定して計算。

シミュレーション結果（医療・介護の患者数・利用者数および就業者数）

（1）需要低下

			2018年度	2025年度	2040年度
患者数・利用者数等（万人）	医療	入院	132	129	131
		外来	783	787	731
	介護	施設	104	117	148
		居住系	46	56	70
		在宅	353	412	464
就業者数（万人）	医療福祉分野における就業者数		823 [12.5%]	906 [14.3%]	984 [17.4%]
		医療	309	316	309
		介護	334	392	461

（2）生産性向上

			2018年度	2025年度	2040年度
就業者数（万人）	医療福祉分野における就業者数		823 [12.5%]	920 [14.5%]	1,012 [17.9%]
		医療	309	317	312
		介護	334	402	479

※　患者数はある日に医療機関に入院中又は外来受診した患者数。利用者数は、ある月における介護サービスの利用者数であり、総合事業等における利用者数を含まない。
※　就業者数欄の「医療福祉分野における就業者数」は、医療・介護分に、その他の福祉分野の就業者数等を合わせた推計値。医療分、介護分ともに、直接に医療に従事する者や介護に従事する者以外に、間接業務に従事する者も含めた数値である。[　]内は、就業者数全体に対する割合。

第七次
やまぐち高齢者プラン

山口県老人福祉計画・山口県介護保険事業支援計画

《計画期間：令和３(2021) 年度～５(2023) 年度》



令和３(2021) 年３月

山 口 県

第１章　高齢者を取り巻く現状と将来推計

１　高齢化の進行

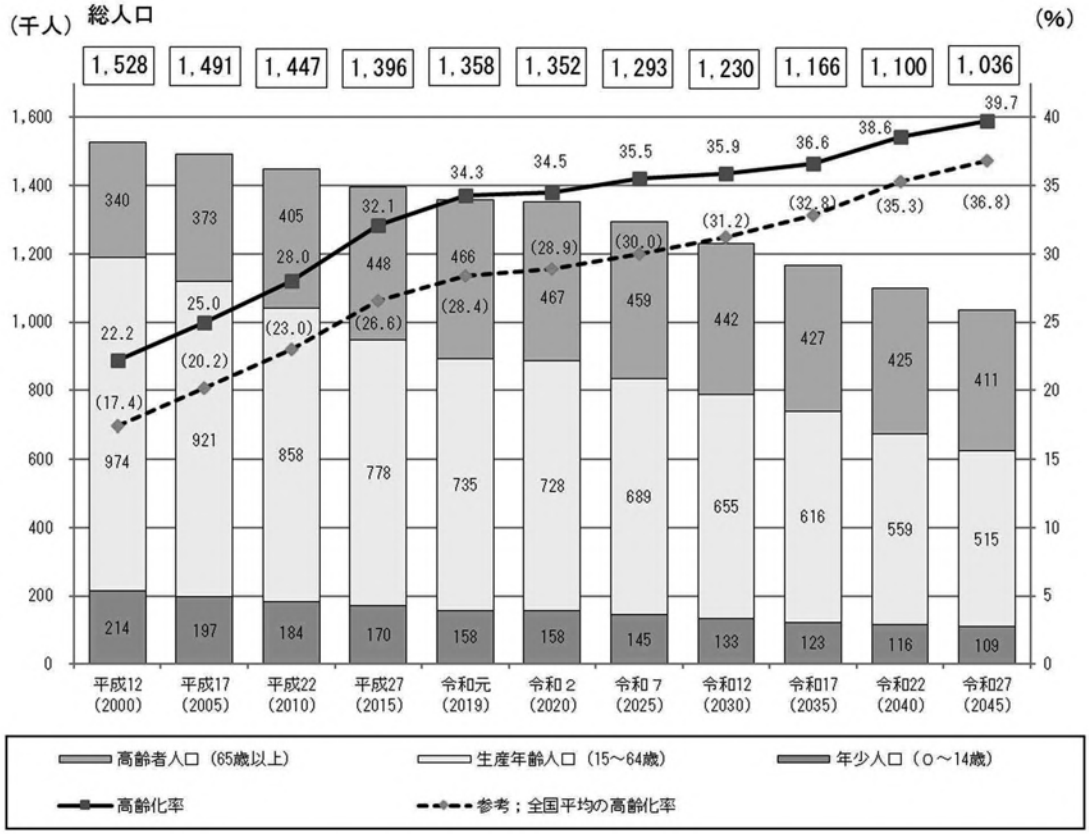
(1) 人口の推移

本県の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は、令和元(2019)年には34.3%と全国（28.4%）よりも5.9ポイント高く、全国第３位の高齢化率となっており、全国に先行して高齢化が進んでいます。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、全国的には、いわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22(2040)年頃に高齢者人口のピークを迎えるとされていますが、本県の高齢者人口は令和２(2020)年の46万７千人をピークに緩やかに減少に転ずることが予測されています。

一方、年少人口（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）の減少が大きいことから、令和22(2040)年には高齢化率が38.6%となり、今後一層の高齢化が進むことが予測されています。

【図1-1-1】山口県の人口の将来推計



（注）　平成27(2015)年以前の総人口には、年齢不詳分を含まない。
［資料］平成27(2015)年以前：「国勢調査」（総務省）
令和元(2019)年：「推計人口」（総務省）
令和２(2020)年以降：「日本の都道府県別将来推計人口(平成30年３月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

【表1-1-1】山口県の人口の将来推計

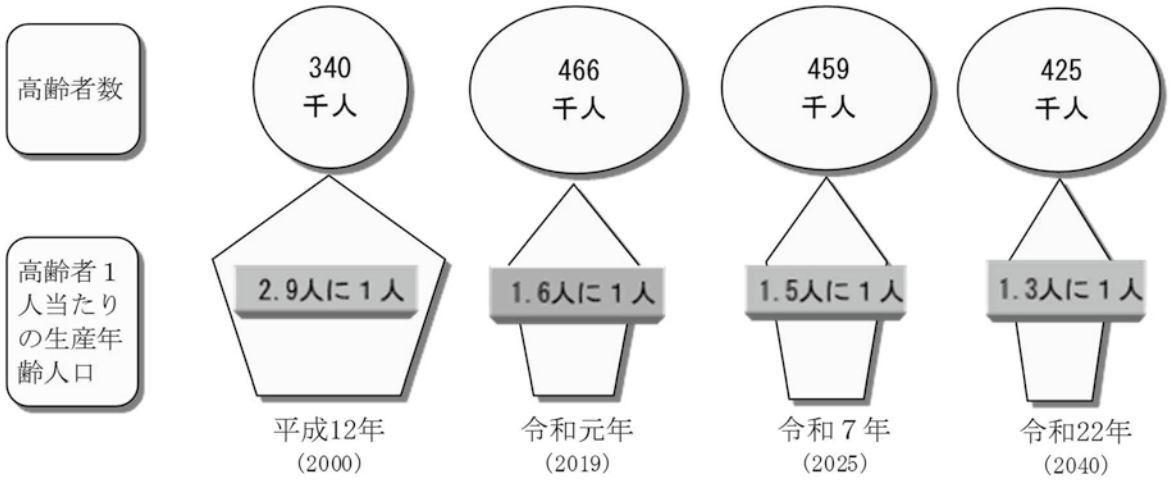
（単位：千人）

区分		平成22年(2010)	平成27年(2015)	令和元年(2019)	令和２年(2020)	令和７年(2025)	令和12年(2030)	令和17年(2035)	令和22年(2040)	令和27年(2045)
総人口		1,447	1,396	1,358	1,352	1,293	1,230	1,166	1,100	1,036
	全国	127,081	125,641	126,167	125,325	122,544	119,125	115,216	110,919	106,421
年齢三区分	０～１４歳	184 (12.7%)	170 (12.2%)	158 (11.6%)	158 (11.7%)	145 (11.2%)	133 (10.8%)	123 (10.6%)	116 (10.6%)	109 (10.5%)
	全国	16,803 (13.2%)	15,887 (12.6%)	15,210 (12.1%)	15,075 (12.0%)	14,073 (11.5%)	13,212 (11.1%)	12,457 (10.8%)	11,936 (10.8%)	11,384 (10.7%)
	１５～６４歳	858 (59.3%)	778 (55.7%)	735 (54.1%)	728 (53.8%)	689 (53.3%)	655 (53.2%)	616 (52.8%)	559 (50.8%)	515 (49.8%)
	全国	81,032 (63.8%)	76,289 (60.7%)	75,072 (59.5%)	74,058 (59.1%)	71,701 (58.5%)	68,754 (57.7%)	64,942 (56.4%)	59,777 (53.9%)	55,845 (52.5%)
	６５歳以上	405 (28.0%)	448 (32.1%)	466 (34.3%)	467 (34.5%)	459 (35.5%)	442 (35.9%)	427 (36.6%)	425 (38.6%)	411 (39.7%)
	うち７５歳以上高齢者	211 (14.6%)	226 (16.2%)	246 (18.1%)	248 (18.3%)	281 (21.7%)	288 (23.4%)	276 (23.6%)	257 (23.3%)	245 (23.6%)
	全国	29,246 (23.0%)	33,465 (26.6%)	35,885 (28.4%)	36,192 (28.9%)	36,771 (30.0%)	37,160 (31.2%)	37,817 (32.8%)	39,206 (35.3%)	39,192 (36.8%)
	うち７５歳以上高齢者	14,072 (11.1%)	16,126 (12.8%)	18,490 (14.7%)	18,720 (14.9%)	21,800 (17.8%)	22,884 (19.2%)	22,597 (19.6%)	22,392 (20.2%)	22,767 (21.4%)
高齢化率〔全国順位〕		28.0% 〔４位〕	32.1% 〔４位〕	34.3% 〔３位〕	34.5% 〔４位〕	35.5% 〔８位〕	35.9% 〔15位〕	36.6% 〔19位〕	38.6% 〔19位〕	39.7% 〔21位〕

（注）１）（　）内の数値は、総人口に対する割合（構成比）。
２）平成27(2015)年以前の総人口には、年齢不詳分を含まない。

［資料］平成27(2015)年以前：「国勢調査」（総務省）
令和元(2019)年：「推計人口」（総務省）
令和２(2020)年以降：「日本の都道府県別将来推計人口（平成30年３月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

【図1-1-2】山口県の高齢者１人当たりの生産年齢人口の推移



＜圏域別の状況＞

県内の各圏域の高齢化率は、いずれも全国（28.4%）を超えています。

(2) 要支援・要介護認定者の増加

要支援・要介護認定者数については、令和２(2020)年度の約９万人から令和５(2023)年度には約９万５千人に増加する見込みです。

また、第１号被保険者数は今後減少傾向にありますが、要支援・要介護認定者数は増加する見込みです。

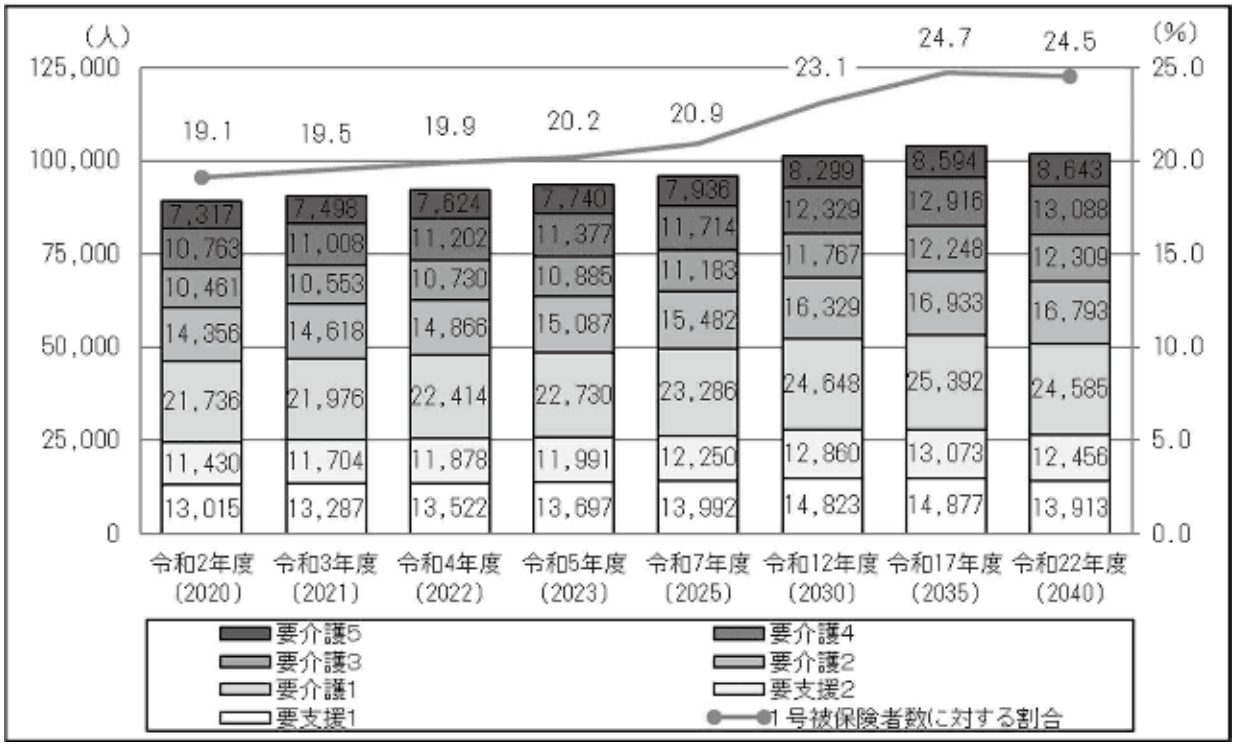
【表1-2-2】要支援・要介護認定者数の推計

（単位：人）

区分		計画前（令和2年度）(2020) a	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023) b	b／a	令和7年度 (2025) c	令和12年度 (2030)	令和17年度 (2035)	令和22年度 (2040) d	c／a	d／a
第１号被保険者数		465,212	465,563	463,811	462,165	99.3%	457,511	437,867	420,408	415,009	98.3%	89.2%
要支援・要介護認定者数（第１号被保険者）		89,078	90,644	92,236	93,507	105.0%	95,843	101,055	104,033	101,787	107.6%	114.3%
（第１号被保険者に占める割合）		(19.1%)	(19.5%)	(19.9%)	(20.2%)		(20.9%)	(23.1%)	(24.7%)	(24.5%)		
	要支援１	13,015	13,287	13,522	13,697	105.2%	13,992	14,823	14,877	13,913	107.5%	106.9%
	要支援２	11,430	11,704	11,878	11,991	104.9%	12,250	12,860	13,073	12,456	107.2%	109.0%
	要介護１	21,736	21,976	22,414	22,730	104.6%	23,286	24,648	25,392	24,585	107.1%	113.1%
	要介護２	14,356	14,618	14,866	15,087	105.1%	15,482	16,329	16,933	16,793	107.8%	117.0%
	要介護３	10,461	10,553	10,730	10,885	104.1%	11,183	11,767	12,248	12,309	106.9%	117.7%
	要介護４	10,763	11,008	11,202	11,377	105.7%	11,714	12,329	12,916	13,088	108.8%	121.6%
	要介護５	7,317	7,498	7,624	7,740	105.8%	7,936	8,299	8,594	8,643	108.5%	118.1%
要支援・要介護認定者数（第２号被保険者）		1,461	1,471	1,460	1,448	99.1%	1,426	1,350	1,251	1,103	97.6%	75.5%
要支援・要介護認定者数合計		90,539	92,115	93,696	94,955	104.9%	97,269	102,405	105,284	102,890	107.4%	113.6%

［資料］令和２(2020)年度：「介護保険事業状況報告」（厚生労働省）
令和３(2021)年度以降：各市町の推計数値（「見える化」システムの「将来推計機能」による）の集計。

【図1-2-2】第１号被保険者における要支援・要介護認定者数の推計



【表1-2-3】第１号被保険者における要支援・要介護認定者数の推計（圏域別）

（単位：人）

年度	区分	岩国	柳井	周南	山口・防府	宇部・小野田	下関	長門	萩	計
令和2(2020)年度	要支援・要介護認定者数	9,326 (19.2%)	5,939 (18.7%)	13,043 (16.1%)	17,927 (19.6%)	16,365 (19.2%)	19,677 (21.5%)	2,721 (19.0%)	4,080 (19.0%)	89,078 (19.1%)
	要支援１	950	754	1,628	3,112	2,057	3,711	230	573	13,015
	要支援２	1,284	620	1,771	2,319	1,964	2,658	318	496	11,430
	要介護１	2,204	1,405	3,296	4,382	4,260	4,580	634	975	21,736
	要介護２	1,883	1,013	2,057	2,824	2,779	2,640	551	609	14,356
	要介護３	1,141	821	1,499	1,923	2,070	2,104	407	496	10,461
	要介護４	1,095	725	1,612	1,946	1,946	2,552	325	562	10,763
	要介護５	769	601	1,180	1,421	1,289	1,432	256	369	7,317
令和3(2021)年度	要支援・要介護認定者数	9,485 (19.6%)	6,027 (19.1%)	13,398 (16.5%)	18,357 (19.9%)	16,528 (19.4%)	20,089 (21.9%)	2,693 (19.2%)	4,067 (19.0%)	90,644 (19.5%)
	要支援１	960	771	1,647	3,288	2,059	3,775	220	567	13,287
	要支援２	1,299	637	1,817	2,420	2,001	2,716	309	505	11,704
	要介護１	2,240	1,407	3,383	4,482	4,270	4,635	607	952	21,976
	要介護２	1,916	1,017	2,124	2,833	2,799	2,731	565	633	14,618
	要介護３	1,162	831	1,545	1,912	2,104	2,121	401	477	10,553
	要介護４	1,123	731	1,675	2,021	1,970	2,599	331	558	11,008
	要介護５	785	633	1,207	1,401	1,325	1,512	260	375	7,498
令和4(2022)年度	要支援・要介護認定者数	9,656 (20.0%)	6,022 (19.3%)	13,740 (17.0%)	18,820 (20.3%)	16,720 (19.8%)	20,522 (22.5%)	2,699 (19.4%)	4,057 (19.0%)	92,236 (19.9%)
	要支援１	971	770	1,684	3,399	2,072	3,841	221	564	13,522
	要支援２	1,316	635	1,858	2,485	2,011	2,765	305	503	11,878
	要介護１	2,286	1,403	3,481	4,617	4,331	4,735	609	952	22,414
	要介護２	1,955	1,016	2,179	2,896	2,829	2,791	568	632	14,866
	要介護３	1,184	832	1,587	1,947	2,131	2,174	403	472	10,730
	要介護４	1,144	731	1,717	2,050	2,001	2,667	333	559	11,202
	要介護５	800	635	1,234	1,426	1,345	1,549	260	375	7,624
令和5(2023)年度	要支援・要介護認定者数	9,748 (20.3%)	6,010 (19.5%)	14,030 (17.4%)	19,254 (20.6%)	16,898 (20.1%)	20,776 (22.9%)	2,716 (19.9%)	4,075 (19.3%)	93,507 (20.2%)
	要支援１	977	764	1,719	3,493	2,085	3,875	220	564	13,697
	要支援２	1,323	627	1,890	2,532	2,016	2,793	307	503	11,991
	要介護１	2,304	1,402	3,556	4,733	4,378	4,792	609	956	22,730
	要介護２	1,980	1,014	2,228	2,974	2,858	2,825	572	636	15,087
	要介護３	1,195	833	1,619	1,984	2,159	2,208	409	478	10,885
	要介護４	1,161	733	1,757	2,086	2,033	2,710	335	562	11,377
	要介護５	808	637	1,261	1,452	1,369	1,573	264	376	7,740
令和7(2025)年度	要支援・要介護認定者数	9,876 (20.9%)	5,980 (19.8%)	14,526 (18.3%)	20,100 (21.4%)	17,457 (21.0%)	21,079 (23.6%)	2,739 (20.6%)	4,086 (19.7%)	95,843 (20.9%)
	要支援１	985	767	1,781	3,622	2,152	3,904	220	561	13,992
	要支援２	1,330	622	1,954	2,633	2,083	2,819	307	502	12,250
	要介護１	2,325	1,393	3,685	4,944	4,515	4,860	610	954	23,286
	要介護２	2,016	1,006	2,308	3,116	2,948	2,870	578	640	15,482
	要介護３	1,216	828	1,676	2,079	2,238	2,249	415	482	11,183
	要介護４	1,185	730	1,819	2,188	2,105	2,776	343	568	11,714
	要介護５	819	634	1,303	1,518	1,416	1,601	266	379	7,936

年度	区分	岩国	柳井	周南	山口・防府	宇部・小野田	下関	長門	萩	計
令和12(2030)年度	要支援・要介護認定者数	10,037 (22.5%)	5,889 (21.4%)	15,733 (20.7%)	22,163 (23.5%)	18,715 (23.3%)	21,674 (25.8%)	2,781 (23.4%)	4,063 (21.0%)	101,055 (23.1%)
	要支援1	995	776	1,909	4,025	2,325	4,008	224	561	14,823
	要支援2	1,356	602	2,075	2,892	2,225	2,895	313	502	12,860
	要介護1	2,391	1,387	4,021	5,433	4,844	4,992	624	956	24,648
	要介護2	2,050	994	2,498	3,435	3,174	2,955	585	638	16,329
	要介護3	1,235	811	1,825	2,302	2,391	2,313	415	475	11,767
	要介護4	1,192	707	2,002	2,413	2,245	2,859	350	561	12,329
	要介護5	818	612	1,403	1,663	1,511	1,652	270	370	8,299
令和17(2035)年度	要支援・要介護認定者数	9,975 (23.8%)	5,838 (23.2%)	16,319 (22.3%)	23,909 (25.1%)	19,585 (25.3%)	21,583 (27.4%)	2,807 (25.0%)	4,017 (22.6%)	104,033 (24.7%)
	要支援1	970	746	1,910	4,247	2,337	3,902	221	544	14,877
	要支援2	1,336	590	2,115	3,079	2,261	2,877	316	499	13,073
	要介護1	2,382	1,380	4,143	5,856	5,082	4,972	629	948	25,392
	要介護2	2,045	990	2,615	3,731	3,359	2,965	598	630	16,933
	要介護3	1,234	815	1,933	2,524	2,518	2,325	424	475	12,248
	要介護4	1,192	714	2,126	2,673	2,423	2,883	347	558	12,916
	要介護5	816	603	1,477	1,799	1,605	1,659	272	363	8,594
令和22(2040)年度	要支援・要介護認定者数	9,486 (23.4%)	5,467 (23.1%)	15,783 (21.6%)	24,636 (25.0%)	19,496 (25.4%)	20,411 (27.0%)	2,683 (26.1%)	3,825 (23.2%)	101,787 (24.5%)
	要支援1	896	666	1,770	4,187	2,202	3,510	196	486	13,913
	要支援2	1,226	535	1,999	3,113	2,172	2,656	294	461	12,456
	要介護1	2,238	1,274	3,941	5,993	4,992	4,677	579	891	24,585
	要介護2	1,978	940	2,552	3,915	3,376	2,838	582	612	16,793
	要介護3	1,185	782	1,917	2,677	2,589	2,269	419	471	12,309
	要介護4	1,172	686	2,143	2,850	2,500	2,834	348	555	13,088
	要介護5	791	584	1,461	1,901	1,665	1,627	265	349	8,643

（注）（　）内の数値は、第１号被保険者に対する割合。

新たな児童虐待防止対策体制総合強化プラン

令和４年 12 月 15 日

児童虐待防止対策に関する関係府省庁連絡会議決定

１．目　的

児童虐待防止対策については、これまで「児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策」（平成 30 年７月 20 日児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議（以下「関係閣僚会議」という。）決定)、「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」（平成 30 年 12 月 18 日児童虐待防止対策に関する関係府省庁連絡会議（以下「関係府省庁連絡会議」という。）決定)、「『児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策』の更なる徹底・強化について」（平成 31 年２月８日関係閣僚会議決定)、「児童虐待防止対策の抜本的強化」（平成 31 年３月 19 日関係閣僚会議決定）等も踏まえて、取組を進めてきた。

しかしながら、全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は依然として一貫して増加しており、虐待により死亡する事件は後を絶たない。このような状況を受けて、本年６月の通常国会で成立した児童福祉法等の一部を改正する法律（令和４年法律第 66 号。以下「令和４年改正児童福祉法」という。）や令和５年４月からのこども家庭庁創設も踏まえた新たな総合的な対策である「児童虐待防止対策の更なる推進について」（令和４年９月２日関係閣僚会議決定。以下「更なる推進」という。）を策定した。

また、昨今いわゆる宗教２世に対し、宗教の信仰を理由とする児童虐待への対応の必要性についても指摘されているところ。

このような状況も踏まえ、児童相談所や市町村の体制強化を計画的に進めるとともに、児童虐待防止対策を更に進めていくため、児童虐待防止対策体制総合強化プランに代わり新たに「新たな児童虐待防止対策体制総合強化プラン」を策定する。

児童虐待防止対策の強化に向け、国・自治体・関係機関が一体となって必要な取組を引き続き強力に進めていく。

新たな児童虐待防止対策体制総合強化プランの目標

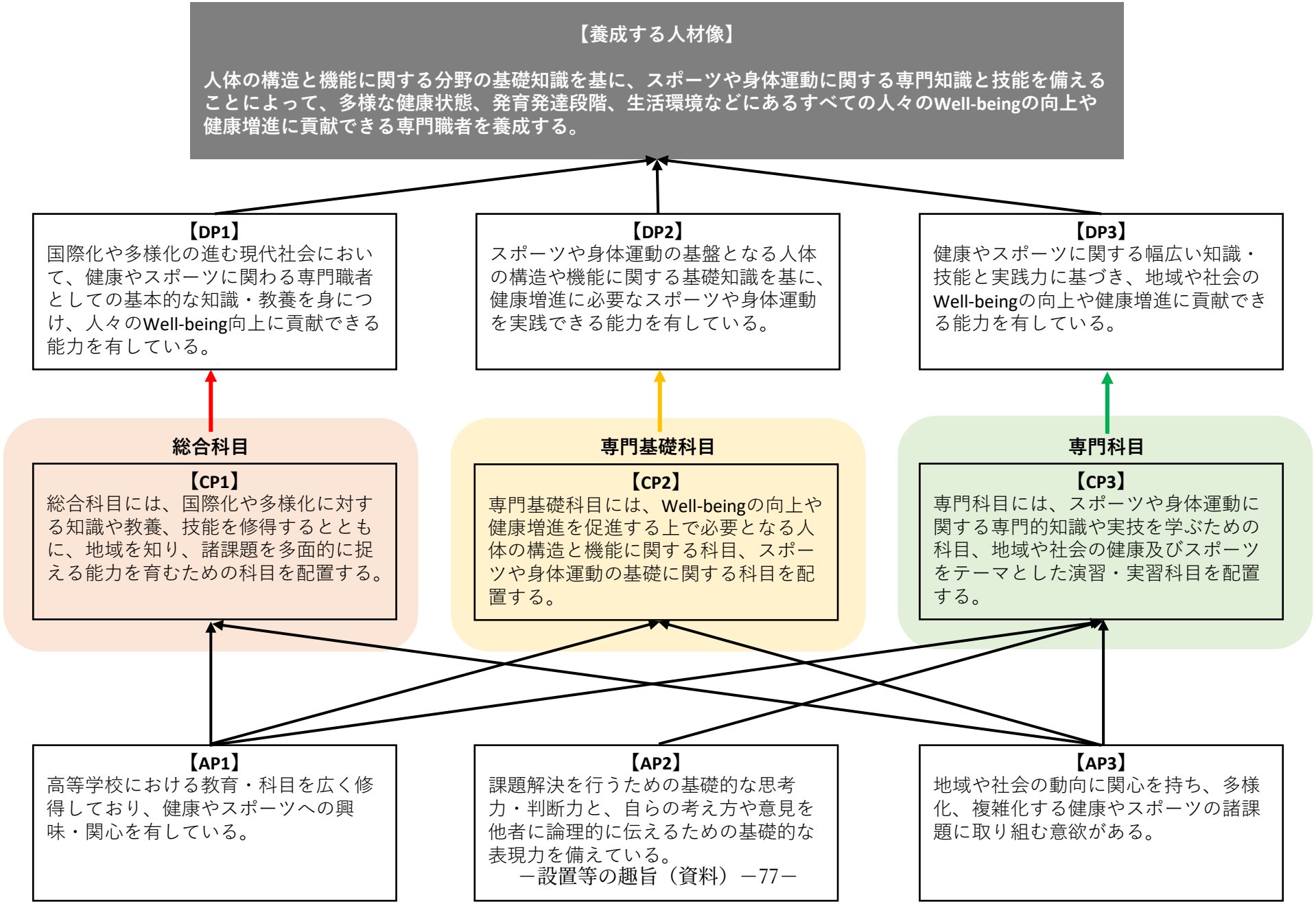
	計画期間（令和5年度から令和8年度まで）							
	令和4年度実績		配置目標		増員数			
【児童相談所】								
児童福祉司	5,780	人程度	→	6,850	人程度【注1】	＋	1,060	人程度
うち スーパーバイザー	960	人程度	→	1,210	人程度	＋	250	人程度
児童心理司	2,350	人程度	→	3,300	人程度	＋	950	人程度

【注1】令和6年度までに6,850人程度を目標とする。

【注2】こども家庭センターについては、令和6年度の施行に向けて必要な体制等について検討を行い、その検討結果を踏まえ、令和5年中に目標設定を行う。

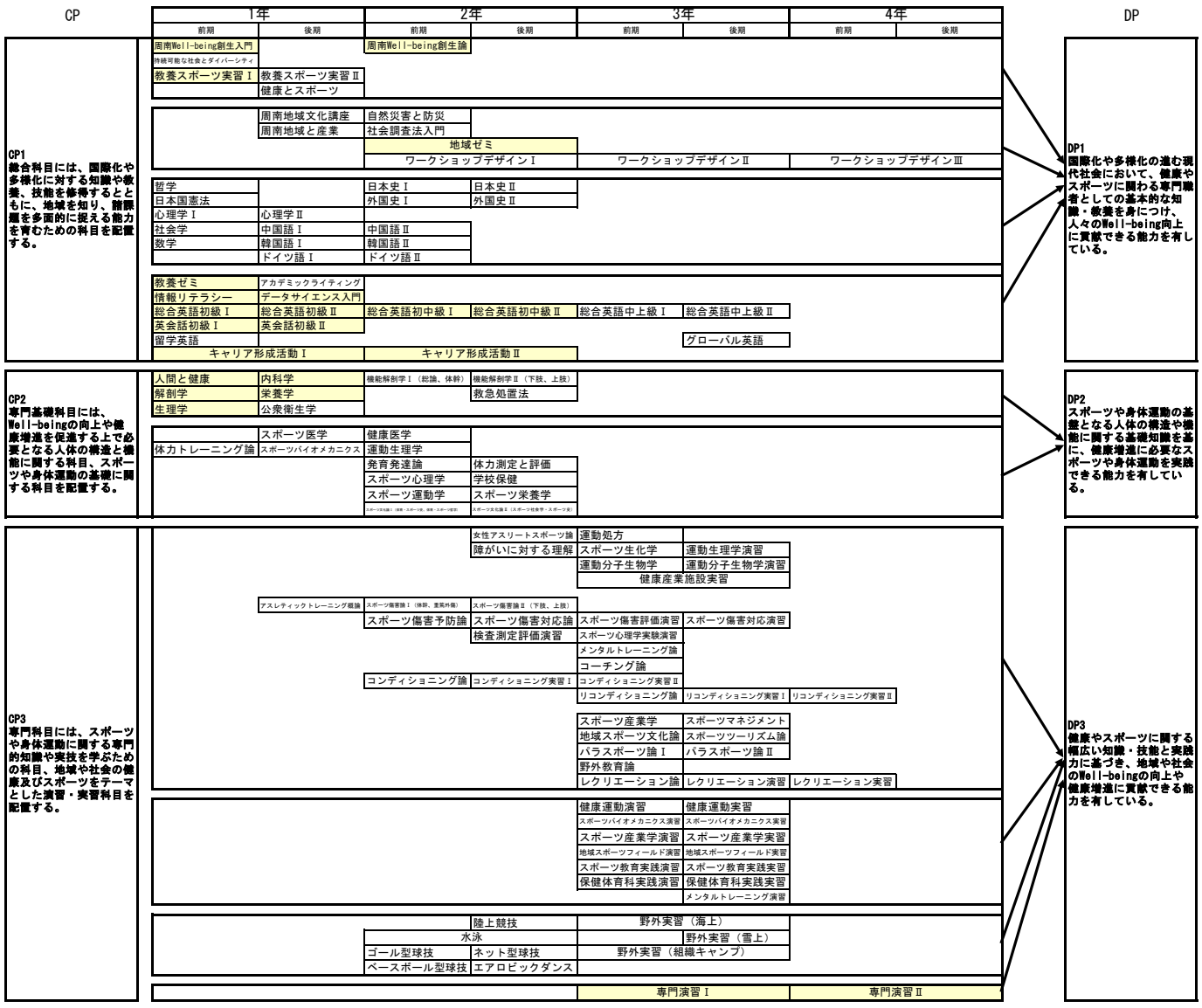
【注3】進捗状況等を踏まえ、必要に応じて目標の前倒し等の見直しを行うことがあり得る。

スポーツ健康科学科の養成する人材像及び３つのポリシーの相関



〔スポーツ健康科学科カリキュラムマップ〕

<養成する人材像>
人体の構造と機能に関する分野の基礎知識を基に、スポーツや身体運動に関する専門知識と技能を備えることによって、多様な健康状態、発育発達段階、生活環境などにあるすべての人々のWell-beingの向上や健康増進に貢献できる専門職者を養成する。



養成する人材像

豊かな人間性と高い倫理観、幅広い教養を備え、高度な専門知識と技術を活用し、多職種・他業種と連携協働して、あらゆる健康状態にある人びとが生涯にわたり、社会とのつながりの中で、その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践、探究できる人材を養成する。

人材像の要素

豊かな人間性と高い倫理観及び幅広い教養を備えた人材

高度な専門知識と技術を活用できる人材
多職種・他業種との連携ができる人材

あらゆる健康状態にある人が生涯にわたり、社会とのつながりの中で、その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践、探究できる人材

ディプロマ・ポリシー

〈DP1〉
人間の尊厳を理解し、社会の一員として、倫理観や社会の規範に基づいた行動を修得している。

〈DP2〉
人間の心身の仕組み、あらゆる健康状態にある人びとの健康生活の保持増進、疾病予防、健康の回復のための治療及び健康や生活に関わる社会資源・制度に関する基礎的知識を修得している。

〈DP3〉
多様な価値や文化を尊重し合う視点を持ち、あらゆる健康状態にある人びとがその人らしくより豊かに生きることを支援する倫理的態度を修得している。

〈DP4〉
看護実践に必要な専門的知識・技術と科学的根拠に基づく、対象者にとっての最適な看護を追求できる基礎的能力を修得している。

〈DP5〉
対象者を中心とした保健・医療・福祉チームや他業種との連携協働において、看護職の役割を果すために必要とされる相互に尊重しあうコミュニケーションスキルの基礎を修得している。

〈DP6〉
知的好奇心を持ち、自ら課題を見出し、課題解決に向けて継続的・主体的に探究、学習する能力を修得している。

カリキュラム・ポリシー

〈CP1〉
総合科目には人間の尊厳の理解や社会に関する幅広い教養を修得し倫理的行動論理的な思考知識を活用する能力を育むための科目および人びと地域多分野におけるwell-beingのとらえ方に関する科目配置する。

〈CP2〉
専門基礎科目には看護学を学ぶ上で必要な人間の心身の仕組みあらゆる健康状態にある生活者の健康生活の保持増進疾病予防健康の回復のための治療及び健康や生活に関わる社会資源・制度に関する基礎的知識に関する科目を配置する。

〈CP3〉
専門科目には看護実践に必要な各看護領域の専門知識・技術及び科学的根拠に基づき多職種・他業種との連携協働により対象者にとっての最適な看護を追求する上で必要となる科目を配置する。

〈CP4〉
専門科目にはあらゆるライフサイクル及びあらゆる健康状態にある生活者の健康上の課題や強みを発見し生涯にわたりその人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践探求する上で必要となる科目を配置する。

アドミッション・ポリシー

AP1 人に関心があり他者と尊重しあう価値観を備えている。
AP2 看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲及び基礎学力を備えている。
AP3 柔軟な発想で分析し論理的思考に基づいて論述できる。
AP4 看護職者として社会に貢献する意思や具体的イメージを有している。

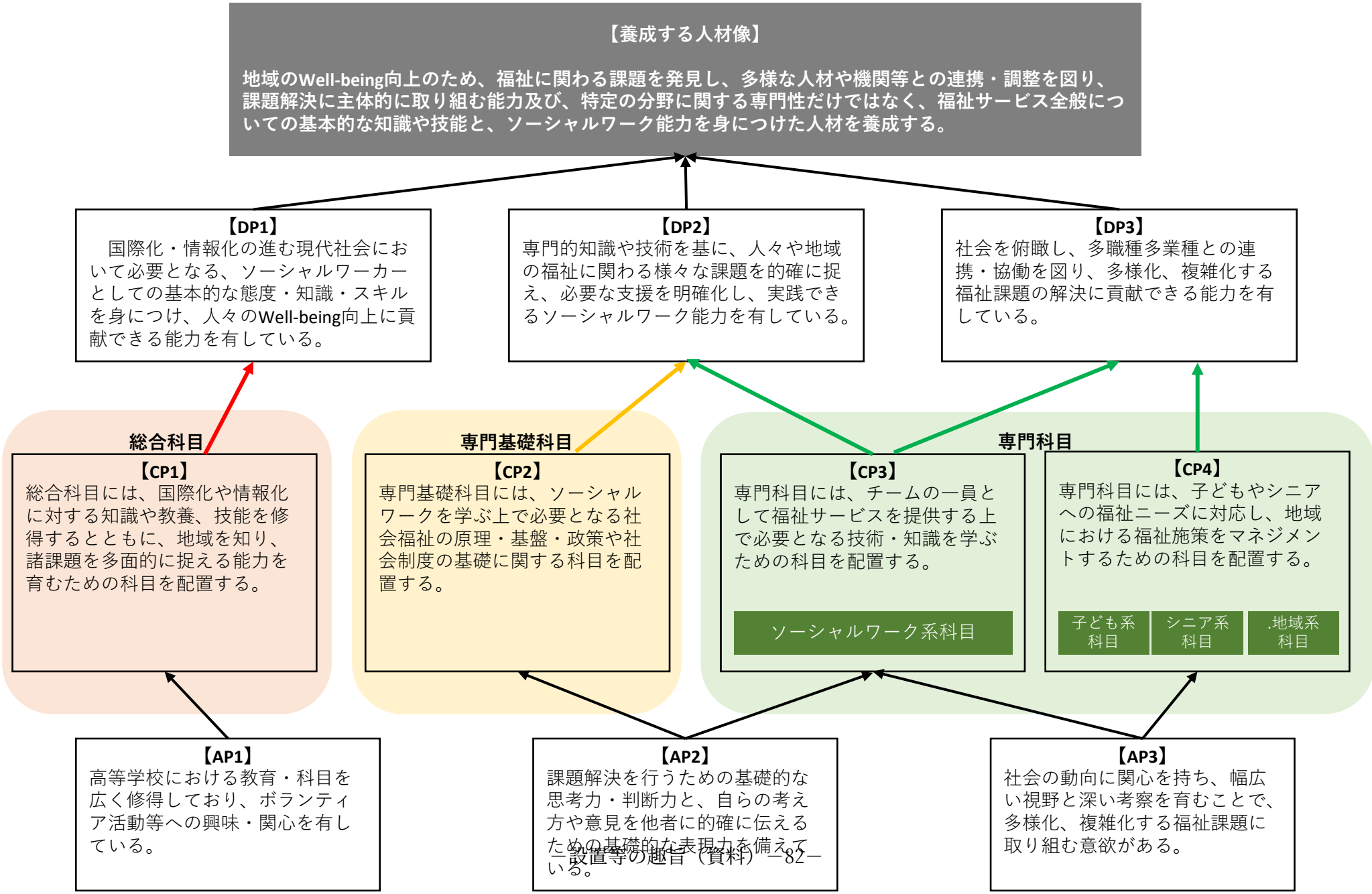
看護学科カリキュラム・ポリシーと科目の相関

カリキュラム・ポリシーと科目の相関の強いものを◎、相関のあるものを○で示す

科目区分		授業科目名称	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）			
			CP1：総合科目には,人間の尊厳の理解や社会に関する幅広い教養を修得し，倫理的行動，論理的な思考，知識を活用する能力を育むための科目および，人びと，地域，多分野におけるwell-beingのとらえ方に関する科目を配置する。	CP2：専門基礎科目には，看護学を学ぶ上で必要な人間の心身の仕組み，あらゆる健康状態にある生活者の健康生活の保持増進，疾病予防，健康の回復のための治療及び健康や生活に関わる社会資源・制度に関する基礎的知識に関する科目を配置する。	CP3：専門科目には,看護実践に必要な各看護領域の専門知識・技術及び科学的根拠に基づき，多職種・他業種との連携協働により，対象者にとっての最適な看護を追求する上で必要となる科目を配置する。	CP4：専門科目には，あらゆるライフサイクル及びあらゆる健康状態にある生活者の健康上の課題や強みを発見し，生涯にわたるその人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践，探求する上で必要となる科目を配置する。
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	◎			○
		周南Well-being創生論	◎			○
		持続可能な社会とダイバーシティ	◎			○
		教養スポーツ実習Ⅰ	◎			
		教養スポーツ実習Ⅱ	◎			
		健康とスポーツ	◎			
		人の健康生活	◎			
		健康と福祉	◎			
		メンタルヘルス入門	◎			
	地域の持続的発展と価値創造のための科目	自然災害と防災	◎			○
		社会調査法入門	◎			
		地域づくり論	◎			○
		周南地域と産業	◎			
		アントレプレナーシップ入門	◎			
	リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	◎		○	○
		哲学	◎		○	○
		生活と経済経営	◎			
		日本国憲法	◎			○
		心理学Ⅰ	◎		○	○
		社会学	◎			
		中国語Ⅰ	◎			
		中国語Ⅱ	◎			
		韓国語Ⅰ	◎			
		韓国語Ⅱ	◎			
		ドイツ語Ⅰ	◎			
		ドイツ語Ⅱ	◎			
	リテラシー科目群	教養ゼミ	◎			○
		アカデミックライティング	◎			
		情報リテラシー	◎			○
		データサイエンス入門	◎			○
		情報倫理	◎			
		情報社会論	◎			
		総合英語初級Ⅰ	◎			
		総合英語初級Ⅱ	◎			
		総合英語初中級Ⅰ	◎			
		総合英語初中級Ⅱ	◎			
		英会話初級Ⅰ	◎			
		英会話初級Ⅱ	◎			
		留学英語	◎			
専門基礎科目	専門基礎科目	人間と健康	○	◎	○	○
		生涯発達論		◎	○	○
		公衆衛生		◎	○	○
		社会福祉学		◎	○	○
		人体の構造と機能Ⅰ		◎	○	
		人体の構造と機能Ⅱ		◎	○	
		栄養代謝学		◎	○	
		微生物・感染制御学		◎	○	
		臨床薬理学		◎	○	
		周産期小児期疾病治療論		◎	○	
		成人期疾病治療論		◎	○	
		高齢期疾病治療論		◎	○	
		精神疾病治療論		◎	○	
		安全な患者介助		◎	○	
		コミュニケーションスキル		◎	○	○
		臨床遺伝学		◎	○	○
		健康まちづくり論		◎		○

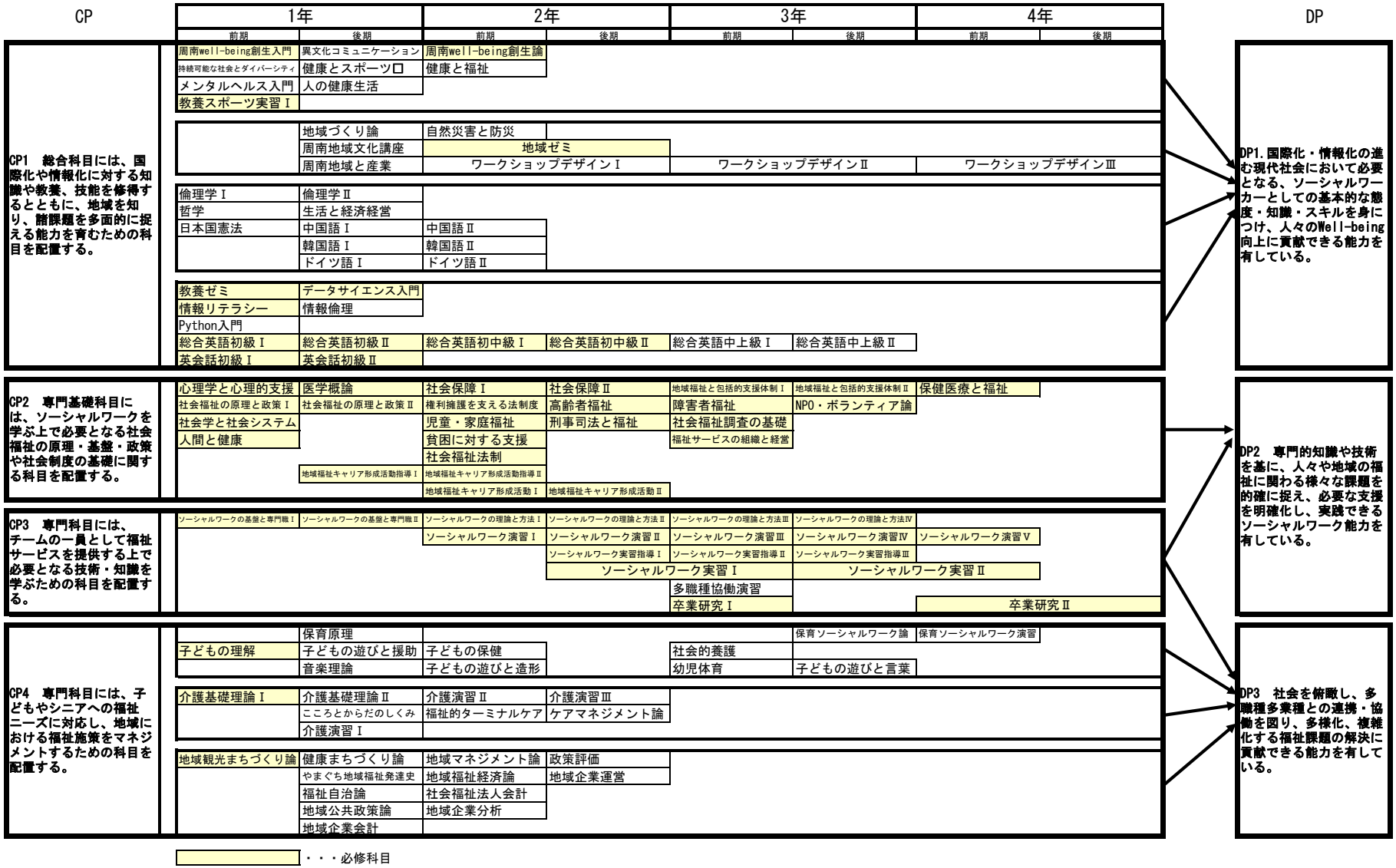
専門科目	基礎看護分野科目	看護学概論	○		◎	◎
		コミュニケーション論			◎	◎
		基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助）		○	◎	◎
		基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）		○	◎	◎
		ヘルスアセスメント		○	◎	◎
		看護過程			◎	◎
		看護倫理	○		◎	◎
		看護管理学			◎	◎
	生涯発達看護分野科目	セクシュアルリプロダクティブ看護学概論	○		◎	◎
		セクシュアルリプロダクティブ看護方法		○	◎	◎
		セクシュアルリプロダクティブ看護実践		○	◎	◎
		小児看護学概論	○		◎	◎
		小児看護方法		○	◎	◎
		小児看護実践		○	◎	◎
		成人看護学概論	○		◎	◎
		成人看護学方法		○	◎	◎
		成人急性期看護実践		○	◎	◎
		成人慢性期看護実践		○	◎	◎
		高齢者看護学概論	○		◎	◎
		高齢者看護方法		○	◎	◎
		高齢者看護実践		○	◎	◎
	広域看護分野科目	地域・在宅看護概論	○		◎	◎
		地域・在宅支援論		○	◎	◎
		地域包括支援論		○	◎	◎
		地域・在宅看護実践		○	◎	◎
		精神看護学概論	○		◎	◎
		精神看護方法		○	◎	◎
		精神看護実践		○	◎	◎
	統合分野科目	災害看護論			◎	◎
		へき地・地域医療			◎	◎
		多職種連携		○	◎	◎
		研究方法論	○		○	◎
		卒業研究	○		○	◎
		家族看護学	○		◎	◎
		国際保健	○		◎	◎
		看護政策論			◎	○
		看護教育			◎	○
		医療経済学	○		◎	○
	実習科目	well-being実習Ⅰ（地域の成人・高齢者）	○	○	○	◎
		well-being実習Ⅱ（地域の幼児・学童期）	○	○	○	◎
		well-being実習Ⅲ（地域の健康課題）		○	◎	◎
		基礎看護実習Ⅰ		○	◎	◎
		基礎看護実習Ⅱ		○	◎	◎
		地域・在宅看護実習		○	◎	◎
		成人急性期看護実習		○	◎	◎
		成人慢性期看護実習		○	◎	◎
		高齢者看護実習		○	◎	◎
		小児看護実習		○	◎	◎
		母性看護実習		○	◎	◎
		精神看護実習		○	◎	◎
		統合実習		○	◎	◎
	保健師養成課程	公衆衛生看護学概論	○		◎	◎
		公衆衛生看護活動Ⅰ		○	◎	◎
		公衆衛生看護活動Ⅱ		○	◎	◎
		公衆衛生看護方法		○	◎	◎
		地区活動論		○	◎	◎
		疫学演習		◎	◎	◎
		地域保健活動展開論		○	◎	◎
		公衆衛生看護管理論		○	◎	◎
		保健医療福祉行政論		◎	◎	◎
		保健活動評価		○	◎	◎
		公衆衛生看護実習Ⅰ		○	◎	◎
		公衆衛生看護実習Ⅱ		○	◎	◎

福祉学科の養成する人材像及び３つのポリシーの相関



〔福祉学科カリキュラムマップ〕

＜養成する人材像＞
地域のWell-being向上のため、福祉に関わる課題を発見し、多様な人材や機関等との連携・調整を図り、課題解決に主体的に取り組む能力及び、特定の分野に関する専門性だけではなく、福祉サービス全般についての基本的な知識や技能と、ソーシャルワーク能力を身につけた人材を養成する。



周南公立大学　人間健康科学部　スポーツ健康科学科　カリキュラムマトリクス

《各CP・DPを達成するために特に関連度が高い科目には◎》

区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	CP1 総合科目には、国際化や多様化に対する知識や教養、技能を修得するとともに、地域を知り、諸課題を多面的に捉える能力を育むための科目を配置する。	CP2 専門基礎科目には、Well-beingの向上や健康増進を促進する上で必要となる人体の構造と機能に関する科目、スポーツや身体運動の基礎に関する科目を配置する。	CP3 専門科目には、スポーツや身体運動に関する専門的知識や実技を学ぶための科目、地域や社会の健康及びスポーツをテーマとした演習・実習科目を配置する。	DP1 国際化や多様化の進む現代社会において、健康やスポーツに関わる専門職者としての基本的な知識・教養を身につけ、人々のWell-being向上に貢献できる能力を有している。	DP2 スポーツや身体運動の基盤となる人体の構造や機能に関する基礎知識を基に、健康増進に必要なスポーツや身体運動を実践できる能力を有している。	DP3 健康やスポーツに関する幅広い知識・技能と実践力に基づき、地域や社会のWell-beingの向上や健康増進に貢献できる能力を有している。
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	1前	2	◎			◎		
		周南Well-being創生論	2前	2	◎			◎		
		持続可能な社会とダイバーシティ	1前	2	◎			◎		
		教養スポーツ実習Ⅰ	1前	1	◎			◎		
		教養スポーツ実習Ⅱ	1後	1	◎			◎		
		健康とスポーツ	1後	2	◎			◎		
	地域の持続的発展のための価値創造科目群	自然災害と防災	2前	1	◎			◎		
		地域ゼミ	2通	2	◎			◎		
		社会調査法入門	2前	2	◎			◎		
		周南地域文化講座	1後	2	◎			◎		
		周南地域と産業	1後	2	◎			◎		
		ワークショップデザインⅠ	2通	2	◎			◎		
		ワークショップデザインⅡ	3通	2	◎			◎		
		ワークショップデザインⅢ	4通	2	◎			◎		
	リベラルアーツ科目群	哲学	1前	2	◎			◎		
		日本史Ⅰ	2前	2	◎			◎		
		日本史Ⅱ	2後	2	◎			◎		
		外国史Ⅰ	2前	2	◎			◎		
		外国史Ⅱ	2後	2	◎			◎		
		日本国憲法	1前	2	◎			◎		
		心理学Ⅰ	1前	2	◎			◎		
		心理学Ⅱ	1後	2	◎			◎		
		社会学	1前	2	◎			◎		
		数学	1前	2	◎			◎		
		中国語Ⅰ	1後	2	◎			◎		
		中国語Ⅱ	2前	2	◎			◎		
		韓国語Ⅰ	1後	2	◎			◎		
		韓国語Ⅱ	2前	2	◎			◎		
		ドイツ語Ⅰ	1後	2	◎			◎		
		ドイツ語Ⅱ	2前	2	◎			◎		
	リテラシー科目群	教養ゼミ	1前	2	◎			◎		
		アカデミックライティング	1後	2	◎			◎		
		情報リテラシー	1前	2	◎			◎		
		データサイエンス入門	1後	2	◎			◎		
		総合英語初級Ⅰ	1前	1	◎			◎		
		総合英語初級Ⅱ	1後	1	◎			◎		
		総合英語初中級Ⅰ	2前	1	◎			◎		
		総合英語初中級Ⅱ	2後	1	◎			◎		
		総合英語中上級Ⅰ	3前	1	◎			◎		
		総合英語中上級Ⅱ	3後	1	◎			◎		
		英会話初級Ⅰ	1前	1	◎			◎		
		英会話初級Ⅱ	1後	1	◎			◎		
		留学英語	1前	1	◎			◎		
		グローバル英語	3後	2	◎			◎		
		キャリア形成活動Ⅰ	1通	2	◎			◎		
		キャリア形成活動Ⅱ	2通	2	◎			◎		

区分			授業科目の名称	配当年次	単位数	CP1 総合科目には、国際化や多様化に対する知識や教養、技能を修得するとともに、地域を知り、諸課題を多面的に捉える能力を育むための科目を配置する。	CP2 専門基礎科目には、Well-beingの向上や健康増進を促進する上で必要となる人体の構造と機能に関する科目、スポーツや身体運動の基礎に関する科目を配置する。	CP3 専門科目には、スポーツや身体運動に関する専門的知識や実技を学ぶための科目、地域や社会の健康及びスポーツをテーマとした演習・実習科目を配置する。	DP1 国際化や多様化の進む現代社会において、健康やスポーツに関わる専門職者としての基本的な知識・教養を身につけ、人々のWell-being向上に貢献できる能力を有している。	DP2 スポーツや身体運動の基盤となる人体の構造や機能に関する基礎知識を基に、健康増進に必要なスポーツや身体運動を実践できる能力を有している。	DP3 健康やスポーツに関する幅広い知識・技能と実践力に基づき、地域や社会のWell-beingの向上や健康増進に貢献できる能力を有している。
専門基礎科目	基盤科目		人間と健康	1前	2		◎			◎	
			解剖学	1前	2		◎			◎	
			生理学	1前	2		◎			◎	
			内科学	1後	2		◎			◎	
			栄養学	1後	2		◎			◎	
			公衆衛生学	1後	2		◎			◎	
			機能解剖学Ⅰ（総論、体幹）	2前	2		◎			◎	
			機能解剖学Ⅱ（下肢、上肢）	2後	2		◎			◎	
			救急処置法	2後	2		◎			◎	
	基礎科目		スポーツ医学	1後	2		◎			◎	
			健康医学	2前	2		◎			◎	
			体力トレーニング論	1前	2		◎			◎	
			スポーツバイオメカニクス	1後	2		◎			◎	
			運動生理学	2前	2		◎			◎	
			発育発達論	2前	2		◎			◎	
			スポーツ心理学	2前	2		◎			◎	
			スポーツ運動学	2前	2		◎			◎	
			体力測定と評価	2後	2		◎			◎	
			学校保健	2後	2		◎			◎	
			スポーツ栄養学	2後	2		◎			◎	
			スポーツ文化論Ⅰ（体育・スポーツ史、体育・スポーツ哲学）	2前	2		◎			◎	
			スポーツ文化論Ⅱ（スポーツ社会学・スポーツ史）	2後	2		◎			◎	
専門科目	応用科目	身体活動と健康に関する科目群	女性アスリートスポーツ論	2後	2			◎			◎
			障がいに対する理解	2後	2			◎			◎
			運動処方	3前	2			◎			◎
			スポーツ生化学	3前	2			◎			◎
			運動生理学演習	3後	2			◎			◎
			運動分子生物学	3前	2			◎			◎
			運動分子生物学演習	3後	2			◎			◎
			健康産業施設実習	3通	1			◎			◎
		アスリートサポートに関する科目群	アスレティックトレーニング概論	1後	2			◎			◎
			スポーツ傷害論Ⅰ（体幹、重篤外傷）	2前	2			◎			◎
			スポーツ傷害論Ⅱ（下肢、上肢）	2後	2			◎			◎
			スポーツ傷害予防論	2前	2			◎			◎
			スポーツ傷害対応論	2後	2			◎			◎
			スポーツ傷害評価演習	3前	2			◎			◎
			スポーツ傷害対応演習	3後	2			◎			◎
			検査測定評価演習	2後	2			◎			◎
			スポーツ心理学実験演習	3前	2			◎			◎
			メンタルトレーニング論	3前	2			◎			◎
			コーチング論	3前	2			◎			◎
			コンディショニング論	2前	2			◎			◎
			コンディショニング実習Ⅰ	2後	1			◎			◎
			コンディショニング実習Ⅱ	3前	1			◎			◎
			リコンディショニング論	3前	2			◎			◎
			リコンディショニング実習Ⅰ	3後	1			◎			◎
			リコンディショニング実習Ⅱ	4前	1			◎			◎

区分			授業科目の名称	配当年次	単位数	CP1 総合科目には、国際化や多様化に対する知識や教養、技能を修得するとともに、地域を知り、諸課題を多面的に捉える能力を育むための科目を配置する。	CP2 専門基礎科目には、Well-beingの向上や健康増進を促進する上で必要となる人体の構造と機能に関する科目、スポーツや身体運動の基礎に関する科目を配置する。	CP3 専門科目には、スポーツや身体運動に関する専門的知識や実技を学ぶための科目、地域や社会の健康及びスポーツをテーマとした演習・実習科目を配置する。	DP1 国際化や多様化の進む現代社会において、健康やスポーツに関わる専門職者としての基本的な知識・教養を身につけ、人々のWell-being向上に貢献できる能力を有している。	DP2 スポーツや身体運動の基盤となる人体の構造や機能に関する基礎知識を基に、健康増進に必要なスポーツや身体運動を実践できる能力を有している。	DP3 健康やスポーツに関する幅広い知識・技能と実践力に基づき、地域や社会のWell-beingの向上や健康増進に貢献できる能力を有している。
専門科目	応用科目	社会とスポーツに関する科目群	スポーツ産業学	3前	2			◎			◎
			スポーツマネジメント	3後	2			◎			◎
			地域スポーツ文化論	3前	2			◎			◎
			スポーツツーリズム論	3後	2			◎			◎
			パラスポーツ論Ⅰ	3前	2			◎			◎
			パラスポーツ論Ⅱ	3後	2			◎			◎
			野外教育論	3前	2			◎			◎
			レクリエーション論	3前	2			◎			◎
			レクリエーション演習	3後	2			◎			◎
			レクリエーション実習	4前	1			◎			◎
		地域共創型演習・実習科目	健康運動演習	3前	2			◎			◎
			健康運動実習	3後	1			◎			◎
			スポーツバイオメカニクス演習	3前	2			◎			◎
			スポーツバイオメカニクス実習	3後	1			◎			◎
			スポーツ産業学演習	3前	2			◎			◎
			スポーツ産業学実習	3後	1			◎			◎
			地域スポーツフィールド演習	3前	2			◎			◎
			地域スポーツフィールド実習	3後	1			◎			◎
			スポーツ教育実践演習	3前	2			◎			◎
			スポーツ教育実践実習	3後	1			◎			◎
			保健体育科実践演習	3前	2			◎			◎
			保健体育科実践実習	3後	1			◎			◎
			メンタルトレーニング演習	3後	2			◎			◎
		実技科目	陸上競技	2後	1			◎			◎
			水泳	2通	1			◎			◎
			ゴール型球技	2前	1			◎			◎
			ネット型球技	2後	1			◎			◎
			ベースボール型球技	2前	1			◎			◎
			エアロビックダンス	2後	1			◎			◎
			野外実習（海上）	3通	1			◎			◎
			野外実習（雪上）	3後	1			◎			◎
			野外実習（組織キャンプ）	3通	1			◎			◎
	演習科目		専門演習Ⅰ	3通	4			◎			◎
			専門演習Ⅱ	4通	4			◎			◎

看護学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性

大項目	中項目	内容	小項目	学修目標	主たる授業科目
A	A-1 プロフェッショナリズム	あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場のある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献すること使命とし、人々の尊厳を擁護する看護を実践し、その基盤となる看護学の発展や必要な役割の創造に寄与することを学ぶ。	A-1-1) 看護職としての使命、役割と責務	①人々の健康で幸福な生活とは、人々の価値観や社会的背景を踏まえて多様であることを理解し、尊重できる	看護学概論
				②看護職に求められる様々な役割を説明できる	看護学概論
看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力				③看護職の法的義務を説明できる	看護学概論
				④自分の責任と能力の範囲を知り、可能な役割と責務を果たすことができる	看護学概論
			A-1-2) 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護	①人々の基本的人権について説明できる	看護学概論
				②看護において人々の基本的人権が擁護される状況が理解できる	看護学概論
				③看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が理解できる（インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性、守秘義務、個人情報の保護の方法等）	看護学概論
				④ケアは相互作用であることを踏まえ、ケア提供者の人権も守る必要があることと状況が理解できる	看護学概論
				⑤自分の責任と能力の範囲内で実践する看護の根拠として、基本的人権が説明できる	看護学概論
			A-1-3) 看護倫理	①生命、人の尊厳を尊重することができる	看護学概論 倫理学Ⅰ 看護倫理
				②看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史を理解できる	看護学概論 倫理学Ⅰ

					看護倫理
				③倫理的課題を解決するための理論や倫理原則、思考方法を理解できる	看護学概論 倫理学Ⅰ 看護倫理
	A-2 看護学の知識と看護実践	多様な人々の看護に必要かつ十分な知識を身に付け、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、アセスメント結果に基づく根拠ある看護を実践することを学ぶ。	A-2-1) 学修の在り方	①看護実践の根拠として、様々な情報を客観的・批判的に整理する必要性を理解できる	看護学概論 看護過程 卒業研究
				②看護実践から看護学の知識を考察し表現できる	看護学概論 卒業研究
				③適切な助言等を通して主体的に学ぶ姿勢を獲得できる	看護学概論 卒業研究
				④各自の興味・関心に応じて必要な科目、プログラムを選択し、参加できる	卒業研究
			A-2-2) 看護実践能力	①看護実践を行う上で、知識、技術、態度を統合する必要性を理解できる	看護学概論 コミュニケーション論 ヘルスアセスメント 基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助） 基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術） 卒業研究
				②自分の責任と能力の範囲を自覚し、正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる	看護学概論 ヘルスアセスメント 基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助） 基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）
				③チームの一員として必要な看護に参画できる	看護学概論 多職種連携
				④看護実践能力を自己評価し、必要な学修ができる	看護学概論 ヘルスアセスメント 基礎看護技術Ⅰ（日常生

					活援助） 基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）
	A-3 根拠に基づいた課題対応能力	未知の課題に対して、自ら幅広く多様な情報を収集し、創造性の発揮と倫理的・道徳的な判断及び科学的根拠の選択によって課題解決に向けた対応につなげる基盤を身に付ける。	A-3-1） 課題対応能力	①　必要な課題を自ら発見できる	教養ゼミ 卒業研究
				②重要性･必要性に応じて自分に必要な課題の優先順位を決定できる	教養ゼミ 卒業研究 統合実習
				③課題の解決に向けた対応方法を自らの力だけでなく他者と協力して見いだすことができる	教養ゼミ 卒業研究 統合実習
	A-4 コミュニケーション能力	人々の相互の関係を成立・発展させるために、人間性が豊かで温かく、人間に対する深い畏敬の念を持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感し、多様な人々の生活・文化を尊重するための知識･技術･態度で支援に当たることを学ぶ。	A-4-1） コミュニケーション支援における相互の関係性	①看護において、コミュケーションが人々との相互の関係に影響することを理解できる	コミュニケーション論 Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 各専門領域実習 統合実習
				②人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について説明できる	コミュニケーション論 Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 各専門領域実習 統合実習
				③自分の傾向がわかり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションをとることができる	コミュニケーション論 Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 各専門領域実習 統合実習

	A-5 保健・医療・福祉における協働	対象者や、保健･医療･福祉や生活に関わる全ての人々と協働し、必要に応じてチームのリーダー、メンバー、コーディネーターとして役割を担うための基盤を学ぶ。	A-5-1) 保健・医療・福祉における協働	①保健・医療・福祉における協働の目的と意義、看護職に求められる役割を説明できる	看護学概論 多職種連携 地域・在宅看護概論 地域包括支援論 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				②保健・医療・福祉における協働の実際を具体的に説明できる	看護学概論 多職種連携 地域・在宅看護概論 地域包括支援論 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				③様々な人々との協働を通して、健康上の諸課題への対応に参画できる	看護学概論 多職種連携 統合実習
	A-6 ケアの質と安全の管理	人々にとって良質で安全なケアの提供に向けて、継続的にケアの質と安全を管理するための基礎を学ぶ。	A-6-1) ケアの質の保証	①良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証していくことの必要性を理解できる	看護学概論 地域・在宅看護概論 地域包括支援論 看護管理学 統合実習
				②ケアの質を管理し保証していくための具体的な方法を説明できる	看護学概論 地域包括支援論 看護管理学 統合実習
				③ケアの質を管理し保証していくための活動に参画できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
			A-6-2) 安全性の管理	①看護における安全性の確保のため、能力向上の必要性を理解できる	看護学概論 看護管理学 各専門領域実習 統合実習
				②看護における安全性の確保のための対応策を実施できる	看護学概論 看護管理学 各専門領域実習 統合実習

				③看護における安全性を向上させるための活動に参画できる	看護学概論 看護管理学 各専門領域実習 統合実習
				④自身の体調管理を行うとともに、知識及び技能を見極め、能力の範囲に応じて他者の支援を仰ぐことの重要性を理解できる	看護学概論 看護管理学 各専門領域実習 統合実習
	A-7 社会から求められる看護の役割の拡大	多様でしかも急速に変化しつつある社会状況を認識し、地域社会、国際社会から求められる役割を果たすことにより専門職の責任を果たすとともに、必要な役割を見いだし拡大する基礎を学ぶ。	A-7-1）看護職の活動の歴史・法的基盤	①医療・看護の歴史、法的基盤を理解できる	看護学概論 人間と健康 成人看護学概論
				②看護職の役割や活動の変遷、それに影響する事柄を理解できる	看護学概論 成人看護学概論
			A-7-2） 保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割	①看護職が活躍する多様な場とそこでの役割を理解できる	看護学概論 人間と健康
				②地域社会の変化、保健・医療・福祉の動向を踏まえ、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる	看護学概論 人間と健康
			A-7-3） 国際社会・多様な文化における看護職の役割	①国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる	看護学概論 国際保健
				②多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な能力を理解できる	看護学概論 国際保健
				③国際社会における健康課題と戦略を理解し、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。	看護学概論 国際保健
	A-8 科学的探究	人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する基盤としての看護学研究の必要性を理	A-８-1） 看護学における研究の必要性・意義	①実践の課題に基づき研究が開始され、研究成果が実践に還元され、実践の根拠となることを理解できる	看護学概論 研究方法論 卒業研究
				②研究成果を根拠とする看護実践への活用例を理解できる	看護学概論 研究方法論

		解し、研究成果と看護実践への活用例を具体的に知ることを通して、看護学の知識体系の構築に関心を向ける。			卒業研究
				③看護実践の向上、看護学における研究の必要性・意義が説明できる	看護学概論 研究方法論 卒業研究
	A-9 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢	専門職として、看護の質の向上を目指して、連携・協働する全ての人々とともに省察し、自律的に生涯を通して最新の知識・技術を学び続ける基盤を身に付ける。	A-9-1) 自己研鑽の必要性と方法	①生涯にわたる自己研鑽の必要性を理解できる	看護学概論 卒業研究
				②日々の看護実践の省察の重要性を理解できる	看護学概論 卒業研究
				③自己教育力を高める方法について理解し、個々が実施可能な方法を検討し、実践できる	看護学概論 卒業研究
			A-9-2) 看護学の専門の発展	①キャリアパス・キャリア開発の概念について理解できる	看護学概論
				②多様な生涯学習機会の獲得方法（実践の振り返り、自己学習、職場における継続教育、学術学会や専門職団体による各種研修、大学院、共同研究等）を把握し、将来的なキャリアパス・キャリア開発への活用を説明できる	看護学概論 卒業研究
B 社会と看護学	B-1 人々の暮らしを支える地域や文化	人々の暮らしに影響する地域特性に関連する文化的・社会的背景を理解するために必要な基礎的知識や考え方について学ぶ	B-1-1) 人々の暮らしを支える地域や文化	①地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる	周南 wellbeing 入門 周南 wellbeing 創生論 へき地・地域医療
				②地域の保健・医療・福祉制度、健康に関する情報、指標について説明できる	地域・在宅看護概論 Wellbeing 実習Ⅲ へき地・地域医療
	B-2		B-2-1)	①健康の定義について説明できる	人間と健康

	社会システムと健康		健康の概念		看護学概論
				②健康に関連する主要な概念について説明できる	看護学概論 人間と健康
				③健康行動を理解するための基礎となる理論について説明できる	看護学概論 人間と健康 成人看護学概論
				④健康の社会的決定要因について説明できる	看護学概論 人間と健康 成人看護学概論
				⑤多様な健康状態にある人に応じた健康の捉え方の重要性について理解できる	看護学概論 人間と健康 成人看護学概論
				⑥予防の概念について説明できる	看護学概論 人間と健康
				⑦疾病や障害の遺伝要因と環境要因について説明できる	看護学概論 人間と健康
			B-2-2) 環境と健康	①環境（社会・文化的環境、物理・化学・生物的環境、政治・経済的環境）について説明できる	看護学概論 へき地・地域医療
				②環境の現状や課題、環境と健康・生活との関連について説明できる	看護学概論 へき地・地域医療
				③薬物や放射線が健康・生活に与える影響について説明できる	成人看護方法
				④健康を支援するために環境に働きかけていく必要性について説明できる	人間と健康
				⑤災害が健康・生活に与える影響について説明できる	災害医療と看護
				⑥遺伝的・性的多様性を踏まえた上で、環境と健康・生活との関連について理解できる	看護学概論 人間と健康
			B-2-3) 生活・ライフスタイルと健康との関	①ライフスタイルの背景にある文化を理解し、多様なライフスタイルを理解できる	セクシャルリプロダクティブ看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、高齢者看護学概

			連		論、地域・在宅看護概論、精神看護学概論、公衆衛生看護学概論
				②栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠と健康との関連について説明できる	成人看護学概論
				③ストレスの原因と健康との関連について説明できる	精神看護学概論
				④嗜癖（喫煙、飲酒、ギャンブル等）と健康との関連について説明できる	精神看護学概論
				⑤生活習慣に関連付けた健康の概念や政策（プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、国民健康づくり運動）について説明できる	看護政策論 地域在宅支援論
				⑥個人のライフスタイルについて健康の側面からアセスメントする重要性について説明できる	ヘルスアセスメント セクシャルリプロダクティブ看護方法、小児看護方法、成人看護方法、高齢者看護方法、地域・在宅看護方法、精神看護方法、公衆衛生看護方法
				⑦主な社会資源と人々の暮らしや健康との関連について説明できる	セクシャルリプロダクティブ看護方法、小児看護方法、成人看護方法、高齢者看護方法、地域・在宅看護方法、精神看護方法、公衆衛生看護方法
				⑧人の行動変容支援に必要な基礎理論（心理学、行動科学）について理解できる	心理学Ⅰ 地域在宅支援論
			B-2-4) 地域ケアシステム	①地域の資源や様々なグループ、組織の活動について人々の暮らしと関連付けて説明できる	地域・在宅看護方法

				②人々に必要な地域のケアシステムやネットワークについて、関連機関や多職種と連携・協働し構築する必要性について説明できる	地域・在宅看護方法 多職種連携
			B-2-5) 社会の動向と保健・医療・福祉制度	①社会の動向や特性を説明できる	社会福祉学
				②日本における社会保障制度の変遷と特徴について説明できる	社会福祉学
				③社会保障制度の種類（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療等）について説明できる	社会福祉学
				④社会保険の種類（医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険）について説明できる	社会福祉学
				⑤公衆衛生及び医療の主要な関連法規（地域保健法、感染症法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法、医療法等）について説明できる	地域包括支援論
				⑥保健・医療・福祉における課題(生活習慣病、母子保健、児童福祉、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者の保健・医療・福祉制度、認知症、障害児・者施策、精神保健、歯科保健、感染症、がん、難病等）の動向と対策について説明できる	地域包括支援論
			B-2-6) 疫学・保健統計	①人口統計（人口静態、人口動態)、疾病構造、保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる	公衆衛生
				②健康障害と相対リスクについて説明できる	看護学概論 公衆衛生
				③疫学的因果関係の推定について説明できる	公衆衛生
				④情報リテラシーについて説明できる	公衆衛生情報リテラシー

				⑤統計資料をデータベースや文献・図書から検索し活用できる	公衆衛生
	B-3 社会における看護職の役割と責任		B-3-1) 看護職の法的位置付け	①看護職を規定する法律や関連法規（保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保における関する法律等）について説明できる	看護学概論
				②看護の動向とそれに関わる制度や法規（特定行為、訪問看護、資格認定制度等）について理解できる	看護学概論
				③看護職と連携する主な職種の法（医師法、医療関係職に関する法律、各福祉士に関する法律）の特徴について説明できる	多職種連携
			B-3-2)-(１) 倫理規範と実践	①生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の倫理の変遷を理解できる	倫理学Ⅰ 看護倫理
				②医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針（倫理の原則、倫理指針、看護者の倫理綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領、リスボン宣言、世界人権宣言等）について説明できる	看護学概論 倫理学Ⅰ 看護倫理
				③医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる	倫理学Ⅰ 看護倫理
				④医療や看護の現場における倫理的課題と調整方法について説明できる	倫理学Ⅰ 看護倫理
			B-3-2)-(２)	①保健・医療・福祉における個人情報の取扱いとセキュリティについて説明できる	看護学概論 看護倫理
				②個人情報保護や守秘義務に関する法規について説明できる	看護学概論 看護倫理
				③個人情報保護や守秘義務を遵守することができる	看護学概論 看護倫理

				④多職種間での情報共有時の配慮ができる	看護学概論 看護倫理
				⑤情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる	看護学概論 看護倫理
			B-3-3) 国際社会と看護	①国際社会の保健・医療・福祉における現状と課題について説明できる	国際保健
				②国際的視野で、看護の対象となる人への配慮について説明できる	国際保健
				③日本の保健・医療・福祉の特徴を理解し、国際社会における看護の役割と貢献について考えることができる	国際保健
C	C-1 看護学に基づいた基本的な考え方		C-1-1) 看護の本質	①看護の定義について説明できる	看護学概論
				②看護の目的について説明できる	看護学概論
看護の対象理解に必要な基本的知識				③看護理論の役割や特定の理論の特徴について説明できる	看護学概論
			C-1-2) ケアの概念とケアにおける看護学との関連	①ケアの概念について説明できる	看護学概論
				②保健・医療・福祉に関わる専門職について説明できる	看護学概論
				③ケアに関わる学問である看護学の位置付けについて説明できる	看護学概論
			C-1-3) 看護の観点から捉える人間	①看護学の主要な概念を説明できる	看護学概論
				②看護理論や看護現象を理解するための諸理論・概念を活用して人間について統合的に捉え説明できる	看護学概論
			C-1-4) 看護過程	①看護過程とは何かについて説明できる	看護過程
				②対象理解のための情報収集について説明できる	看護過程
				③収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントする方法を説明できる	看護過程

				④対象者のより良い健康状態を目指すために必要な専門知識の活用を説明できる	看護過程
				⑤看護ニーズを明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる	看護過程
				⑥看護目標を設定し、具体的も計画立案・実施する方法を説明できる	看護過程
				⑦実施した看護を評価する方法を説明できる	看護過程
	C-2 生活者としての人間理解	毎日の生活は、様々な人や環境との関わりを通して営まれており、生活の在り方がその人らしさを際立たせていく。生活者としての成長・発達の課題を理解することを通して生活を支援する看護の視点を学ぶ。	C-2-1-(1) 生活行動の動機	①人間の基本的欲求について説明できる。	看護学概論
				②生活における習慣、生きがい、信仰活動について理解できる。	看護学概論
			C-2-1-(2) 生活行動と生体機能	①食生活の成り立ち、食行動に影響を与える要因を理解し、健康にとって食の持つ意味を理解できる	栄養代謝学
				②食行動に関係する消化管と消化腺の構造と機能を説明できる	栄養代謝学
				②　栄養とエネルギー代謝を説明できる	栄養代謝学
				④糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル等の物質代謝を概説できる	栄養代謝学
				⑤血糖の調節機構を説明できる	栄養代謝学
				⑥排せつ習慣、排せつ様式等、健康にとって排せつの持つ意味を理解できる	基礎看護技術Ⅰ
				⑦排せつに関わる消化管、腎臓と尿路の構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				⑧皮膚の構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑨清潔行動、清潔に対する認識等、健康にとって清潔の持つ意味を理解できる	基礎看護技術Ⅰ
				⑩衣生活に関わる行動と意味について理解できる	基礎看護技術Ⅰ

				⑪生体リズム、活動と休息のバランス、運動習慣、睡眠パターン等、健康にとっての活動と休息の意味を理解できる	基礎看護技術Ⅰ
				⑫生活行動に必要な骨と骨格筋、神経系の連携による運動のメカニズムを説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑬骨、軟骨、関節、靭帯、筋肉の構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑭生活における性と生殖について理解できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑮男女の生殖器の構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑯性周期と加齢に伴う生殖機能の変化について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑰生活における仕事と余暇について理解できる	基礎看護技術Ⅰ
				⑱コミュニケーション（言語的・非言語的）の相互作用について理解できる	コミュニケーション論 基礎看護技術Ⅰ
				⑲生活の中の学習行動について理解できる	基礎看護技術Ⅰ
				⑳生活における精神の健康について理解できる	基礎看護技術Ⅰ
				㉑外部から五感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）を通して得られた感情について理解できる	人体の構造と機能Ⅱ
				㉒各生活行動を統合して対象者の生活について理解できる	ヘルスアセスメント 基礎看護技術Ⅰ セクシャルリプロダクティブ看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、高齢者看護学概論、地域・在宅看護概論、精神看護学概論、公衆衛生看護学概論

			C-2-1-(3) 生活者としての多様性	①多様な性の在り方について理解できる	セクシャルリプロダクティブ看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、高齢者看護学概論、地域・在宅看護概論、精神看護学概論、公衆衛生看護学概論
				②固有な生活の中で形成される心や人格の関係を理解できる	セクシャルリプロダクティブ看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、高齢者看護学概論、地域・在宅看護概論、精神看護学概論、公衆衛生看護学概論
				③人間の成長・発達に伴う生活行動・コミュニケーション・情緒・社会的役割の変化を理解できる	生涯発達論 コミュニケーション論
				④地域や家族等、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解できる	家族看護学
				⑤個の特性に応じて生活することの重要性を理解できる	セクシャルリプロダクティブ看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、高齢者看護学概論、地域・在宅看護概論、精神看護学概論、公衆衛生看護学概論
			C-2-2) 個人と家族	①個人と家族の発達課題を理解できる	看護学概論 生涯発達論家族看護学 家族看護学
				②夫婦関係が形成される過程について理解できる	家族看護学
				③子どもが生まれ、家族が形成される過程を理解できる	家族看護学
				④家族のそれぞれの構成員が家庭生活を営む上でどのように機能し	家族看護学

				ているかを理解できる	
				⑤子どもを産み育てる家族の機能を理解できる	家族看護学
				⑥家族のセルフケア機能を理解できる	家族看護学
				⑦家族の社会化機能を理解できる	家族看護学
				⑧経済的側面が家族に与える影響を理解できる	家族看護学
				⑨家族をシステムとして理解し家族介入の基本を理解できる	家族看護学
			C-2-3) 生活の場としての場	①生活の場としての地域･社会の意味を説明できる	地域・在宅看護概論
				②生活とは何か、生活と環境や文化との関係を説明できる	看護学概論
			C-2-4) 地域社会における生活者	①地域社会の文化、慣習が生活に及ぼす影響について説明できる	地域・在宅看護概論
				②地域社会において他者への依存と自立のバランスが生活に及ぼす影響について理解できる	地域・在宅看護概論
				③死の概念、個人や家族にとっての死及び看取りの意味を理解できる	家族看護学
	C-3 生物学的に共通する身体的・精神な側面の人間理解	身体的・精神的側面から人間を理解するために必要な体の仕組み及び機能を学ぶ。これらは、全て看護実践において臨床推論の根拠として活用し、知識を統合して全人的にアセスメントす	C-3-1)-(１) ゲノムと遺伝子、細胞	①ゲノムと染色体と遺伝子、遺伝の基本的機序を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ 臨床遺伝学
				②細胞周期と細胞分裂を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				③細胞の構造を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
			C-3-1)-(２) 組織	①人体を構成する４つの組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
			C-3-2)-(１) ホメオスタシス	①体液の量と組成を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				②体液の調節（体液量、電解質バランス、浸透圧）を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				③酸塩基平衡の調節機構を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ

		るために活用されるものである。		④体温の調節機構を説明できる。	人体の構造と機能Ⅰ
			C-3-2)-(２)呼吸器系	①気道の構造と機能を説明できる。	人体の構造と機能Ⅰ
				②肺の構造と機能（呼吸の機序とその調節系を含む）を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
			C-3-2)-(３)循環器系と血液	①心・血管系、リンパ系の構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				②血圧の調節機構を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				③血液の成分と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				④造血器と造血機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				⑤止血と血液凝固・線溶系を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
				⑥血液型（ABO 式、Rh 式）を説明できる	人体の構造と機能Ⅰ
			C-3-2)-(４)	① 免疫応答を説明できる	成人期疾病治療論
				② 自然免疫と獲得免疫を説明できる。	成人期疾病治療論
				③ 液性免疫と細胞性免疫を説明できる	成人期疾病治療論
			C-3-2)-(５)体内・外の情報伝達と調節機構（神経系、感覚系、内分泌系）	① 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				②末梢神経系の機能的分類（体性神経と自律神経）を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				③体性感覚（皮膚感覚と深部感覚）を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				④視覚器、聴覚・平衡覚器、嗅覚器、味覚器の構造と機能を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑤各内分泌系の構造と機能、調節機構を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑥主なホルモンの特徴と生理作用を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑦ネガティブフィードバックを説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
				⑧ストレス反応について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ
			C-3-3)-(１)	①受精から細胞分裂、器官形成の過	人体の構造と機能Ⅱ

			妊娠・分娩・産褥	程について説明できる	セクシャルリプロダクティブケア概論
				②妊娠週数に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ セクシャルリプロダクティブケア概論
				③妊娠週数に応じた胎児の成長・発達について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ セクシャルリプロダクティブケア概論
				④胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生直後の変化を説明できる	人体の構造と機能Ⅱ セクシャルリプロダクティブケア概論
				⑤出産の機序について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ セクシャルリプロダクティブケア概論
				⑥分娩経過に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ セクシャルリプロダクティブケア概論
				⑦産褥期の母体の心身の変化・特徴について説明できる	人体の構造と機能Ⅱ セクシャルリプロダクティブケア概論
			C-3-3)-(２) 成長・加齢による変化	①　新生児の身体・生理的特徴を説明できる	セクシャルリプロダクティブケア概論
				②小児期における身体・生理的特徴、精神・運動・社会的発達を説明できる	小児看護学概論
				③思春期・成人期における身体的・心理的・社会的変化を説明できる	成人看護学概論
				④加齢（更年期を含む）に伴う身体的・心理的・社会的変化を説明できる	高齢者看護学概論
			C-3-3)-(３) 人の死	①生物学的な死の概念と定義を説明できる	成人期疾病治療論
				②植物状態と脳死の違いを説明できる	成人期疾病治療論
				③ヒトにとっての死について説明できる	成人期疾病治療論

	C-4 疾病の回復過程の理解	疾病の成り立ちを学び、対象理解を深めることにつなげる。また、回復を促す看護につなげるための根 拠となる知識を学ぶ	C-4-1)-(１) 細胞障害・変性と細胞死	①萎縮、変性、肥大、細胞死（ネクローシスとアポトーシス）を説明できる	成人期疾病治療論
				②細胞障害・変性と細胞死の病因を概説できる	成人期疾病治療論
				③組織の形態的変化の特徴を説明できる	成人期疾病治療論
				④細胞の寿命、DNA 損傷・修復を説明できる	成人期疾病治療論
			C-4-1)-(２) 修復と再生	①修復と再生を説明できる	成人期疾病治療論
				②創傷治癒の過程を説明できる	成人期疾病治療論
			C-4-2)-(１) 遺伝的多様性と疾病	①ゲノムの多様性に基づく個体の多様性について概説できる	成人期疾病治療論
				②主な遺伝性疾患（単一遺伝子疾患、染色体異常、多因子疾患）を説明できる	成人期疾病治療論
			C-4-2)-(２) 栄養・代謝障害	①糖代謝異常の病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
				②タンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
				③脂質代謝異常の病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
				④核酸・ヌクレオチド代謝異常の病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
				⑤無機質代謝異常の病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
			C-4-2)-(３) 循環障害	①血行障害（虚血、充血、うっ血、出血）の違いとそれぞれの病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
				②血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態を説明できる	成人期疾病治療論
			C-4-2)-(４) 炎症	①炎症の分類、組織の形態学的変化と経時的変化（局所変化と全身的変化）を説明できる。	成人期疾病治療論
				②　感染症による炎症性変化を説	成人期疾病治療論

				明できる	微生物・感染制御学
			C-4-2)-(５) 腫瘍	①腫瘍の病院を説明できる	成人期疾病治療論
				②良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる	成人期疾病治療論
				③腫瘍の分類、分化度、グレード、ステージを説明できる	成人期疾病治療論
				④腫瘍の浸潤･転移について説明できる	成人期疾病治療論
			C-4-2)-(６) 感染	① 感染の成立と予防を説明できる	成人期疾病治療論 微生物・感染制御学
				②ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫、プリオンを説明できる	成人期疾病治療論
				③ 薬剤耐性（多剤耐性）を説明できる	成人期疾病治療論
	C-5 健康障害や治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解	主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげる。	C-5-1) 病に対する人間の反応	①病に対する人間の身体的･精神的反応を全体的に理解できる	成人期疾病治療論
				②主要な症状（意識障害、けいれん、吐血・喀血、胸痛、乏尿・無尿・頻尿、疼痛（慢性の痛みを含む）等）と症状のマネジメントを理解できる	成人期疾病治療論
			C-5-2) 疾病の診断に用いる検査と治療	①基本的な検体検査、生体機能検査、画像検査、内視鏡検査、心理・精神機能検査を説明できる	成人期疾病治療論
				②薬物治療を概説できる	成人期疾病治療論
				③手術治療を概説できる	成人期疾病治療論
				④放射線治療を概説できる	成人期疾病治療論
				⑤食事療法を概説できる	成人期疾病治療論
				⑥リハビリテーションを概説できる	成人期疾病治療論
				⑦輸血・輸液を概説できる	成人期疾病治療論
				⑧人工臓器、透析、臓器移植・再生医療を概説できる	成人期疾病治療論
				⑨精神療法を概説できる	精神看護学概論
				⑩代替療法のエビデンスと位置付	成人期疾病治療論

				けを説明できる	
			C-5-3)-(１) 循環器系の健康障害と人間の反応	①循環器系の健康障害と人間の反応について概説できる。心不全、虚血性心疾患、主な不整脈、主な弁膜症、心筋・心膜疾患、主な先天性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、挫滅症候群、血圧異常、ショック、チアノーゼ等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(２) 血液・造血器系の健康障害と人間の反応	①血液・造血器系の健康障害と人間の反応について概説できる。貧血、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(３) 呼吸器系の健康障害と人間の反応	①呼吸器系の健康障害と人間の反応について概説できる。咳嗽・喀痰、呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性障害を来す肺疾患、肺循環障害、気胸、腫瘍等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(４) 消化器系の健康障害と人間の反応	①消化器系の健康障害と人間の反応について概説できる。主な口腔・咽頭の疾患、う歯、歯周病、嚥下障害、嘔気・嘔吐、主な消化管疾患、腹痛・腹部膨満、イレウス、排便障害、下血・黄疸、主な肝臓・胆嚢・膵臓疾患、腹壁・腹膜・横隔膜の疾患、先天性消化器疾患等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(５) 内分泌・栄養・代謝系の健康障害と人間と反応	①内分泌・栄養・代謝系の健康障害と人間の反応について概説できる。主な間脳・下垂体疾患、主な甲状腺疾患、主な副甲状腺（上皮小体）疾患、主な副腎皮質・髄質疾患、内分泌系の腫瘍、メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(６)	①水電解質・酸塩基平衡系の健康障	成人期疾病治療論

			水電解質・酸塩基平衡系の健康障害と人間の反応	害と人間の反応について概説できる。浮腫・脱水、電解質の異常、アシドーシス・アルカローシス等	
			C-5-3)-(７) 泌尿器系、生殖器系の健康障害と人間の反応	①泌尿器系、生殖器系の健康障害と人間の反応について概説できる。主な上部尿路疾患、主な下部尿路疾患、主な排尿障害、女性生殖器の疾患、乳腺の疾患、男性生殖器の疾患、生殖機能障害、性感染症、性分化疾患等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(８) 免疫系、感染防護系の健康障害と人間の反応	①免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症、主なウイルス感染症、主な細菌感染症、主なマイコプラズマ、クラミジア、リケッチア感染症、主な真菌感染症、寄生虫症、医療関連感染、日和見感染、敗血症等	成人期疾病治療論 微生物・感染制御学
			C-5-3)-(９) 感覚器・神経・運動器系の健康障害と人間の反応	①感覚器・神経・運動器系の健康障害と人間の反応について概説できる。視覚障害、聴覚・平衡機能障害、嗅覚障害、味覚障害、皮膚障害、主な脳脊髄疾患、頭痛、運動の異常(麻痺・失調)、言語障害、認知症、主な末梢神経疾患、主な骨・関節・骨髄疾患等	成人期疾病治療論
			C-5-3)-(10) 精神・心身の健康障害と人間の反応	①精神・心身の健康障害と人間の反応について概説できる。統合失調症、気分（感情）障害、自律神経失調症、神経症性障害、ストレス関連障害、食行動・摂食障害、睡眠障害、小児・青年期の精神・心身の医学的疾患、成人・老年期の人格・行動障害、性同一性障害、産後うつ、様々	成人期疾病治療論

				な依存症等	
			C-5-3)-(11) 小児特有の健康障害と人間と反応	①小児特有の健康障害と人間の反応について概説できる。発育不全、先天性疾患、脳性麻痺、発達障害、児童虐待等	小児看護学概論
			C-5-3)-(12) 物理・化学的因子による健康障害と人間の反応	①物理・化学的因子による健康障害と人間の反応について概説できる。食中毒、主な中毒、高温による障害、寒冷による障害、熱傷、外傷、褥瘡等	成人期疾病治療論
			C-5-4)-(1) 薬物及び薬物投与による人間の反応	①薬物の作用点（受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）を説明できる	臨床薬理学
				②薬理作用を規定する要因（用量と反応、親和性等）や薬物動態（吸収、分布、代謝、排せつ）を説明できる	臨床薬理学
				③薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる	臨床薬理学
				④薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる	臨床薬理学 高齢期疾病治療論
				⑤薬物の投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等）の違いによる特徴と看護援助を説明できる	臨床薬理学
				⑥小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与の注意点と看護援助を説明できる	臨床薬理学 周産期・小児期疾病治療論 高齢期疾病治療論
				⑦主な治療薬（末梢神経系に作用する薬、中枢神経系に作用する薬、循環器系に作用する薬、血液に作用する薬、呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬、内分泌・代謝系に作用する薬、腎・尿路系に作用する薬、感覚器系に作用す	臨床薬理学 周産期・小児期疾病治療論 高齢期疾病治療論 精神疾病治療論

				る薬、生殖器系に作用する薬、免疫系に作用する薬、予防接種、抗感染症薬、消毒薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、抗腫瘍薬、分子標的薬、医療用麻薬、麻酔薬、主な和漢薬（漢方薬））の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる	
				⑧薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる	臨床薬理学
				⑨薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる	臨床薬理学
				⑩薬害について概説できる	臨床薬理学
				⑪薬剤の職業性ばく露について説明できる	臨床薬理学
			C-5-4)-(２)放射線の医療利用による人間の反応	①放射線診断、放射線治療の意義を説明できる。	成人期疾病治療論
				②放射線の人体への作用機序を説明できる	成人期疾病治療論
				③放射線の健康影響・リスクと被ばく線量との関係を説明できる	成人期疾病治療論
				④放射線診断に伴う有害事象（造影剤の副作用等）を説明できる	成人期疾病治療論
				⑤放射線診断に伴うリスクと看護について説明できる	成人期疾病治療論
				⑥放射線治療に伴う有害事象（副作用）とその看護について説明できる	成人期疾病治療論
				⑦医療者自身の被ばく防護方策を説明できる	成人期疾病治療論
				⑧放射線被ばくに対する不安を理解し、関係職種とともに適切に対応できる	成人期疾病治療論
D	D-1		D-1-1)	①看護の目的意識をもって対象者に関心を寄せることができる	看護学概論 コミュニケーション論
看護実践の基	看護過程展開		看護の基礎となる対人関係の形成	②言語表現・非言語表現を用いた対象者との相互作用を通して関係を	コミュニケーション論 カウンセリング論

本となる専門基礎知識	の基本			形成することができる	
				③対象者の様々な特性や多様性に応じた関係を形成することができる	看護学概論 コミュニケーション論
			D-1-2) 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み(意向)に沿ったニーズ把握	①対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集できる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				②得られた情報を系統的・継続的に整理し、アセスメントできる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				③アセスメントに基づき対象者の全体像を描くことができる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				④対象者(状況に応じて対象者と家族)の経験してきたことや望み(意向)を共有しニーズの把握につなげることができる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑤全体像を描きながら対象者のニーズを見いだすとともに優先順位を決定できる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
			D-1-3) 計画立案・実施	①看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示すことができる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				② 目標を遂げるための要件を示し、看護計画を立案できる	看護過程 ヘルスアセスメント

					基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				③目標・要件に応じた評価日を設定して示すことができる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				④基本的な看護技術を対象者のニーズに合わせて個別の看護実践に応用できる	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑤対象者がより良い方法を選択する過程を支えることができる。	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑥対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験や望み（意向）、強み（ストレングス）、ウェルネスを治療方法の選択や生活と関連付けて考えることができる。	看護過程 ヘルスアセスメント 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
			D-1-4) 実施した看護の評価	①実施した看護を評価する意義を理解できる	看護過程 ヘルスアセスメント
				②実施した看護を評価できる	看護過程 ヘルスアセスメント
				③評価の基準に基づき、目標の達成状況を確実に評価できる	看護過程 ヘルスアセスメント
				④評価に基づき、看護計画を修正できる	看護過程 ヘルスアセスメント
				⑤実施した看護の振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる	看護過程 ヘルスアセスメント
	D-2		D-2-1)	①看護の行為としての看護技術の	ヘルスアセスメント

	基本的な看護技術		看護技術の本質	目的・特徴について説明できる	
				②対象者の安全・安楽・自立を目指した行為であることを説明できる	ヘルスアセスメント
				④　看護技術を評価する方法を説明できる	ヘルスアセスメント
			D-2-2)-(1)観察・アセスメント	①看護の視点で対象者を観察することができる	看護過程 ヘルスアセスメント
				②フィジカルアセスメントができる	基礎看護技術Ⅱ
				③基本的な生活行動の観点から対象者をアセスメントできる	ヘルスアセスメント
				④収集した情報を統合して健康状態をアセスメントできる	ヘルスアセスメント
				⑤対象者を取り巻く社会環境をアセスメントできる	ヘルスアセスメント
				⑥生活者としての側面と生物学的に共通する身体的・精神的な側面の両側面を統合して人間を捉えることができる	ヘルスアセスメント
				⑦家族の機能の側面から家族をアセスメントできる	ヘルスアセスメント 家族看護学
				⑧精神機能のアセスメントができる	ヘルスアセスメント
			D-2-2)-(2)安全を守る看護技術	①安全な療養環境について説明できる	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ
				②感染予防ができる	微生物・感染制御学
			D-2-2)-(3)安楽を図る看護技術	①基本体位を理解し、安楽を図ることができる	基礎看護技術Ⅰ
				②精神的安寧を保つ工夫ができる	基礎看護技術Ⅰ
				③リラクゼーション技術を修得する	基礎看護技術Ⅰ
			D-2-2)-(4)コミュニケーション技術	①看護におけるコミュニケーション技術を修得する	コミュニケーション論 基礎看護技術Ⅰ
			D-2-3)	①環境調整技術を修得す	基礎看護技術Ⅰ

			日常生活援助技術	②食事援助技術を修得する	基礎看護技術Ⅰ
				③排せつ援助技術を修得する	基礎看護技術Ⅰ
				④活動・休息援助技術を修得する	基礎看護技術Ⅰ
				⑤清潔・衣生活援助技術を修得する	基礎看護技術Ⅰ
				⑥呼吸・循環を整える技術を修得する	基礎看護技術Ⅰ
			D-2-4) 診断・治療に伴う援助技術	①検査に伴う援助技術を修得する	基礎看護技術Ⅱ
				②創傷管理技術を修得する	基礎看護技術Ⅱ
				③与薬の技術を修得する	基礎看護技術Ⅱ
				④救命救急処置技術を修得する	基礎看護技術Ⅱ
				⑤症状・生体危機管理技術を修得する	基礎看護技術Ⅱ
	D-3 発達段階に特徴づけられる看護実践		D-3-1) 生殖年齢・周産期にある人々に対する看護実践	①母性看護学の諸概念を理解できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				②女性のライフサイクル各期の健康課題を理解し、看護を説明できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				③性の多様性を理解し、アセスメントできる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				④妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的変化について理解し、アセス	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダク

				メントできる	ティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				⑤妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者のヘルスプロモーションを理解し、看護を実践できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				⑥ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について、そのメカニズムと対象者に及ぼす影響を理解し、安全・安楽のための看護を説明できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				⑦人々のリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する社会問題を理解し、対象者の社会生活を支える看護を説明できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				⑧母子の健康生活について理解し、それを支える産後ケアや育児支援、母子保健のシステムについて説明できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				⑨周産期の家族が抱える親子の愛着、絆の形成と役割発達等の発達課題と家族に及ぼす影響を理解し、家族の発達を支える看護を説明でき	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法

				る	セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
				⑩家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支えるための看護を理解し、多職種との連携・協働が理解できる	セクシャルリプロダクティブケア概論 セクシャルリプロダクティブケア方法 セクシャルリプロダクティブケア実践 母性看護実習
			D-3-2) 小児期にある人々に対する看護実践	①子どもの権利擁護の重要性を理解し、看護を実践できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				②子どもの成長・発達に関してアセスメントできる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				③成長・発達段階に適した看護実践の方法を見いだすとともに、セルフケア獲得等の成長・発達そのものを家族とともに支える看護を実践できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				④子どもの成長・発達と健康上の課題を統合するとともに、病院や家庭、学校等の場に応じた対象者のニーズを捉えて看護を説明できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑤病気や入院生活が子どもに及ぼす影響を理解し、苦痛の緩和、安全・安楽の保持を基本とする看護を説明できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑥子どもに特有な看護技術を理解し、対象者に適した方法で実践することについて説明できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑦様々な病期・症状・治療に応じた	小児看護学概論

				子ども（医療的ケア児を含む）の特徴を理解し、必要な看護を説明できる	小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑧発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑨子どもの病気や入院生活が家族に及ぼす影響を理解し、病状や発達段階、家族の特性に応じて家族全体への看護を説明できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑩虐待等、特別な状況にある子どもや家族、社会の特徴を理解し、必要な看護を理解できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
				⑪成人移行期における治療継続や自分らしい生活の実現のための看護を説明できる	小児看護学概論 小児看護方法 小児看護実践 小児看護実習
			D-3-3) 成人期にある人々に対する看護実践	①成人期の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる	成人看護学概論成人看護方法 成人看護実習
				②成人期にある人の健康課題について、発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントできる	成人看護学概論成人看護方法 成人看護実習
				③ Adolescent and Young Adult<AYA>、トランジション等の健康課題について、小児期からの連続性と今後の人生・生活への影響を踏まえて包括的にアセスメントできる	成人看護学概論成人看護方法 成人看護実習
				④必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法について理	成人看護学概論成人看護方法 成人看護実習

				解できる	
			D-3-4) 老年期にある人々に対する看護実践	①高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で高齢者をアセスメントできる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				②高齢者の健康障害リスク（転倒、痛み、せん妄、認知機能の低下、うつ、低栄養、嚥下障害、褥瘡等）についてアセスメントし、予防する看護を説明できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				③高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				④高齢者がその人らしく生きるため、多様な健康レベルに応じて多職種や関係機関との連携・協働について考察できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑤高齢者の個別性、価値観、家族、社会背景を踏まえた人生の最終段階における看護について考察できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑥認知症の高齢者の特性や看護について説明できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑦高齢者虐待の種類や特徴を理解し、看護職の役割を理解できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑧高齢者の尊厳と生活の質（Quality Of Life<QOL>）を支える看護について考察できる	高齢者看護学概論 高齢者看護方法 高齢者看護実践 高齢者看護実習
	D-4		D-4-1)	①対象者の強み（ストレングス）を	セクシャルリプロダク

	健康段階に応じた看護実践		予防が必要な人々に対する看護実践	引き出し、健康増進、自立の促進等の看護を実践できる。	ティブ看護実践、小児看護実践、成人看護実践、高齢者看護実践、地域・在宅看護実践、精神看護実践
				②対象者の行動変容に対する理解、関心や動機付けの状況についてアセスメントを行い、必要な看護を実践できる	セクシャルリプロダクティブ看護実践、小児看護実践、成人看護実践、高齢者看護実践、地域・在宅看護実践、精神看護実践
				③フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、予防の看護を実践できる	高齢者看護方法
				④心身の健康障害の早期発見・早期診断・早期治療に必要な健診等のシステムとその活用について説明できる	セクシャルリプロダクティブ看護実践、小児看護実践、成人看護実践、高齢者看護実践、地域・在宅看護実践、精神看護実践
				⑤心身の健康障害に対する正しい理解への啓発活動について説明できる	セクシャルリプロダクティブ看護実践、小児看護実践、成人看護実践、高齢者看護実践、地域・在宅看護実践、精神看護実践
				⑥地域における心身の健康増進や障害者の生活を支えるシステムについて説明できる	地域・在宅看護実践
			D-4-2) 急性期にある人々に対する看護実践	①急性期や重症な状態にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる	成人急性期看護実践 成人急性期看護実習
				②急性期や重症な状態にある人をアセスメントできる	成人急性期看護実践 成人急性期看護実習
				③急性期や重症な状態にある人に対する優先順位を踏まえた看護を	成人急性期看護実践 成人急性期看護実習

				説明できる	
				④主な検査・処置等を受ける人の検査・処置に対する理解と意思決定を支える看護を実践できる（採血、心電図、エックス線、CT、MRI、エコー、内視鏡等）	成人看護方法 成人看護実習
				⑤手術を受ける人をアセスメントできる	成人看護方法 成人看護実習
				⑥手術を受ける人の手術療法への理解と意思決定を支える看護を実践できる	成人看護方法 成人看護実習
				⑦疾患や治療（手術療法、薬物療法、化学療法、放射線療法等）に応じた観察項目を理解し、異常の早期発見と必要な看護を実践できる	成人看護方法 成人看護実習
				⑧術後合併症を予防するための看護を説明できる	成人看護方法 成人看護実習
				⑨認知機能の低下や精神疾患等の特徴を持つ人の急性期治療に対する反応を理解し、安全・安楽を守る看護を説明できる	成人急性期看護実践 成人急性期看護実習
				⑩急性期や重症な状態にある人や家族の心理についてアセスメントし、不安の緩和を図ることができる	成人急性期看護実践 成人急性期看護実習
				⑪回復過程及び退院を見通した看護を説明できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
			D-4-3) 回復期にある人々に対する看護実践	①心身の回復状況のアセスメントや回復状況に応じた看護を説明できる。	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
				②リハビリテーション、国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability andHealth<ICF>）の概念を理解できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
				③回復への動機付けや意欲につい	成人急性期看護実践

				てアセスメントできる	成人看護方法 成人急性期看護実習
				④回復への意欲を支え、より主体的な回復過程を遂げるための看護を説明できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
				⑤回復期にある人を支える家族の状況をアセスメントし、支援できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
				⑥回復期にある人が個の特性に応じた生活を送るために、関係する職種や機関と必要な情報や目標を共有できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
				⑦生活機能障害（身体、知的、高次機能、精神、発達）についてアセスメントでき、ノーマライゼーションの視点から必要な看護を説明できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
				⑧回復期にある人が障害に応じた生活を送るために、活用できる社会資源と連携し、就労等の支援について説明できる	成人急性期看護実践 成人看護方法 成人急性期看護実習
			D-4-4) 慢性期にある人々に対する看護実践	①慢性疾患の特徴と治療経過について理解できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				②疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフケアの現状と課題をアセスメントできる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				③慢性疾患を抱える人への支援の基盤となる諸理論・概念について理解できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				④薬物療法等の治療の効果や副作用について判断できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				⑤急性増悪の誘因を理解し、予防的に対応できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				⑥慢性的な痛み等の症状を理解し、対象者の苦痛や不安に配慮できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				⑦対象者のセルフケアによる自分	成人慢性期看護実践

				らしい生活の実現のために必要な社会資源を説明できる	成人慢性期看護実習
				⑧疾病が家族の生活や対象者との関係性にどのように影響するかを考えて支援できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				⑨様々な慢性疾患において必要とされる支援の特徴を理解し、病気に応じて適切な人・機関につなげることができる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
				⑩慢性期にある患者に対する全体的な視点からの緩和ケアについて説明できる	成人慢性期看護実践 成人慢性期看護実習
			D-4-5) 人生の最終段階にある人々への看護実践	①人生の最終段階にある人の身体的変化について説明できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				②人生の最終段階にある人の価値観や人生観、死生観を引き出し、終末期の過ごし方を考える援助関係の築き方について説明できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				③人生の最終段階にある人が自分らしい人生を送ることができるために関係機関・職種と連携する重要性を理解できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				④人生の最終段階にある人の疼痛のアセスメント及びコントロールの方法について理解し、苦痛緩和のためのトータルケアを説明できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑤死の受容プロセスと看護の対象となる人や家族の精神的ケアについて説明できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑥人生の最終段階にある人の意思決定プロセスの特徴と支援する方法を説明できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
				⑦死後の家族ケア（悲嘆のケア（グリーフケア））について説明できる。	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習

				⑧尊厳ある死後のケアの意義について説明できる	成人慢性期看護実践 高齢者看護実践 高齢者看護実習
	D-5 心のケアが必要な人々への看護実践	メンタルヘルスの概念は健康な状態から疾患・障害を抱えた状態の連続線上にある。心の健康をより良く保つためには、ライフサイクルを通じて多様な心のケアが必要とされる。メンタルヘルス上の問題の予防、早期発見、治療、リカバリー（回復）を当事者の強み（ストレングス）を生かしながら支援するために必要な看護実践を学ぶ。		①　心の健康の概念について説明できる	メンタルヘルス入門 精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				②ライフサイクル各期における発達課題と心の危機的状況について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				③ 家庭・学校・職場等におけるメンタルヘルス向上のための支援について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				④周産期の母親と家族のメンタルヘルスを保ち、子どもの健康な心の発達を促す支援について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				⑤発達障害を早期にアセスメントし、適切な環境を提供する支援について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				⑥自殺予防のための本人及び関係者への支援について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				⑦依存症を持つ人とその家族への支援について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				⑧精神疾患のリスクを早期にアセスメントし、早期から適切な治療を受けるための支援体制について説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習

				⑨精神疾患を持つ人の入院中から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、指導の下に実践できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
				⑩精神疾患を持つ人の地域生活支援について、関係者と協働する必要性と方法を説明できる	精神看護学概論 精神看護方法 精神看護実践 精神看護実習
	D-6 組織における看護の役割		D-6-1) 組織における看護活動とケアの質改善	①組織における看護の役割について説明できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				②医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				③組織の中での役割分担の在り方について理解できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				④組織の中での情報管理システムについて理解できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				⑤看護の質を評価する必要性とその方法について理解できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				⑥看護管理における費用対効果の重要性について理解できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				⑦看護活動を PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）を用いて改善する意義と方法について理解できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
				⑧看護活動におけるリーダーシップ、メンバーシップの重要性を説明できる	看護学概論 看護管理学 統合実習
			D-6-2) リスクマネジメント	①医療におけるリスクについて説明できる	看護管理学 統合実習
				②リスクマネジメント、有害事象	看護管理学

				（転倒・転落等の事故、褥瘡、与薬エラー等）の予防方法について説明できる	統合実習
				③医療の中で安全文化の形成に向けて、チームとして取り組むことの意義について説明できる	看護管理学 統合実習
				④組織における医療安全対策等、医療機関の取組と看護の活動・役割について説明できる	看護管理学 統合実習
				⑤医薬品・医療機器の安全な管理体制や安全な医療環境を形成する意義について説明できる	看護管理学 統合実習
				⑥組織における感染防止対策について理解し、実施できる	看護管理学 統合実習
				⑦医療事故の予防と発生時対応、発生後の分析と評価について説明できる	看護管理学 統合実習
				⑧インシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの目的を理解し、必要性について説明できる	看護管理学 統合実習
			D-6-3） 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働	①保健・医療・福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる	看護管理学 多職種連携 統合実習
				②対象者を中心とするチームの構築方法について説明できる	看護管理学 多職種連携 統合実習
				③チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる	看護管理学 多職種連携 統合実習
				④チーム医療の中で効果的な話合いをするための方法について説明できる	看護管理学 多職種連携 統合実習
				⑤在宅医療を推進するために、保健・医療・福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる	看護管理学 多職種連携 統合実習

				⑥継続看護、退院支援・退院調整等、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる	看護管理学 多種連携教育 統合実習
				⑦他のチーム員と適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる	看護管理学 多職種連携 統合実習
				⑧チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導の下で実践できる	看護管理学 多職種連携 統合実習
E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識	E-1 多様な場の特性に応じた看護		E-1-1) 多様な場の特性	①医療機関の種類とその特性について説明できる	医療経済学
				②訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センター、子育て世代地域包括支援センター等の在宅ケア機関とその特性について説明できる	地域包括支援論
				③介護保険に関連する施設サービス、在宅サービス、地域密着型サービスの提供機関とその特性について説明できる	高齢者看護方法 地域・在宅看護方法
				④母子、高齢者、心身・精神障害児・者等を対象とした福祉施設（入所・通所）とその特性について説明できる	地域・在宅支援論
				⑤人々が働く産業の場の特性について説明できる	地域包括支援論
				⑥児童・生徒が学ぶ学校の場の特性について説明できる	小児看護方法
				⑦国や地方自治体等、行政機関の特徴について説明できる	地域包括支援論
				⑧暮らしの場（自宅、施設等）や地域の特性について説明できる	地域包括支援論
				⑨国際保健・医療協力（国際連合（United Nations<UN>）、世界保健機関（World Health Organization	国際保健

				<WHO>)、国際協力機構（Japan International Cooperation Agency<JICA>）、政府開発援助（Official Development Assistance<ODA>)、非政府組織（Non-Governmental Organization<NGO>））について概説できる	
			E-1-2) 多様な場に応じた看護実践	①医療計画における各機関の役割分担を踏まえた看護の在り方と方法について理解できる	地域・在宅看護実践
				②自宅、医療機関、在宅ケア機関における看護の在り方と方法について理解できる	地域・在宅看護実践
				③介護保険に関連するサービス提供機関における看護の在り方と方法について理解できる	高齢者看護方法 地域・在宅看護方法
				④母子、高齢者、心身・精神障害児・者を対象とした福祉施設（入所・通所）における看護の在り方と方法について理解できる	地域・在宅支援論
				⑤産業保健における看護の在り方と方法について理解できる	地域・在宅看護実践
				⑥学校保健における看護の在り方と方法について理解できる	地域・在宅看護実践
				⑦行政機関における保健活動について理解できる	地域・在宅看護実践
				⑧暮らしの場（在宅、施設等）や地域特性の違いによる看護の在り方と方法について理解できる	地域・在宅看護概論
				⑨在日外国人の文化的背景を考慮した看護を理解できる	国際保健
				⑩諸外国の看護・保健ニーズについて理解し、諸外国における支援の在り方や国際協力について理解できる	国際保健

	E-2 地域包括ケアにおける看護実践		E-2-1) 地域包括ケアと看護	①地域包括ケアの概念について理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				②地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助の必要性について理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				③様々なライフサイクル、健康レベルにある人々への住み慣れた地域での健康支援の必要性について説明できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				④地域包括ケアに関連するケアサービス提供機関を列挙し、説明できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑤地域包括ケアにおける多機関・多職種連携・協働について理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑥地域の様々な社会資源を列挙し、どのような利用者に活用できるかを理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習

				⑦セルフケア支援について理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑧ノーマライゼーションの支援について理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑨複数の対象者のニーズと、その地域のニーズを理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
			E-2-2) 地域包括ケアにおける看護の役	①地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の健康状態や特性、ケアニーズについて、人々の価値観、地域の特徴、文化を踏まえ、アセスメントできる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				②地域に暮らす人や、在宅療養者の自己決定（意思決定）への支援について説明できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				③地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の強みや主体性を引き出し、セルフケア力の発揮を促す支援について説明できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習

				④地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族に必要な社会資源を理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑤地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族への支援計画案における看護の役割を説明できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑥地域における多職種会議の方法を理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
				⑦地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族のニーズに対応するために、必要な新たなケアを創造する必要性が理解できる	地域・在宅看護概論 地域・在宅支援論 地域包括支援論 地域・在宅看護方法 地域・在宅看護実践 地域・在宅看護実習
	E-3 災害時の看護実践		E-3-1) 自然災害、人為的災害（放射線災害を含む）等、災害時の健康、危機に備えた看護の理解	①災害の種類や災害サイクル、地域防災計画、支援体制について理解できる	自然災害と防災 災害医療と看護
				②災害時の医療救護活動のフェーズ（超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期）と各期の看護について理解できる	災害医療と看護 成人急性期看護実践 成人急性期看護実習
				③被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる	災害医療と看護
				④災害時の医療救護活動の基本である CSCATTT（Command and	災害医療と看護

				Control,Safety,Communication,Assessment,Triage,Treatment,Transport ）について理解できる	
				⑤災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team<DMAT>)、災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team<DPAT>)、日本医師会災害医療チーム（Japan Medical Assistance Team<JMAT>)、災害時健康危機管理支援チーム（Disaster Health Emergency Assistance Team<DHEAT>)、災害援助対応チーム（Disaster Acute Rehabilitation Team<DART>)、日本栄養士会災害支援チーム（The Japan Dietetic Association-Disaster AssistanceTeam<JDA-DAT>)）と看護の役割を理解する	災害医療と看護
			E-3-2) 災害時の安全なケア環境の提供の理解	①災害看護活動の場（救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における食事、排せつ、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解できる	災害医療と看護
				②要配偶者、避難行動要支援への看護について理解できる	災害医療と看護
				③被災地域の人々、多職種との連携・協働による看護の必要性や方法を理解できる	災害医療と看護 多職種連携
				④災害周期の変化に対応しながら多職種、地域の人々との連携・協働	災害医療と看護 多職種連携

				の上、安全なケア環境提供を継続する必要性を理解できる	
				⑤二次災害の発生と危険について理解できる	自然災害と防災 災害医療と看護
				⑥被災者、救護者のストレスと心のケアについて理解できる	災害医療と看護
F 臨地実習	F-1 臨地実習における学修		F-1-1) 臨地実習における学修	「A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力」（以下、再掲）を常に意識しながら、臨地実習を行う。	基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				①プロフェッショナリズム	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				②看護学の知識と看護実践	基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				③根拠に基づいた課題対応能力	基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑤　コミュニケーション能力	Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑤保健・医療・福祉における協働	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				⑥ケアの質と安全の管理	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑦社会から求められる看護の役割の拡大	Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ

					基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				⑧科学的探究	Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				⑨生涯にわたって研鑽し続ける姿勢	Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
			F-1-2) 臨地実習における学修の在り方(特徴)	①学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある看護を実践できる	基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				②多様な場で展開される、人々の多様な生活（B・D・E 参照）の実際を理解できる	Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ 基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				③多様な社会資源、サービス、制度（B・E 参照）の実際を見ることで看護の受け手の生活に関わる社会資源の意義を説明できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				④実習の積み重ねを通して、必要とされる看護が場や看護の受け手に	Wellbeing 実習Ⅰ Wellbeing 実習Ⅱ

				より異なることを理解し、看護者の役割を創造的に考察できる	基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
				⑤実施した看護の意味や課題を、看護の受け手を中心とする視点や倫理的観点で振り返ることができる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 統合実習
				⑥実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看護の質の向上に向けた自己研鑽ができる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習 Wellbeing 実習Ⅲ 統合実習
	F-2 ケアへの参画	チームの一員としてケアに参画することを通じて、多様な場で多様なニーズを持つケアの受け手に対応するための基礎的能力を育成するとともに、チームの一員として活動できる態度を養う	F-2-1) 看護過程に基づくケアの実践	①ケアの受け手のニーズをアセスメントできる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				②必要な看護を、科学的根拠に基づき計画できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				③立案した計画の中で学生が行える看護を明確にできる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				④B～E までの知識・技術を用いてケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				⑤学生自身が観察・実施した看護の結果を、適切な相手に報告・連絡・相談できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				⑥学生自身が観察・実施した看護を的確に記録できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				⑦ケアの受け手に提供された看護を評価できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				⑧看護過程の全ての段階において、主体であるケアの受け手の意思を尊重できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
			F-2-2) 安全なケア環境の整備	①転倒・転落、褥瘡等の有害事象の予防策を計画し、実施できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				②感染防止対策を適切に実施できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				③実習におけるインシデント（ヒヤ	基礎看護実習Ⅱ

				リ・ハット）報告の仕組みを説明できる	各領域看護実習
				④インシデント（ヒヤリ・ハット）事象に遭遇した場合は、迅速に報告・連絡・相談ができる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
				⑤インシデント（ヒヤリ・ハット）事象に遭遇した場合は、その原因と再発防止策を説明できる	基礎看護実習Ⅱ 各領域看護実習
			F-2-3) チームの一員としてのケア参画	①ケアを提供するチームの目標及びメンバー各々の役割を説明できる	各領域看護実習 統合実習
				②チームにおける自身の役割を説明できる	各領域看護実習 統合実習
				③チームメンバー（指導者等）の指導の下、看護の実施及び報告・連絡・相談ができる	各領域看護実習 統合実習
				④カンファレンスにおいて自身の意見を表明し、メンバーの意見を聴くことができる	各領域看護実習 統合実習
				⑤ケアの受け手の権利擁護に関する問題提起や相談ができる	各領域看護実習 統合実習
				⑥チームを作るための基本的姿勢や方法を説明できる	各領域看護実習 統合実習
G 看護研究	G-1 看護研究における倫理			①看護研究における倫理の必要性について説明できる	研究方法論 卒業研究
				②看護研究における倫理的配慮の具体的な例とその理由が理解できる	研究方法論 卒業研究
				③支援を受けながら、看護研究における倫理的配慮に関する計画を立案できる	研究方法論 卒業研究
				④研究者倫理（対象者の人権擁護と研究不正の回避に必要な知識を含む。）を理解できる	研究方法論 卒業研究
	G-2 看護		G-2-1) 看護実践の	①看護実践の探究のために研究が必要であることを理解できる	研究方法論 卒業研究

	研究を通した看護実践の探求		探求	②看護実践の探究に向けて、看護現象について論理的・批判的に思考できる	研究方法論 卒業研究
			G-2-2) 研究成果の活用の方法	①情報リテラシー、統計リテラシーを獲得できる	情報リテラシー 研究方法論 卒業研究
				②研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる	研究方法論 卒業研究
				③基本的な研究方法の知識を持ち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる	研究方法論 卒業研究
				④研究成果には適用可能範囲や限界があることを理解した上で、支援を受けながら、成果を理解できる	研究方法論 卒業研究
			G-2-3)	①研究課題の抽出、研究計画の立案、実施の一連の過程を理解できる	研究方法論 卒業研究
				②文献研究、事例研究、実験・調査研究等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる	研究方法論 卒業研究

教育課程とカリキュラムポリシーの相関（福祉学科）

◎、○等で、その相関の強度を表記

科目区分		授業科目名称	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）			
			CP１：総合科目には、国際化や情報化に対する知識や教養、技能を修得するとともに、地域を知り、諸課題を多面的に捉える能力を育むための科目を配置する	CP２：専門基礎科目には、ソーシャルワークを学ぶ上で必要となる社会福祉の原理・基盤・政策や社会制度の基礎に関する科目を配置する	CP３：専門科目には、チームの一員として福祉サービスを提供する上で必要となる技術・知識を学ぶための科目を配置する	CP４：専門科目には、子どもやシニアへの福祉ニーズに対応し、地域における福祉施策をマネジメントするための科目を配置する
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	◎	○	○	
		周南Well-being創生論	◎	○	○	
		持続可能な社会とダイバーシティ	◎	○		
		異文化コミュニケーション	◎		○	
		教養スポーツ実習Ⅰ	◎			
		健康とスポーツ	◎			
		人の健康生活	◎		○	
		健康と福祉	◎		○	
		メンタルヘルス入門	◎		○	
	地域の持続的発展と価値創造のための科目群	自然災害と防災	◎			
		地域ゼミ	◎			
		地域づくり論	◎			
		周南地域文化講座	◎			
		周南地域と産業	◎			
		ワークショップデザインⅠ	◎			
		ワークショップデザインⅡ	◎			
		ワークショップデザインⅢ	◎			
	リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	◎		○	
		倫理学Ⅱ	◎		○	
		哲学	◎			
		生活と経済経営	◎	○		
		日本国憲法	◎	○		
		中国語Ⅰ	◎			
		中国語Ⅱ	◎			
		韓国語Ⅰ	◎			
		韓国語Ⅱ	◎			
		ドイツ語Ⅰ	◎			
		ドイツ語Ⅱ	◎			
	リテラシー科目群	教養ゼミ	◎			
		情報リテラシー	◎			
		データサイエンス入門	◎			
		情報倫理	◎			
		Python入門	◎			
		総合英語初級Ⅰ	◎			
		総合英語初級Ⅱ	◎			
		総合英語初中級Ⅰ	◎			
		総合英語初中級Ⅱ	◎			
		総合英語中上級Ⅰ	◎			
		総合英語中上級Ⅱ	◎			
		英会話初級Ⅰ	◎			
		英会話初級Ⅱ	◎			

◎、○等で、その相関の強度を表記

科目区分		授業科目名称	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）			
			CP１：総合科目には、国際化や情報化に対する知識や教養、技能を修得するとともに、地域を知り、諸課題を多面的に捉える能力を育むための科目を配置する	CP２：専門基礎科目には、ソーシャルワークを学ぶ上で必要となる社会福祉の原理・基盤・政策や社会制度の基礎に関する科目を配置する	CP３：専門科目には、チームの一員として福祉サービスを提供する上で必要となる技術・知識を学ぶための科目を配置する	CP４：専門科目には、子どもやシニアへの福祉ニーズに対応し、地域における福祉施策をマネジメントするための科目を配置する
専門基礎科目	社会福祉の基礎	医学概論		◎		
		心理学と心理的支援		◎		
		社会学と社会システム		◎		
		社会福祉の原理と政策Ⅰ		◎		○
		社会福祉の原理と政策Ⅱ		◎		○
		社会保障Ⅰ		◎		
		社会保障Ⅱ		◎		
		権利擁護を支える法制度		◎		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		◎	○	○
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		◎	○	○
		高齢者福祉		◎	○	
		障害者福祉		◎	○	
		児童・家庭福祉		◎	○	
		貧困に対する支援		◎	○	
		保健医療と福祉		◎	○	
		刑事司法と福祉		◎	○	
		社会福祉調査の基礎		◎		○
		福祉サービスの組織と経営		◎		○
		社会福祉法制		◎	○	
		人間と健康		◎	○	
		NPO・ボランティア論	○	◎		
		地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰ	○	◎		
		地域福祉キャリア形成活動指導Ⅱ	○	◎		
		地域福祉キャリア形成活動Ⅰ	○	◎		
		地域福祉キャリア形成活動Ⅱ	○	◎		
専門科目	ソーシャルワーク系科目	多職種協働演習			◎	○
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		○	◎	○
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		○	◎	○
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ			◎	○
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ			◎	○
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			◎	○
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ			◎	○
		ソーシャルワーク演習Ⅰ			◎	○
		ソーシャルワーク演習Ⅱ			◎	○
		ソーシャルワーク演習Ⅲ			◎	○
		ソーシャルワーク演習Ⅳ			◎	○
		ソーシャルワーク演習Ⅴ			◎	○
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ			◎	○
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			◎	○
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			◎	○
		ソーシャルワーク実習Ⅰ			◎	○
		ソーシャルワーク実習Ⅱ			◎	○
		卒業研究Ⅰ		○	◎	○
		卒業研究Ⅱ		○	◎	○

◎、○等で、その相関の強度を表記

科目区分		授業科目名称	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）			
			CP１：総合科目には、国際化や情報化に対する知識や教養、技能を修得するとともに、地域を知り、諸課題を多面的に捉える能力を育むための科目を配置する	CP２：専門基礎科目には、ソーシャルワークを学ぶ上で必要となる社会福祉の原理・基盤・政策や社会制度の基礎に関する科目を配置する	CP３：専門科目には、チームの一員として福祉サービスを提供する上で必要となる技術・知識を学ぶための科目を配置する	CP４：専門科目には、子どもやシニアへの福祉ニーズに対応し、地域における福祉施策をマネジメントするための科目を配置する
専門科目	子ども系科目	保育原理		○		◎
		保育ソーシャルワーク論			○	◎
		保育ソーシャルワーク演習			○	◎
		社会的養護		○		◎
		子どもの理解				◎
		子どもの遊びと援助				◎
		子どもの保健				◎
		幼児体育				◎
		音楽理論				◎
		子どもの遊びと造形				◎
		子どもの遊びと言葉				◎
	シニア系科目	介護基礎理論Ⅰ		○		◎
		介護基礎理論Ⅱ				◎
		こころとからだのしくみ				◎
		介護演習Ⅰ				◎
		介護演習Ⅱ				◎
		介護演習Ⅲ				◎
		福祉的ターミナルケア				◎
		ケアマネジメント論			○	◎
	地域系科目	地域観光まちづくり論				◎
		健康まちづくり論				◎
		やまぐち地域福祉発達史				◎
		福祉自治論		○		◎
		地域公共政策論		○		◎
		地域マネジメント論		○		◎
		地域福祉経済論		○		◎
		政策評価		○		◎
		地域企業会計				◎
		社会福祉法人会計				◎
		地域企業分析		○		◎
		地域企業運営		○		◎

周南公立大学人間健康科学部スポーツ健康科学科　　履修モデル

科目区分			1年				2年				3年				4年			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
			授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群		周南well-being創生入門	2	教養スポーツ実習Ⅱ	1	周南well-being創生論	2										
			持続可能な社会とダイバーシティ	2	健康とスポーツ	2												
			教養スポーツ実習Ⅰ	1														
	地域の持続的発展と価値創造のための科目群				周南地域文化講座	2	地域ゼミ※通年	1	地域ゼミ※通年	1								
	リベラルアーツ科目群		日本国憲法	2	心理学Ⅱ	2												
			心理学Ⅰ	2	ドイツ語Ⅰ	2												
	リテラシー科目群		教養ゼミ	2	データサイエンス入門	2	総合英語初中級Ⅰ	1	総合英語初中級Ⅱ	1			グローバル英語	2				
			情報リテラシー	2	総合英語初級Ⅱ	1												
			総合英語初級Ⅰ	1	英会話初級Ⅱ	1												
			英会話初級Ⅰ	1														
			キャリア形成活動Ⅰ※通年	1	キャリア形成活動Ⅰ※通年	1	キャリア形成活動Ⅱ※通年	1	キャリア形成活動Ⅱ※通年	1								
専門基礎科目	基盤科目		人間と健康	2	内科学	2	機能解剖学Ⅰ（総論、体幹）	2	救急処置法	2								
			解剖学	2	栄養学	2												
			生理学	2	公衆衛生学	2												
	基礎科目		体力トレーニング論	2	スポーツ医学	2	健康医学	2	学校保健	2								
					スポーツバイオメカニクス	2	運動生理学	2	スポーツ栄養学	2								
							スポーツ運動学	2	スポーツ文化論Ⅱ（スポーツ社会学・スポーツ史）	2								
							スポーツ心理学	2										
							スポーツ文化論Ⅰ（体育・スポーツ史、体育・スポーツ哲学）	2										
専門科目	応用科目	身体活動と健康に関する科目群							女性アスリートスポーツ論	2	運動処方	2	運動生理学演習	2				
									障がい対する理解	2	スポーツ生化学	2						
											運動分子生物学	2						
		アスリートサポートに関する科目群					スポーツ傷害論Ⅰ（体幹、重篤外傷）	2	スポーツ傷害論Ⅱ（下肢、上肢）	2	メンタルトレーニング論	2						
							スポーツ傷害予防論	2	スポーツ傷害対応論	2	コーチング論	2						
							コンディショニング論	2			リコンディショニング論	2						
		社会とスポーツに関する科目群									地域スポーツ文化論	2	スポーツマネジメント	2				
											パラスポーツ論Ⅰ	2	スポーツツーリズム論	2				
											レクリエーション論	2	パラスポーツ論Ⅱ	2				
											野外教育論	2						
	地域共創型演習・実習										健康運動演習	2	健康運動実習	1				
	実技科目								陸上競技	1								
							水泳※通年	0.5	水泳※通年	0.5								
							ゴール型球技	1	ネット型球技	1								
							ベースボール型球技	1	エアロビックダンス	1								
	演習科目										専門演習Ⅰ※通年	2	専門演習Ⅰ※通年	2	専門演習Ⅱ※通年	2	専門演習Ⅱ※通年	2
合計　137単位				24		24		25.5		22.5		24		13		2		2
						48				48				37				4

・・・必修科目

周南公立大学　人間健康科学部看護学科　　看護師養成課程 履修モデル　　・・・必修科目

科目区分		1年 前期 授業科目名	単位	1年 後期 授業科目名	単位	2年 前期 授業科目名	単位	2年 後期 授業科目名	単位	3年 前期 授業科目名	単位	3年 後期 授業科目名	単位	4年 前期 授業科目名	単位	4年 後期 授業科目名	単位
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	2			周南Well-being創生論	2										
		教養スポーツ実習Ⅰ	1														
	地域の持続的発展と価値創造のための科目群					自然災害と防災	1										
	リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	2	生活と経済経営	2												
		心理学Ⅰ	2	日本国憲法	2												
	リテラシー科目群	教養ゼミ	2	データサイエンス入門	2	総合英語初中級Ⅰ	1	総合英語初級Ⅱ	1								
		情報リテラシー	2	総合英語初級Ⅱ	1												
		総合英語初級Ⅰ	1	英会話初級Ⅱ	1												
		英会話初級Ⅰ	1														
専門基礎科目	専門基礎科目	人間と健康	2	生涯発達論	1	栄養代謝学	2	公衆衛生	2	臨床遺伝学	1						
		人体の構造と機能Ⅰ	2	人体の構造と機能Ⅱ	2	臨床薬理学	2	社会福祉学	2								
						周産期小児期疾病治療論	2	微生物・感染制御学	2								
						成人期疾病治療論	2										
						高齢期疾病治療論	1										
						精神疾病治療論	1										
専門科目	基礎看護分野科目	看護学概論	2	コミュニケーション論	1	基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）	2	看護過程	2					看護管理学	1		
				基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助）	2	ヘルスアセスメント	1	看護倫理	1								
	生涯発達看護分野科目			セクシュアルリプロダクティブ看護学概論	1	セクシュアルリプロダクティブ看護方法	2	小児看護方法	2	セクシュアルリプロダクティブ看護実践	1						
						小児看護学概論	1	成人看護学方法	2	小児看護実践	1						
						成人看護学概論	2	高齢期看護方法	2	成人急性期看護実践	1						
						高齢期看護学概論	1			成人慢性期看護実践	1						
										高齢期看護実践	1						
	広域看護分野科目			地域・在宅看護概論	1	精神看護学概論	1	地域・在宅支援論	2	地域包括支援論	1						
								精神看護方法	2	地域・在宅看護実践	2						
										精神看護実践	1						
	統合分野科目									多職種連携	1	研究方法論	2	災害看護論	1	国際保健	1
										家族看護学	1			へき地・地域医療	1	看護政策論	1
																看護教育	1
																医療経済学	1
														卒業研究　※通年		卒業研究　※通年	4
	実習科目	well-being実習Ⅰ（成人・高齢期）	1			基礎看護実習Ⅰ	1	基礎看護実習Ⅱ	2			地域・在宅看護実習	2	well-being実習Ⅲ（地域健康創生）	2		
		well-being実習Ⅱ（小児・学童期）	1									成人急性期看護実習	2	統合実習	2		
												成人慢性期看護実習	2				
												高齢者看護実習	2				
												小児看護実習	2				
												母性看護実習	2				
												精神看護実習	2				
合計　127単位			21		16		25		22		12		16		7		8

周南公立大学　人間健康科学部看護学科　　保健師養成課程 履修モデル　　・・・必修科目

科目区分		1年 前期 授業科目名	単位	1年 後期 授業科目名	単位	2年 前期 授業科目名	単位	2年 後期 授業科目名	単位	3年 前期 授業科目名	単位	3年 後期 授業科目名	単位	4年 前期 授業科目名	単位	4年 後期 授業科目名	単位
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	2	健康とスポーツ	2	周南Well-being創生論	2										
		教養スポーツ実習Ⅰ	1														
	地域の持続的発展と価値創造のための科目群					自然災害と防災	1										
	リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	2														
		心理学Ⅰ	2	日本国憲法	2												
	リテラシー科目群	教養ゼミ	2	データサイエンス入門	2	総合英語初級Ⅲ	1	総合英語初級Ⅳ	1								
		情報リテラシー	2	総合英語初級Ⅱ	1												
		総合英語初級Ⅰ	1	英会話初級Ⅱ	1												
		英会話初級Ⅰ	1														
専門基礎科目	専門基礎科目	人間と健康	2	生涯発達論	1	栄養代謝学	2	公衆衛生	2	臨床遺伝学	1						
		人体の構造と機能Ⅰ	2	人体の構造と機能Ⅱ	2	臨床薬理学	2	社会福祉学	2								
						周産期小児期疾病治療論	2	微生物・感染制御学	2								
						成人期疾病治療論	2										
						高齢期疾病治療論	1										
						精神疾病治療論	1										
専門科目	基礎看護分野科目	看護学概論	2	コミュニケーション論	1	基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）	2	看護過程	2					看護管理学	1		
				基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助）	2	ヘルスアセスメント	1	看護倫理	1								
	生涯発達看護分野科目			セクシュアルリプロダクティブ看護学概論	1	セクシュアルリプロダクティブ看護方法	2	小児看護方法	2	セクシュアルリプロダクティブ看護実践	1						
						小児看護学概論	1	成人看護学方法	2	小児看護実践	1						
						成人看護学概論	2	高齢期看護方法	2	成人急性期看護実践	1						
						高齢期看護学概論	1			成人慢性期看護実践	1						
										高齢期看護実践	1						
	広域看護分野科目			地域・在宅看護概論	1	精神看護学概論	1	地域・在宅支援論	2	地域包括支援論	1						
								精神看護方法	2	地域・在宅看護実践	2						
										精神看護実践	1						
	統合分野科目									多職種連携	1	研究方法論	2	災害看護論	1	国際保健	1
										家族看護学	1			へき地・地域医療	1	看護政策論	1
																看護教育	1
																医療経済学	1
														卒業研究　※通年		卒業研究　※通年	4
	実習科目	well-being実習Ⅰ（成人・高齢期）	1			基礎看護実習Ⅰ	1	基礎看護実習Ⅱ	2			地域・在宅看護実習	2	well-being実習Ⅲ（地域健康創生）	2		
		well-being実習Ⅱ（小児・学童期）	1									成人急性期看護実習	2	統合実習	2		
												成人慢性期看護実習	2				
												高齢者看護実習	2				
												小児看護実習	2				
												母性看護実習	2				
												精神看護実習	2				
保健師養成課程						公衆衛生看護学概論	1	公衆衛生看護活動Ⅰ	2	公衆衛生看護方法	2			保健医療福祉行政論	1	保健活動評価	1
								公衆衛生看護活動Ⅱ	2					疫学演習	2		
														地区活動論	2		
														地域保健活動展開論	1		
														公衆衛生看護管理論	1		
														公衆衛生看護実習Ⅰ ※通年		公衆衛生看護実習Ⅰ ※通年	3
														公衆衛生看護実習Ⅱ ※通年		公衆衛生看護実習Ⅱ ※通年	2
合計	147単位		21		16		26		26		14		16		14		14

履修モデル

周南公立大学人間健康科学部福祉学科

科目区分		1年 前期		1年 後期		2年 前期		2年 後期		3年 前期		3年 後期		4年 前期		4年 後期	
		授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南well-being創生入門	2			周南well-being創生論	2										
		教養スポーツ実習Ⅰ	1														
	地域の持続的発展と価値創造のための科目群					地域ゼミ※通年	1	地域ゼミ※通年	1								
	リベラルアーツ科目群	日本国憲法	2														
	リテラシー科目群	教養ゼミ	2	データサイエンス入門	2	総合英語初中級Ⅰ	1	総合英語初中級Ⅱ	1								
		情報リテラシー	2	総合英語初級Ⅱ	1												
		総合英語初級Ⅰ	1	英会話初級Ⅱ	1												
		英会話初級Ⅰ	1														
専門基礎科目	社会福祉の基礎	心理学と心理的支援	2	医学概論	2	社会保障Ⅰ	2	社会保障Ⅱ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	保健医療と福祉	2		
		社会学と社会システム	2	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	権利擁護を支える法制度	2	高齢者福祉	2	障害者福祉	2	NPO・ボランティア論	2				
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰ	2	児童・家庭福祉	2	刑事司法と福祉	2	社会福祉調査の基礎	2						
		人間と健康	2	地域福祉キャリア形成活動Ⅰ	2	貧困に対する支援	2			福祉サービスの組織と経営	2						
						社会福祉法制	2										
						地域福祉キャリア形成活動指導Ⅱ	2										
						地域福祉キャリア形成活動Ⅱ	2										
専門科目	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	卒業研究Ⅱ※通年	2
						ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	ソーシャルワーク実習Ⅱ※3年後期から	0.5		
								ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	卒業研究Ⅱ※通年	2		
								ソーシャルワーク実習Ⅰ※3年前期まで	2.5	ソーシャルワーク実習Ⅰ※2年後期から	2.5	ソーシャルワーク実習Ⅱ※4年前期まで	0.5				
										卒業研究Ⅰ	2						
	子ども系科目	子どもの理解	2							社会的養護	2	保育ソーシャルワーク論	2	保育ソーシャルワーク演習	2		
										子どもの保健	2						
	シニア系科目	介護基礎理論Ⅰ	2														
	地域系科目	地域観光まちづくり論	2													地域企業運営	2
合計 127単位			27		14		22		16.5		22.5		12.5		8.5		4

・・・必修科目

実習施設一覧

No.	実習名		well-being Ⅰ			well-being Ⅱ		基礎看護実習Ⅰ	基礎看護実習Ⅱ	母性看護実習				小児看護実習			成人急性期看護実習	成人慢性期看護実習	高齢者看護実習		精神看護実習		地域・在宅看護実習			統合実習								well-beingⅢ	公衆衛生				大学からの距離等		
	施設の種類		高齢者	企業	企業	学童保育	保育園	医療機関	医療機関	医療機関	産前産後	NICU	子育支援	医療機関	保育	療育	医療機関	医療機関	特養	老健施設	医療機関	作業所	訪問看護	地域連携	地域包括	基礎	成人	高齢者	小児	母性	精神	地域・在宅	公衆衛生	NPO・所診療	保健所等	市役所	地域包括	企業	移動距離(km)	交通機関	片道所要時間(分)
	施設名	所在地	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	16	16	8	8	8	8	8	8	80	20	20	20	20			
1	徳山中央病院	山口県周南市孝田町1番1号								80		80		80			80							14							3							1.0	徒歩	12
2	周南市立新南陽市民病院	山口県周南市宮の前二丁目３番１５号						24	32									32						14		14												10.0	防長バス	57
3	徳山リハビリテーション病院	山口県周南市大字徳山626番地						16	16									16						10														3.2	防長バス	24
4	周南記念病院	山口県下松市生野屋南1－10ー１							8									8						6			8											5.8	防長バス	28
5	医療法人　仁徳会　周南病院	山口県周南市御幸通2丁目８																																8				5.0	防長バス	30
6	医療法人緑山会　下松中央病院	山口県下松市古川町3丁目1番1号																						10		2												14.8	防長バス、JR	51
7	光市立光総合病院	山口県光市光ヶ丘6番1号																						10			8											21.1	防長バス、JR	57
8	光市立大和総合病院	山口県光市大字岩田974番地							16									16																				30.7	防長バス、JR	60
9	県立総合医療センター	山口県防府市大字大崎10077						8			40																							22				37.5	防長バス、JR、中国JRバス	97
10	山口大学医学部附属病院	山口県宇部市南小串1-1-1																																8				77.2	防長バス、新幹線、JR	105
11	山口県厚生農業協同組合連合会　周東総合病院	山口県柳井市古開作1000番１						16	8									8																				36.2	JR	35
12	国立岩国医療センター	山口県岩国市愛宕町1丁目1番1号						16																6														72.1	防長バス、JR	110
13	小郡まきはら病院	山口市小郡若草町3番4号																			16	16																51.0	防長バス、JR	105
14	地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院	山口県周南市東山町６－２８																						4														5.8	防長バス	49
15	医療法人 周友会　徳山病院	山口県周南市南浦山町5-14																					14	6														6.0	防長バス、JR	60
16	みちがみ病院	山口県光市光ヶ丘2－5																												4								13.8	防長バス、JR	75
17	医療法人社団青山会　リフレまえだ病院	山口県岩国市玖珂町1887																													4							31.3	防長バス、JR	100
18	医療法人清和会　吉南病院	山口市鋳銭司3381番地																			64	64																46.3	防長バス、JR	139
19	山口県こころの医療センター	山口県宇部市大字東岐波4004-2																													4							66.1	防長バス、新幹線	60
20	山口県周南環境保健所	山口県周南市毛利町2丁目38																																	8			5.0	防長バス	30
21	山口県柳井環境保健所	山口県柳井市南町3丁目9-3																																	8			41.2	防長バス、JR	77
22	山口県岩国環境保健所	山口県岩国市三笠町1丁目1-1																																	4			48.0	防長バス、JR	111
23	下松市　健康増進課	山口県下松市大手町3-3-3																																		5		5.1	防長バス	40
24	光市　健康増進課	山口県光市光井２丁目２番１号																																		5		15.9	防長バス、JR	33
25	周南市徳山保健センター	山口県周南市児玉町1丁目1番地											80																							10		4.7	防長バス	27
26	訪問看護ステーションこもれび	山口県周南市城ケ丘4－3504－22－103																					12															0.5	徒歩	6
27	訪問看護ステーションもみじ	山口県周南市城ケ丘3丁目1番35号																					14								4							0.7	徒歩	10
28	徳山中央病院附属訪問看護ステーション	山口県周南市東山町6－28																					14								2							1.2	徒歩	12
29	徳山医師会訪問看護ステーション	山口県周南市東山町6－28																					6															4.8	防長バス	37
30	訪問看護ステーションねこの手	山口県周南市岡田町10－7																					14								2							4.2	防長バス	30
31	訪問看護ステーションゆめ風車	山口県周南市宮の前2丁目6番27号																					6															10.0	防長バス	57
32	株式会社西京銀行	山口県周南市平和通1丁目10-2			31																																	4.1	防長バス	30
33	株式会社　シマヤ	山口県周南市都町1丁目57番地			8																																	5.2	防長バス	30
34	株式会社　トクヤマ　健康管理センター	山口県周南市御影町1-1		80																																		5.6	防長バス、JR	60
35	サマンサジャパン	山口県周南市河東町2-36			12																																	5.5	防長バス	48
36	近藤商事株式会社	山口県下松市中島市二丁目1番45号			5																																	10.0	防長バス	30
37	株式会社　中特ホールディングス	山口県周南市大字久米 3034-1			8																																	8.9	防長バス、JR	54
38	徳機株式会社	山口県周南市港町11番1号			15																																	13.0	防長バス	51
39	出光興産株式会社　徳山事業所	山口県周南市新宮町1番1号																																			20	7.0	防長バス	45
40	周陽市民センター	山口県周南市周陽2丁目8-2	10																																			1.5	防長バス	10
41	久米市民センター	山口県周南市大字久米２８１２番地１	25																																			1.0	徒歩	16
42	遠石市民センター	山口県周南市若草町6-33	8																																			3.6	防長バス	36
43	桜木市民センター	山口県周南市城ヶ丘2丁目4-21	28																																			0.7	徒歩	10
44	秋月市民センター	山口県周南市楠2丁目1-25	3																																			2.4	防長バス	14
45	周南市地域福祉課	山口県周南市岐山通1-1	11																																			4.3	防長バス	28

更新日：2023.02.26

実習施設一覧

No.	実習名	well-being Ⅰ			well-being Ⅱ		Ⅰ 基礎看護実習	Ⅱ 基礎看護実習	母性看護実習				小児看護実習			成人急性期看護実習	成人慢性期看護実習	高齢者看護実習		精神看護実習		地域・在宅看護実習			統合実習								well-being Ⅲ	公衆衛生				大学からの距離等		
	施設の種類	高齢者	企業	企業	学童保育	保育園	医療機関	医療機関	医療機関	産前産後	NICU	子育支援	医療機関	保育	療育	医療機関	医療機関	特養	老健施設	医療機関	作業所	訪問看護	地域連携	地域包括	基礎	成人	高齢者	小児	母性	精神	地域・在宅	公衆衛生	NPO・所診療	保健所等	市役所	地域包括	企業	移動距離(km)	交通機関	片道所要時間(分)
	施設名 / 所在地	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	16	16	8	8	8	8	8	8	80	20	20	20	20			
46	こもれびの杜（住宅型有料老人ホーム）	山口県周南市久米2668番																16									4										0.6	徒歩	8
	こもれびの杜（グループホーム）	山口県周南市城ヶ丘4丁目3536－1																																			0.6	徒歩	8
47	グループホームくめの里	山口県周南市久米１４１６－１																									4										3.0	防長バス	20
48	特別養護老人ホームくすのき苑	山口県周南市城ケ丘3丁目6番1号																40																			0.7	徒歩	10
49	特別養護老人ホームつづみ園	山口県周南市瀬戸見町12番30号																40																			1.1	徒歩	13
50	介護老人保健施設ふくしの里	山口県下松市生野屋南一丁目10番1号																	32																		5.8	防長バス	28
51	介護老人保健施設ゆめ風車	山口県周南市宮の前2丁目6番27号																	16																		10.0	防長バス	57
52	介護老人保健施設あおぞら	山口県周南市大字栗屋字二葉屋開作1022-76																	32																		10.5	防長バス	60
53	つづみ園地域包括支援センター	山口県周南市瀬戸見町12－30																						20													4	1.1	防長バス	13
54	周南東部地域包括支援センター	山口県周南市久米1533－3																						20													4	1.1	徒歩	14
55	徳山医師会地域包括支援センター	山口県周南市東山町６－２８																						20													4	4.8	防長バス	37
56	周南西部地域包括支援センター	山口県周南市古川町1－17																						20													4	9.0	防長バス	45
57	周南市北部地域包括支援センター	山口県周南市須々万本郷2502																																			4	14.5	防長バス	56
58	共楽保育園	山口県周南市久米1311番地					24							40																								1.5	防長バス	18
59	蓮生・まこと幼稚園（保育園）	山口県周南市久米田中3920番地					21																					4									8.6	防長バス、JR	49
60	しゅうよう保育園	山口県周南市周陽2丁目1番2号					30																					4									1.5	防長バス	12
61	和光保育園	山口県周南市遠石1－10－1					24							40																								10.0	防長バス	69
62	周南市大内保育園	山口県周南市大内町6-15					11																														2.4	防長バス	25
63	周南市城ケ丘保育園	山口県周南市城ケ丘3-13-6					16																														0.6	徒歩	8
64	周南市第二保育園	山口県周南市岡田町2-23					13																														4.2	防長バス	28
65	周南市櫛浜保育園	山口県周南市栗屋859-4					15																														9.7	防長バス	45
66	周南市尚白保育園	山口県周南市新宿通6-1-22					10																														6.0	防長バス	37
67	久米小校区児童クラブ	山口県周南市久米3417番地				12																															1.1	徒歩	13
68	桜木小校区児童クラブ	山口県周南市桜木1丁目11番1号				12																															1.3	徒歩	15
69	周陽小校区児童クラブ	山口県周南市周陽1丁目15番1号				12																															1.6	徒歩	20
70	秋月小校区児童クラブ	山口県周南市秋月1丁目1番50号				12																															2.2	防長バス	15
71	東福祉館児童クラブ	山口県周南市大字久米1316番地の１				6																															2.4	徒歩	28
72	岐山小校区児童クラブ	山口県周南市大字徳山5673番地				12																															3.4	防長バス	30
73	遠石小校区児童クラブ	山口県周南市遠石1丁目3番48号				8																															3.2	防長バス	45
74	櫛浜小校区児童クラブ	山口県周南市大字栗屋860番地				6																															3.8	防長交通	50
75	鼓が浦こども医療福祉センター	山口県周南市久米752-4													80																						2.0	防長バス	25
76	児童発達支援センター鼓ヶ浦つばさ園	山口県周南市大字久米752番地4																										8									2.0	防長バス	25
77	山口県立周南総合支援学校	山口県周南市久米761番地																																6			2.3	防長バス	20
78	柳井市立平郡診療所	山口県柳井市平郡1824番地11																																4			76.2	防長バス、JR、フェリー	222
79	大津島保健組合大津島診療所	山口県周南市大字大津島1361-4																																12			15.6	防長バス、フェリー新大室島	96
80	周南市国民健康保険鹿野診療所	山口県周南市大字鹿野上字サヤノ原10910																																12			35.0	防長バス	130
81	マムズタッチ	山口県下松市河内190-1フロムＥ101号室								40																											14.3	防長バス	69
82	ギャップフィリング株式会社	山口県周南市大字鹿野下1006番地－3																											8								35.0	防長バス	130
83	山口ヘルスプロモーションネットワーク	山口県山口市阿知須6974-3																														20	4				59.3	防長バス、新幹線、JR	117
84	おげんきクリニック	山口県大島郡周防大島町大字小松558																																4			50.0	防長バス、JR	90
	合　計	85	80	79	80	164	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	96	80	80	80	80	80	80	16	16	8	16	12	8	11	20	80	20	20	20	20			

看護実習委託契約書（案）

《実習委託施設》（以下、「甲」という。）と公立大学法人周南公立大学（以下、「乙」という。）は、甲の施設において乙の学生（以下、「実習生」という。）の実習（以下、「実習」という。）を実施するにあたり、次のとおり委託契約を締結する。

（総則）

第１条　乙は、甲に対し、次のとおり実習の実施を委託する。

（１）　対 象 者　周南公立大学人間健康科学部看護学科学生

（２）　実習期間　令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日まで（延べ〇日間）

（３）　実習内容　病院・施設における看護学科学生の実習

（実習の実施方法）

第２条　甲は、乙が示した「実習要項」に基づいて、実習指導教員と実習方法について協議しながら、実習を実施する。

（実習教育費）

第３条　乙は、甲に対し、第１条に規定する実習生に対する実習期間内の実習教育費として、実習生一人あたり金　　円（消費税含む）を支払うものとする。

２　甲は、実習を完了したときは、乙に対して遅滞なく委受託契約完了報告書兼請求書を提出しなければならない。

３　乙は、実習教育費を前項の委受託契約完了報告書兼請求書を受理した月の翌月末までに支払うものとする。

４　実習教育費には、実習に伴う諸経費および教材備品に要する費用の一切を含むものとするが、実習に要する交通費については、実習生が負担する。

（実習生の健康状態）

第４条　本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に問題が生じた場合には、甲乙双方は協議の上、当該実習生の実習を中断または中止することができる。

（実習生への規則順守の徹底）

第５条　乙は、実習生が実習を行うにあたり、事前に甲が定めた諸規則・心得等を遵守し、かつ実習指導者の指示に従うように実習生を指導する。

（個人情報、秘密およびプライバシー（以下、「個人情報等」という。）の保護）

第６条　甲乙双方は、実習の実施にあたって、学生が受け持つ人をはじめとする甲の保有する個人情報等および実習生の個人情報等の漏洩などが生じないように、個人情報等を適正に管理する。
２　前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の取扱いについて説明文書をもって周知徹底し、乙と実習生との間で個人情報の保護に関する誓約書を取り交わすものとする。
３　乙は、甲の求めがある場合、前項の説明文書および誓約書を開示するものとする。
４　乙は、実習生に対し、実習終了後も個人情報の保護を徹底するよう指導監督する。
５　甲は、実習終了後も実習生の個人情報を適正に管理する。
６　甲乙双方は、実習の実施にあたって知り得た他人の秘密およびプライバシーについて適正に管理する。

（個人情報等の保護状況の報告および調査）
第７条　甲は、乙に対し、実習中および実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求めることができるものとし、乙は遅滞なくこれに応じるものとする。
２　甲は、乙に対し、実習中および実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査することができるものとし、乙は、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

(利用者等への説明責任)
第８条　甲は、実習に関して、利用者等への説明責任を果たし、利用者の権利を侵害しないよう、適切な配慮を行うものとする。
（機密情報の保護）

第９条　本契約における「甲の機密情報」とは、以下の情報をいう。
（１）　甲の経営および事業運営に関する情報で公知でないもの
（２）　公知であっても、第三者に提供されることによって甲の権利利益が損なわれるおそれのある情報
２　乙は、実習の実施にあたって、甲の法人機密情報の労災などが生じないように、法人機密情報の管理について実習生に適切な指導をする。

（実習の中止）
第１０条　甲または乙は、実習生が以下に示す事項に該当すると判断した場合は、甲乙協議の上、当該実習生の実習を中止させることができる。
（１）　甲の定める諸規則・心得等に違反した場合
（２）　甲の施設内の秩序あるいは規律を乱す事由があると認めた場合
（３）　個人情報等の保護に関して問題があった場合

（４） 甲の法人機密情報の保護に関して問題があった場合
（５） 実習生の実習態度の不良などにより実習の目的を果たし得ないと判断した場合
（６） 甲による実習指導の継続が不可能となった場合
（７） 甲と実習生との間に解決しがたい問題が発生した場合
２　実習の継続が不可能になった場合は、実習教育費に関して甲乙協議の上、解決するものとする。

（実習生の疾病および傷害）
第１１条　実習生の実習期間中における疾病および傷害、または実習を原因として実習後に生じた疾病および傷害については、甲の故意または過失による場合を除き、乙の責任において対処するものとする。

（損害賠償）
第１２条　実習生の故意または過失により、甲に事故、器物破損、機密情報の漏洩その他の損害を与えた場合は、乙は甲に対し、実習生と連帯してその賠償責任を負うものとする。

（第三者損害賠償）
第１３条　実習生の故意または過失により、甲以外の第三者に人的または物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問われる分奏または訴訟が発生した場合は、乙は、その当事者として誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。
２　前項の賠償負担の割合および求償については、甲乙協議の上決定するものとする。

（その他の事項）
第１４条　本契約に定めない事項および契約条項に疑義が生じた場合または変更については、それぞれ甲乙協議の上解決する。

本契約の締結を証するため、本契約書２通を作成し、両者記名押印のうえ、各自その１通を保有するものとする。

令和　　年　　月　　日

甲　《住所》
　　《法人代表者》

乙　山口県周南市学園台 843-4-2
公立大学法人周南公立大学
理事長　髙田　隆

周南公立大学　人間健康科学部看護学科
看護学実習説明・協力依頼書（案）

（　　*対象者氏名*　　）様

周南公立大学（　　*実習名*　　）にあたり、看護学生の実習受け持ちを承諾して頂きますようお願い致します。

受け持ち期間中にさせて頂くことは、以下の内容でございます。

（1）対象者様から、お体の状態や生活状況などのお話を聞かせて頂きます。
（2）看護を行う場合は、事前に十分な説明をした後、対象者様および状況に応じてご家族の方の同意を得てから行います。
（3）看護を行う場合は、実習指導者（看護師・助産師・保健師）や指導教員（周南公立大学教員）の指導の下、安全性の確保を最優先に実施致します。
（4）看護の内容は、対象者様の治療や検査等の見学や介助、療養や生活に必要な身の回りの援助、リハビリ訓練に対する援助などです。
（5）熟練した技術が必要な援助（例えば、注射、採血など）につきましては、学生は実習指導者や担当看護師・助産師・保健師の実施を見学させて頂きます。
（6）対象者が学生の受け持ちに同意いただいた後、学生が行う看護をお断りになることも可能です。お断りになっても、入院中・入所中において不利益を被ることはございません。
（7）学生が得た対象者様およびご家族の方に関する情報は、実習指導者や指導教員の指導の下、実習中の看護に役立たせて頂きます。対象者様およびご家族の方に関する情報は、学習目的にのみに使用し、関係者以外には伝わらないよう、プライバシーの保護に十分に留意いたします。

受け持ち期間中に不都合なことがございましたら、ご遠慮なく指導教員、実習指導者、実習施設責任者のいずれかにお知らせください。

記

1）　実習期間：令和　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）
2）　実習生：周南公立大学人間健康科学部看護学科　〇年生（　　*学生氏名*　　）

説明日：　令和　　年　　月　　日
説明者：　周南公立大学健康科学部看護学科（　*実習指導教員名*　）
〇〇〇〇病院　　（　*実習指導者名*　　）
問い合わせ窓口：〒745-8566　山口県周南市学園台 843-4-2
周南公立大学人間健康科学部看護学科　学務課　0834-28-0411（代）

周南公立大学　人間健康科学部看護学科
看護学実習における学生受け持ち同意書（案）

私は、周南公立大学人間健康科学部看護学科〇年生（　　*学生氏名*　　）が、

（　　*実習部署名*　　）における看護学実習において私の受け持ちとなり、

看護を行うことについて別紙の通り説明を受け、納得したので同意します。

令和　　年　　月　　日

氏名：（　　）

代理同意人氏名：（　　）

周南公立大学　人間健康科学部看護学科
看護学実習における学生受け持ち同意書（案）

私は、周南公立大学人間健康科学部看護学科〇年生（　　*学生氏名*　　）が、

（　　*実習部署名*　　）における看護学実習において私の受け持ちとなり、

看護を行うことについて別紙の通り説明を受け、納得したので同意します。

令和　　年　　月　　日

氏名：（　　）

代理同意人氏名：（　　）

○周南公立大学 人間健康科学部　看護学科実習委員会規程（案）

（令和×年×月×日　規定第×―×号）

（趣旨）

第１条 この規程は、周南公立大学教授会規程（令和４年４月１日規程第３－２号）に基づき設置する人間健康科学部　看護学科実習委員会（以下「委員会」という。）の運営等に関し必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条 委員会は人間健康科学部看護学科の実習に関する次に揚げる事項を審議し、必要な立案を行う。

（１） 看護実習の実習可否、実習年間スケジュールに関する事項

（２） 実習連絡協議会議開催の計画立案と実施・運営

（３） 看護実習の先修条件となる科目に関する事項

（４） 各領域の実習要項、実習評価表のとりまとめや基準の作成

（５） 看護実習の実習生に対する指導、オリエンテーションの実施に関する事項

（６） 看護実習教育に関し教員に必要な FD の企画・運営

（７） インシデント事例の集計と分析

（８） 学年毎の実習全体の評価並びに次年度に向けての改善点の明確化

（組織）

第３条 委員会に委員長及び委員を置く。

２　委員長及び委員は、看護学科会議の議を経て決定する。

３　委員は各看護領域から一人以上選出する。

（任期）

第４条　委員会の委員長及び委員の任期は、原則として２年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（会議）

第５条 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

２　委員会の会議は、委員の過半数以上の出席がなければ開くことができない。

委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

３　委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4　委員会の委員がやむを得ない事由により欠席するときは、委員長が指名した者が代理出

席することができる。
5　委員会は、委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴く事ができるが、議決に関わる権利は有しない。

（審議結果の報告）
第６条 委員長は、委員会において審議した結果を看護学科会議に報告しなければならない。

（委任）
第７条　　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

（委員会の庶務）
第８条　　委員会に関する事務は、学務課において行う。

（改正）
第９条　　この規程の改正は、看護学科会議の議を経て行う。

附則
この規程は、令和×年×月×日から施行し、令和×年×月×日から適用する。

○周南公立大学 人間健康科学部看護学科　実習指導者連絡協議会規程（案）

（令和×年×月×日　規定第×―×号）

（趣旨）

第１条 この規程は、周南公立大学組織規程（令和４年４月１日規程第３－２号）に基づき設置する周南公立大学 人間健康科学部看護学科　実習指導者連絡協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条 協議会は次に揚げる事項を審議する。

（１）臨地実習教育方針に基づいた実習方法

（２）具体的な臨地実習年間計画の調整

（３）各実習科目における具体的な内容

（４）実習目標到達状況

（５）臨地実習指導者研修会の企画

（６）実習施設での教員研修実施企画・連絡調整

（７）臨地実習指導者研修会の計画立案と実施・運営

（組織）

第３条　協議会に会長及び会員を置く。

２　会長及び会員は、看護学科会議の議を経て決定する。

（会議）

第４条　会長は、協議会の会議を招集し、その議長となる。

２　会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した会員が、その職務を代行する。

３　協議会の会員がやむを得ない事由により欠席するときは、会長が指名した物が代理出席することができる。

４　協議会の会議は、会員の過半数以上の出席がなければ開くことができない。

５　協議会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

６　協議会は、会長が必要と認めたときは、会員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（審議結果の報告）

第５条 会長は、協議会において審議した結果を看護学科会議に報告しなければならない。

（委任）
第６条 この規程に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

（委員会の庶務）
第７条 協議会の庶務は、学務課において行う。

（改正）
第８条 この規程の改正は、看護学科会議の議を経て行う。

附則
この規程は、令和×年×月×日から施行し、令和×年×月×日から適用する。

看護学臨地実習要項(案)

周南公立大学人間健康科学部看護学科(仮称)

目次

看護学実習概要
Ⅰ.看護学科における基本的な考え方
１．看護学科の教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
２．本学科における看護学実習の位置づけ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
３．看護学実習の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
４．看護学実習の目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
５．看護学実習方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
６．看護学実習評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅱ．実習の留意事項
１．看護学生としての実習上の心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅲ．臨地実習における倫理
１．学生が提供できる最善の看護の提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
２．守秘義務・プライバシーへの拝領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
３．個人情報の保護 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅳ．感染予防対策
１．自分の健康に留意する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２．自分自身が感染源とならない ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
３．感染症検査・抗体価の確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
４．臨地実習における新型コロナウイルス感染症に関連した対策 ・・・・・・・・・9

Ⅴ．医療事故発生時の対応
１．注意義務について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅵ．ハラスメントなどが発生した場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

Ⅶ．災害時の対応・二次災害の予防
１．災害情報の入手方法・避難経路の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
２．災害発生時の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
３．大規模地震発生時の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
４．風水害・積雪時の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅷ. 学生保険について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅸ. 資料

別紙１．看護学実習説明・協力依頼書（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

別紙２．看護学実習における学生受け持ち同意書（案）・・・・・・・・・・・・・・・14

別紙３．実習施設における実習などの誠実な履行並びに個人情報等及び実習施設の
法人機密情報の保護に関する説明文書（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・15

別紙４．実習施設における実習などの誠実な履行並びに個人情報等及び実習施設の
法人機密情報の保護に関する誓約書（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・16

別紙５．実習委託契約書（案） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

別紙６．アクシデント・インシデントフローチャート・・・・・・・・・・・・・・・21

別紙７．COVID-19 対応フローチャート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

別紙８．臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書＜学生用＞・・・・・23

別紙９．臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書＜教員用＞・・・・・24

別紙 10. 臨地実習におけるハラスメント申し立て書・・・・・・・・・・・・・・・・25

別紙 11. 感染症検査結果覚書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

本学は、公正な社会観と正しい倫理観の確立を基にした「知・徳・体」一体の全人教育を通して総合的かつ専門的な知識、学術を教授研究し、世界的な視野と広く豊かな教養を有し、地域に新たな価値を創造する人材を育成するとともに、地域との連携を深め、地域の政策課題の解決や活力豊かなまちづくりの実現に寄与するなどその教育研究成果を広く社会に還元することで、地域社会及び産業の持続的な振興、発展に貢献することを目的とする。

本学が地域の持続的発展と新たな価値を創造するための「成長エンジン」となり、教育・研究・社会連携活動を通して地域の well-being を高め、地域住民が豊かな生活を送ることができる「日本一のまちづくりの中核」としての役割を果たし、「地域に輝く大学」になるためには、不断に変容する地域及び社会課題の解決に相応しいコンピテンシーを有する人材を育成することが不可欠である。

これらの人材は、単に医療・福祉・スポーツ健康科学諸学問の専門性を深く学び、地域の人と社会の健康を実証的に分析・解明する能力を獲得するだけでなく、これら学問の横断分野と幅広い教養、経済・経営や情報リテラシーなどを融合的に学修することによって、人間の健康を多面的に捉え向上させる能力を獲得する。

また、医療・福祉・スポーツ健康科学分野の専門的学術情報に加え、健康に関する教育・研究成果を発信することによって、地域住民のリカレント教育に貢献すると共に行政と連携した健康なまちづくりの実践を世界へ展開することに努める。

看護学教育の目的は、専門職としての看護ニーズを的確に判断し、適切なケアを提供する看護の実践者を育成することである。臨地実習は実際の看護の場での体験を通して、人間、健康、環境に対する理解を基盤とし、既習の知識と技術、専門職としての倫理観と態度を統合し、看護実践の基礎的能力を養うことを目的とする。

Ⅰ.看護学科における実習の考え方

本学の特徴として、地域の生活者とパートナーシップを基盤として、地域の保健、医療における課題を見出し、地域住民の健康づくり、あらゆる健康状態にある人のその人らしく、より豊かに生きる対象者の力を引き出す看護実践能力を身につけた人材を養成するために段階的な実習を実施する。

1 年生では、生涯発達し続ける存在である人間のあらゆる健康レベルを理解する第一段階として、地域に暮らす人びとや人の生活、人の健康の捉え方を知り、自分らしくがより豊かに生きること、な健康生活について理解することを目的として、「well-being 実習Ⅰ」、「well-being 実習Ⅱ」を実施する。

2 年生ではコミュニケーションや看護の基礎技術を学ぶために「基礎看護実習Ⅰ」「基礎看護実習Ⅱ」を実施する。

3 年生では専門領域の看護実践能力を養うために、「母性看護実習」、「小児看護実習」、「成人急性期看護実習」、「成人慢性期看護実習」、「高齢者看護実習」、「地域・在宅看護実習」、「精神看護実習」を実施する。

4 年生では、「統合実習」で、既習の知識や技術を統合して、複数課題に対応する看護実践や専門領域特有の看護実践、管理的な視点、多職種連携協働における看護職者の役割・機能の強み、課題を理解する実習を経験した後、「well-being 実習Ⅲ」で、生活者の健康を総合的に捉え，地域や住民の生活の特徴を踏まえ、地域の住民、関係機関及び多職種・他業種との連携協働により、地域

住民が生涯その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護活動に必要な基礎的能力を身につる。

１．看護学実習の目的

臨地実習は実際の看護の場での体験を通して、人間、健康、環境に対する理解を基盤とし、既習の知識と技術、専門職としての倫理観と態度を統合し、看護実践の基礎的能力を養うことを目的とする。

２．看護学実習の目標

看護学実習では、あらゆる発達段階、あらゆる健康状態にある看護の対象者に対し、その人々が生活する多様な場において実際に看護援助を行うことによって、看護の本質を考察するとともに、以下の看護実践能力を養う。

① 看護実践に必要なコミュニケーション能力を身につける。
② 看護の対象者の主体性や価値観を尊重した態度を身につける。
③ 看護の対象者の様々な生き方を理解し、感性を磨き、倫理観を身につける。
④ 看護の知識・技術・態度を統合した看護実践能力を身につける。
⑤ 地域社会に必要な支援を考え、包括的ケアを担う能力を身につける。
⑥ 保健医療チームの一員として多職種・他業種と連携協働する能力を身につける。
⑦ 対象者の日常を理解し、より健康で幸福な生活（well-being）について考えることができる。

3. 看護学実習方法

看護学実習は、以下のように実施する。

＜看護師課程＞

科目名	単位	学年
well-being Ⅰ(地域の成人・高齢者)	1単位	1年前期
well-being Ⅱ(地域の幼児・学童期)	1単位	1年前期
基礎看護実習Ⅰ	1単位	2年前期
基礎看護実習Ⅱ	2単位	2年後期
母性看護実習	2単位	3年後期
小児看護実習	2単位	3年後期
成人急性期看護実習	2単位	3年後期

成人慢性期看護実習	2単位	3年後期
高齢者看護実習	2単位	3年後期
精神看護実習	2単位	3年後期
地域・在宅看護実習	2単位	3年後期
統合実習	2単位	4年前期
well-being Ⅲ(地域の健康課題)	2単位	4年前期

＜保健師課程＞

公衆衛生看護実習Ⅰ	3単位	4年通年
公衆衛生看護実習Ⅱ	2単位	4年通年

4. 看護学実習評価

1)実習評価とその条件

(1)実習評価は、看護学実習出席時間数、実習態度、事前・事後学修の状況、課題の提出状況、課題の内容、各実習に明示された目標到達度から総合的に判断される。

(2)実習評価は、周南公立大学履修規定に基づき、単位認定される。

(3)各看護学実習の出席総時間数が4/5に満たない場合は、原則として再履修となる。ただし、忌引、疾病、その他やむを得ない理由で欠席した場合は、科目担当教員の判断によって補習実習を行うことがある。

2)補習実習について

(1)やむを得ない理由を証明する書類(疾病の場合は医師の診断書、その他の場合は証明書または理由書)を添えて、欠席届を科目担当教員に提出する。

(2)補習実習は、実習施設と調整のうえで実施される。

3)実習の履修要件について

詳細については、各実習のシラバス「履修要件」を参照する。

Ⅱ. 実習の留意事項

1. 看護学生としての実習上の心得

1)臨地実習は看護を学んでいく上で、病気や障がいを持ちながら地域で生活している人々、治療のために病気と闘いながら入院している人々から学ばせていただく貴重な機会であることを十分に認識し、謙虚に学ぶ姿勢を持つ。

2)看護の対象者の生命を尊重し、人間としての尊厳および権利を擁護し尊ぶ姿勢を持つ。

3)これまで学んできた知識や技術を活用できるよう十分に予習・復習をして実習に臨む。

4)学修のプロセスで生じた疑問や意見は、教員および指導者への質問、他者との意見交換などを通して、理解を深めていく。

5)対象の人々との関わりから看護の本質を探究し、人々をケアすること、学ぶことの喜びを持ち続けられるよう自己のあり方を振り返る姿勢を持つ。

Ⅲ. 臨地実習における倫理

1. 学生が提供できる最善の看護の提供

1)既習の学習内容に基づき、学生が提供できる看護が安全・安楽に実施できるように努力し自己研鑽に努める。

2)看護ケアを実践する際には、実習担当教員および実習指導者と必要性、方法、安全性等の確認・調整を十分に行う。

3)看護ケアの実施にあたっては、受け持ち対象者および家族に十分に説明をし、同意を得てから行う。

4)看護ケアを実施する際は、必ず実習担当教員または実習指導者の指導の下で行う。

5)学生は、受け持ち対象者に事故の危険がある、または危害が及ぶ可能性があると気が付いた際には、速やかに実習指導者もしくは実習指導者に報告する。

2. 守秘義務・プライバシーへの配慮

1) 受け持ち対象者および家族の個人情報については、学習上の必要がある場合を除き、特定の場所以外で口外しない。特に不特定多数の方がいる病院内や公共交通機関等では、厳重に慎む。

2) 受け持ち対象者及び家族に関する情報を記録したものの取扱いには十分留意する。

3) 診療記録等に記載されていても、受け持ち対象者および家族に知らせていない場合があるので、守秘義務を遵守する。

4) 看護ケアを通じて知り得た情報は治療上必要な情報として、必ず実習担当教員や実習指導者に報告する。

5) ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS:Twitter、Facebook、LINE、ブログ等)には、学生間のやり取りであっても、実習に関する全ての情報(実習施設に関すること、実習中の出来事、気持ちのつぶやき、写真等)を載せてはならない。

6) 施設の写真、受け持ち対象者やスタッフとの写真を撮ることまたは撮られることはしない。

3. 個人情報の保護

医療情報は業務上知り得る個人のプライバシーであり、取り扱いに際しては守秘義務を遵守する。実習に関する記録物、メモ等の情報が記載されているもの管理には特に留意する。

1) 個人情報へのアクセス

(1)カルテ等の閲覧は、原則として受け持ち対象者のみとする。

(2)カルテ等の閲覧は、施設内の決められた場所で行う。

(3)申し送りやカンファレンスへの参加は、受け持ち対象者およびそれに関わる必要最小限の範囲とする。

2) 実習記録物の記載方法・取扱い

(1)個人を特定する情報(住所、生年月日、施設名・病棟名、家族歴や遺伝情報等)は原則とし

て記載しない。ただし、学習上必要な情報を記載した場合は、厳重に取り扱う。
(2) 実習記録は指定された用紙に記載する。
(3) 実習記録は、可能な限り実習時間内に行う。公共交通機関や飲食店、友人の自宅などでは、決して記録は行わない。
(4) 実習記録物をフラッシュメモリーに保存する際は、個人を特定する情報を記載していないか確認し、必要時はパスワードを付与する。

3) 記録物の管理方法
(1) 記録物は紙媒体の記録およびパソコン使用時の留意点を厳守する。
(2) 実習に関するメモ用紙はノート状のものを使用する。リーフ上の用紙は紛失の危険があるので使用しない。メモ用紙を携帯する際には、ストラップや紐を使用し紛失を防ぐ。
(3) メモ用紙は、実習終了後、他の記録用紙とともに実習担当教員に提出する。

4) 複写の制限
学習上の観点から、複写が必要な場合は実習担当教員が行う。また、複写物は、実習担当教員が責任をもってシュレッダーにかける等の処理を行う。

5) 記録物紛失時の対応
実習に関わる記録物を紛失した場合は、「アクシデント(事故)発生時の報告フローチャート」に基づいて対応する。

Ⅳ. 感染予防対策

1. 自分の健康に留意する
1) 実習にあたり体調の自己管理を行う。
2) 体調不良時は、十分に休養を取り、早期に医療機関を受診することが望ましい。
3) 実習開始 2 週間前より検温、症状、外出状況などの記録を行い、実習開始時に担当教員へ提出する。
4) 実習当日の朝及び昼休憩終了後に検温及び症状の記録を行う。発熱時は実習を中止し医療機関を受診する。
5) 実習中に結核患者、他感染症の患者と接触した可能性がある場合は、速やかに実習担当教員、実習指導者の指示に従い、病院の感染対策に準じて行動する。

2. 自分自身が感染源とならない
1) スタンダード・プリコーション(標準予防策)に沿って行動する。
2) 発熱、咳等の呼吸器感染が疑われる場合は、直ちに実習担当教員および実習指導者に相談し、指示を受ける。
3) 下痢や発熱などの消化器感染症の症状がある場合は、速やかに実習担当教員に報告し、適切な対応を行う。

3．感染症検査･抗体価の確認

1)小児感染症(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)の抗体価を入学時までに測定し、抗体価が基準値未満の場合は、速やかに予防接種を受ける。ワクチンの接種ができない場合はその理由書を提出する。感染症検査結果覚書に記入し、必要に応じて提示できるようにする。

2)実習施設規定の期限までに、上記小児感染症の抗体価、予防接種証明を実習施設に提出しなければ、実習参加が認められない。

3)B 型肝炎の抗体価が基準値未満の場合は、基礎看護実習Ⅰまでに接種を終了する。

4)インフルエンザの予防接種は 10 月中旬までに受け、領収書または接種証明を保管しておく。

5) 結核の感染検査(QFT 検査)は、入学後に実施し、判定保留(不可)の場合は、再検査を実施する。

6) 保育園、小児看護学実習は、免疫系の発達が未熟で感染を起こしやすい子どもたちと接する実習であるため、確実な腸内細菌検査が求められており、実習開始までに医師の指示による治療が必要な場合がある。検査と治療については指示を守る。

4．臨地実習における新型コロナウィルス感染症に関連した行動指針

1）感染しないために重要なこと

（1）自分が感染しない感染予防行動がとれること（不織布マスクの着用、３密の回避、手指の消毒など）

（2）濃厚接触者にならないこと

◎濃厚接触者の定義

「同居あるいは長時間の接触、１メートル以内で、必要な感染予防策なしで、陽性者と 15 分以上の接触があった者」

（3）実習前・中は、家族の協力を得て家庭内感染をおこさないように対策がとれること

（4）同居者も含めて、感染が疑われる時、濃厚接触者になった時、濃厚接触者が疑われる時は、フローチャートの行動が正しくとれること

（5）同居者も含めて、感染症に罹患したあるいは濃厚接触者となった場合は、大学への連絡、医療機関の診断（PCR 検査等）、実習施設の方針・了解が必要となり、実習がすべて出席停止となる。各居住地域の保健所から、その後の対応についての連絡を受ける

（6）実習の出席停止期間の基準は、感染者と最後に濃厚接触をした日から 7 日間

（7）発熱等の風邪の症状がみられる時は、自宅で休養する（出席停止）

（文部科学省　2020 年 4 月 17 日）

（8）実習終了後 2 週間以内に感染症状があった場合は、直近の実習担当教員に報告する。

2）臨地実習を行う前提条件

（1）スタンダードプリコーションを理解し、日常的に感染予防行動できていること

（2）「１日の健康行動記録」へ、毎日の健康管理、行動管理の記録ができていること

（3）３密を避ける行動ができていること

（４）実習前に誓約書を記載し、内容に相違がないことを実習担当教員と共に確認できていること

Ⅴ．医療事故発生時の対応

1．注意義務について

学生は、実習中、事故の発生を防止するために実習担当教員または実習指導者の指導の下に実習を行い、受け持ち対象者の安全の注意義務を遵守する。

1） 定義

(1) インシデントとは

誤った医療行為等が実施される前に発見されたもの、あるいは誤った医療行為等が実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったものをいう。ヒヤリ・ハットは同じ意味で用いている。

(2) アクシデント（事故）とは

医療行為によって何らかの傷害が患者に及び、既に損害が発生しているものをいう。不可抗力によるもの、自傷行為等も含まれる。

2） 対応

(1) インシデント

① インシデント事案が発生した場合は、学生は速やかに実習担当教員・実習指導者・担当スタッフに報告する。

② インシデントに関わった学生は、「臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書＜学生用＞」を実習担当教員に提出し、振り返りを行い、今後の自己防止に努める。

③ 「臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書＜学生用＞」を提出しても不利益は被らない。

(2) アクシデント（事故）

①事故発生時、学生は直ちに実習担当教員および実習指導者に報告し指示に従う。

（アクシデント（事故）発生時の報告フローチャート）

②学生は、実習担当教員および実習指導者とともに受け持ち対象者の状態を把握し、適切な初期対応を行う。

③実習担当教員は、実習指導者と今後の対応について協議する。

④応急処置および報告後に、速やかに「臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書＜学生用＞」を実習担当教員に提出する。

⑤受け持ち対象者の個人情報管理、所持品の紛失および破損、物品の破損が発生したときも同様に報告する。

Ⅵ．ハラスメントなどが発生した場合

実習期間中にハラスメントなどが生じた場合「臨地実習におけるハラスメント申し立て書」に必要事項を記載し、ハラスメント相談窓口に提出する。その他、学内の相談員への相談もできる。

Ⅶ. 災害時の対応・二次災害の予防

ここでの災害とは、地震、風水害・積雪・火災を指す。

普段から、実習担当教員の実習用携帯電話の番号を自身の携帯電話に登録しておく。

1．災害情報の入手方法・避難経路の準備

1） 実習担当教員の実習用携帯電話番号、実習グループメンバーへの連絡情報を確認する。

2） 天気予報などの情報に注意する。

3） 施設の避難経路（非常口、避難場所）、消化器の位置を確認する。

2．災害発生時の対応

1） 自分の身を守る。

2） 実習担当教員および実習指導者の指示に従う。

3） 連絡・相談を行う。

3．大規模地震発生時の対応

1） 地震発生直後

(1) 自身の身を守る。

①出口を確保する。

②転倒、壊れやすいもののそばから離れ、頑丈なもので身を守る。

③エレベーターは使用しない（すぐに降りる、閉じ込められたら非常ボタンを押す）

(2) 実習担当教員および実習指導者の指示に従う。

(3) 実習の続行の可否については、実習担当教員の指示に従う。

(4) 帰宅の指示が出た場合は、安全な帰路を選択し、帰宅後は実習担当教員に安否を報告する。常に実習担当教員と学生の連絡方法を確認する。

(5) 訪問先で大規模地震に遭遇した場合は、原則として実習施設の戻り、実習担当教員および実習指導者の指示に従う。

(6) 実習担当教員と連絡が取れない場合は、身の安全を第一に、状況判断し、近隣の安全な場所に避難し、時間が経過しても連絡が取れない場合は、災害伝言ダイヤル（171）と大学に連絡する。

(7) 大規模地震後は、大学からの安否確認メールが届くので、必ず返信する。

4．風水害・積雪時の対応

1）暴風や豪雨、積雪の程度、公共交通機関への影響によって、実習を中止する場合がある。大学から Teamsに連絡が入るので、各自確認する。当日の不測の事態に対しては、実習担当教員の指示に従う。

(1) 居住地域、周南地区に「暴風警報」「大雨警報」「大雪警報」が発令されていないか、交通機関の運行遅延、運行停止がないか留意する。

(2)当日朝までの実習中止、日中の実習中断、早期帰宅等は、大学の指示に従う。

(3)実習当日 6 時 00 分までに警報解除・運行再開した場合は、通常実習とする。解除されない場合は、実習担当教員の指示に従う。

2)実習中に風水害・積雪に遭遇した場合の避難や連絡、判断等は、地震発生時と同様とする。

Ⅷ. 学生保険について

実習中および自宅と臨地実習場の移動中に想定される事故等について、学生は原則として入学時から卒業時まで、総合保障制度に加入していることとする。

周南公立大学　人間健康科学部看護学科
看護学実習説明・協力依頼書（案）

（　　*対象者氏名*　　）様

周南公立大学（　　*実習名*　　）にあたり、看護学生の実習受け持ちを承諾して頂きますようお願い致します。

受け持ち期間中にさせて頂くことは、以下の内容でございます。

（1）対象者様から、お体の状態や生活状況などのお話を聞かせて頂きます。
（2）看護を行う場合は、事前に十分な説明をした後、対象者様および状況に応じてご家族の方の同意を得てから行います。
（3）看護を行う場合は、実習指導者（看護師・助産師・保健師）や指導教員（周南公立大学教員）の指導の下、安全性の確保を最優先に実施致します。
（4）看護の内容は、対象者様の治療や検査等の見学や介助、療養や生活に必要な身の回りの援助、リハビリ訓練に対する援助などです。
（5）熟練した技術が必要な援助（例えば、注射、採血など）につきましては、学生は実習指導者や担当看護師・助産師・保健師の実施を見学させて頂きます。
（6）対象者が学生の受け持ちに同意いただいた後、学生が行う看護をお断りになることも可能です。お断りになっても、入院中・入所中において不利益を被ることはございません。
（7）学生が得た対象者様およびご家族の方に関する情報は、実習指導者や指導教員の指導の下、実習中の看護に役立たせて頂きます。対象者様およびご家族の方に関する情報は、学習目的にのみに使用し、関係者以外には伝わらないよう、プライバシーの保護に十分に留意いたします。

受け持ち期間中に不都合なことがございましたら、ご遠慮なく指導教員、実習指導者、実習施設責任者のいずれかにお知らせください。

記

1）　実習期間：令和　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）
2）　実習生：周南公立大学人間健康科学部看護学科　〇年生（　　*学生氏名*　　）

以上

説明日：　令和　　年　　月　　日
説明者：　周南公立大学健康科学部看護学科（　*実習指導教員名*　）
　　〇〇〇〇病院　　（　*実習指導者名*　　）
問い合わせ窓口：〒745-8566　山口県周南市学園台 843-4-2
　　周南公立大学人間健康科学部看護学科　教務学生係　0834-28-0411（代）

周南公立大学　人間健康科学部看護学科
看護学実習における学生受け持ち同意書（案）

私は、周南公立大学人間健康科学部看護学科〇年生（　　*学生氏名*　　）が、

（　　*実習部署名*　　）における看護学実習において私の受け持ちとなり、

看護を行うことについて別紙の通り説明を受け、納得したので同意します。

令和　　年　　月　　日

氏名：（　　）

代理同意人氏名：（　　）

周南公立大学人間健康科学部看護学科
実習施設における実習等の誠実な履行並びに個人情報等
及び実習施設の法人機密情報の保護に関する説明文書（案）

本説明文書は、周南公立大学人間健康科学部看護学科（以下、「本学」という。）のカリキュラムとして行われる実習施設における実習・研修・見学（以下、「実習等」という。）において本学学生が守るべき事項のうち、特に、実習等の誠実な履行、実習等に関連して本学学生が取得した個人情報、秘密及びプライバシー（以下、「個人情報等」という。）の保護、実習施設の法人機密情報の保護に関するものである。

１　実習等の誠実な履行

本学学生は、実習施設の定める諸規則・心得等を尊守し、実習指導者の指示に従って、実習等を誠実に履行する。

２　個人情報

１）「個人情報の保護に関する法律」において個人情報とは、生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）をいう。なお、死亡者に関する情報においても同様に扱うこととする。

２）個人情報とは氏名、性別、生年月日等個人を識別する情報に限られず、個人の身体、財産、職種、肩書等の属性に関して、事実、判断、評価を表すすべての情報であり、評価情報、公刊物等によって公にされている情報や、映像、音声による情報も含まれ、暗号化されているか否かを問わない。

３　個人情報等の適正管理

１）本学及び本学学生は、個人情報の保護に関する法律、本学が定める個人情報保護規定及び実習施設の定める個人情報保護規定・機密保持規定等に従って個人情報等を適正に管理する。

２）個人情報等を記録した文書、パソコン、記憶媒体などが紛失あるいは盗難に遭わないように最大限に配慮し、注意する。

３）以下に掲げる行為は個人情報等の適正管理を妨げるものであり、本学学生はこれらの行為を行ってはならない。

(1) 個人情報等を実習施設の許可なしに、実習等以外の目的に使用すること
(2) 実習施設の文書による許可なく個人情報等を第三者に提供すること
(3) 個人情報等を実習施設の許可なしに、複製・複写すること
(4) 個人情報等を実習施設の許可なしに、実習施設の指定した場所以外へ持ち出すこと
(5) 個人情報等を実習施設の許可なしに、破棄すること

４）本学学生は、実習等の終了後においても、個人情報の保護義務を負う。

４　実習施設の法人機密情報の保護

１）本文書の「実習施設の法人機密情報」とは、以下の情報をいう。

(1) 実習施設の経営及び事業運営に関する情報で公知でないもの

(2) 公知であっても、第三者に提供されることによって実習施設の権利利益が損なわれるおそれのある情報

２）以下は、本文書の実習施設の法人機密情報の対象ではない。

(1) 情報取得時に既に公知であった情報

(2) 情報取得後、本学学生の責によらず公知となった情報

(3) 情報取得時に既に本学学生が保有していた情報

(4) 正当な権限を有する第三者から秘密保持義務を負わず入手した情報

(5) 法令その他に基づき公的機関等により開示を要求された情報

３）本学学生は、実習施設における実習などにおいて、法人機密情報の保護業務を負う。法人機密情報の適正管理については、前項の個人情報等の適正管理に従う。

５　周知徹底の義務

本学は、本学学生に対し、個人情報等及び法人機密情報の保護義務を履行するために、個人情報等及び法人機密情報の保護の取り扱いについて、周知徹底しなければならない。

６　誓約書の提出

本学学生は、以上の条項を理解した上で、これを遵守する証として、「実習施設における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び実習施設の法人機密情報の保護に関する誓約書」か「個人情報に関する誓約書」を提出する。

周南公立大学人間健康科学部看護学科
実習施設における実習等の誠実な履行並びに個人情報等
及び実習施設の法人機密情報の保護に関する誓約書（案）

周南公立大学長　　殿

1　私は、周南公立大学人間健康科学部看護学科学生として、実習施設において実習・研修・見学（以下、「実習等」という。）を行うにあたり、「周南公立大学人間健康科学部看護学科実習施設における実習等の誠実な履行並びに個人情報等及び実習施設の法人機密情報の保護に関する説明文書」の事項を十分に理解しましたので、これを遵守いたします。

2　私は、実習施設の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の支持に従って、実習等を誠実に履行いたします。

３　私は、実習等の期間中はもちろん、その後においても、実習等において知り得た個人情報等及び法人機密情報を第三者に漏洩いたしません。

４　私は、私の故意または過失により、実習施設、その関係者、あるいは第三者に事故、器物破損、個人情報等及び法人機密情報の漏洩その他の損害を与えた場合は、その賠償責任を負います。なお、大学が賠償を負担した場合は、大学の求償に応じます。

以上、誓約いたします。

令和　　年　　月　　日

学籍番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習委託契約書（案）

《実習委託施設》（以下、「甲」という。）と公立大学法人周南公立大学（以下、「乙」という。）は、甲の施設において乙の学生（以下、「実習生」という。）の実習（以下、「実習」という。）を実施するにあたり、次のとおり委託契約を締結する。

（総則）

1.　乙は、甲に対し、次のとおり実習の実施を委託する。
1.　対象者　周南公立大学人間健康科学部看護学科学生
2.　実習期間　令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日まで（延べ〇日間）
3.　実習内容　病院・施設における看護学科学生の実習

（実習の実施方法）

2.　　甲は、乙が示した「実習要項」に基づいて、実習指導教員と実習方法について協議しながら、実習を実施する。

（実習教育費）

第３条　乙は、甲に対し、第１条に規定する実習生に対する実習期間内の実習教育費として、実習生一人あたり金　　円（消費税含む）を支払うものとする。

２　甲は、実習を完了したときは、乙に対して遅滞なく委受託契約完了報告書兼請求書を提出しなければならない。

３　乙は、実習教育費を前項の委受託契約完了報告書兼請求書を受理した月の翌月末までに支払うものとする。

４　実習教育費には、実習に伴う諸経費および教材備品に要する費用の一切を含むものとするが、実習に要する交通費については、実習生が負担する。

（実習生の健康状態）

第４条　本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に問題が生じた場合には、甲乙双方は協議の上、当該実習生の実習を中断または中止することができる。

（実習生への規則順守の徹底）

第５条　乙は、実習生が実習を行うにあたり、事前に甲が定めた諸規則・心得等を遵守し、かつ実習指導者の指示に従うように実習生を指導する。

（個人情報、秘密およびプライバシー（以下、「個人情報等」という。）の保護）

第６条　甲乙双方は、実習の実施にあたって、学生が受け持つ人をはじめとする甲の保有する個人情報等および実習生の個人情報等の漏洩などが生じないように、個人情報等を適正に管理する。

２　前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の取扱いについて説明文書をもって周知徹底し、乙と実習生との間で個人情報の保護に関する誓約書を取り交わすものとする。

３　乙は、甲の求めがある場合、前項の説明文書および誓約書を開示するものとする。

４　乙は、実習生に対し、実習終了後も個人情報の保護を徹底するよう指導監督する。

５　甲は、実習終了後も実習生の個人情報を適正に管理する。

６　甲乙双方は、実習の実施にあたって知り得た他人の秘密およびプライバシーについて適正に管理する。

（個人情報等の保護状況の報告および調査）

第７条　甲は、乙に対し、実習中および実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求めることができるものとし、乙は遅滞なくこれに応じるものとする。

２　甲は、乙に対し、実習中および実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査することができるものとし、乙は、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

（法人機密情報の保護）

第８条　本契約における「甲の法人機密情報」とは、以下の情報をいう。

1.　甲の経営および事業運営に関する情報で公知でないもの

2.　公知であっても、第三者に提供されることによって甲の権利利益が損なわれるおそれのある情報

２　乙は、実習の実施にあたって、甲の法人機密情報の労災などが生じないように、法人機密情報の管理について実習生に適切な指導をする。

（実習の中止）

第９条　甲または乙は、実習生が以下に示す事項に該当すると判断した場合は、甲乙協議の上、当該実習生の実習を中止させることができる。

1.　甲の定める諸規則・心得等に違反した場合

2.　甲の施設内の秩序あるいは規律を乱す事由があると認めた場合

3.　個人情報等の保護に関して問題があった場合

4.　甲の法人機密情報の保護に関して問題があった場合

5.　実習生の実習態度の不良などにより実習の目的を果たし得ないと判断した場合

6.　甲による実習指導の継続が不可能となった場合

7.　甲と実習生との間に解決しがたい問題が発生した場合

２　実習の継続が不可能になった場合は、実習教育費に関して甲乙協議の上、解決するものとする。

（実習生の疾病および傷害）

第１０条　実習生の実習期間中における疾病および傷害、または実習を原因として実習後に生じた疾病および傷害については、甲の故意または過失による場合を除き、乙の責任において対処するものとする。

（損害賠償）

第１１条　実習生の故意または過失により、甲に事故、器物破損、機密情報の漏洩その他の損害を与えた場合は、乙は甲に対し、実習生と連帯してその賠償責任を負うものとする。

（第三者損害賠償）

第１２条　実習生の故意または過失により、甲以外の第三者に人的または物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問われる分奏または訴訟が発生した場合は、乙は、

その当事者として誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。
２　前項の賠償負担の割合および求償については、甲乙協議の上決定するものとする。

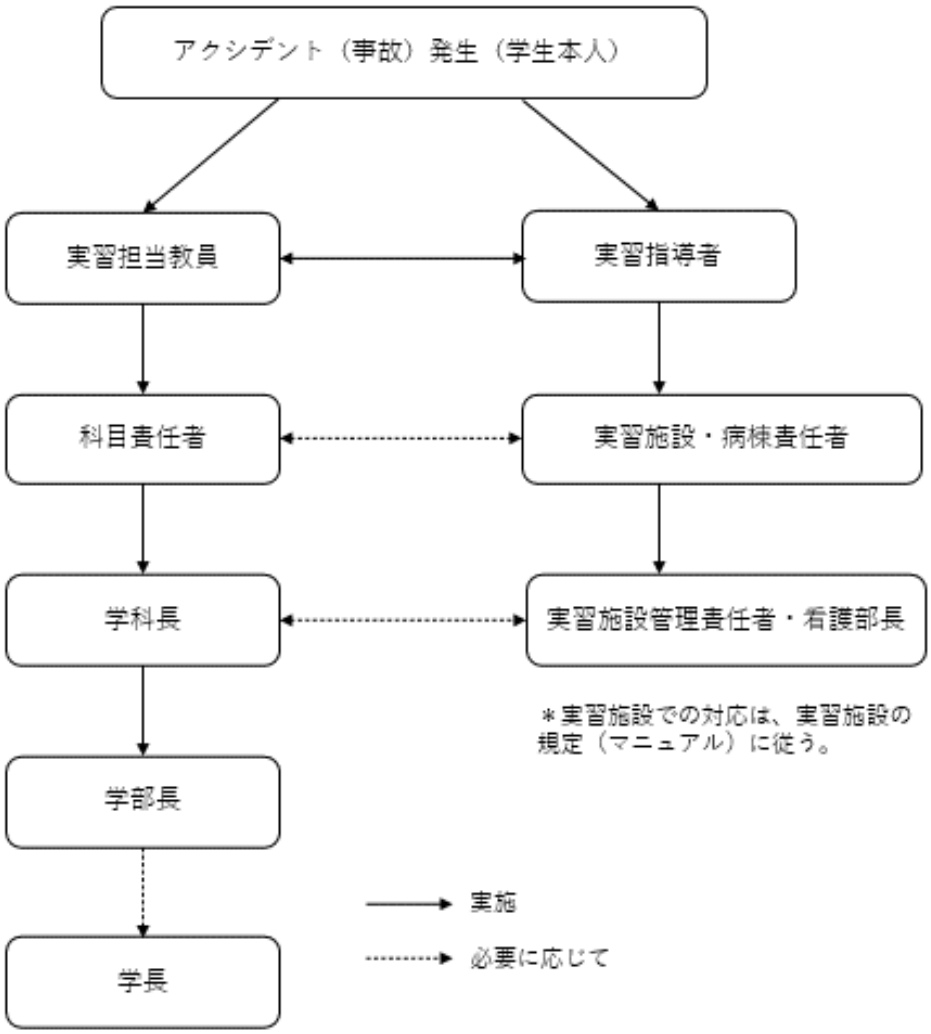
（その他の事項）
第１３条　本契約に定めない事項および契約条項に疑義が生じた場合または変更については、それぞれ甲乙協議の上解決する。

本契約の締結を証するため、本契約書２通を作成し、両者記名押印のうえ、各自その１通を保有するものとする。

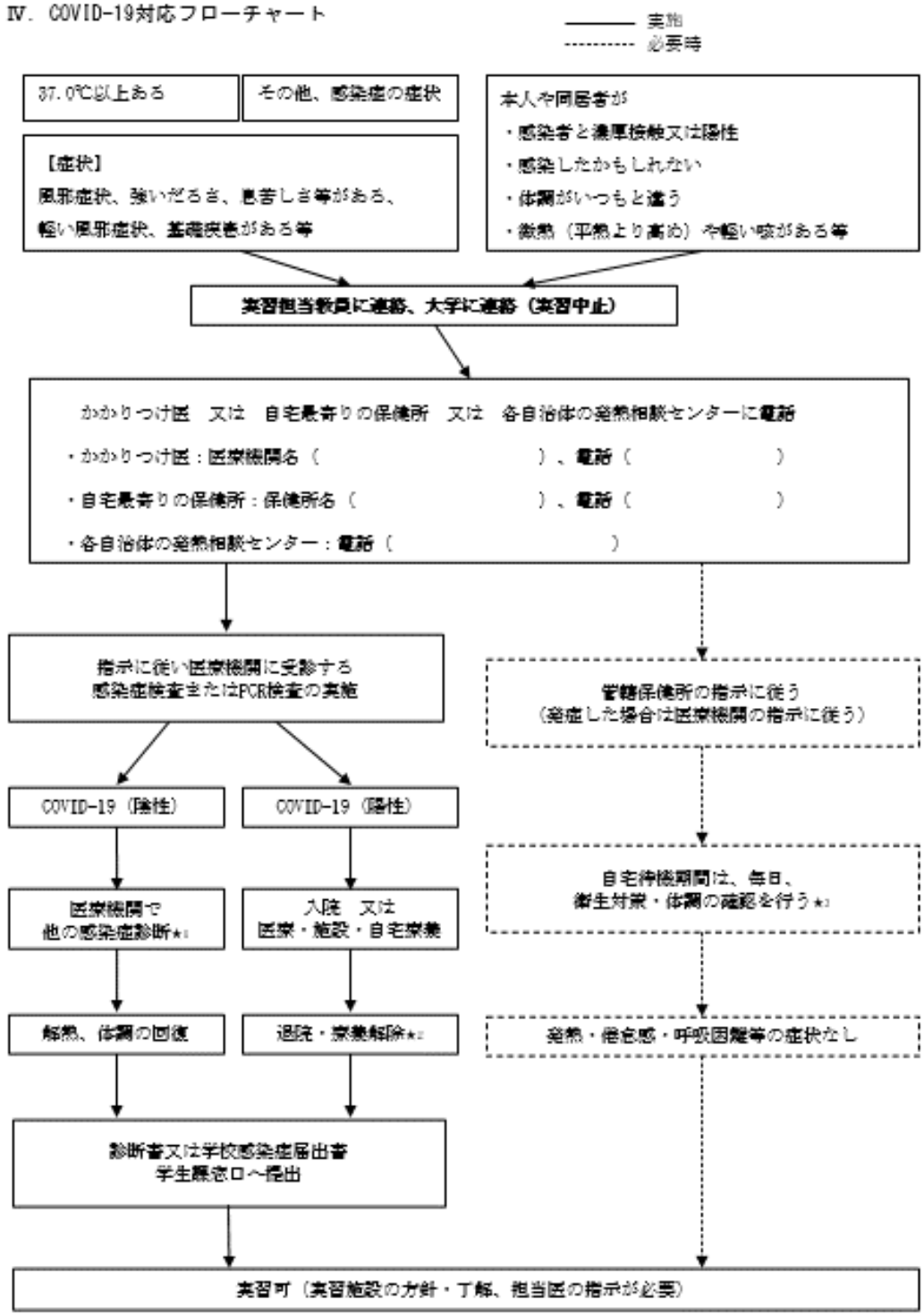
令和　　年　　月　　日

甲　《住所》
　　《法人代表者》

乙　山口県周南市学園台 843-4-2
　　公立大学法人周南公立大学
　　理事長　髙田　隆


アクシデント（事故）発生（学生本人）
実習担当教員
実習指導者
科目責任者
実習施設・病棟責任者
学科長
実習施設管理責任者・看護部長
＊実習施設での対応は、実習施設の規定（マニュアル）に従う。
学部長
学長
実施
必要に応じて
＊損害賠償保険対応の場合は大学学生課へも連絡する
連絡先
（平日昼間９時～17時50分）
公立大学法人周南公立大学
0834-39-0411（代表）

Ⅳ. COVID-19対応フローチャート



★1：他の感染症の診断があれば学校保健安全法に基づく設備基準に従って行動する。
★2：実習は退院・療養解除後も中止のままとし、毎日衛生対策・体調の確認を行う。（厚労省2/6）
★3：濃厚接触者の自宅待機期間（健康観察期間）は、厚生労働省の最新の情報に準ずる。

周南公立大学健康科学部看護学科
看護学科長　　様

臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書〈学生用〉

令和　　年　　月　　日

学生番号　　学生氏名

１．実習科目および実習場所
実習科目：
実習場所：

２．　事故による被害者・加害者（いずれかに○）
氏名：　　性別：　　年齢：
入院：　　年　　月　　日（入院中の場合）
病名および病状等：
主治医等：

３．事故発生日時および場所
日時：　　年　　月　　日
発生場所（具体的）：発生の状況および経過等概略、学生自身の対応

４．発生防止にむけて
発生の原因、発生を防ぐために可能な対処、学生の課題

５．事故発生の報告先と報告日時
①教員
②実習指導者
③その他

６．事故対応後の必要および対応内容
対応：要・不要（いずれかに○）
対応者氏名：
対応内容：

教員署名

周南公立大学健康科学部看護学科
看護学科長　　様

臨地実習におけるインシデント・アクシデント報告書〈教員用〉

令和　　年　　月　　日

教員氏名

１．事故発生状況
実習科目：
実習場所：

発生日時：　　年　　月　　日
発生場所および状況：

２．学生への対応

３．対象および施設への対応

６．事故発生に関する分析および今後の対策

科目責任者署名

周南公立大学健康科学部看護学科
看護学科長　　様

臨地実習におけるハラスメント申し立て書

令和　　年　　月　　日

学生番号　　学生氏名

１．実習科目および実習場所
実習科目：
実習場所：

２．　事故による被害者・加害者（いずれかに○）
氏名：　　性別：　　年齢：
入院：　　年　　月　　日（入院中の場合）
病名および病状等：
主治医等：

３．ハラスメント発生日時および場所
日時：　　年　　月　　日
発生場所（具体的）：発生の状況および経過等概略、学生自身の対応

４．発生防止にむけて
発生の原因、発生を防ぐために可能な対処、学生の課題

５．事故発生の報告先と報告日時
①教員
②実習指導者
③その他
６．事故対応後の必要および対応内容
対応：要・不要（いずれかに○）
対応者氏名：
対応内容：

感染症検査結果覚書

ワクチン・検査の種類	接種／検査年月日	検査・判定結果（測定値・数値）	ワクチン接種年月日	備考 製造番号
麻疹	年　月　日		年　月　日	
風疹(はしか)	年　月　日		年　月　日	
水痘(水ぼうそう)	年　月　日		年　月　日	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ・ムンプス)	年　月　日		年　月　日	
QFT 検査 T-Spot	年　月　日		年　月　日	
麻疹・風疹混合ワクチン(MR)				
HBs 抗体	年　月　日		1 回目 年　月　日	
			2 回目 年　月　日	
			3 回目 年　月　日	
	検査日：　年　月　日　効果判定（　）			

インフルエンザの予防接種

接種年月日	備考	接種年月日	備考
年　月　日		年　月　日	
年　月　日		年　月　日	
年　月　日		年　月　日	
年　月　日		年　月　日	

教員ごとの科目担当時間割（4月）

領域	職位	月	4月																																																									
		週	1																														2																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付																			1						2						5						6						7						8						9					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																																		○						○	○	○											○							
	教授	上野和美																																		○		○				○	○												○			○				
	准教授	藤井宝恵																																		○						○	○																			○
	准教授	堂本司																																		○						○	○		○											○						
	講師	福森絢子																																		○						○	○													○						
	助教	磯濱真理子																																		○						○	○																			
成人急性期	教授	松浦純平																																									○										○						○	○		○
	講師	渡邉多恵																																											○														○	○		○
	助教	山田裕紀																																																												
成人慢性期	教授	岡田純也																																									○	○																		
	准教授	中谷信江																																																						○						
	助教	高橋登志枝																																																												
小児	教授	井上みゆき																															○					○																								
	教授	山本八千代																																							○																					○
	准教授	半田浩美																																				○			○	○														○						
母性	教授	大平光子																																													○															
	教授	渡邉淳子																																											○			○														
	講師	百田由希子																																	○	○																										
地域・在宅	教授	家根明子																																											○		○															
	講師	久乗エミ																																																	○	○										
	助教	堀井利江																																																	○	○										
精神	教授	羽生貞親																																											○																	
	准教授	大達亮																																							○							○								○						
高齢者	教授	田淵啓二																																					○																							
	講師	辻　麻由美																																																												
	助教	加茂尚子																																											○																	
公衆衛生	教授	鶴田来美																																			○		○	○			○	○									○	○			○	○			○	
	講師	田川紀美子																																										○																		
	助教	木倉悠子																																										○																		
助手	助手	A																																																												
		B																																																												
		C																																																												
		D																																																												
		実習助手																																																												
		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

教員ごとの科目担当時間割（4月）

領域	職位	月	4月																																																										
		週	3																														4																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	12						13						14						15						16						19						20						21						22						23					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵				○						○	○	○											○											○						○	○	○											○							
	教授	上野和美				○		○				○	○												○			○								○		○				○	○												○			○				
	准教授	藤井宝恵				○						○	○																			○				○						○	○																			○
	准教授	堂本司				○						○	○		○												○										○						○	○		○												○						
	講師	福森絢子				○						○	○														○										○						○	○														○						
	助教	磯濱真理子				○						○	○																							○						○	○																				
成人急性期	教授	松浦純平											○																○	○		○											○										○							○	○		○
	講師	渡邊多恵													○														○	○		○													○															○	○		○
	助教	山田裕紀																											○	○																													○	○		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○									○																				○	○																		
	准教授	中谷信江																								○																													○						
	助教	高橋登志枝																																																										
	教授	井上みゆき	○					○																									○					○																								
	教授	山本八千代										○																				○										○								○													○
	准教授	半田浩美						○			○															○												○				○														○						
母性	教授	大平光子			○	○																													○												○	○														
	教授	渡邊淳子			○	○									○		○																		○										○																	
	講師	百田由希子			○	○												○																	○	○																									
地域・在宅	教授	家根明子						○							○						○	○																○							○		○				○	○										
	准教授	久乗エミ															○				○	○																												○	○										
	助教	堀井利江																			○	○																									○				○	○										
精神	教授	羽生貞親									○				○			○								○															○				○			○							○						
	准教授	大達亮						○										○																				○										○														
高齢者	教授	田淵啓二							○																														○																						
	講師	辻麻由美																																																										
	助教	加茂尚子													○																													○																	
公衆衛生	教授	鶴田来美					○		○	○			○	○										○			○	○			○						○		○	○				○										○			○	○				
	講師	田川紀美子							○	○				○													○	○											○	○				○									○				○	○				
	助教	木倉悠子												○									○				○	○											○	○			○	○													○	○			○	
助手	助手	A																																																										
		B																																																										
		C																																																										
		D																																																										
		実習助手																																																										
		実習助手A																																																										
		実習助手B																																																										
		実習助手C																																																										
		実習助手D																																																										

教員ごとの科目担当時間割（4～5月）

領域	職位	月	4月																														5月																													
		週	5																														6																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	26						27						28						29						30						3						4						5						6						7					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵								○				○																																											○							
	教授	上野和美						○		○																		○																											○			○				
	准教授	藤井宝恵								○																						○																														○
	准教授	堂本司								○					○																																									○						
	講師	福森絢子								○																																														○						
	助教	磯濱真理子																																																												
成人急性期	教授	松浦純平											○																○	○		○																											○	○		○
	講師	渡邉多恵													○														○	○		○																											○	○		○
	助教	山田裕紀																											○	○																													○	○		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○																																							○									
	准教授	中谷信江																																																												
	助教	高橋登志枝																																																												
	教授	井上みゆき	○					○																																																						
	教授	山本八千代										○																				○																														○
	准教授	半田浩美						○			○																																								○	○								
母性	教授	大平光子				○					○																																																	
	教授	渡邉淳子				○						○			○																																													
	講師	百田由希子			○	○																																																						
地域・在宅	教授	家根明子						○							○																																		○	○										
	准教授	久乗エミ																																															○	○										
	助教	堀井利江																																															○	○										
精神	教授	羽生貞親									○				○			○																																				○						
	准教授	大達亮						○										○																																										
高齢者	教授	田淵啓二							○																																																			
	講師	辻麻由美																																																												
	助教	加茂尚子													○																																													
公衆衛生	教授	鶴田来美					○		○	○				○													○	○			○																						○			○	○			○	
	講師	田川紀美子							○	○																	○	○			○																				○				○	○			○	
	助教	木倉悠子											○														○	○			○																								○	○			○	
助手	助手	A																																																												
		B																																																												
		C																																																												
		D																																																												
		実習助手																																																												
		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

教員ごとの科目担当時間割（5月）

基礎Ⅰ（基礎）8〜9w　　　　統合実習（小児・母性・在宅・精神・公衆衛生）8〜9w

領域	職位	月	5月																																																											
		週	7																															8																														
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	10						11						12						13						14						17						18						19						20						21					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵				○						○	○	○											○								基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ			○		基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
	教授	上野和美				○		○				○	○												○			○					基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ				○				
	准教授	藤井宝恵				○						○	○																			○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○
	准教授	堂本司				○						○	○		○											○							基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			○		基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
	講師	福森絢子				○						○	○													○							基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
	助教	磯濱真理子				○						○	○																			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
成人急性期	教授	松浦純平											○										○						○	○		○																											○	○		○
	講師	渡邊多恵													○														○	○		○													○															○	○		○
	助教	山田裕紀																											○	○																													○	○		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○																													○																		
	准教授	中谷信江																								○																													○						
	助教	高橋登志枝																															基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ		基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
小児	教授	井上みゆき	○					○			○	○																					統合	統合	統合	統合		○			○	○			○						統合	統合	統合	統合								
	教授	山本八千代									○	○																				○	統合	統合	統合	統合					○	○			統合	統合	統合	統合									統合	統合	統合	統合		○
	准教授	半田浩美						○			○	○														○							統合	統合	統合	統合		○			○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○	統合	統合	統合	統合		
母性	教授	大平光子			○	○																													○	○																										
	教授	渡邊淳子			○	○									○																				○	○									○																	
	講師	百田由希子			○	○											○	○																	○	○																										
地域・在宅	教授	家根明子													○		○				○	○											統合	統合	統合	統合															○	○										
	准教授	久乗エミ																															統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○	○					統合	統合	統合	統合		
	助教	堀井利江																			○	○											統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○	統合	統合	統合			○	○	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
精神	教授	羽生貞親									○				○			○								○															○							○								○						
	准教授	大達亮						○										○																				○									○														
高齢者	教授	田淵啓二							○																																																				
	講師	辻麻由美																																																											
	助教	加茂尚子													○																		基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
公衆衛生	教授	鶴田来美					○		○	○				○										○			○	○									○		○	○				○										○			○	○			○	
	講師	田川紀美子							○	○				○									○	○			○	○			○								○	○			○	○									○				○	○				
	助教	木倉悠子							○	○			○	○										○			○	○					基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
助手	助手	A																															基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
		B																															基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		
		C																																																											
		D																																																											
		実習助手																																																											
WI：well-bei		実習助手A																																																											
		実習助手B																																																											
		実習助手C																																																										
		実習助手D																																																										

教員ごとの科目担当時間割（5〜6月）

基礎Ⅰ（基礎）　8〜9w　Well-being1　10w　統合実習（小児・母性・在宅・精神・地域）　8〜9w

領域	職位	月	5〜6月																														
		週	9																														
		曜日	月						火						水						木						金						
		日付	24						25						26						27						28						
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
基礎	教授	杉本吉恵	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ			○		基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
	教授	上野和美	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ				○					
	准教授	藤井宝恵	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	
	准教授	堂本司	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			○		基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
	講師	福森絢子	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
	助教	磯濱真理子	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ		○	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
成人急性期	教授	松浦純平											○																			○	
	講師	渡邊多恵													○														○			○	
	助教	山田裕紀	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
成人慢性期	教授	岡田純也												○																			
	准教授	中谷信江																								○							
	助教	高橋登志枝																															
小児	教授	井上みゆき	統合	統合	統合	統合		○			○	○			○						統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			
	教授	山本八千代	統合	統合	統合	統合					○	○			統合	統合	統合	統合									統合	統合	統合	統合		○	
	准教授	半田浩美						○			○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○	統合	統合	統合	統合			
母性	教授	大平光子	統合		○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			
	教授	渡邊淳子	統合		○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			
	講師	百田由希子	統合		○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			
地域・在宅	教授	家根明子	統合	統合	統合	統合											○				○	○					統合	統合	統合	統合			
	准教授	久乗エミ	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	○				○	○	統合	統合			統合	統合	統合	統合			
	助教	堀井利江	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
精神	教授	羽生貞親									○							○								○							
	准教授	大達亮						○										○															
高齢者	教授	田淵啓二																															
	講師	辻麻由美																															
	助教	加茂尚子																															
公衆衛生	教授	鶴田来美							○	○				○										○			○	○					
	講師	田川紀美子							○	○			○	○													○	○			○		
	助教	木倉悠子					○							○									○										
助手	助手	A	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
		B	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
		C	統合(小)	統合(小)	統合(小)	統合(小)			統合(小)	統合(小)	統合(小)	統合(小)			統合(小)	統合(小)	統合(小)	統合(小)			統合(小)	統合(小)	統合(小)	統合(小)			統合(小)	統合(小)	統合(小)	統合(小)			
		D																															
		実習助手	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ	基Ⅰ			
		実習助手A																															
		実習助手B																															
		実習助手C																															
		実習助手D																															

領域	職位	月	5〜6月																													
		週	10																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	5/31						1						2						3						4					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵								○				○									○	○	○							
	教授	上野和美						○		○													○	○	○			○				
	准教授	藤井宝恵								○													○	○								○
	准教授	堂本司								○					○								○	○		○						
	講師	福森絢子													WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ														
	助教	磯濱真理子								○					WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○	○		○						
成人急性期	教授	松浦純平											○		WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○	○		○
	講師	渡邊多恵	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			○														○	○		○
	助教	山田裕紀	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○									
	准教授	中谷信江	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ															WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		○			○	○		
	助教	高橋登志枝	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ											WⅠ				WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ		○		
小児	教授	井上みゆき	○					○			○				○																	
	教授	山本八千代									○																					○
	准教授	半田浩美			○			○			○															○						
母性	教授	大平光子			○												○															
	教授	渡邊淳子			○										○		○	○														
	講師	百田由希子															○				WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ								
地域・在宅	教授	家根明子	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○				○	○										
	准教授	久乗エミ	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○				○	○					WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		
	助教	堀井利江	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○				○	○					WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		
精神	教授	羽生貞親									○				○			○								○						
	准教授	大達亮						○										○														
高齢者	教授	田淵啓二	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			○		WⅠ	WⅠ									WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		
	講師	辻麻由美	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					WⅠ				WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		
	助教	加茂尚子	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ			○												WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ		
公衆衛生	教授	鶴田来美					○		○	○				○										○			○	○			○	
	講師	田川紀美子							○	○			○	○													○	○				
	助教	木倉悠子					○		○	○				○	WⅠ	WⅠ	WⅠ	WⅠ					○				○	○				
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（6月）

統合実習（基礎）11～12w　統合実習（成人・高齢者）12～13w

領域	職位	月	6月																													
		週	11																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	7						8						9						10						11					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	統合	統合	統合	○						○	○	○											○							
	教授	上野和美	統合	統合	統合	○		○				○	○												○							
	准教授	藤井宝恵	統合	統合	統合	○						○	○																			○
	准教授	堂本司	統合	統合	統合	○						○	○		○											○						
	講師	福森絢子	統合	統合	統合	○			統合	統合	統合	○	○	○	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○	統合	統合	統合	統合		
	助教	磯濱真理子	統合	統合	統合	○			統合	統合	統合	○	○		統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
成人急性期	教授	松浦純平											○										○						○	○		○
	講師	渡邊多恵													○														○	○		○
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○																○		
	准教授	中谷信江																								○			○	○		
	助教	高橋登志枝																											○	○		
小児	教授	井上みゆき	○					○							○																	
	教授	山本八千代																														○
	准教授	半田浩美						○																		○						
母性	教授	大平光子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	教授	渡邊淳子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合					○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	講師	百田由希子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
地域・在宅	教授	家根明子															○				○	○										
	准教授	久乗エミ					○														○	○										
	助教	堀井利江													○						○	○										
精神	教授	羽生貞親			○										○																	
	准教授	大達亮			○			○																								
高齢者	教授	田淵啓二							○																							
	講師	辻麻由美									○	○																				
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美							○	○				○									○	○			○	○			○	
	講師	田川紀美子							○	○			○	○									○	○			○	○				
	助教	木倉悠子							○	○				○									○	○			○	○				
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	6月																													
		週	12																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	14						15						16						17						18					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵				○						○	○	○											○		統合	統合	統合	統合		
	教授	上野和美				○		○				○	○												○		統合	統合	統合	統合		
	准教授	藤井宝恵				○						○	○														統合	統合	統合	統合		○
	准教授	堂本司				○						○	○		○											○	統合	統合	統合	統合		
	講師	福森絢子	統合	統合	統合	○			統合	統合	統合	○	○		統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○	統合	統合	統合	統合		
	助教	磯濱真理子	統合	統合	統合	○			統合	統合	統合	○	○		統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
成人急性期	教授	松浦純平	統合	統合	統合	統合							○														統合	統合	統合	統合		○
	講師	渡邊多恵	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○		統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○
	助教	山田裕紀	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
成人慢性期	教授	岡田純也	統合	統合	統合	統合							○	○									○						○	○		
	准教授	中谷信江	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○			○	○		
	助教	高橋登志枝	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合		統合			統合	統合	統合	統合					○	○		
小児	教授	井上みゆき	○					○							○																	
	教授	山本八千代																														○
	准教授	半田浩美						○																		○						
母性	教授	大平光子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合		○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	教授	渡邊淳子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○		○	○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	講師	百田由希子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合		○			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
地域・在宅	教授	家根明子	統合	統合	統合	統合		○	統合	統合	統合	統合			○		統合	統合			○	○					統合	統合	統合	統合		
	准教授	久乗エミ	統合	統合	統合	統合	○		統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○	○					統合	統合	統合	統合		
	助教	堀井利江	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○	○	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
精神	教授	羽生貞親	○		○	○												○								○						
	准教授	大達亮	○		○	○		○																								
高齢者	教授	田淵啓二	統合	統合	統合	統合			○		○	○																				
	講師	辻麻由美	統合	統合	統合	統合			統合		○	○			統合	統合		統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	助教	加茂尚子	統合	統合	統合	統合			統合		○	○			○		統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
公衆衛生	教授	鶴田来美							○	○			○	○									○				○	○			○	
	講師	田川紀美子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	助教	木倉悠子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
助手	助手	A	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（6〜7月）

領域	職位	月	6〜7月																													
		週	13																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	21						22						23						24						25					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵				○						○	○	○											○							
	教授	上野和美				○		○				○	○												○			○				
	准教授	藤井宝恵				○						○	○																			○
	准教授	堂本司				○						○	○		○											○						
	講師	福森絢子				○						○	○													○						
	助教	磯濱真理子				○						○	○																			
成人急性期	教授	松浦純平																					○				統合	統合	統合	統合		○
	講師	渡邊多恵	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○
	助教	山田裕紀	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○															○	○		
	准教授	中谷信江	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		○			○	○		
	助教	高橋登志枝	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合					○	○		
	教授	井上みゆき						○							○																	
	教授	山本八千代															○	○														○
	准教授	半田浩美						○																		○						
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子													○		○	○														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子						○													○	○										
	准教授	久乗エミ					○														○	○										
	助教	堀井利江																			○	○										
精神	教授	羽生貞親	○		○	○					○							○								○						
	准教授	大達亮			○	○		○																								
高齢者	教授	田淵啓二	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	講師	辻麻由美	統合	統合	統合	統合			○	○					統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	助教	加茂尚子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			○		統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
公衆衛生	教授	鶴田来美					○		○	○			○	○										○			○					
	講師	田川紀美子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	助教	木倉悠子	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	6〜7月																													
		週	14																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	28						29						30						7/1						2					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵				○						○	○	○											○							
	教授	上野和美				○		○				○	○												○			○				
	准教授	藤井宝恵				○						○	○																			○
	准教授	堂本司				○						○	○		○											○						
	講師	福森絢子				○						○	○													○						
	助教	磯濱真理子				○						○	○																			
成人急性期	教授	松浦純平																														○
	講師	渡邊多恵																														○
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○									○						○	○		
	准教授	中谷信江																								○			○	○		
	助教	高橋登志枝																											○	○		
	教授	井上みゆき						○							○																	
	教授	山本八千代															○	○														○
	准教授	半田浩美						○																		○						
母性	教授	大平光子																○														
	教授	渡邊淳子													○		○	○														
	講師	百田由希子																○														
地域・在宅	教授	家根明子						○							○						○	○										
	准教授	久乗エミ					○														○	○										
	助教	堀井利江																			○	○										
精神	教授	羽生貞親	○		○	○					○							○								○						
	准教授	大達亮			○	○		○																								
高齢者	教授	田淵啓二									○	○																				
	講師	辻麻由美									○	○																				
	助教	加茂尚子									○	○			○																	
公衆衛生	教授	鶴田来美							○	○			○	○										○								
	講師	田川紀美子							○	○				○										○								
	助教	木倉悠子							○	○			○	○										○								
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（7月）

well-beingⅢ実習（地域の健康課題）16－19w

		月	7月																																																										
		週	15																												16																													
領域	職位	曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	5						6						7						8						9						12						13						14						15						16					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵				○						○	○	○											○											○						○	○	○											○							
	教授	上野和美				○		○				○	○												○											○		○				○	○												○							
	准教授	藤井宝恵				○						○	○																			○				○						○	○																			○
	准教授	堂本司				○						○	○		○											○										○						○	○		○											○						
	講師	福森絢子				○						○	○													○										○						○	○													○						
	助教	磯濱真理子				○						○	○																							○						○	○																			
成人急性期	教授	松浦純平											○																			○											○										○									○
	講師	渡邊多恵													○																	○													○												WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○
	助教	山田裕紀																																																							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○									○						○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ							○	○															○	○		
	准教授	中谷信江																								○			○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○			○	○		
	助教	高橋登志枝																											○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ		WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○	○		
小児	教授	井上みゆき						○							○																		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○		WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	山本八千代															○	○														○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○
	准教授	半田浩美						○																		○							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
母性	教授	大平光子																															WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ						○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	渡邊淳子																															WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○			○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	百田由希子																															WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
地域・在宅	教授	家根明子						○							○						○	○											WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○		○				○	○					WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	久乗エミ					○														○	○											WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○	○					WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	堀井利江															○	○															WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○	○	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
精神	教授	羽生貞親	○		○	○					○				○			○								○							○								○				○			○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	大達亮	○		○	○		○																									WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
高齢者	教授	田淵啓二									○																						WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	辻麻由美										○																					WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○	○			WⅢ	WⅢ		WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	加茂尚子																															WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
公衆衛生	教授	鶴田来美					○						○	○	○						○																○		○	○			○	○									○	○			○	○			○	
	講師	田川紀美子					○							○							○																							○																		
	助教	木倉悠子					○						○	○							○																						○	○																		
助手	助手	A																																																												
		B																																																												
		C																																																												
		D																																																												
		実習助手																																																												
		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																											
		実習助手C																																																											
		実習助手D																																																												

教員ごとの科目担当時間割（7月）

領域	職位	月	7月																													
		週	17																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	19						20						21						22						23					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵										○	○	○											○							
	教授	上野和美										○	○												○							
	准教授	藤井宝恵										○	○																			○
	准教授	堂本司										○	○		○											○						
	講師	福森絢子										○	○																			○
	助教	磯濱真理子										○	○																			
成人急性期	教授	松浦純平																	○				○									○
	講師	渡邊多恵													○																	○
	助教	山田裕紀																									WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○													WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	中谷信江							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○			○			
	助教	高橋登志枝							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○			
小児	教授	井上みゆき									○	○			○		WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	山本八千代									○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○
	准教授	半田浩美									○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
母性	教授	大平光子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○				WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	渡邊淳子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○		○				WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	百田由希子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○				WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
地域・在宅	教授	家根明子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○	○					WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	久乗エミ							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○	○					WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	堀井利江							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
精神	教授	羽生貞親									○				○			○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	大達亮							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
高齢者	教授	田淵啓二							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	辻麻由美									○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	加茂尚子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○		WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
公衆衛生	教授	鶴田来美											○	○																		
	講師	田川紀美子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	木倉悠子							WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	7月																													
		週	18																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	26						27						28						29						30					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	WⅢ	WⅢ		○						○	○	○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ							○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	上野和美	WⅢ	WⅢ		○		○	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ							○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	藤井宝恵	WⅢ	WⅢ		○			WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○
	准教授	堂本司	WⅢ	WⅢ		○			WⅢ	WⅢ		○	○		○						WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	福森絢子	WⅢ	WⅢ		○			WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	磯濱真理子	WⅢ	WⅢ		○			WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
成人急性期	教授	松浦純平																	○													○
	講師	渡邊多恵																														○
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○									○									
	准教授	中谷信江																								○						
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき						○																								○
	教授	山本八千代																														○
	准教授	半田浩美						?																		?						
母性	教授	大平光子	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	渡邊淳子	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ					○	○			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	百田由希子	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
地域・在宅	教授	家根明子						○													○	○										
	准教授	久乗エミ					○														○	○										
	助教	堀井利江																			○	○										
精神	教授	羽生貞親	○	○	○	○					○							○								○						
	准教授	大達亮	○	○	○	○		○																								
高齢者	教授	田淵啓二	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			○						WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	辻麻由美	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ		WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	加茂尚子	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
公衆衛生	教授	鶴田来美												○																		
	講師	田川紀美子	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	木倉悠子	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（8月）

領域	職位	月	8月																													
		週	19																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	2						3						4						5						6					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2		4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ		○	○	○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ							○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	教授	上野和美	WⅢ	WⅢ		○	○	○	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ							○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	准教授	藤井宝恵	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ									WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○
	准教授	堂本司	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ		○	○		○											○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	福森絢子	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		○	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	磯濱真理子	WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ		○	○		WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
成人急性期	教授	松浦純平																														○
	講師	渡邊多恵																														○
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也											○	○									○									
	准教授	中谷信江																								○						
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														○
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子															○	○														
	教授	渡邊淳子																	○													
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子						○													○	○										
	准教授	久乗エミ					○														○	○										
	助教	堀井利江																			○	○										
精神	教授	羽生貞親	○	○	○						○							○								○						
	准教授	大達亮	○		○			○																								
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																														
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	8月																													
		週	20																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	9						10						11						12						13					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子						○													○	○										
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親	○	○							○															○						
	准教授	大達亮	○	○				○																								
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（8月）

Well-beimg実習Ⅱ（母性・小児・成人・基礎）　22

		月	8月																													
		週	21																													
領域	職位	曜日	月						火						水						木						金					
		日付	16						17						18						19						20					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	教授	上野和美	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	准教授	藤井宝恵	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	准教授	堂本司	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	講師	福森絢子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	助教	磯濱真理子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
成人急性期	教授	松浦純平	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ																										
	講師	渡邊多恵	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	山田裕紀	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	教授	山本八千代	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	准教授	半田浩美	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
母性	教授	大平光子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	教授	渡邊淳子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	講師	百田由希子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	准教授	大達亮	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

		月	8月																													
		週	22																													
領域	職位	曜日	月						火						水						木						金					
		日付	23						24						25						26						27					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	教授	上野和美	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	准教授	藤井宝恵	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	准教授	堂本司	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	講師	福森絢子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	助教	磯濱真理子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
成人急性期	教授	松浦純平																									WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	講師	渡邊多恵	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
	助教	山田裕紀	WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ			WⅢ	WⅢ	WⅢ	WⅢ		
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	教授	山本八千代	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	准教授	半田浩美	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
母性	教授	大平光子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	教授	渡邊淳子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
	講師	百田由希子	WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ			WⅡ	WⅡ	WⅡ	WⅡ		
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
	准教授	大達亮	統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合			統合	統合	統合	統合		
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（8〜9月）

領域	職位	月	8〜9月																													
		週	23																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	30						31						9/1						2						3					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	8〜9月																													
		週	24																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	6						7						8						9						10					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（9月）

公衆衛生24－29w

領域	職位	月	9月																													
		週	25																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	13						14						15						16						17					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	9月																													
		週	26																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	20						21						22						23						24					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	堀井利江							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆		
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆									公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（9～10月）

領域	職位	月	9～10月																													
		週	27																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	27						28						29						30						10/1					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵							○					○					○			○							○	○		
	教授	上野和美						○			○		○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○															○	○		
	准教授	堂本司												○															○	○		
	講師	福森絢子												○															○	○		
	助教	磯濱真理子												○															○	○		
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵															○	○														○
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也												○			○	○														
	准教授	中谷信江															○	○								○						
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき						○			○	○																				
	教授	山本八千代																○														○
	准教授	半田浩美						○																		?						
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子	○					○																	○							
	講師	久乗エミ	○												公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	堀井利江	○												公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
精神	教授	羽生貞親	○																				○			○						
	准教授	大達亮																○						○								
高齢者	教授	田淵啓二			○	○																										
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆		○				公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆			○		公衆	公衆		○		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	週	28																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	4						5						6						7						8					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵							○					○					○										○	○		
	教授	上野和美											○	○															○	○		
	准教授	藤井宝恵								○				○															○	○		○
	准教授	堂本司												○												○			○	○		
	講師	福森絢子												○												○			○	○		
	助教	磯濱真理子												○															○	○		
成人急性期	教授	松浦純平	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急		○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	講師	渡邊多恵	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急		○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	助教	山田裕紀	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
成人慢性期	教授	岡田純也	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急		○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
	准教授	中谷信江	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急		○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急		
	助教	高橋登志枝	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	○	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
小児	教授	井上みゆき	小児	小児	小児	小児		○	小児		○	○			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児			○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子	母性	母性	母性	母性																										
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性																										
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○	地在	地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在	○		地在	地在	地在	地在		
	講師	久乗エミ	○	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○												精神	精神	精神	精神					○	○		○						
	准教授	大達亮	精神	精神	精神	精神		○	精神	精神	精神	精神						○					○	○			精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二	高齢		○	○					○	○			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢								
	講師	辻麻由美	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢		○	○			高齢	高齢	○	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢		○	○			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美	公衆		○				公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
	講師	田川紀美子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆		○		
	助教	木倉悠子	公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆		
助手	助手	A	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C																														
		D	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

WI：well-being実習I、WII：well-being実習II、WIII：well-being実習III、基I：基礎看護実習I、基II：基礎看護実習II、地在：地域・在宅看護実習、成急：成人急性期看護実習、成慢：成人慢性期看護実習、高齢：高齢者看護実習、小児：小児看護実習、母性：母性看護実習、精神：精神看護実習、統合：統合実習

教員ごとの科目担当時間割（10月）

領域実習（成人急性期、地域・在宅、精神、高齢者）28－45w　　領域実習（小児、母性）28－38w

領域	職位	月 |10月|																																																											
		週	29																													30																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	11						12						13						14						15						18						19						20						21						22					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵							○					○					○			○							○	○									○					○					○			○							○	○		
	教授	上野和美								○			○	○								○							○	○											○		○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○													○								○							○	○		
	准教授	堂本司												○								○							○	○													○								○							○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○													○								○							○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○													○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平							成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	講師	渡邊多恵							成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	助教	山田裕紀							成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
成人慢性期	教授	岡田純也							成急	成急	成急	成急		○	成急		○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急		○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
	准教授	中谷信江							成急	成急	成急	成急			成急		○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急		○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急		
	助教	高橋登志枝							成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	○	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
小児	教授	井上みゆき									○	○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○	小児		○	○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代							小児	小児	小児	小児			小児			○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児			○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	准教授	半田浩美							小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子							母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	教授	渡邊淳子							母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子							母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子							地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在			○		地在	地在	地在	地在			○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在	○		地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ							地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江							地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親																					○	○		○							○													精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		○						
	准教授	大達亮							精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神						○					○	○			精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二							高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢					○	○			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	講師	辻麻由美							高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	○	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子							高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆					○																												
	講師	田川紀美子							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆		○					○																											○		
	助教	木倉悠子							公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆			公衆	公衆	公衆	公衆					○																												
助手	助手	A							小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B							母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C							成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急																																
		D							精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手																																																												
		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

教員ごとの科目担当時間割（10～11月）

領域	職位	月	10～11月																																																									
		週	31																															32																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	25						26						27						28						29						1						2						3						4						5					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵							○					○					○			○							○	○									○					○									○						○	○		
	教授	上野和美						○			○		○	○								○							○	○											○		○										○						○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○																							○						○	○		○
	准教授	堂本司												○								○							○	○																							○			○			○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○																							○			○			○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○																							○						○	○		
成人急性期	教授	松浦純平	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	講師	渡邊多恵	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	助教	山田裕紀	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
成人慢性期	教授	岡田純也	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○			○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
	准教授	中谷信江	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急		
	助教	高橋登志枝	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
小児	教授	井上みゆき	小児	小児	小児	小児			小児		○	○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○			○	○		○							小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児			○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児									小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児									小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在			○		地在	地在	地在	地在			○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在									地在	地在			○		地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			○		地在	地在			地在	地在	地在	地在									地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			○		地在	地在			地在	地在	地在	地在									地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○																		精神	精神	精神	精神		○							○																							○						
	准教授	大達亮	精神	精神	精神	精神		○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○	○			精神	精神	精神	精神								○																								
高齢者	教授	田淵啓二			○	○			高齢	高齢	高齢	高齢																							○	○															高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	講師	辻麻由美	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美			○																																				○																			○		
	講師	田川紀美子			○																									○											○																					
	助教	木倉悠子			○																																				○																					
助手	助手	A	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児									小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C																																																												
		D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
		実習助手	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性																																
		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

教員ごとの科目担当時間割（11月）

領域	職位	月	11月																																																										
		週	33																													34																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	8						9						10						11						12						15						16						17						18						19					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵							○					○					○			○							○	○									○					○					○			○							○	○		
	教授	上野和美									○		○	○								○							○	○													○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○														○								○							○	○		○
	准教授	堂本司												○								○							○	○														○								○				○			○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○														○								○				○			○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○														○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○															○	○		○												
	講師	渡邉多恵	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急		○	○		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
	助教	山田裕紀	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
成人慢性期	教授	岡田純也	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○			○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急														○			○	○														
	准教授	中谷信江	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急					○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急		○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急		
	助教	高橋登志枝	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	○	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
小児	教授	井上みゆき	小児	小児	小児	小児			小児		○			○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児			小児	小児		○		○	小児	小児		○			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児		○	○		○	小児	小児		○			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在	○		地在	地在	地在	地在			○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在	○		地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○																							○							○																							○						
	准教授	大達亮						○										○					○	○												○		○										○					○	○								
高齢者	教授	田淵啓二			○	○			高齢	高齢	高齢	高齢															高齢	高齢	高齢	高齢					○	○			高齢	高齢	高齢	高齢															高齢	高齢	高齢	高齢		
	講師	辻麻由美	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	○	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美			○																									○					○																											
	講師	田川紀美子			○																														○																											
	助教	木倉悠子			○																														○																									○		
助手	助手	A	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急																																
		D	成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
		実習助手	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性																																
		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

※授業科目名称

WI：well-being実習I、WII：well-being実習II、WIII：well-being実習III、基I：基礎看護実習I、基II：基礎看護実習II、地在：地域・在宅看護実習、成急：成人急性期看護実習、成慢：成人慢性期看護実習、高齢：高齢者看護実習、小児：小児看護実習、母性：母性看護実習、精神：精神看護実習、統合：統合実習

教員ごとの科目担当時間割（11～12月）

領域	職位	月	11～12月																													
		週	35																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	22						23						24						25						26					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵						○											○										○	○		
	教授	上野和美						○																					○	○		
	准教授	藤井宝恵						○																					○	○		
	准教授	堂本司						○																		○			○	○		
	講師	福森絢子						○																		○			○	○		
	助教	磯濱真理子						○																					○	○		
成人急性期	教授	松浦純平															○	○														○
	講師	渡邊多恵	成急	成急	成急	成急									成急		○	○			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		○
	助教	山田裕紀	成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
成人慢性期	教授	岡田純也															○	○														
	准教授	中谷信江	成急	成急	成急	成急									成急		○	○			成急	成急	成急	成急		○	成急	成急	成急	成急		
	助教	高橋登志枝	成急	成急	成急	成急									成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急			成急	成急	成急	成急		
小児	教授	井上みゆき	小児	小児	小児	小児		○							小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児									小児			○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児		○							小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子	母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性			○	○	母性	母性	母性	母性		
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○							地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在									地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○		地在	地在									地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○																							○						
	准教授	大達亮				○	○	○										○					○									
高齢者	教授	田淵啓二			○	○									高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢		
	講師	辻麻由美	高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子	高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美			○																											
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																												○		
助手	助手	A	小児	小児	小児	小児									小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B	母性	母性	母性	母性									母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C	高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
		D	高齢	高齢	高齢	高齢									高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
		実習助手	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	11～12月																													
		週	36																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	11/29						30						1						2						3					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵												○								○							○	○		
	教授	上野和美												○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○		
	准教授	堂本司												○								○							○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平						○						○			○	○														○
	講師	渡邊多恵	成慢	成慢	成慢	成慢		○	成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		○
	助教	山田裕紀													成慢	成慢	成慢	成慢														
成人慢性期	教授	岡田純也															○	○		○												
	准教授	中谷信江															○	○								○						
	助教	高橋登志枝	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	○	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき	小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児			小児		○	○		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性			○		母性	母性	母性	母性		
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性			○		母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○																							○						
	准教授	大達亮				○	○	○															○									
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美			○	○											○															
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																												○		
助手	助手	A	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A							小児	小児	小児	小児																				
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

※授業科目名称

WⅠ：well-being実習Ⅰ、WⅡ：well-being実習Ⅱ、WⅢ：well-being実習Ⅲ、基Ⅰ：基礎看護実習Ⅰ、基Ⅱ：基礎看護実習Ⅱ、地在：地域・在宅看護実習、成急：成人急性期看護実習、成慢：成人慢性期看護実習、高齢：高齢者看護実習、小児：小児看護実習、母性：母性看護実習、精神：精神看護実習、統合：統合実習

教員ごとの科目担当時間割（12月）

領域	職位	月	12月																													
		週	37																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	6						7						8						9						10					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵												○								○							○	○		
	教授	上野和美											○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○		○
	准教授	堂本司												○								○				○			○	○		
	講師	福森絢子												○								○				○			○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平												○			○	○														○
	講師	渡邊多恵	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		○
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也												○			○	○														
	准教授	中谷信江															○	○								○						
	助教	高橋登志枝	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき	小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児					○	○			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		○
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児		○	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		?	小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性			○		母性	母性	母性	母性		
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性			○		母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○						精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神						○		○	精神	精神	精神	精神		
	准教授	大達亮				○	○	○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○				精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二			○	○																										
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																												○		
助手	助手	A	小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
		B	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		C																														
		D																														
		実習助手	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	12月																													
		週	38																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	13						14						15						16						17					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵							○					○								○							○	○		
	教授	上野和美											○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○		
	准教授	堂本司												○								○							○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平															○	○														○
	講師	渡邊多恵															○	○														○
	助教	山田裕紀	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
成人慢性期	教授	岡田純也												○			○	○														
	准教授	中谷信江	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢		○	成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	高橋登志枝	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	○	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき						○	小児			○			小児	小児	小児	小児									小児	小児	小児	小児		
	教授	山本八千代	小児	小児	小児	小児					○	○									小児	小児	小児	小児								○
	准教授	半田浩美	小児	小児	小児	小児		○	小児			○			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児			小児	小児	小児	小児		
母性	教授	大平光子																							○							
	教授	渡邊淳子	母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
	講師	百田由希子	母性	母性	母性	母性			○		母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性			母性	母性	母性	母性		
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在					地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○						精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神						○		○	精神	精神	精神	精神		
	准教授	大達亮				○	○	○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○	○			精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二			○	○																										
	講師	辻麻由美															○															
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	木倉悠子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在		○		
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手																														
		実習助手A	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手B	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手C	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		

教員ごとの科目担当時間割（12月）

領域	職位	月	12月																													
		週	39																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	20						21						22						23						24					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵												○								○							○	○		
	教授	上野和美											○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○		
	准教授	堂本司												○								○							○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平															○	○														○
	講師	渡邊多恵															○	○														○
	助教	山田裕紀	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
成人慢性期	教授	岡田純也												○			○	○														
	准教授	中谷信江	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢		○	成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	高橋登志枝	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														○
	准教授	半田浩美						○			○	○																				
母性	教授	大平光子																							○							
	教授	渡邊淳子							○																							
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子	○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在					地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	○		地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	○						精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○	○		○	精神	精神	精神	精神		
	准教授	大達亮				○	○	○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○	○			精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二			○	○																										
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	木倉悠子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在		○		
助手	助手	A	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		B																														
		C																														
		D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手																														
WI：well-bei		実習助手A	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手B	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手C	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		

領域	職位	月	12月																													
		週	40																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	27						28						29						30						31					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	冬季休業																													
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																														
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
WI：well-bei		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（1月）

領域	職位	月	1月																													
		週	41																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	3						4						5						6						7					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																											○	○		
	教授	上野和美																											○	○		
	准教授	藤井宝恵																											○	○		○
	准教授	堂本司																											○	○		
	講師	福森絢子																											○	○		
	助教	磯濱真理子																											○	○		
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邉多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき										冬季休業																				
	教授	山本八千代																														○
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																							○							
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																					○	○		○						
	准教授	大達亮																					○	○								
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																												○		
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																														
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	月	1月																													
		週	42																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	10						11						12						13						14					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵												○								○							○	○		
	教授	上野和美											○	○								○							○	○		
	准教授	藤井宝恵												○								○							○	○		
	准教授	堂本司												○								○							○	○		
	講師	福森絢子												○								○							○	○		
	助教	磯濱真理子												○								○							○	○		
成人急性期	教授	松浦純平							成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		○
	講師	渡邉多恵							成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		○
	助教	山田裕紀							成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
成人慢性期	教授	岡田純也							成慢	成慢	成慢	成慢		○			○	○			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	准教授	中谷信江							成慢	成慢	成慢	成慢					○	○			成慢	成慢	成慢	成慢		○	成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	高橋登志枝							成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	○	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき									○																					
	教授	山本八千代									○																					○
	准教授	半田浩美									○	○														?						
母性	教授	大平光子																							○							
	教授	渡邊淳子							○	○																						
	講師	百田由希子							成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親							精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○	○		○	精神	精神	精神	精神		
	准教授	大達亮							精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神					○				精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美							高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	○	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子							高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美																												○		
	講師	田川紀美子																							○							
	助教	木倉悠子																														
助手	助手	A							成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		B							成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		C																														
		D							精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（1月）

領域	職位	月	1月																																																									
		週	43																															44																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	17						18						19						20						21						24						25						26						27						28					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																				○							○	○															○																		
	教授	上野和美											○									○							○	○								○					○	○																		
	准教授	藤井宝恵																				○							○	○		○												○																		○
	准教授	堂本司																				○				○			○	○														○												○						
	講師	福森絢子																				○				○			○	○														○												○						
	助教	磯濱真理子																				○							○	○														○																		
成人急性期	教授	松浦純平	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢					○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢		○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	講師	渡邊多恵	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢					○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢		○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	山田裕紀	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
成人慢性期	教授	岡田純也	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		○			○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢		○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	准教授	中谷信江	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢					○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢		○	○		○	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	高橋登志枝	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	○	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき						○				○																										○																								
	教授	山本八千代										○																				○																														○
	准教授	半田浩美						○			○	○																										○																								
母性	教授	大平光子																																																												
	教授	渡邊淳子							○	○															○																																					
	講師	百田由希子	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢																																
地域・在宅	教授	家根明子		○				○																									○		地在	地在		○	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ																															地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江																															地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神																				○						
	准教授	大達亮	精神	精神	精神	精神	○	○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神						○	○	○	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二			○	○																													○	○			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	講師	辻麻由美	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	○	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美																																																												
	講師	田川紀美子																															地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	木倉悠子																															地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
助手	助手	A	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		B	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		C																																																												
		D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢																																
		実習助手A	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

※授業科目名称

WI：well-being実習Ⅰ、WII：well-being実習II、WIII：well-being実習III、基I：基礎看護実習Ⅰ、基II：基礎看護実習II、地在：地域・在宅看護実習、成急：成人急性期看護実習、成慢：成人慢性期看護実習、高齢：高齢者看護実習、小児：小児看護実習、母性：母性看護実習、精神：精神看護実習、統合：統合実習

教員ごとの科目担当時間割（1～2月）

		月	1～2月																													
		週	45																													
領域	職位	曜日	月						火						水						木						金					
		日付	31						2/1						2						3						4					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	講師	渡邊多恵	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	山田裕紀	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
成人慢性期	教授	岡田純也	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	准教授	中谷信江	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
	助教	高橋登志枝	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢																				
地域・在宅	教授	家根明子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	准教授	久乗エミ	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	堀井利江	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
高齢者	教授	田淵啓二			○	○			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	講師	辻麻由美	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
	助教	加茂尚子	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
	助教	木倉悠子	地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在			地在	地在	地在	地在		
助手	助手	A	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		B	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		C	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		D	精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神			精神	精神	精神	精神		
		実習助手	成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢			成慢	成慢	成慢	成慢		
		実習助手A	高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢			高齢	高齢	高齢	高齢		
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

		月	1～2月																													
		週	46																													
領域	職位	曜日	月						火						水						木						金					
		日付	7						8						9						10						11					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
	教授	上野和美	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
	准教授	藤井宝恵	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
	准教授	堂本司	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
	講師	福森絢子	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
	助教	磯濱真理子	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邊多恵																														
	助教	山田裕紀	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																														
助手	助手	A	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
		B	基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II			基II	基II	基II	基II								
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

※授業科目名称

WI：well-being実習I、WII：well-being実習II、WIII：well-being実習III、基I：基礎看護実習I、基II：基礎看護実習II、地在：地域・在宅看護実習、成急：成人急性期看護実習、成慢：成人慢性期看護実習、高齢：高齢者看護実習、小児：小児看護実習、母性：母性看護実習、精神：精神看護実習、統合：統合実習

教員ごとの科目担当時間割（2月）

		月	2月																																																										
		週	47																																48																													
領域	職位	曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	14						15						16						17						18						21						22						23						24						25					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	教授	上野和美	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	准教授	藤井宝恵	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	准教授	堂本司	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	講師	福森絢子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	助教	磯濱真理子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
成人急性期	教授	松浦純平																																																													
	講師	渡邉多恵																																																													
	助教	山田裕紀	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ																																
成人慢性期	教授	岡田純也																																																												
	准教授	中谷信江																																																												
	助教	高橋登志枝																															基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
小児	教授	井上みゆき																																																												
	教授	山本八千代																																																												
	准教授	半田浩美																																																												
母性	教授	大平光子																																																												
	教授	渡邉淳子																																																												
	講師	百田由希子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ																																
地域・在宅	教授	家根明子																																																												
	准教授	久乗エミ																																																												
	助教	堀井利江																															基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ											基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
精神	教授	羽生貞親																																																												
	准教授	大達亮																																																												
高齢者	教授	田淵啓二																																																												
	講師	辻麻由美																																																												
	助教	加茂尚子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ																																
公衆衛生	教授	鶴田来美																																																												
	講師	田川紀美子																																																												
	助教	木倉悠子																															基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
助手	助手	A	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
		B	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ									基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
		C	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ																																
		D																																																												
		実習助手	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ																																
WI：well-bei		実習助手A																																																												
		実習助手B																																																												
		実習助手C																																																												
		実習助手D																																																												

教員ごとの科目担当時間割（2〜3月）

領域	職位	月	2〜3月																													
		週	49																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	28						29						3/1						2						3					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	教授	上野和美	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	准教授	藤井宝恵	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	准教授	堂本司	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	講師	福森絢子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
	助教	磯濱真理子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邉多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
助手	助手	A	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
		B	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
		C	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
		D																														
		実習助手	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ			基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ	基Ⅱ		
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

領域	職位	週	50																													
		曜日	月						火						水						木						金					
		日付	6						7						8						9						10					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																														
	教授	上野和美																														
	准教授	藤井宝恵																														
	准教授	堂本司																														
	講師	福森絢子																														
	助教	磯濱真理子																														
成人急性期	教授	松浦純平																														
	講師	渡邉多恵																														
	助教	山田裕紀																														
成人慢性期	教授	岡田純也																														
	准教授	中谷信江																														
	助教	高橋登志枝																														
小児	教授	井上みゆき																														
	教授	山本八千代																														
	准教授	半田浩美																														
母性	教授	大平光子																														
	教授	渡邊淳子																														
	講師	百田由希子																														
地域・在宅	教授	家根明子																														
	准教授	久乗エミ																														
	助教	堀井利江																														
精神	教授	羽生貞親																														
	准教授	大達亮																														
高齢者	教授	田淵啓二																														
	講師	辻麻由美																														
	助教	加茂尚子																														
公衆衛生	教授	鶴田来美																														
	講師	田川紀美子																														
	助教	木倉悠子																														
助手	助手	A																														
		B																														
		C																														
		D																														
		実習助手																														
		実習助手A																														
		実習助手B																														
		実習助手C																														
		実習助手D																														

教員ごとの科目担当時間割（3月）

領域	職位	月	3月																																																									
		週	51																														52																													
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	13						14						15						16						17						20						21						22						23						24					
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																																																									
	教授	上野和美																																																									
	准教授	藤井宝恵																																																									
	准教授	堂本司																																																									
	講師	福森絢子																																																									
	助教	磯濱真理子																																																									
成人急性期	教授	松浦純平																																																									
	講師	渡邉多恵																																																									
	助教	山田裕紀																																																									
成人慢性期	教授	岡田純也																																																									
	准教授	中谷信江																																																									
	助教	高橋登志枝																																																									
小児	教授	井上みゆき																																																									
	教授	山本八千代																																																									
	准教授	半田浩美																																																									
母性	教授	大平光子																																																									
	教授	渡邊淳子																																																									
	講師	百田由希子																																																									
地域・在宅	教授	家根明子																																																									
	准教授	久乗エミ																																																									
	助教	堀井利江																																																									
精神	教授	羽生貞親																																																									
	准教授	大達亮																																																									
高齢者	教授	田淵啓二																																																									
	講師	辻麻由美																																																									
	助教	加茂尚子																																																									
公衆衛生	教授	鶴田来美																																																									
	講師	田川紀美子																																																									
	助教	木倉悠子																																																									
助手	助手	A																																																									
		B																																																									
		C																																																									
		D																																																									
		実習助手																																																									
		実習助手A																																																									
		実習助手B																																																									
		実習助手C																																																									
		実習助手D																																																									

教員ごとの科目担当時間割（3月）

領域	職位	月	3月																																																								
		週	53																																																							
		曜日	月						火						水						木						金						月						火						水						木						金					
		日付	27						28						29						30						31																																			
		氏名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
基礎	教授	杉本吉恵																																																										
	教授	上野和美																																																										
	准教授	藤井宝恵																																																										
	准教授	堂本司																																																										
	講師	福森絢子																																																										
	助教	磯濱真理子																																																										
成人急性期	教授	松浦純平																																																										
	講師	渡邊多恵																																																										
	助教	山田裕紀																																																										
成人慢性期	教授	岡田純也																																																										
	准教授	中谷信江																																																										
	助教	高橋登志枝																																																										
小児	教授	井上みゆき																																																										
	教授	山本八千代																																																										
	准教授	半田浩美																																																										
母性	教授	大平光子																																																										
	教授	渡邊淳子																																																										
	講師	百田由希子																																																										
地域・在宅	教授	家根明子																																																										
	准教授	久乗エミ																																																										
	助教	堀井利江																																																										
精神	教授	羽生貞親																																																										
	准教授	大達亮																																																										
高齢者	教授	田淵啓二																																																										
	講師	辻麻由美																																																										
	助教	加茂尚子																																																										
公衆衛生	教授	鶴田来美																																																										
	講師	田川紀美子																																																										
	助教	木倉悠子																																																										
助手	助手	A																																																										
		B																																																											
		C																																																											
		D																																																											
		実習助手																																																											
WI：well-bei		実習助手A																																																										
		実習助手B																																																											
		実習助手C																																																											
		実習助手D																																																											

2027年　【well-being実習Ⅰ】

	5月31日（月）	6月1日（火）			6月2日（水）			6月3日（木）			6月4日（金）
高齢者の生活	学内	実習施設	学生数（人）	教員名	実習施設	学生数（人）	教員名	実習施設	学生数（人）	教員名	学内
		周陽市民センター	5	加茂助教	遠石市民センター	4	加茂助教	周陽市民センター	5	家根教授	
		久米市民センター	12	久乗講師	久米市民センター	11	辻講師	遠石市民センター	4	大達准教授	
		桜木市民センター	8	堀井助教	桜木市民センター	16	岡田教授	久米市民センター	9	辻講師	
					秋月市民センター	3	木倉助教	桜木市民センター	8	髙橋助教	
職域の成人期の生活		トクヤマ	40	田淵教授	西京銀行	10	福森講師	トクヤマ	40	百田講師	
		西京銀行	11	渡邊(多)講師	サマンサジャパン	4	中谷准教授	西京銀行	10	岡田教授	
		サマンサジャパン	4	中谷准教授	中特ホールディングス	8	磯濱助教	サマンサジャパン	4	松浦教授	
					シマヤ	8	田川講師				
					近藤商事	6	木倉助教				
					徳機	15	松浦教授				

2027年　【well-being実習Ⅱ】

	実習施設	1回の学生数（人）
保育園	大内保育園	2
	城ケ丘保育園	3
	第二保育園	2
	櫛浜保育園	2
	尚白保育園	2
	共楽保育園	4
	しゅうよう保育園	5
	和光保育園	4
	蓮生・まこと幼稚園	4
児童クラブ	久米小校区児童クラブ	2
	桜木小校区児童クラブ	2
	周陽小校区児童クラブ	2
	秋月小校区児童クラブ	2
	東福祉館	2
	岐山小校区児童クラブ	2
	遠石小校区児童クラブ	2
	櫛浜小校区児童クラブ	2

1クール（全40名）		
8月		
16日(月)	17日(火)～19日(木)	20日(金)
学内	杉本教授	学内
	大平教授	
	堂本准教授	
	百田講師	
	磯濱助教	
	井上教授	
	半田准教授	
	渡邊（淳）教授	
	福森講師	
	百田講師	
	山本教授	
	半田准教授	
	上野教授	
	藤井准教授	
	磯濱助教	
	渡邊(淳)教授	
	福森講師	

1クール（全40名）		
8月		
23日(月)	24日(火)～26日(木)	29日(金)
学内	杉本教授	学内
	大平教授	
	堂本准教授	
	百田講師	
	磯濱助教	
	井上教授	
	半田准教授	
	渡邊（淳）教授	
	福森講師	
	百田講師	
	山本教授	
	半田准教授	
	上野教授	
	藤井准教授	
	磯濱助教	
	渡邊(淳)教授	
	福森講師	

2027年　well-being実習III　教員配置表

実習施設名	地域	学生数（人）	クール数	教員名
周南市国民健康保険鹿野診療所	周南市鹿野地区	6	2	杉本教授・堂本准教授
大津島保健組合大津島診療所	周南市大津島	6	2	上野教授・福森講師・磯濱助教
山口県立総合医療センターへき地医療支援センター	山口県内診療所	11	2	家根教授・羽生教授・山本教授・大達准教授・堀井助教
柳井市立平郡診療所	柳井市平郡島	2	2	大平教授・渡邊教授
おげんきクリニック	周防大島町	2	2	田淵教授・辻講師・加茂助教
医療法人仁徳会周南病院	周南市	4	2	岡田教授・中谷准教授・高橋助教
山口大学医学部附属病院先進救急医療センター	宇部市	4	2	松浦教授・渡邊（多）講師・山田助教
山口県立周南総合支援学校	周南市	3	2	井上教授・半田准教授・久乗講師
NPO法人山口ヘルスプロモーションネットワーク	山口市	2	2	鶴田教授・田川講師・木倉助教

2027年【2年生：基礎看護実習Ⅰ】

月	5									
日	17	18	19	20	21	24	25	26	27	28
曜日	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
周南市立新南陽市民病院　4名 【杉本教授・助手A】						周南市立新南陽市民病院　4名 【杉本教授・助手A】				
周南市立新南陽市民病院　4名 【百田講師】						周南市立新南陽市民病院　4名 【山田助教】				
周南市立新南陽市民病院　4名 【加茂助教】						周南市立新南陽市民病院　4名 【堀井助教】				
山口県立総合医療センター　4名 【藤井准教授】						山口県立総合医療センター　4名 【藤井准教授】				
国立病院機構岩国医療センター　2名 【上野教授】						国立病院機構岩国医療センター　2名 【上野教授】				
国立病院機構岩国医療センター　2名 【 上野教授・実習助手A】						国立病院機構岩国医療センター　2名 【 上野教授・実習助手A】				
国立病院機構岩国医療センター　2名 【 上野教授・助手A】						国立病院機構岩国医療センター　2名 【 上野教授・助手A】				
国立病院機構岩国医療センター　2名 【上野教授・助手B】						国立病院機構岩国医療センター　2名 【上野教授・助手B】				
徳山リハビリテーションセンター　4名 【福森講師】						徳山リハビリテーションセンター　4名 【福森講師】				
徳山リハビリテーションセンター　4名 【磯濱助教】						徳山リハビリテーションセンター　4名 【磯濱助教】				
JA山口厚生連周東総合病院　4名 【堂本准教授】						JA山口厚生連周東総合病院　4名 【堂本准教授】				
JA山口厚生連周東総合病院　4名 【高橋助教】						JA山口厚生連周東総合病院　4名 【木倉助教】				

2027年【2年生：基礎看護実習Ⅱ】

月	2					2				
日	7	8	9	10	11	14	15	16	17	18
曜日	月	火	水	木	祭日	月	火	水	木	金
	周南市立新南陽市民病院　5名 【杉本教授・助手A】					周南市立新南陽市民病院　5名 【杉本教授・助手A】				
	周南市立新南陽市民病院　5名 【加茂助教】					周南市立新南陽市民病院　5名 【加茂助教】				
	周南市立新南陽市民病院　6名 【磯濱助教】					周南市立新南陽市民病院　6名 【磯濱助教】				
	徳山リハビリテーションセンター　4名 【堂本准教授・助手B】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【堂本准教授・助手B】				
	徳山リハビリテーションセンター　4名 【福森講師】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【福森講師】				
	JA山口厚生連周東総合病院　4名 【藤井准教授・助手C】					JA山口厚生連周東総合病院　4名 【藤井准教授・助手C】				
	JA山口厚生連周東総合病院　4名 【百田講師】					JA山口厚生連周東総合病院　4名 【百田講師】				
	光市立大和総合病院　2名 【上野教授・実習助手B】					光市立大和総合病院　2名 【上野教授・実習助手B】				
	光市立大和総合病院　2名 【山田助教】					光市立大和総合病院　2名 【山田助教】				
	光市立大和総合病院　2名 【 上野教授】					光市立大和総合病院　2名 【 上野教授】				
	光市立大和総合病院　2名 【 上野教授・実習助手A】					光市立大和総合病院　2名 【 上野教授・実習助手A】				

	2					2		3		
	21	22	23	24	25	28	29	1	2	3
	月	火	祭日	木	金	月	火	水	木	金
	周南市立新南陽市民病院　5名 【杉本教授・助手A】					周南市立新南陽市民病院　5名 【杉本教授・助手A】				
	周南市立新南陽市民病院　5名 【木倉助教】					周南市立新南陽市民病院　5名 【木倉助教】				
	周南市立新南陽市民病院　6名 【磯濱助教】					周南市立新南陽市民病院　6名 【磯濱助教】				
	同仁会周南記念病院　2名 【堂本准教授・助手B】					同仁会周南記念病院　2名 【堂本准教授・助手B】				
	同仁会周南記念病院　2名 【堂本准教授】					同仁会周南記念病院　2名 【堂本准教授】				
	同仁会周南記念病院　2名 【福森講師】					同仁会周南記念病院　2名 【福森講師】				
	同仁会周南記念病院　2名 【堀井助教】					同仁会周南記念病院　2名 【堀井助教】				
	徳山リハビリテーションセンター　4名 【福森講師】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【福森講師】				
	徳山リハビリテーションセンター　4名 【高橋助教】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【高橋助教】				
	光市立大和総合病院　2名 【上野教授・助手C】					光市立大和総合病院　2名 【上野教授・助手C】				
	光市立大和総合病院　2名 【藤井准教授】					光市立大和総合病院　2名 【藤井准教授】				
	光市立大和総合病院　2名 【 上野教授】					光市立大和総合病院　2名 【 上野教授】				
	光市立大和総合病院　2名 【 上野教授・実習助手A】					光市立大和総合病院　2名 【 上野教授・実習助手A】				

2027年【3年生：地域・在宅看護実習】

8G：8名

月									
	10					10				
日	4	5	6	7	8	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
	周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】					訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】				
	周南西部地域包括支援センター・ 新南陽市民病院地域連携室　2名 【堀井助教】					徳山病院訪問看護ステーション　2名 【堀井助教】				
	つづみ園地域包括支援センター・ 下松中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】					徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】				
	徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山リハビリテーション病院地域連携室　2名 【堀井助教】					訪問看護ステーションねこの手　2名 【堀井助教】				

5G：8名

10					10				
18	19	20	21	22	25	26	27	28	29
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】					周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
徳山病院訪問看護ステーション　2名 【堀井助教】					周南西部地域包括支援センター・ 新南陽市民病院地域連携室　2名 【堀井助教】				
徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】					つづみ園地域包括支援センター・ 下松中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
訪問看護ステーションねこの手　2名 【堀井助教】					徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山リハビリテーション病院地域連携室　2名 【堀井助教】				

10G：8名

11					11				
1	2	3	4	5	8	9	10	11	12
月	火	祭日	木	金	月	火	水	木	金
訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】					周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
徳山病院訪問看護ステーション　2名 【堀井助教】					周南西部地域包括支援センター・ 新南陽市民病院地域連携室　2名 【堀井助教】				
徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】					つづみ園地域包括支援センター・ 下松中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
訪問看護ステーションねこの手　2名 【堀井助教】					徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山リハビリテーション病院地域連携室　2名 【堀井助教】				

1・3・4G：16名

11					11		12		
22	23	24	25	26	29	30	2	3	4
月	祭日	水	木	金	月	火	水	木	金
訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】					周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
徳山病院訪問看護ステーション　2名 【堀井助教】					周南西部地域包括支援センター・ 新南陽市民病院地域連携室　2名 【堀井助教】				
徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】					つづみ園地域包括支援センター・ 下松中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
訪問看護ステーションねこの手　2名 【堀井助教】					徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山リハビリテーション病院地域連携室　2名 【堀井助教】				
周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【家根教授】					訪問看護ステーションもみじ　2名 【家根教授】				
つづみ園地域包括支援センター・ 下松中央病院地域連携室　2名 【田川講師】					徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【田川講師】				
徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山リハビリテーション病院地域連携室　2名 【木倉助教】					訪問看護ステーションこもれび　2名 【木倉助教】				

11		12			12				
29	30	2	3	4	6	7	8	9	10
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
周南東部地域包括支援センター・ 岩国医療センター地域連携室　2名 【久乗講師】					訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】				
周南西部地域包括支援センター・ 周南記念病院地域連携室　2名 【堀井助教】					徳山病院訪問看護ステーション　2名 【堀井助教】				
つづみ園地域包括支援センター・ 光市立光総合病院地域連携室　2名 【久乗講師】					徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】				
徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山病院地域連携室　2名 【堀井助教】					訪問看護ステーションこもれび　2名 【堀井助教】				

6・9G：16名

12					12				
13	14	15	16	17	20	21	22	23	24
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
周南東部地域包括支援センター・ 岩国医療センター地域連携室　2名 【久乗講師】					徳山医師会訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】				
周南西部地域包括支援センター・ 周南記念病院地域連携室　2名 【堀井助教】					訪問看護ステーションゆめ風車　2名 【堀井助教】				
つづみ園地域包括支援センター・ 光市立光総合病院地域連携室　2名 【久乗講師】					訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】				
徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山病院地域連携室　2名 【堀井助教】					訪問看護ステーションねこの手　2名 【久乗講師】				
訪問看護ステーションもみじ　2名 【家根教授】					周南東部地域包括支援センター・ 岩国医療センター地域連携室　2名 【家根教授】				
徳山病院訪問看護ステーション　2名 【木倉助教】					周南西部地域包括支援センター・ 周南記念病院地域連携室　2名 【木倉助教】				
徳山中央病院訪問看護ステーション　2名 【田川講師】					つづみ園地域包括支援センター・ 光市立光総合病院地域連携室　2名 【田川講師】				
訪問看護ステーションねこの手　2名 【田川講師】					徳山医師会地域包括支援センター・ 徳山病院地域連携室　2名 【田川講師】				

2・7G：16 名

1					1	2			
24	25	26	27	28	31	1	2	3	4
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
徳山医師会訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】					周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
訪問看護ステーションゆめ風車　2名 【堀井助教】					周南西部地域包括支援センター・ 新南陽市民病院地域連携室　2名 【堀井助教】				
訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】					つづみ園地域包括支援センター・ 徳山医師会病院地域連携室　2名 【久乗講師】				
訪問看護ステーションねこの手　2名 【堀井助教】					徳山医師会地域包括支援センター・ 光市立光総合病院地域連携室　2名 【堀井助教】				
周南東部地域包括支援センター・ 徳山中央病院地域連携室　2名 【家根教授】					徳山医師会訪問看護ステーション　2名 【久乗講師】				
周南西部地域包括支援センター・ 新南陽市民病院地域連携室　2名 【木倉助教】					訪問看護ステーションゆめ風車　2名 【堀井助教】				
つづみ園地域包括支援センター・ 徳山医師会病院地域連携室　2名 【田川講師】					訪問看護ステーションもみじ　2名 【久乗講師】				
徳山医師会地域包括支援センター・ 光市立光総合病院地域連携室　2名 【田川講師】					訪問看護ステーションねこの手　2名 【堀井助教】				

2027年【3年生：成人急性期看護実習】

24名

月	10					10				
日	4	5	6	7	8	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
	JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】					JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】				
	JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】				
	JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】					JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】				
	JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】				
	JCHO徳山中央病院　4名 【岡田教授・実習助手B】					JCHO徳山中央病院　4名 【岡田教授・実習助手B】				
	JCHO徳山中央病院　4名 【松浦教授・実習助手C】					JCHO徳山中央病院　4名 【松浦教授・実習助手C】				

16名

10					10				
18	19	20	21	22	25	26	27	28	29
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】					JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】				
JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】				
JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】				
JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】					JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】				

24名

11					11				
1	2	3	4	5	8	9	10	11	12
月	火	祭日	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】					JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】				
JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】				
JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】					JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】				
JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】				
JCHO徳山中央病院　4名 【岡田教授・実習助手B】					JCHO徳山中央病院　4名 【岡田教授・実習助手B】				
JCHO徳山中央病院　4名 【松浦教授・実習助手C】					JCHO徳山中央病院　4名 【松浦教授・実習助手C】				

16名

11					11				
15	16	17	18	19	22	23	24	25	26
月	火	水	木	金	月	祭日	水	木	金
JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】					JCHO徳山中央病院　4名 【渡邊(多)講師】				
JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【高橋助教】				
JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】					JCHO徳山中央病院　4名 【山田助教】				
JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】					JCHO徳山中央病院　4名 【中谷准教授】				

2027年【3年生：成人慢性期看護実習】

月	11		12			12				
日	29	30	1	2	3	6	7	8	9	10
曜日	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
	徳山リハビリテーションセンター　4名 【渡邉講師】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【渡邉講師】				
	徳山リハビリテーションセンター　4名 【高橋助教】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【高橋助教】				

12					12				
13	14	15	16	17	20	21	22	23	24
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
同仁会周南記念病院　2名 【中谷准教授】					同仁会周南記念病院　2名 【中谷准教授】				
同仁会周南記念病院　2名 【山田助教】					同仁会周南記念病院　2名 【山田助教】				
同仁会周南記念病院　2名 【高橋助教】					同仁会周南記念病院　2名 【高橋助教】				
同仁会周南記念病院　2名 【中谷准教授】					同仁会周南記念病院　2名 【中谷准教授】				

1					1				
10	11	12	13	14	17	18	19	20	21
祭日	火	水	木	金	月	火	水	木	金
周南市立新南陽市民病院　5名 【山田助教】					周南市立新南陽市民病院　5名 【山田助教】				
周南市立新南陽市民病院　6名 【山田助教・実習助手D】					周南市立新南陽市民病院　6名 【山田助教・実習助手Ｄ】				
周南市立新南陽市民病院　5名 【岡田教授・助手A】					周南市立新南陽市民病院　5名 【岡田教授・助手A】				
徳山リハビリテーションセンター　4名 【渡邉講師】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【渡邉講師】				
徳山リハビリテーションセンター　4名 【高橋助教】					徳山リハビリテーションセンター　4名 【高橋助教】				
光市立大和総合病院　2名 【松浦教授】					光市立大和総合病院　2名 【松浦教授】				
光市立大和総合病院　2名 【松浦教授・助手B】					光市立大和総合病院　2名 【松浦教授・助手B】				
光市立大和総合病院　2名 【中谷准教授】					光市立大和総合病院　2名 【中谷准教授】				
光市立大和総合病院　2名 【中谷准教授・実習助手Ｅ】					光市立大和総合病院　2名 【中谷准教授・実習助手Ｅ】				

1					1	2			
24	25	26	27	28	31	1	2	3	4
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
周南市立新南陽市民病院　4名 【岡田教授・助手A】					周南市立新南陽市民病院　4名 【岡田教授・助手A】				
周南市立新南陽市民病院　4名 【山田助教】					周南市立新南陽市民病院　4名 【山田助教】				
JA山口厚生連周東総合病院　4名 【中谷准教授】					JA山口厚生連周東総合病院　4名 【中谷准教授】				
JA山口厚生連周東総合病院　4名 【高橋助教】					JA山口厚生連周東総合病院　4名 【高橋助教】				
光市立大和総合病院　2名 【松浦教授】					光市立大和総合病院　2名 【松浦教授】				
光市立大和総合病院　2名 【松浦教授・助手B】					光市立大和総合病院　2名 【松浦教授・助手B】				
光市立大和総合病院　2名 【渡邉講師】					光市立大和総合病院　2名 【渡邉講師】				
光市立大和総合病院　2名 【渡邉講師】					光市立大和総合病院　2名 【渡邉講師】				

2027年【3年生：高齢者看護実習】

6G:8名

月										
	10					10				
日	4	5	6	7	8	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
ふくしの里 4名 【辻講師】										
あおぞら 4名 【加茂助教】										

8G:8名

10					10				
18	19	20	21	22	25	26	27	28	29
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
ふくしの里 4名 【辻講師】									
あおぞら 4名 【加茂助教】									

7G:8名

11					11				
1	2	3	4	5	8	9	10	11	12
月	火	祭日	木	金	月	火	水	木	金
ふくしの里 4名 【辻講師】									
あおぞら 4名 【加茂助教】									

9G･10G:16名

11					11				
15	16	17	18	19	22	23	24	25	26
月	火	水	木	金	月	祭日	水	木	金
ふくしの里 4名 【田淵教授・実習助手Ｆ】									
あおぞら 4名 【田淵教授・実習助手G】									
つづみ園 4名 【辻講師】									
くすのき苑 4名 【加茂助教】									

2G･3G:16名

1					1				
17	18	19	20	21	24	25	26	27	28
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
ふくしの里 4名 【田淵教授・実習助手F】									
あおぞら 4名 【田淵教授・実習助手G】									
つづみ園 4名 【辻講師】									
くすのき苑 4名 【加茂助教】									

1G･4G･5G:24名

1	2				2				
31	1	2	3	4	7	8	9	10	11
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
ふくしの里 4名 【田淵教授・実習助手Ｆ】									
つづみ園 4名 【加茂助教】									
くすのき苑 4名 【辻講師】									
ゆめ風車 4名 【田淵教授・実習助手G】									

2027年【3年生：小児看護実習】

8名

月										
日	10					10				
曜日	4	5	6	7	8	11	12	13	14	15
	月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
	JCHO徳山中央病院　8名						和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども
	【半田准教授・助手A】						【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】
							鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園
							【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】

8名

10					10					
11	12	13	14	15	18	19	20	21	22	
祭日	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

10					10					
18	19	20	21	22	25	26	27	28	29	
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

10					11					
25	26	27	28	29	1	2	3	4	5	
月	火	水	木	金	月	火	祭日	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

11					11					
1	2	3	4	5	8	9	10	11	12	
月	火	祭日	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

11					11					
8	9	10	11	12	15	16	17	18	19	
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

11					11					
15	16	17	18	19	22	23	24	25	26	
月	火	水	木	金	月	祭日	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

11					11		12			
22	23	24	25	26	29	30	1	2	3	
月	祭日	水	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

11		12			12					
29	30	1	2	3	6	7	8	9	10	
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

8名

12					12					
6	7	8	9	10	13	14	15	16	17	
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
JCHO徳山中央病院　8名					和光保育園	和光保育園	鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	まとめ	
【半田准教授・助手A】					【井上教授】	【井上教授】	【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	
					鼓ヶ浦子ども	鼓ヶ浦子ども	和光保育園	和光保育園	【山本教授】	
					【山本教授】	【山本教授】	【井上教授】	【井上教授】		

2027年【3年生：母性看護実習】

8名

月	10					10				
日	4	5	6	7	8	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】							あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】

8名

11					11				
8	9	10	11	12	15	16	18	19	20
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

8名

10					10				
11	12	13	14	15	18	19	20	21	22
祭	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

8名

11					11				
16	17	18	19	20	23	24	25	26	27
月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】						あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】

8名

10					10				
18	19	20	21	22	25	26	27	28	29
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

8名

11					11	12			
23	24	25	26	27	30	1	2	3	4
祭日	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

8名

10					11				
25	26	27	28	29	1	2	3	4	5
月	火	水	木	金	月	祭日	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】		あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】

8名

11	12				12				
30	1	2	3	4	6	7	8	9	10
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

8名

11					11				
1	2	3	4	5	8	9	10	11	12
月	祭	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

8名

12					12				
6	7	8	9	10	13	14	15	16	17
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
JCHO徳山中央病院　8名 【百田講師・助手B】					あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 院内助産 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	あんしん子育て 【大平教授】 助産院 【大平教授】 NICU 【渡邉教授】	まとめ 【大平教授】 【渡邉教授】 【百田講師】

2027年【3年生：精神看護実習】

3G：8名

月	10					10				
日	4	5	6	7	8	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	祭日	火	水	木	金
	吉南病院　4名 【大達准教授】					吉南病院　4名 【大達准教授】				
	吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手C】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手C】				

7G：8名

10					10				
18	19	20	21	22	25	26	27	28	29
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
吉南病院　4名 【大達准教授】					吉南病院　4名 【大達准教授】				
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手A】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手A】				

2・4・5G：24名

12					12				
13	14	15	16	17	20	21	22	23	24
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手A】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手A】				
吉南病院　4名 【大達准教授・助手A】					吉南病院　4名 【大達准教授・助手A】				
吉南病院　4名 【大達准教授・助手B】					吉南病院　4名 【大達准教授・助手B】				
吉南病院　4名 【大達准教授】					吉南病院　4名 【大達准教授】				
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手B】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手B】				
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手C】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手C】				
小郡まきはら病院　4名 【羽生教授・実習助手D】					小郡まきはら病院　4名 【羽生教授・実習助手D】				
小郡まきはら病院　4名 【羽生教授・助手C】					小郡まきはら病院　4名 【羽生教授・助手C】				

2・4・5G：24名

1					1				
10	11	12	13	14	17	18	19	20	21
祭日	火	水	木	金	月	火	水	木	金
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手B】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手B】				
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手C】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手C】				
吉南病院　4名 【大達准教授・助手B】					吉南病院　4名 【大達准教授・助手B】				
吉南病院　4名 【大達准教授】					吉南病院　4名 【大達准教授】				
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手D】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手D】				
吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手E】					吉南病院　4名 【大達准教授・実習助手E】				
小郡まきはら病院　4名 【羽生教授】					小郡まきはら病院　4名 【羽生教授】				
小郡まきはら病院　4名 【羽生教授・助手C】					小郡まきはら病院　4名 【羽生教授・助手C】				

9・10G：16名

1					1	2			
24	25	26	27	28	31	1	2	3	4
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
吉南病院　4名 【大達准教授】					吉南病院　4名 【大達准教授】				
吉南病院　4名 【大達准教授・助手Ｃ】					吉南病院　4名 【大達准教授・助手Ｃ】				
吉南病院　4名 【大達准教授・助手B】					吉南病院　4名 【大達准教授・助手B】				
吉南病院　4名 【羽生教授・実習助手A】					吉南病院　4名 【羽生教授・実習助手A】				

2027年　統合実習　教員配置表

領域名	学生数	実習施設名	実習期間	教員名
基礎看護学	16名	周南市立新南陽市民病院 下松中央病院	6月7日～6月18日	杉本教授・上野教授・藤井准教授・堂本准教授・福森講師・磯濱助教
成人看護学	16名	周南記念病院 光市立光総合病院	6月14日～6月25日	岡田教授・松浦教授・中谷准教授・渡邊（多）講師・山田助教・高橋助教
高齢者看護学	8名	こもれびの杜 グループホームくめの里	6月14日～6月25日	田淵教授・辻講師・加茂助教
小児看護学	8名	児童発達支援センター鼓ヶ浦つばさ園 しゅうよう保育園 蓮生・まこと幼稚園（ふたば保育園）	5月17日～5月28日	井上教授・山本教授・半田准教授
母性看護学	8名	みちがみ病院 ギャップフィリング株式会社	5月17日～5月28日	大平教授・渡邊（淳）教授・百田講師
精神看護学	8名	山口県こころの医療センター りふれ前田病院	8月16日～8月27日	羽生教授・大達准教授
地域・在宅看護学	8名	訪問看護ステーションもみじ 徳山中央病院附属訪問看護ステーション 訪問看護ステーションねこの手	5月17日～5月28日	家根教授・久乗講師・堀井助教
公衆衛生看護学	8名	山口ヘルスプロモーションネットワーク	6月14日～6月25日	鶴田教授・田川講師・木倉助教

年次別臨地実習計画表

年度	学年	実習科目	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
				第１ターム										第２ターム										夏季休業							第３ターム										第４ターム																				
				4月					5月					6月					7月					8月				9月				10月				11月					12月				1月				2月					3月					
				月		5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	6	13	20	27
				火		6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	7	14	21	28
				水		7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	1	8	15	22	29
				木	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	2	9	16	23	30
				金	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	3	10	17	24	31
2024（R6）	1	well-being実習Ⅰ（地域の成人・高齢者）	1										80人																																														
		well-being実習Ⅱ（地域の幼児・学童期）	1																					40人	40人																																		
2025（R7）	2	基礎看護実習Ⅰ	1								40人	40人																																															
		基礎看護実習Ⅱ	2																																																						
2026（R8）	3	母性看護実習（病院→助産院・子育て支援）	2																												1G	3G	5G	7G	9G																								
																																2G	4G	6G	8G	10G																						
		小児看護実習	2																												10G	1G	3G	5G	7G																								
																																9G	2G	4G	6G	8G																						
		成人急性期看護実習	2																												4G	6G	1G	2G																								
																															5G	10G	8G	3G																								
																															7G		9G																								
		成人慢性期看護実習	2																																		2G	1G								4G	3G										
																																					7G									5G	6G										
																																													9G	8G										
																																													10G										
		高齢者看護実習	2																												6G	8G	7G	9G														2G	1G										
																																					10G									3G	4G										
		精神看護実習	2																												3G	7G														2G											
																																															4G										
																																																5G										
		地域・在宅看護実習	2																												8G	5G	10G		1G													6G									2G	
																																					3G																		7G	
																																														4G		9G										
2027（R9）	4	統合実習（小児・母性・在宅）	2								24人																																														
		総合実習（精神看護）																						8人																																		
		統合実習（基礎）													16人																																									
		統合実習（成人・高齢者・公衆衛生）														32人																																								
		well-being実習Ⅲ（地域の健康課題）	2																			40人	40人																																				
2027（R9）	保健師コース必修実習																																																							
	4	公衆衛生看護実習Ⅰ	3																						1G				2G																													
		公衆衛生看護実習Ⅱ	2																							1G					2G																										

ソーシャルワーク実習施設一覧

	施設名及び施設種別	氏名 (法人にあっては名称)	設　置 年月日	所在地	入所 定員	実習指導者	実習受 入人数
1	つづみ園地域包括支援センター (地域包括支援センター)	社会福祉法人周南市社会福祉事業団	平成18年4月1日	山口県周南市瀬戸見町12-30	―	松田　俊也	5名
2	周南市社会福祉協議会 (社会福祉協議会)	社会福祉法人周南市社会福祉協議会	平成15年4月21日	山口県周南市速玉町3-17 周南市徳山社会福祉セン	―	木原正和 山本多恵	10名
3	下松市社会福祉協議会 (社会福祉協議会)	社会福祉法人下松市社会福祉協議会	昭和29年1月27日	山口県下松市西市2丁目10番16号	―	廣石順丈 石田寿幸	10名
4	特別養護老人ホームつづみ園 (特別養護老人ホーム)	社会福祉法人周南市社会福祉事業団	昭和49年6月10日	山口県周南市瀬戸見町12-30	120名	武中　雅 松田　俊也	10名
5	共楽養育園 (児童養護施設)	社会福祉法人共楽園	昭和21年2月15日	山口県周南市久米1347	80名	平島瞳	5名
6	つくし園 (障害者支援施設)	社会福祉法人つくし園	昭和47年12月1日	山口県周南市大字米光356番地	50名	福田之広 藤井一彦 河村康信	15名
7	やまなみ荘 (特別養護老人ホーム)	社会福祉法人鹿野福祉会	平成7年4月1日	山口県周南市大字鹿野上2755番地１	100名	坂本洋一	5名
8	くすのき苑 (地域密着型特別養護老人ホーム)	社会福祉法人光仁会	平成26年11月1日	山口県周南市城ケ丘3丁目6番1号	29名	松本咲子	5名
9	光富士白苑 (特別養護老人ホーム)	社会福祉法人光富士白苑	昭和46年6月11日	山口県光市虹ケ浜2丁目5番7号	100名	島田和重	5名
10	相談支援センター拓未 (相談支援事業所)	特定非営利活動法人周南さわやか会	平成24年4月1日	山口県周南市児玉町2－5－1三星児玉ハイツ１F-A	―	末田真由美	5名
11	特別養護老人ホーム防府あかり園 (特別養護老人ホーム)	社会福祉法人博愛会	昭和49年5月1日	山口県防府市大字台道1655番地	142名	友景久枝 山本尚志	10名
12	ライクホームはるか (児童養護施設)	社会福祉法人はるか	昭和26年8月1日	山口県岩国市立石町3丁目６番25号	36名	松原修一 山本千尋	5名
13	虹のかけ橋 (児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護)	特定非営利活動法人虹のかけ橋	平成14年3月15日	山口県光市室積正木14番3号	10名・ 10名	室本好重 岡田一雄	5名
14	歩夢ケアプランセンター (相談支援事業所・居宅介護支援事業所)	合同会社　歩夢	平成20年5月15日	山口県光市室積正木14番3号	―	岡田一雄	5名
15	デイジーくらぶ (児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護)	社会福祉法人光仁会	令和2年12月1日	山口県光市光井9丁目8番30号	10名・ 10名	竹内俊路	5名
16	鹿野学園成人部 (障害者支援施設)	社会福祉法人鹿野学園	平成21年4月1日	山口県周南市大字鹿野1010番地	50名	川﨑一成	5名
17	鹿野学園成人部第二成人部 (障害者支援施設)	社会福祉法人鹿野学園	平成19年4月1日	山口県周南市大字鹿野10513番地の1	38名	川﨑一成	5名
18	特別養護老人ホームくりや苑 (特別養護老人ホーム)	社会福祉法人栗屋福祉会	平成24年7月17日	山口県周南市大字栗屋792番地1	100名	植村陽子	5名

Ⅰ　ソーシャルワーク実習について（総論）

1　意義と目標

（１）ソーシャルワーク実習の意義

今日、社会福祉分野における福祉ニーズは複雑化し、多様化している。さらに、国は人口減に伴うサービス担い手の不足､血縁･地縁のつながりが弱くなっている現状を踏まえ、人と人、人と社会がつながり支え合う取り組みを推進していこうとしている。この動きが「地域共生社会の実現」という動きである。この、地域共生社会の実現を推進していくためにソーシャルワーク専門職である社会福祉士が、より実践能力を高められるようにカリキュラムが見直されている。これまで、実習関連科目は「相談援助実習」などの名称で開講されていたが、今後は「ソーシャルワーク実習」と、よりソーシャルワーク機能の習得を前面に掲げている。

本学で学ぶべき社会福祉は、きわめて専門性の高い領域であり、教室での講義等による知識学習だけでは、日々地域社会の中で生活している利用者のニーズを十分に理解し、それに対応できる援助方法を体得することはできない。また、現実に地域社会で機能している社会福祉施設・機関の状況も、そこでの経験を踏まえなければ十分理解できない。そこにソーシャルワーク実習の意義がある。

このようにソーシャルワーク実習は、大学での知的学習と福祉現場での実践体験を結びつける役割を果たしている。どちらを外しても実践の学びとしての社会福祉は成り立たない。

このように重要な意義をもつソーシャルワーク実習に際しては、その意味の理解と綿密な準備のもとに立てられた実習計画に沿って、実習の機会を有効に活用し、効果的な実習になるように心がけてほしい。

（２）ソーシャルワーク実習の目標

厚生労働省の通知[1]によれば、ソーシャルワーク実習の目標は次に示す通りである。

①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。

②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。

③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。

④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。

[1] 令和元年 6 月 28 日　厚生労働省社会・援護局福祉人材確保対策室　「社会福祉士養成における教育内容の見直しについて」

⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

そして、実習生は以下の項目について、実習期間内に実践現場等で学び、評価を受けることになる。

①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成

②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成

③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価

④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価

⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解

⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ

⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解

⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）

⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解

⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解

・アウトリーチ
・ネットワーキング
・コーディネーション
・ネゴシエーション
・ファシリテーション
・プレゼンテーション
・ソーシャルアクション

さらに、以下の規定がある。

〇ソーシャルワーク実習は、異なる機関・事業所の２カ所以上で行うこととし、１つの機関・事業所において以下の要件を含めた 180 時間以上の実習を必須とする。

＊１つの機関･事業所において､一定期間以上継続して実習を行う中で､支援計画の作成、実施、評価といったソーシャルワークの一連の過程を網羅的に実践すること。

＊実習機関・事業所と、複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた、総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ実習とすること

以下、本学における実習の進め方について説明していく。

２　ソーシャルワーク実習の進め方

本学のソーシャルワーク実習は、ソーシャルワーク実習Ⅰとソーシャルワーク実習Ⅱとに分けられる。

（１）ソーシャルワーク実習Ⅰ

①形態：2 年次春期休業期間に行われる「見学実習」と、3 年次夏期休業期間中に行われる「ソーシャルワーク実習」がある。この両者を合わせてソーシャルワーク実習Ⅰとなる。

②期間：「見学実習」は 15 時間以上（ほとんどの場合 2 日間程度）であり、「ソーシャルワーク実習」は 180 時間以上（実質 23～24 日間、約 5 週間）とする。また「ソーシャルワーク実習」期間中には帰校日を設ける（ただし、帰校日は実習時間には含めない）。

③実習先：社会福祉士及び介護福祉士法(昭和 62 年厚生省告示 203 号および平成 20 年 11 月 11 日社援発第 1111001 号厚生労働省社会・援護局長通知)に規定されている施設・機関で行なう。なお、「見学実習」と「ソーシャルワーク実習」は同一施設・機関で行う。

④実習先の選定：原則として本学が斡旋する実習先から選ぶ。

（２）ソーシャルワーク実習Ⅱ

①形態：3 年次春期休業期間中に「ソーシャルワーク実習Ⅰ」とは異なる実習先で実施する。以下の二つのパターンが想定されている。

a.施設・事業所の機能も対象者も異なる場合。例えば、ソーシャルワーク実習Ⅰでは特別養護老人ホームで実習し、ソーシャルワーク実習Ⅱでは障がい者就労移行支援施設で実習する場合である。

b.施設・事業所の利用者が同じだが、機能が異なる場合。例えば、ソーシャルワーク実習Ⅰでは特別養護老人ホームで実習し、ソーシャルワーク実習Ⅱでは地域包括支援センターで実習する場合。

②期間：45 時間以上とする。

③実習先：社会福祉士及び介護福祉士法(昭和 62 年厚生省告示 203 号および平成 20 年 11 月 11 日社援発第 1111001 号厚生労働省社会・援護局長通知)に規定されている施設・機関で行なう。

④実習先の選定：原則として本学が斡旋する実習先から選ぶ。

＊なお、ソーシャルワーク実習Ⅰを行なうには、所定の科目を履修しておかなければその資格が発生しないので、計画的に単位を取得しておくこと。

３　ソーシャルワーク実習指導

（１）本学におけるソーシャルワーク実習

本学におけるソーシャルワーク実習は、「ソーシャルワーク実習指導」(6 単位・90 時間)と「ソーシャルワーク実習」(6 単位・240 時間)という専門科目から成り立っている。これらの科目は、選択科目であるが、社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目であり、実習施設・機関も法に定められた指定施設に限られる。

（２）ソーシャルワーク実習指導の方法と課題

ソーシャルワーク実習指導は、(以下、「実習指導」)指定施設において実施されるソーシャルワーク実習の「事前学習」、「事後学習」である。その内容は、シラバスの通りであるが、方法としては概ね次のようなものである。学生はこの課題について、すべて達成していなくてはならない。

1)事前学習

これは2年次後期（実習指導Ⅰ）と3年次前期（実習指導Ⅱ）、3年生後期（実習指導Ⅲ）において、主として本学の教員によって実施する。3年次前期に行われる事前学習（実習指導Ⅱ）は3年次夏期休業中に実施するソーシャルワーク実習Ⅰの準備としての意味を持ち、3年生後期に行われる事前学習（実習指導Ⅲ）は、3年次春期休業中に実施するソーシャルワーク実習Ⅱの準備として位置づけられている。その課題は、次の通りである。

①実習の意義、目標を理解し適切な実習計画書を作成する。
② 選択した実習施設の基本的な知識を習得する。
③ 実習施設で必要とされる専門的技術の基礎について理解する。
④ 個人のプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
⑤ 実習の態度と心得を身につける。

2)事後学習

ソーシャルワーク実習Ⅰの事後学習は、ソーシャルワーク実習Ⅰが終了した後の3年次後期（実習指導Ⅲ）において実施する。また、ソーシャルワーク実習Ⅱの事後学習は、ソーシャルワーク実習Ⅱが終了した後の4年次前期（ソーシャルワーク演習Ⅳ）にて実施される。実習指導Ⅲではグループ学習や個別指導を通して、実習で学んだことをまとめ、さらに学習が必要とされる部分を補い、最終的には実習報告書を作成し、実習報告会を行なう。

なお、実習指導を履修するにあたっては、一定の講義科目を履修し、単位を取得しておく必要がある。計画的に単位を取得すること。

3)学習の心得

① 実習事前学習は、ソーシャルワーク実習のための基礎学習である。他の専門科目と関連づけて学習を進めていく。
② 日頃から、社会で起こっている福祉関連問題に常に関心を払い、ボランティア活動にも積極的に参加することによって、自分の関心領域の知識を深め、学習目標および課題の設定に役立てる。
③ 講義中に十分理解できないことがある場合や自己の学習不足を感じることがあれば、実習資料室の設備を積極的に利用する等の自己学習に取り組む。
④ ソーシャルワーク実習は、福祉施設・機関の協力さらに利用者の理解と協力があって成り立つものである。そこには学生自身にも社会人としてのまた専門家を志す者としての誠意と熱意、自覚と責任をもった学習態度が要求される。

４　学内での実習指導体制

ソーシャルワーク実習全体の指導は、実習担当教員が責任をもち、大学としての単位認定と評価を行なう。実習担当教員は、学生の指導、実習先の選定支援や調整、実習先の実習指導担当者との連絡調整などを行なう。具体的には、主として「実習指導」、「ソーシャルワーク演習」（以下、「演習」という。）の中で行う。

実習指導業務の窓口として、「実習準備室」、実習に必要な資料が閲覧できる部屋として「実習資料室」を置く。ここには、実習助手が在室し、担当教員との連携のもと、実習に

関する諸手続を行なっている。ここにおいて、事前学習・事後学習における資料提供、実習施設に関する情報提供、各種書類の送付などの事務手続きに関する確認と助言の他、各種の相談にも応じる。

５　実習全体の大まかな流れ

月	２　年　次	３　年　次	４　年　次
４		見学実習報告書の提出 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」 「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の開講	「ソーシャルワーク演習Ⅳ」の開講 1.自己評価表の作成 2.実習報告書の作成
５		実習先と実習日程の最終調整 実習日程、実習生受入調査票発送	
６		1. 実習先の概況の作成 2. 実習計画書の作成 3. 守秘義務に関する誓約書の作成 4. その他事前学習	
７	「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」補講の開講 1. 履修に関する「誓約書」の提出 2.実習領域の選定（個別面談実施）	実習事前訪問の実施 1. 実習計画書相談・提出 2. 事前訪問終了報告書の作成 （健康診断票の取得） （検便検査・感染症検査の実施）	
８		ソーシャルワーク実習Ⅰ（180 時間）の開始 1. 実習終了証明書・実習評価表・（健康診断票）・（検便、感染症検査結果）の提出 実習巡回または大学での指導と巡回報告書の提出	
９	「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」後期の開講 1. ソーシャルワーク実習Ⅰ配属実習先の確定 2. 実習生紹介票の作成 3. その他事前学習 実習依頼書・実習生紹介票発送 実習生受入調査票発送	ソーシャルワーク実習Ⅰの終了 1.実習日誌・実習日報の提出・各種清算・実習終了報告 2.学生による礼状の発送 実習施設からの実習評価表等の返送 礼状の発送	
１０		「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の開講	
１１	実習施設訪問挨拶 実習受け入れ依頼	1. 自己評価表の作成 2. 実習報告書の作成 3. 実習報告会	

		ソーシャルワーク実習Ⅱ	
１２	**麻疹抗体検査又は予防接種の実施**	**1. 実習先の概況の作成** **2. 実習計画書の作成** **3. 守秘義務に関する誓約書の作成** **4. その他事前学習** **実習事前訪問の実施** **1. 実習計画書相談・提出** **2. 事前訪問終了報告書の作成** **3. 実習日程の最終調整**	
1			
2	**ソーシャルワーク実習 1 (見学実習 15 時間)の実施**	**ソーシャルワーク実習Ⅱ(45 時間)の開始**	
3		**ソーシャルワーク実習Ⅱの終了** **1.実習日誌・実習日報の提出・各種清算・実習終了報告** **2.学生による礼状の発送** 実習施設からの実習評価表等の返送 礼状の発送	

太字は学生が行なう事項。その他は大学が行なう事項。

Ⅱ　ソーシャルワーク実習の事前指導

１実習施設・機関の決定

ソーシャルワーク実習は原則として、本学が斡旋する施設から選定し実施する。実習施設・機関（以下、「実習施設」という。）の選定の流れと方法については、次に述べる通りである。

（１）実習施設選定の手順

1）実習施設に関する授業

各施設がどのような機能と役割を持っているかなど、実習施設の選定に必要な情報提供を行なう授業に出席する。

2）実習を希望する領域の選定

学生は実習を希望する領域を選定する。240 時間以上（実質 32 日以上、約 6 週間）という長期にわたる貴重な実習なので、自分はどの分野に関心があるのか、充分に検討して選択する。

①「ソーシャルワーク実習」希望願の提出

所定用紙に第 3 希望まで記入し、指定された日までに、実習準備室に提出する。学生はその控えをとり各自で保管しておく。

②「個別面談」の実施

希望する実習領域を詳しく把握するため個人面談を行う。

③配属(予定)実習先の確定

（２）実習予定施設訪問の手順

1）施設訪問のための心得と留意点を学ぶ

2）電話をかける

・電話をかけ事前訪問をお願いする。

・アポイント(予約)をとる

・お礼を述べる

≪電話のかけ方例≫

１　まず自分の身分を名のり担当者につないでもらう 「私は周南公立大学人間健康科学部〇年の〇〇〇〇と申します。お忙しいところを申し訳ありません。実習のことでお電話をさせて頂いたのですが、担当の方をお願いできますでしょうか」。
２　担当者に用件を伝える 「周南公立大学人間健康科学部〇年の〇〇と申します。いまお時間、よろしいでしょうか。このたびは実習をお受け頂きありがとうございました。実習に先立って、ご挨拶にうかがいたいと思いましてお電話をさせて頂きました」。
３　先方の反応をみながら 「大変お忙しいとは思いますが、〇月〇日から〇日頃までの間でお伺いさせていただけませんでしょうか」。

４　電話の終了
「わかりました。それでは〇月〇日の〇時〇分に伺いますのでよろしくお願い致します。大変ありがとうございました。失礼致します」。

3）訪問する

訪問の目的は、受け入れて頂いた礼儀としての挨拶と自己紹介、その他お願い・確認などをするためである。訪問した際は、パンフレットや当該施設の内容が分かる資料をいただく。３年次の実習指導において「実習先の概況」を作成することになるが、その際に必要である。

訪問の際は、次のことに注意すること。

① 正装（スーツを基本)、黒髪、ナチュラルメイク、アクセサリー・香水はなし。
② 遅くとも約束の時間の 10 分前には到着。
③ 施設内の見学を依頼する。
④ 挨拶と自己紹介、その他お願い・確認事項を述べる。
⑤ 貴重な時間をとっていただいたことに感謝を述べ帰途につく。

≪面談例≫

１　自分を改めて名のり、お礼を述べる
「〇〇と申します。このたびは実習をお引き受けいただきありがとうございました。・・・・」。

２　次のことをしっかり行う
①自己紹介
②社会福祉士取得コースを選択した理由
③実習までの学習課題を確認

３　話が一区切りついたら
「見学実習の日時が近くなりましたら、改めて連絡させていただきます。今日はお忙しい中、お時間をとっていただきありがとうございました。それでは失礼いたします」

２　大学からの実習依頼

配属実習先の確定後、大学より当該施設に対して、実習依頼を行なう。大学から①「実習依頼書」、②「実習契約書」、③「実習生紹介票」④「実習生受け入れ調査票」を送付する。④については実習実施年度に送付し、実習にあたって、健康診断票の提出は必要か、検便検査は必要か、感染症に対する配慮はどうすればいいのか、宿泊する場合の諸費用（食

費、宿泊費）等を回答してもらうので、その回答については、後日学生に知らせる。

３　事前学習の内容

事前学習は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」、この他関連して「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」のシラバスに沿って実施される。試験の成績は、各科目の合否に関わるので、学生は十分に自覚して取り組むこと。

４　「実習生紹介票」の作成

「実習生紹介票」は、大学からの実習依頼書送付の際に、実習施設に対して一緒に提出するものである。ボールペン（黒）又は万年筆（黒）で丁寧に記入し、写真を添付の上、実習準備室に指定期日までに遅れないように提出すること。以下、提出書類の記入はすべてボールペン（黒）又は万年筆（黒）で行なう。「実習生紹介票」は、実習準備室で内容を確認する。不備の場合は書き直しを求める。

５　「見学実習報告書」の作成

見学実習について、その報告書を作成する。3 年次前期の実習指導Ⅱで報告会を行なう。

報告書は、Ａ4 用紙、本文 2 枚以上(40 字×40 行、表紙をつけること)ワープロ打ちにて作成する。内容は、主に体験したこと、その中での気づき、感想を述べる。

６　「実習先の概況」の作成

「実習先の概況」は、実習施設の概況を事前に学習し、まとめておくものである。見学実習の際に実習施設のパンフレットなど情報を収集しておくこと。

また、ここには実習巡回の際に必要な「実習施設までの交通案内」を記載することになっている。具体的に分かりやすく記載する。完成したものは、1 部（コピー）は実習準備室に提出し、1 部（原本）は実習日誌にファイルする。

７　「実習計画書」の作成

（１）実習計画書作成の意義

実習計画書は、学生が実習期間中に学ぶべきことを明確化した文書である。実習先は、実習計画書から学生が何を学ぼうとしているのかを見て取り、実習先が提供できるプログラムを立案していくことになる。

本学では、ソーシャルワーク実習は２回に分けて行われるので、学生は２カ所の実習をセットにして実習計画書を考えておくことが必要である。実習担当教員から説明がある、厚生労働省通知の内容について、学生自身よく理解し実習目標を立てる必要がある。

実習計画書は、担当教員による個別指導を受け、完成したら３部作成し（複写で可）、１部（原本）は実習施設へ、１部は実習準備室へ、１部は学生本人の控えとする。

（２）実習計画書の内容と記述方法

1）私にとっての実習の意義（実習への想い）

学生自身の実習への想いや基本的な姿勢について述べる。大学における学習の集積（事

前学習)や進路希望、施設見学、過去の実習体験やボランティア活動、サークル活動、さらに全生活体験をふまえ、自分にとって実習がどのような意味を持っているのか、実習で是非とも学びたいことは何か、どうしてそのことに関心があるのか、また実習で学んだことを今後どのように役立てたいかなどについて率直に表規することが大切である。施設見学で感じたこと、印象に残ったことなどと関連づけて書く方法もある。

〈記述例〉
・「児童養護施設の現場で働きたいと考えており、その心構えを学びたいと思う。」
・「授業で学んだことと、それを現場で応用することのギャップを肌で感じ、何が自分に欠けているのか、何が必要なのかということを学ぶことができると思う。」
「対人サービスの難しさ、辛さ、喜びの一端を直接経験することにより、漠然としていた問題意識を深めることができる。」
・「経験を積んだ専門スタッフの方の援助技術を直接拝見し、また指導を受けることによって、専門職への自覚を高めることができると思う。」

2) 実習の具体的な達成課題と方法
　厚生労働省の通知にある、「教育に含むべき事項」10項目について、ソーシャルワーク実習Ⅰとソーシャルワーク実習Ⅱとで振り分け、(もちろん、重複することもある)実習の達成目標と行動目標に落とし込んでいく。
〈記述例〉
「教育に含むべき事項」①　利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
【達成目標】
クライエントなどと人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる
【行動目標】
クライエントやその家族、グループ、地域住民、職員等あらゆる出会いの場面において、その人の状況に合わせて挨拶や自己紹介、声かけをしていくことができる。
「教育に含むべき事項」⑦　施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)
【達成目標】
実習施設や機関等の経営理念や戦略を分析に基づいて説明することができる。
【行動目標】
各種委員会の役割や合意形成の過程と方法を説明することができる。

8　実習中の態度と心得
　実習現場は利用者にとっては「生活の場」であり、職員にとっては「真剣な仕事の場」である。次に述べることにはくれぐれも注意して行動する。

（１）守秘義務

実習現場で学生が見聞きする事柄は、利用者のプライバシーに深く関わる事柄である。学生として知り得た事柄であっても、利用者の人権を守るために、職務上知り得た個人の秘密事項の扱いと同様に、厳しい守秘義務が課せられている。

実習日誌や実習記録を不必要に他人に見せたり、容易に他人の目に触れるところに放置してはならない。個人情報をコピーしたり、持ち出して他人に漏らしてはならない。また、実習の行き帰りや実習現場で、不用意に知り得た事柄を話題にしてもいけない。相手が自分の家族や親しい友人であったとしても、実習中知り得た個人の私的な事情を決して話してはならない。大学に帰ってレポートを書く場合も、利用者個人の記載については住所、氏名等から利用者個人が特定できないように細心の注意を払わなければならない。

（２）人権の尊重

利用者は様々な心理的、社会的、身体的な問題を抱えて生活をしており、時に学生にとっては理解できないような行動をとることがある。利用者がどのような状況にあっても、どのような状態を示しても、人としての尊厳を守り、人権を尊重することは、福祉に関わる者の大前提であることに留意し、学生としても利用者の人権の尊重に最大限の注意を払わなければならない。

（３）職員に対する姿勢

学生が実習する施設は、行政上の枠組みや規制の中で、また限られた社会資源をもとに、それぞれの地域、施設の特殊性、歴史の中で日常業務にあたっている。時に利用者にとって最善の援助とは言いがたい対処を見かけても、未熟な経験から不用意な判断をしたり、批判をすることは厳に慎まなければならない。

行ったことは報告し、知らせる必要があることはすばやく連絡し、分からないこと、迷った場合には相談すること。（ほう・れん・そう）

「現場を学ばせていただく」という姿勢を忘れず、疑問に感じたことは指導時間内に節度ある質問をして教えていただくこと。それでも疑問が残る場合は、後日大学に帰った時に担当教員の指導を受け学習を続ける。

（４）仕事に対する姿勢

指示された仕事は、どのような内容や場面でも、イヤな顔をせず積極的に受け止めて行なうこと。仮に事情があり、引き受けることが困難な場合は、お詫びとともにその理由をきちんと述べること。

指示された仕事が終わっても、できるだけ細やかなことに気を配り、他の実習でも補助的に手を出すなど積極的に身体を動かすこと。

（５）健康面での注意

実習期間中の健康管理については、各自がその責任において、万全の注意を払うこと。健康状態に留意し実習を最後まで継続できるようにする事は、言うまでもないが、特に施設における実習では、利用者の方々に病気をうつさないためにも病気（感染症）にはくれぐれも注意する。

体力のある学生には大きな影響がなくても、体力の低下している利用者に対しては重大な結果を招くことがある。発熱や下痢がある場合には、症状が軽くても、各自が勝手に判

断しないで必ず実習指導担当者の指示に従う。

（６）全力で取り組む

実習では日常の業務の他、実習日誌やレポートなど様々な課題が課せられることから相当ハードな日々が予測される。学生はこれらに手を抜くことなく全力で取り組むこと。また前項の「健康管理」の観点も含めて、実習中のアルバイト、クラブ活動は行なわないこと。

（７）学生としての一般的心得

実習先では、その施設のこれまでの歴史、運営方針をよく理解・尊重し、施設の職員、利用者に迷惑をかけないように以下のことに注意する。

① 施設の服務規程に従う。

・実習開始時間よりも最低 15 分以上は早めに出勤し、所定の出勤簿があれば捺印する。

・勤務時間は厳守すること。やむを得ない理由で早退、欠勤、遅刻しなければならない時は、必ず事前に実習指導担当者に届け出る。

② 挨拶と言葉づかい

・誰とでも明るく大きな声で挨拶を交わし、積極的にコミュニケーションを図っていく。特に、実習生は“実習させていただいている立場”であり、必ず相手より先に挨拶を行なうように心掛ける。（おはようございます。失礼いたします。わかりました。お世話になります。ありがとうございます。申し訳ありません。すみません。よろしくお願いいたします）

・職員や来客者等とは、どのように慣れていようとも、また親しく接せられようとも、言葉づかいには注意を払い、決して気やすい言葉に流れないこと。

③ 服装と身だしなみ

・実習中は、派手すぎない、実習にふさわしい服を着用する。また、衣服の汚れ、ほころびなどには注意し身だしなみを整える。

・頭髪、爪などは、実習にふさわしい状態に整えること。介助や接触中の事故に繋がるので、不要なアクセサリーの着用は控えること。

④ 社会人としての常識をわきまえ、常に「学ばせていただいている」ことを自覚する。

・学生であると共に、社会人であることを自覚し、言葉使い、態度、節度と礼節をわきまえる。

・職員の指示に従う。

・質問事項、疑問に感じたことはメモに取っておき、指導を受ける時間にまとめて教えていただく。

・自由時間であっても、利用者の部屋に入ったり、自室に利用者を招き込んだりしない。

・みだりに外出しない。やむを得ず外出しなければならない時は、必ず事前に実習指導担当者に理由を説明し許可を得る。

・実習先では友人、知人との面会・電話を避ける。

・実習期間中に大学に届け出ている住所以外のところに滞在しない。

・宿泊実習の場合は、特に夜遅くまで騒がない。テレビ、ラジオ等に配慮する。

・携帯電話・PHS は、実習現場に持ち込まない。施設内の公衆電話は、利用する時も他の

利用を考え長電話をしない。

⑤ 利用者、職員との関係に注意する。

・利用者、職員との関係は、公平で節度あるものとする。

・利用者や職員の呼称については、実習担当職員に指示をもらう。

・利用者とは公平に接し、不必要に特定の利用者に偏って関わったり、品物や金銭の貸し借り、授受は行わないこと。

・職員や利用者との関係には礼節を尽くし、言葉使いも十分気をつける。

・職員や利用者と実習時間外に個人的な関係をもたない。

⑥ 実習記録、与えられた課題の達成に注意を払う。

・実習記録、実習中に与えられた課題については、定められた期日までに必ず提出する。

・返却された実習記録や提出物には必ず目を通し、指示がある場合には必ず対応する。

⑦ 事故への対応は迅速に行う。

・万が一実習中に事故を起こした時は、直ちに実習指導担当者または実習施設の責任者に報告し、その指示に基づいて処置する。その後速かに大学の実習担当教員に必ず連絡する。

・利用者やその家族の方との間で、対人関係のトラブルが起きた時も、それを事故と考え先の項目と同様に扱う。

９　打ち合わせ訪問と準備事項

（１）打ち合わせ訪問

これは、実習開始にあたっての諸事項について、直接学生が実習施設と打ち合わせるものである。時期としては、実習開始日からさかのぼって１ヶ月以内として、その期間内であれば特に指定しない。事前に電話をして、訪問日時を打ち合わせる。事前訪問の際の服装についての注意は、自己開拓の際の訪問の時と同じである。

事前訪問を実施した者は、訪問終了後１週間以内に「事前訪問終了報告書」を実習準備室に提出してください。

（２）健康診断の準備と提出（提出を求められた場合）

実習施設によっては、健康診断書の提出を求められる。毎年学内で実施している定期健康診断に基づく健康診断書でよい場合は、学務課に申し出て交付を受け、実習開始の当日に実習先に提出する。

（３）検便検査の実施と結果の提出（提出を求められた場合）

実習施設によっては、提出を求められる。(サルモネラ、赤痢、O-157 等） 結果次第では、実習を一時中止することもありうるので、次の要領に従う。

①早目に近くの病院または保健所等、検査を受ける場所を決め電話で問い合わせる。

②実習開始日の１週間前頃に結果が出るように資料を提出する。(通常結果が出るまで１週間程度かかるが、早すぎてはいけない）資料を提出したら、実習準備室にメールで（メールを使用しない場合は電話で）報告する。(直通電話 0834－28－5568)(E-MAIL jisshu@shunan-u.ac.jp）その際には名前を忘れないように。

③検査結果が出たら、すぐに結果をメールまたは電話で報告する。いずれかの項目に（＋）

反応があった場合は、メールだけでなくすぐに実習準備室に電話をする。

④(＋)反応があった場合は､実習準備室より､実習施設に連絡をとるのでその結果を待つ。

実習を中止する場合のその後のことについては、実習準備室と相談する。

⑤新コロナ感染症に関して

実習生に対して以下の内容を求められる実習先が多い。

・実習開始２週間前からの行動履歴をつけること

・公共交通機関利用の制限

・PCR 検査

・「ワクチン接種済み」が望ましい

これらの場合、実習先の指示に従うこと。

（４）実習携帯品の準備

実習中の服装、携帯品については、実習予定施設で事前にオリエンテーションがある場合はその時に、ない場合は事前に施設と連絡を取り、問い合わせること。

① 実習携帯品リスト

実習の手引、筆記用具、ホチキスあるいはクリップ、国語辞典、実習先から配布された資料、メモ帳、印鑑等

② 宿泊実習の場合は上記携帯品に次のものを加えること。

洗面用具、洗濯用具、コップ、箸、目覚まし時計、着替え、食費、宿泊費、常備薬、交通費等

10　ソーシャルワーク実習の中止について

自らの意思でコースを変更したい者は、早めに実習準備室に届け出ること。大学より当該施設に対して実習依頼の取り消しを行なう。また、現場実習に至るまでの段階で、別紙「誓約書」記載の内容に該当する場合にあっては、実習委員会の議決をへて「ソーシャルワーク実習」を中止あるいは｢ソーシャルワーク実習指導｣を不合格にすることがある。その場合は、その後の「実習指導」は受講できない。（次年度の再履修は可能である）

Ⅲ　ソーシャルワーク実習中の指導

１　実習中の態度と心得（再掲）

ソーシャルワーク実習に臨んでの最も基本的事項であるので、実習事前指導で学んだ事項を再度確認する。実習開始後に、この「実習中の態度と心得」にふれる行動、行為があった場合は、実習は停止され不合格として扱われるので十分注意すること。

２　ソーシャルワーク実習の学習課題

（１）学習の目標

「Ⅰソーシャルワーク実習について(総論)」で述べた意義と目標を再確認する。

（２）課題達成のために講義で修得しておくべき事項

1) コミュニケーション・スキル(対人関係技術)の修得

2) 人の理解（bio-psycho-social の視点)、

3) ミクロ―メゾ―（エクソ）―マクロいずれにも関わろうとする視点

ミクロレベル：直接的な支援の対象である個人と家族

メゾレベル：グループや学校、職場、近隣など「重要な他者」が存在し、クライエントに直接影響するシステム

マクロレベル：直接サービスの提供ではなく、社会問題に対応するための社会計画や地域組織化。

4) 福祉専門職としての倫理についての理解

5) 直接援助技術、間接援助技術についての理解

３　実習日誌の作成

（１）実習日誌の意義

実習日誌を作成することは、現場実習において重要な地位を占めている。その意味は、次の通りである。また、実習日誌は毎日必ず PC 等で作成し、USB フラッシュメモリーにも保存しておくこと。くれぐれも、USB フラッシュメモリーを紛失しないよう細心の注意を払ってほしい。

1) 実習成果の自己確認

実習の目的は、大学の講義で学んだ知識・理論を現場の体験を通して検証することである。日々の体験を記憶の新鮮なその日の内に振り返り、実習内容を整理し、文章化することによって、何が学べたか、その日の目標はどこまで達成できたかを確認することができる。それが翌日の実りある実習へとつながり、現場実習の目的を成就することになる。

実習体験での気づきや反省を考察した記録は、将来福祉の現場で働くようになった時、自分の出発点として、成長の証し、自己覚知のための貴重な財産となるであろう。

2) 実習指導担当者とのコミュニケーション

実習日誌は、学生の立場で体験したこと、観察したこととそれに対して学んだこと、疑問に思ったこと、考えたことを実習指導担当者に伝える手段である。実習指導者は、日誌を通して学生の取り組み姿勢、戸惑いなどを知り、メッセージを送り、コミュニケーショ

ンを図る。忙しい現場では、時として提出された日誌への実習指導担当者のコメントが滞る場合もあり得るが、日誌を読みコメントを書く負担の大きさを理解し、学生は、感謝の気持ちを忘れないで、毎日日誌を提出することが大切である。

3）実習担当教員の評価資料

実習日誌は、巡回担当教員が実習先に訪問した際、あるいは実習後に実習が目的に沿った成果をあげているかを確認し、評価するための大切な資料の１つである。

4）福祉専門職としての記録作成業務の訓練

福祉専門職の仕事では、利用者に関する正確な記録を作成することは、援助の方針を立て、またチーム内で情報を共有化するためにも極めて大切な業務である。日誌を書くことは、この記録作成業務に関する福祉教育の一環でもある。例えば、児童が利用者の場合、時として他人の関心を引きたいがために思わぬ言動をとることがある。「事実は必ずしも真実にあらず」ということを観察できる能力をつける必要がある。そうしたことを意識しながら観察し、記録するよう心がける。

（２）実習日誌の書き方

新しい人間環境の下で、慣れない仕事を行なう実習期間中に、毎日実習日誌を的確に記述することは非常に労力を要することである。翌日の実習に支障が出ないように、日々の実習日誌を手際よく完成させる。

また、実習指導担当者や実習担当教員が目を通すものであり、読みやすさに十分配慮して記述する必要がある。そのためには、次のような点に留意する。

1）筆記用具の携行

一日の出来事を思い出す手がかりにするため、筆記用具と小さいメモ帳を常に携帯し、気づいたこと、疑問に思ったこと、感じたことなどを、時間的余裕のある時にメモしておく。

2）焦点をきめた記録

日々「今日の目標」を掲げているので、基本的には実習日誌の「実習項目」および「実践内容」には、その日の目標に焦点を当てて記述することが好ましいが、それに関わらず、注目すべき出来事に遭遇した時は、そのことを中心に記録することもありうる。

3）批判的記述への留意

実習中に疑問に思うこともあるかもしれないが、経験の乏しい学生の短時間の関わりという限界を踏まえ、批判的記述は控えるようにする。また、当然のことながら、利用者に対する批判的・否定的記述は避ける。

4）国語辞典の活用

稚拙（ちせつ）な記述にならないよう、時制や主語・述語の曖昧な表現、誤字・脱字や簡単な漢字のひらがな表記、一般的でない流行語・省略語の使用には十分注意する。そのためには手元に国語辞典などを用意しておく。

5）「日記」との区別

私的な日記ではなく実習の記録なので、情緒的・詩的な表現は避け、事実と推測、主観と客観をはっきり区別して書く。

6）プライバシーへの配慮

記述にあたっては、利用者のプライバシーに細心の注意を払い、秘密の保持には責任を持たなければならない。基本的に利用者の実名は記さず、イニシャルで表記する。

４　実習日報の作成

日々の実習時間の記録と同時に、「出勤簿」としての役割を果たすものである。毎日正確に記入し、最終的には実習日誌にファイルする。

５　実習指導

実習期間中に、本学の教員が実習指導を行う。実習指導では、実習日誌等の内容点検、各種の相談と助言を行う。その指導形態は２つある。

１つは、教員が実習先を訪問する巡回指導であり、学生との２者面談の他、職員からも状況の把握を行う。施設に対しては、実習依頼の段階でその旨をお知らせしており、また訪問の際にも事前に連絡するが、学生は実習の開始時に、教員の巡回があることを実習指導担当者に確認のため伝えておく。

もう１つは、帰校日指導といい、大学に学生が帰り教員から指導を受ける方法である。日時については、実習開始前にあらかじめ決定する。

６　実習中の事故と保険

（１）事故が起きた場合

実習指導者、大学のいずれにも連絡を取り指示を受ける。この際大切なのは「この程度の事故であれば誰にも連絡しなくてもいいだろう」と、実習生が単独で判断しないことである。

１）　傷害・賠償責任保険について

◎ 学生教育研究災害傷害保険(学研災)･･･学生本人のケガに対する補償

－保険金が支払われる事故の範囲－

① 正課の講義、実験・実習、演習または実技による授業をうけている間の事故

② 学校行事に参加している間の事故

◎ 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）･･･他人にケガを負わせたり、他人の物を壊して賠償責任が発生した場合に適用される。

－保険金が支払われる事故の範囲－

① 正課、学校行事、およびその往復中に起きた事故

※実習中についても保険が適用される。実習中の場合は実習準備室または実習担当教員へ相談すること。

※実習先への通勤は､公共交通機関によるのが望ましいが､実習先へ相談し許可を得て、バイクや自家用車を使用する場合は、自賠責保険だけでなく、任意保険にも加入していることを必ず確認しておくこと。

◎感染症対応保険･･･新型コロナ感染症など、感染症にかかったときに適用される。

７　ソーシャルワーク実習の終了

施設の忙しい日常業務の中で、貴重な時間を学生の実習指導に割いていただいた職員の方々に感謝をしつつ実習を終了したいものである。そのためには、下記の項目に十分注意して、実習最後の１日を終える。

（１）実習日誌の提出

実習日誌は最終日には施設に提出して帰る。後日、「実習終了証明書」、「実習評価表」とともに大学に返送されてくる。

（２）貸与物品の返還と使用した部屋の清掃、整理をする

最終日の実習を終了した後、実習中に使用した部屋を、心を込めて清掃し、室内の整頓をする。貸与された更衣ロッカーや机、靴箱等も忘れずにきれいに掃除しておく。また貸与されていた物品は、品目と個数を確認し責任者に返却する。また個人の携帯品についても忘れ物がないように点検する。

（３）諸経費の清算をする

実習施設への実習費は大学から支払われるが、その他の経費（食費、寝具使用費、宿泊費、ユニフォームの使用料、洗濯費、破損した器物の弁償費等）は、担当者の指示によって退所するまでに必ず清算をすませる。

（４）利用者・職員の方々へ挨拶をする

実習先を去るにあたり、施設長、実習指導担当者、実習を支えてくださった施設の全ての職員や利用者に、感謝の気持ちを込めて挨拶する。

（５）実習準備室に報告する

実習終了後、日を空けずに報告する。（登校又は電話でも可）

（６）礼状を発送する

実習先への礼状（葉書でよい）は、実習でお世話になった者としての基本的な礼儀である。施設長や実習指導担当者宛に、実習終了後速やかに礼状を発送する。礼状の文面は、図書やインターネットなどで調べて自分で作ってみる。宛名は「〇〇園施設長様　実習指導者様他職員の皆様」と併記し１通でよい。

（７）報告書の作成

できるだけ記憶の新しいうちに、実習報告書の作成に着手する。

Ⅳ　ソーシャルワーク実習の事後指導

１　自己評価表の作成

実習生各自が立てた計画に従って、自らの実習を振り返り、自己評価を行なってみる。自身で高く評価したことは何だったのか、その根拠を自分の中に確認し、また、高く評価できなかった点については、何故そうなってしまったのか振り返ることが必要であろう。

後に、実習指導担当者から送られてくる実習評価表と照合することにより、自分には見えなかった課題についても考えてみる。

２　実習報告書の作成

（１）作成意義

学生の中には、ソーシャルワーク実習を終えると実習の目的をすべて完了したかのように考える者がいるが、決してそうではない。実習は初めての経験であり、対人援助技術や他職種との連携のあり方、施設と地域社会との関係など、多くのことを学ぶ貴重な機会であることは間違いないが、そうした体験を通じて学んだことや今後の課題など、実習全体を振り返りつつ整理し、改めて総括することによって実習をより深いものにしていくことが大切である。そのためにも実習報告書の作成は大きな意義がある。

（２）作成の要領

実習報告書には、個々人の単位で作るもの（個人レポート）と、同種の分野で実習した者が共同でまとめるもの（グループレポート）があるが、本学では、主として個人レポートで総括していく。

1) 実習日誌や実習先から提供された資料などを参考にしながら、実習施設の概要(歴史,運営理念,援助方針,業務内容等)について記述する。

2) 実習によって自分が何を学んだのか、また、当初の実習目標と照らしあわせて、どこまで目標が達成でき何が達成できなかったのか、さらには、今後どのような点に留意し、何が課題となるのかについて記述する。従って、日々の業務内容を網羅的に書きつづるだけでは不十分である。

(1) 個人的な感情にとらわれず、客観的に記述する。

(2) 実習日誌と同様に、利用者のプライバシー保護の観点から利用者名は記さずイニシャルで表記する。

３　実習報告会

実習報告会は、ソーシャルワーク実習の最後を締めくくるものである。報告会は、学生と教員で行なう「学内報告会」と実習指導担当者を招いての「総括報告会」があるが、本学では「学内報告会」を基本としていく。

報告会は、他分野の報告を聞くことによってさらに視野を広げ、多くの経験を共有しようとする意図がある。また、実習終了者のみでなく、今後実習に出ようとする後輩と一緒に実習について考えていく貴重な機会でもある。先輩の報告を聞いた後輩は、先輩の経験

を踏み台にしてさらなる前進を図る良い機会となる。

４　実習の評価

ソーシャルワーク実習に対する評価は、今後の自分の援助技術を高め知識を深めていく上で重要である。評価の方法としては、①自己が行なう評価、②実習施設が行なう評価、③総合して大学で行なう評価がある。

実習期間中の取り組みの姿勢や態度などについての評価は、学生にとって大いに気になるところであろう。また、①と②を照らし合わせることによって、新たな課題も出てくる。

評価の内容によっては、やる気をなくしたり、逆に高い評価にいっそうの情熱を燃やして頑張ろうという気になったりする者もいるだろう。しかし、いずれにしても評価は自分では気づかない課題や長所を客観的に指摘されるものであり、課題を指摘された時は、これを真摯にうけとめて改善への努力をするとともに、良い評価を受けた時もそれに慢心することなく、さらなる前進に向けての努力が必要となる。

評価の方法については、厚生労働省通知「教育に含むべき事項」の各項目について確認される。

参考資料

社会福祉士の倫理綱領

2020年6月30日採択

前文

われわれ社会福祉士は、すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを深く認識する。われわれは平和を擁護し、社会正義、人権、集団的責任、多様性尊重および全人的存在の原理に則り、人々がつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現をめざす専門職であり、多様な人々や組織と協働することを言明する。

われわれは、社会システムおよび自然的・地理的環境と人々の生活が相互に関連していることに着目する。社会変動が環境破壊および人間疎外をもたらしている状況にあって、この専門職が社会にとって不可欠であることを自覚するとともに、社会福祉士の職責についての一般社会及び市民の理解を深め、その啓発に努める。

われわれは、われわれの加盟する国際ソーシャルワーカー連盟と国際ソーシャルワーク教育学校連盟が採択した、次の「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」（2014年7月）を、ソーシャルワーク実践の基盤となるものとして認識し、その実践の拠り所とする。

> ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
> ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。
> この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。
> （IFSW;2014.7.）　※注1

われわれは、ソーシャルワークの知識、技術の専門性と倫理性の維持、向上が専門職の責務であることを認識し、本綱領を制定してこれを遵守することを誓約する。

原理

Ⅰ（人間の尊厳）　社会福祉士は、すべての人々を、出自、人種、民族、国籍、性別、性自認、性的指向、年齢、身体的精神的状況、宗教的文化的背景、社会的地位、経済状況などの違いにかかわらず、かけがえのない存在として尊重する。

Ⅱ（人権）　社会福祉士は、すべての人々を生まれながらにして侵すことのできない権利を有する存在であることを認識し、いかなる理由によってもその権利の抑圧・侵害・略奪を容認しない。

Ⅲ（社会正義）　社会福祉士は、差別、貧困、抑圧、排除、無関心、暴力、環境破壊などの無い、自由、平等、共生に基づく社会正義の実現をめざす。

Ⅳ（集団的責任） 社会福祉士は、集団の有する力と責任を認識し、人と環境の双方に働きかけて、互恵的な社会の実現に貢献する。
Ⅴ（多様性の尊重） 社会福祉士は、個人、家族、集団、地域社会に存在する多様性を認識し、それらを尊重する社会の実現をめざす。
Ⅵ（全人的存在） 社会福祉士は、すべての人々を生物的、心理的、社会的、文化的、スピリチュアルな側面からなる全人的な存在として認識する。

倫理基準

Ⅰ クライエントに対する倫理責任

１．（クライエントとの関係） 社会福祉士は、クライエントとの専門的援助関係を最も大切にし、それを自己の利益のために利用しない。
２．（クライエントの利益の最優先） 社会福祉士は、業務の遂行に際して、クライエントの利益を最優先に考える。
３．（受容） 社会福祉士は、自らの先入観や偏見を排し、クライエントをあるがままに受容する。
４．（説明責任） 社会福祉士は、クライエントに必要な情報を適切な方法・わかりやすい表現を用いて提供する。
５．（クライエントの自己決定の尊重） 社会福祉士は、クライエントの自己決定を尊重し、クライエントがその権利を十分に理解し、活用できるようにする。また、社会福祉士は、クライエントの自己決定が本人の生命や健康を大きく損ねる場合や、他者の権利を脅かすような場合は、人と環境の相互作用の視点からクライエントとそこに関係する人々相互のウェルビーイングの調和を図ることに努める。
６．（参加の促進） 社会福祉士は、クライエントが自らの人生に影響を及ぼす決定や行動のすべての局面において、完全な関与と参加を促進する。
７．（クライエントの意思決定への対応） 社会福祉士は、意思決定が困難なクライエントに対して、常に最善の方法を用いて利益と権利を擁護する。
８．（プライバシーの尊重と秘密の保持） 社会福祉士は、クライエントのプライバシーを尊重し秘密を保持する。
９．（記録の開示） 社会福祉士は、クライエントから記録の開示の要求があった場合、非開示とすべき正当な事由がない限り、クライエントに記録を開示する。
10．（差別や虐待の禁止） 社会福祉士は、クライエントに対していかなる差別・虐待もしない。
11．（権利擁護） 社会福祉士は、クライエントの権利を擁護し、その権利の行使を促進する。
12．（情報処理技術の適切な使用） 社会福祉士は、情報処理技術の利用がクライエントの権利を侵害する危険性があることを認識し、その適切な使用に努める。

Ⅱ 組織・職場に対する倫理責任

１．（最良の実践を行う責務） 社会福祉士は、自らが属する組織・職場の基本的な使命

や理念を認識し、最良の業務を遂行する。
２．（同僚などへの敬意） 社会福祉士は、組織・職場内のどのような立場にあっても、同僚および他の専門職などに敬意を払う。
３．（倫理綱領の理解の促進） 社会福祉士は、組織・職場において本倫理綱領が認識されるよう働きかける。
４．（倫理的実践の推進） 社会福祉士は、組織・職場の方針、規則、業務命令がソーシャルワークの倫理的実践を妨げる場合は、適切・妥当な方法・手段によって提言し、改善を図る。
５．（組織内アドボカシーの促進） 社会福祉士は、組織・職場におけるあらゆる虐待または差別的・抑圧的な行為の予防および防止の促進を図る。
６．（組織改革） 社会福祉士は、人々のニーズや社会状況の変化に応じて組織・職場の機能を評価し必要な改革を図る。

Ⅲ 社会に対する倫理責任
1．（ソーシャル・インクルージョン） 社会福祉士は、あらゆる差別、貧困、抑圧、排除、無関心、暴力、環境破壊などに立ち向かい、包摂的な社会をめざす。
２．（社会への働きかけ） 社会福祉士は、人権と社会正義の増進において変革と開発が必要であるとみなすとき、人々の主体性を活かしながら、社会に働きかける。
３．（グローバル社会への働きかけ） 社会福祉士は、人権と社会正義に関する課題を解決するため、全世界のソーシャルワーカーと連帯し、グローバル社会に働きかける。

Ⅳ 専門職としての倫理責任
１．（専門性の向上） 社会福祉士は、最良の実践を行うために、必要な資格を所持し、専門性の向上に努める。
２．（専門職の啓発） 社会福祉士は、クライエント・他の専門職・市民に専門職としての実践を適切な手段をもって伝え、社会的信用を高めるよう努める。
３．（信用失墜行為の禁止）社会福祉士は、自分の権限の乱用や品位を傷つける行いなど、専門職全体の信用失墜となるような行為をしてはならない。
４．（社会的信用の保持） 社会福祉士は、他の社会福祉士が専門職業の社会的信用を損なうような場合、本人にその事実を知らせ、必要な対応を促す。
５．（専門職の擁護） 社会福祉士は、不当な批判を受けることがあれば、専門職として連帯し、その立場を擁護する。
６．（教育・訓練・管理における責務） 社会福祉士は、教育・訓練・管理を行う場合、それらを受ける人の人権を尊重し、専門性の向上に寄与する。
７．（調査・研究） 社会福祉士は、すべての調査・研究過程で、クライエントを含む研究対象の権利を尊重し、研究対象との関係に十分に注意を払い、倫理性を確保する。
８．（自己管理） 社会福祉士は、何らかの個人的・社会的な困難に直面し、それが専門的判断や業務遂行に影響する場合、クライエントや他の人々を守るために必要な対応を行い、自己管理に努める。

注1. 本綱領には「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」の本文のみを掲載してある。なお、アジア太平洋（2016年）および日本（2017年）における展開が制定されている。
注２ 本綱領にいう「社会福祉士」とは、本倫理綱領を遵守することを誓約し、ソーシャルワークに携わる者をさす。
注３. 本綱領にいう「クライエント」とは、「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」に照らし、ソーシャルワーカーに支援を求める人々、ソーシャルワークが必要な人々および変革や開発、結束の必要な社会に含まれるすべての人々をさす。

社会福祉士の行動規範

2021年3月20日採択

行動規範は倫理綱領を行動レベルに具体化したものであり、社会福祉士が倫理綱領に基づいて実践するための行動を示してあります。行動規範は、倫理綱領の各項目を総体的に具体化したものと、個別の行動として具体化したもので構成されています。

Ⅰ．クライエントに対する倫理責任

１．クライエントとの関係

社会福祉士は、クライエントとの専門的援助関係を最も大切にし、それを自己の利益のために利用してはならない。

１－１ 社会福祉士はクライエントに対して、相互の関係は専門的援助関係に基づくものであることを説明しなければならない。

１－２ 社会福祉士は、クライエントとの専門的援助関係を構築する際には、対等な協力関係を尊重しなければならない。

１－３ 社会福祉士は、専門職としてクライエントと社会通念上、不適切と見なされる関係を持ってはならない。

１－４ 社会福祉士は、自分の個人的・宗教的・政治的な動機や利益のために専門的援助関係を利用してはならない。

１－５ 社会福祉士は、クライエントと利益相反関係になることが避けられないときは、クライエントにその事実を明らかにし、専門的援助関係を終了しなければならない。その場合は、クライエントを守る手段を講じ、新たな専門的援助関係の構築を支援しなければならない。

２．クライエントの利益の最優先

社会福祉士は、業務の遂行に際して、クライエントの意思を尊重し、その利益の最優先を基本にしなければならない。

２－１ 社会福祉士は、専門職の立場を私的に利用してはならない。

２－２ 社会福祉士は、クライエントから専門職としての支援の代償として、正規の報酬以外に物品や金銭を受けとってはならない。

２－３ 社会福祉士は、支援を継続できない何らかの理由が生じた場合、必要な支援が継続できるように最大限の努力をしなければならない。

３．受容

社会福祉士は、クライエントに対する先入観や偏見を排し、クライエントをあるがままに受容しなければならない。

３－１ 社会福祉士は、クライエントを尊重し、あるがままに受け止めなければならない。

３－２ 社会福祉士は、自身の価値観や社会的規範によってクライエントを非難・審判す

ることがあってはならない。

４．説明責任
　社会福祉士は、クライエントが必要とする情報を、適切な方法やわかりやすい表現を用いて提供しなければならない。
４－１　社会福祉士は、クライエントの側に立って支援を行うことを伝えなければならない。
４－２　社会福祉士は、クライエントが自身の権利について理解できるよう支援しなければならない。
４－３　社会福祉士は、クライエントが必要とする情報を十分に説明し、理解できるよう支援しなければならない。
４－４　社会福祉士は、自身が行う実践について、クライエントだけでなく第三者からも理解が得られるよう説明できなければならない。

５．クライエントの自己決定の尊重
社会福祉士は、クライエントの自己決定を尊重して支援しなければならない。
５－１　社会福祉士は、クライエントが自己決定の権利を有する存在であると認識しなければならない。
５－２　社会福祉士は、クライエントが選択の幅を広げることができるように、必要な情報を提供し、社会資源を活用しなければならない。
５－３　社会福祉士は、クライエントの自己決定に基づく行動が自己に不利益をもたらしたり、他者の権利を侵害すると想定される場合は、その行動を制限することがあることをあらかじめ伝えなければならない。また、その場合は理由を具体的に説明しなければならない。

６．参加の促進
社会福祉士は、クライエントが自らの人生に影響を及ぼす決定や行動のすべての局面において、完全な関与と参加を促進しなければならない。
６－１　社会福祉士は、クライエントが自らの人生に影響を及ぼす決定や行動の局面への関与や参加から排除されがちな現状について認識しなければならない。
６－２　社会福祉士は、クライエントの関与と参加を促進するために、クライエントの自尊心と能力を高めるよう働きかけなければならない。
６－３　社会福祉士は、クライエントの関与と参加に向けて、必要な情報や社会資源を提供したり、機会やプロセスを形成することに貢献しなければならない。

７．クライエントの意思決定への対応
社会福祉士は、クライエントの利益と権利を擁護するために、最善の方法を用いて意思決定を支援しなければならない。
７－１　社会福祉士は、クライエントを意思決定の権利を有する存在として認識しなけれ

ばならない。
７－２ 社会福祉士は、クライエントの意思決定能力をアセスメントしなければならない。
７－３ 社会福祉士は、クライエントの意思決定のためにクライエントの特性や状況を理解し、その特性や状況に応じた最善の方法を用いなければならない。

８．プライバシーの尊重と秘密の保持
社会福祉士は、クライエントのプライバシーを尊重し、秘密を保持しなければならない。
８－１ 社会福祉士は、クライエントが自らのプライバシーの権利を認識できるように働きかけなければならない。
８－２ 社会福祉士は、クライエントの情報を収集する場合、クライエントの同意を得なければならない。ただし、合理的な理由がある場合（生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要な場合など）は、この限りではない。
８－３ 社会福祉士は、業務の遂行にあたり、必要以上の情報収集をしてはならない。
８－４ 社会福祉士は、合理的な理由がある場合を除き、クライエントの同意を得ることなく収集した情報を使用してはならない。
８－５ 社会福祉士は、クライエントのプライバシーや秘密の取り扱いに関して、敏感かつ慎重でなければならない。
８－６ 社会福祉士は、業務中であるか否かにかかわらず、また業務を退いた後も、クライエントのプライバシーを尊重し秘密を保持しなければならない。
８－７ 社会福祉士は、記録の取り扱い（収集・活用・保存・廃棄）について、クライエントのプライバシーや秘密に関する情報が漏れないよう、慎重に対応しなければならない。

９．記録の開示
社会福祉士は、クライエントから開示の要求があった場合は、原則として記録を開示しなければならない。
９－１ 社会福祉士は、クライエントが記録の閲覧を希望した場合は、特別な理由なくそれを拒んではならない。
９－２ 社会福祉士は、クライエント自身やクライエントを取り巻く環境の安全が脅かされると想定する場合は、その限りではない。

10．差別や虐待の禁止
社会福祉士は、クライエントに対していかなる差別や虐待も行ってはならない。
10－１ 社会福祉士は、クライエントに対して肉体的・精神的苦痛や損害を与えてはならない。
10－２ 社会福祉士は、差別や虐待を受けている可能性があるクライエントを発見した場合、すみやかに対応しなければならない。
10―３ 社会福祉士は、差別や虐待について正しい知識を得るようにしなければならな

い。
10－４ 社会福祉士は、クライエントが差別や虐待の状況を認識できるよう働きかけなければならない。

11. 権利擁護
社会福祉士は、クライエントの権利を擁護し、その権利の行使を促進しなければならない。
11－１ 社会福祉士は、クライエントの権利について十分に認識し、敏感かつ積極的に対応しなければならない。
11－２ 社会福祉士は、クライエントの権利が擁護されるよう、環境に働きかけなければならない。
11－３ 社会福祉士は、クライエントの権利擁護について積極的に啓発しなければならない。
11－４ 社会福祉士は、クライエントが自身の権利を自覚し、適切に行使できるよう支援しなければならない。

12. 情報処理技術の適切な使用
社会福祉士は、業務を遂行するにあたり情報処理技術を適切に使用しなければならない。
12－１ 社会福祉士は、クライエントの権利を擁護するために、情報リテラシーを高める必要があることを自覚しなければならない。
12－２ 社会福祉士は、情報処理に関する原則やリスクなどの最新情報について学ばなければならない。
12－３ 社会福祉士は、各種の情報媒体を適切に利用し、必要な情報を収集・整理し、活用しなければならない。
12－４ 社会福祉士は、情報処理技術（デジタル化された情報、デジタル・ネットワークを活用した情報の収集・拡散を含む）が、クライエントの権利を侵害することがないよう、細心の注意を払わなければならない。
12－５ 社会福祉士は、クライエントの情報を電子媒体などにより取り扱う場合、厳重な管理体制と最新のセキュリティに配慮しなければならない。また、クライエントの個人情報の乱用・紛失その他あらゆる危険に対し、安全保護に関する措置を講じなければならない。
12－６ 社会福祉士は、クライエントがSNSの利用などにより権利を侵害された場合は、情報処理技術や法律などの専門職と連携して、その回復に努めなければならない。

Ⅱ 組織・職場に対する倫理責任
１．最良の実践を行う責務
社会福祉士は、所属する組織・職場の基本的な使命や理念を認識し、最良の実践を行わなければならない。
１－１ 社会福祉士は、所属する組織・職場における専門職としての使命と職責を認識し

なければならない。
１－２ 社会福祉士は、本倫理綱領に基づき、所属する組織・職場における専門職としての職責を果たさなければならない。

２．同僚などへの敬意
社会福祉士は、同僚や上司・部下の職責や専門性の違いを尊重し、敬意を払って接しなければならない。
２－１ 社会福祉士は、同僚や上司・部下の職責を理解し、所属する組織・職場での意思疎通が円滑に行われるよう働きかけなければならない。
２－２ 社会福祉士は、同僚や上司・部下の専門性を尊重し、連携・協働を図らなければならない。

３．倫理綱領の理解の促進
社会福祉士は、自らが所属する組織・職場において本倫理綱領および行動規範が適切に理解されるよう働きかけなければならない。
３－１ 社会福祉士は、所属する組織・職場において本倫理綱領に基づいた実践を行うことによって、専門性を示さなければならない。

４．倫理的実践の推進
社会福祉士は、組織・職場において、本倫理綱領に基づいた倫理的実践を推進しなければならない。
４－１ 社会福祉士は、所属する組織・職場の方針、規則、手続き、業務命令などを本倫理綱領に沿って適切かどうかを把握しなければならない。
４－２ 社会福祉士は、所属する組織・職場の方針、規則、手続き、業務命令などが本倫理綱領に反する場合は、適切・妥当な方法・手段によって提言し、改善を図らなければならない。

５．組織内アドボカシーの促進
社会福祉士は、組織・職場におけるあらゆる虐待、差別的・抑圧的な行為、ハラスメントを認めてはならない。
５－１ 社会福祉士は、組織・職場においてあらゆる虐待、差別的・抑圧的な行為、ハラスメントを認めた場合は、それらの行為が迅速かつ適切に解消するよう対応しなければならない。
５－２ 社会福祉士は、組織・職場においてあらゆる虐待、差別的・抑圧的な行為、ハラスメントを防止するための周知・啓発を行い、同僚などへの権利擁護を実現しなければならない。

６．組織改革
社会福祉士は、人々のニーズや社会状況の変化に応じて組織・職場の機能をアセスメント

し、必要な改革を図らなければならない。
６－１ 社会福祉士は、人々や地域社会のニーズ、社会状況の変化をアセスメントしなければならない。
６－２ 社会福祉士は、人々や地域社会のニーズ、社会状況の変化に照らして組織・職場の機能をアセスメントしなければならない。
６－３ 社会福祉士は、組織・職場の機能が人々や地域社会のニーズ、社会状況の変化に対応していない場合には、必要な組織改革を行わなければならない。

Ⅲ 社会に対する倫理責任
１．ソーシャル・インクルージョン
社会福祉士は、あらゆる差別、貧困、抑圧、排除、無関心、暴力、環境破壊などを認識した場合は、専門的な視点と方法により、解決に努めなければならない。
１－１ 社会福祉士は、あらゆる差別、貧困、抑圧、排除、無関心、暴力、環境破壊などに専門的な視点から関心を持たなければならない。
１－２ 社会福祉士は、専門的な視点と方法により、クライエントの状況とニーズを社会に発信し、ソーシャル・インクルージョンの実現に努めなければならない。

２．社会への働きかけ
社会福祉士は、人権と社会正義が守られるよう、人々とともに社会に働きかけなければならない。
２－１ 社会福祉士は、社会における人権と社会正義の状況に関心を持たなければならない。
２－２ 社会福祉士は、人権と社会正義の増進において変革と開発が必要であるとみなすとき、人々が主体的に社会の政策・制度の形成に参加し、互恵的な社会が実現されるよう支援しなければならない。
２－３ 社会福祉士は、集団の有する力を認識し、人権と社会正義の実現のために、人と環境の双方に働きかけなければならない。

３．グローバル社会への働きかけ
社会福祉士は、人権と社会正義に関する課題についてグローバル社会に働きかけなければならない。
３－１ 社会福祉士は、グローバル社会の情勢に関心を持たなければならない。
３－２ 社会福祉士は、グローバル社会における文化的社会的差異を認識し、多様性を尊重しなければならない。
３－３ 社会福祉士は、出自、人種、民族、国籍、性別、性自認、性的指向、年齢、身体的精神的状況、宗教的文化的背景、社会的地位、経済状況などによる差別、抑圧、支配などをなくすためのソーシャルワーカーの国際的な活動に連帯しなければならない。

Ⅳ 専門職としての倫理責任

１．専門性の向上
社会福祉士は、最良の実践を行うため必要な資格を所持し専門性の向上に努めなければならない。
１－１ 社会福祉士は、研修・情報交換・自主勉強会などの機会を活かして、常に自己研鑽に努めなければならない。
１－２ 社会福祉士は、常に自己の専門分野や関連する領域の情報に精通するよう努めなければならない。
１－３ 社会福祉士は、自らの実践力を明らかにするために、専門性の向上に合わせて必要な資格を取得しなければならない。

２．専門職の啓発
社会福祉士は、本倫理綱領を遵守し、専門職として社会的信用を高めるように努めなければならない。
２－１ 社会福祉士は、クライエント・他の専門職・市民に社会福祉士であることを名乗り、専門職としての自覚を高めなければならない。
２－２ 社会福祉士は、自己が獲得し保持している専門的力量をクライエント・他の専門職・市民に適切な手段をもって伝え、社会的信用を高めるよう努めなければならない。
２－３ 社会福祉士は、個人並びに専門職集団として、責任ある行動をとり、その専門職の役割を啓発するよう努めなければならない。

３．信用失墜行為の禁止
社会福祉士は、専門職としての信用を失墜する行為をしてはならない。
３－１ 社会福祉士は、倫理綱領及び行動規範を逸脱する行為をしてはならない。
３－２ 社会福祉士は、倫理綱領及び行動規範を遵守し、社会的信用を高めるよう行動しなければならない。

４．社会的信用の保持
社会福祉士は、専門職としての社会的信用を保持するために必要な働きかけを相互に行わなければならない。
４－１ 社会福祉士は、他の社会福祉士の行為が社会的信用を損なう可能性がある場合、その内容や原因を明らかにし、本人に必要な対応を促さなければならない。
４－２ 社会福祉士は、他の社会福祉士の行為が倫理綱領および行動規範を逸脱するとみなした場合は、本人が所属する社会福祉士会や関係機関などに対して適切な対応を取るよう働きかけなければならない。
４－３ 社会福祉士は、社会的信用を保持するため、他の社会福祉士と協力してお互いの行為をチェックし、ともに高め合わなければならない。

５．専門職の擁護
社会福祉士は、専門職として不当な批判を受けることがあれば、連帯してその立場を擁護

しなければならない。
５－１ 社会福祉士は、専門職として日頃から高い倫理観を持って自らを律しなければならない。
５－２ 社会福祉士は、社会福祉士の専門性に対する不当な批判や扱いに対して、正当性をアピールするなど適切な対応をしなければならない。

６．教育・訓練・管理における責務
社会福祉士は、専門職として教育・訓練・管理を行う場合、それらを受ける人の専門性の向上に寄与しなければならない。
６－１ 社会福祉士は、後進育成にあたっては、対象となる人の人権を尊重しなければならない。
６－２ 社会福祉士は、研修や事例検討などの企画・実施にあたっては、その効果が最大限になるように努めなければならない。
６－３ 社会福祉士は、スーパービジョンを行う場合、専門職として公正で誠実な態度で臨み、その機能を積極的に活用して社会福祉士の専門性の向上に寄与しなければならない。
６－４ 社会福祉士は、業務のアセスメントや人事考課にあたっては、明確な基準に基づいて行い、評価の判断を説明できるようにしておかなければならない。
６－５ 社会福祉士は、組織マネジメントにあたっては、職員の働きがいを向上させ、クライエントの満足度を高めるようにしなければならない。

７．調査・研究
社会福祉士は、調査・研究を行うにあたっては、その目的、内容、方法などを明らかにし、クライエントを含む研究対象の不利益にならないように、最大限の倫理的配慮を行わなければならない。
７－１ 社会福祉士は、調査・研究を行うにあたっては、日本社会福祉士会が定める研究倫理に関する規程などに示された内容を遵守しなければならない。
７－２ 社会福祉士は、調査・研究の対象者とその関係者の人権に最大限の配慮をしなければならない。
７－３ 社会福祉士は、事例研究などにケースを提供するにあたっては、ケースを特定できないように配慮し、その関係者に対して事前に了解を得なければならない。

８．自己管理
社会福祉士は、自らが個人的・社会的な困難に直面する可能性があることを自覚し、日頃から心身の健康の増進に努めなければならない。
８－１ 社会福祉士は、自身の心身の状態が専門的な判断や業務遂行にどのように影響しているかについて、認識しなければならない。
８－２ 社会福祉士は、自身が直面する困難が専門的な判断や業務遂行に影響を及ぼす可能性がある場合、クライエントなどに対する支援が適切に継続されるよう、同僚や上司に

相談し対応しなければならない。

ソーシャルワーク実習委託契約書（案）

実習施設・機関（以下「甲」という。）と周南公立大学（以下、「乙」という。）とは、乙が乙の学生（以下、「実習生」とする）のソーシャルワーク実習（以下、「実習」という。）の指導を甲に委託することに関し、次のとおり委託契約を締結する。

（実習の委託）
第１条　実習の最終的な責任は乙が負うものとし、その教育の一部として乙は甲に対し 、実習の指導を委託し、甲はこれを受託するものとする。

（実習の内容）
第２条　実習期間は、　　日間・　時間とする（ただし、休憩時間は除く）。
195 時間(26 日間) 又は 45 時間(6 日間) (ただし、休憩時間は除く)。
２　実習場所は、原則として　　とする。
３　実習生の氏名、実習時期については別に定める。
４　乙は甲に「実習の手引き」等を提示し、甲は乙に実習の指導(以下、実習指導という)の方針等を説明し、実習の指針とするが、具体的な実習内容については、甲と乙の協議のうえ、決定するものとする。なお、甲と乙の協議により第２項・第３項は変更することができる。

(実習教育と指導に関する合意書)
第３条　実習指導は、あらかじめ甲が乙に示した実習指導者等を責任者として行うものとし、詳細については別に定める「ソーシャルワーク実習に係る教育と指導に関する合意書(以下、「合意書」という)によるものとする。

(連携と協働)
第４条　甲と乙は、実習の実施にあたって連携・協働し、円滑な実習の実施に努めるものとする。

(事故の責任)
第５条　本委託契約第２条で規定する実習を甲にて実施している実習生が、実習中に過失等により、甲または甲の利用者および第三者に損害を与えた場合は、実習生もしくは乙がその損害賠償の責任を負うものとし、その責任の範囲は、乙が加入する賠償責任保険によるものとする。
２　実習生の実習期間中における事故及び災害等による責任は、甲に故意または過失がある場合を除き、実習生もしくは乙が負うものとする。

(緊急時の対応)
第６条　乙は甲に対し、あらかじめ実習中の事故、病気、自然災害、感染症緊急時における連絡先を伝えておくものとする。ただし、やむを得ない事情により甲が乙に対して連絡することが困難な場合は、当該事故等に対して甲の判断で対応後、速やかに乙に連絡するものとする。

(利用者等への説明責任)
第７条　甲は、実習に関して、利用者等への説明責任を果たし、利用者の権利を侵害しないよう、適切な配慮を行うものとする。

(実習生の権利)
第８条　甲は、実習生の権利を侵害しないよう、適切な配慮を行うものとする。
２　乙は、甲に対して実習生に関する個人情報を実習実施上必要とする最小限の範囲で提供するものとし、甲は実習生の個人情報について守秘義務を負うものとする。

(実習生の義務)

第9条　乙は、実習生に対し、実習期間中に知り得た事実について、実習期間中はもとより、実習終了後においても、個人情報保護法、社会福祉士及び介護福祉士法ならびに社会福祉士の倫理綱領・行動規範の趣旨に則り、守秘義務を負わせるものとする。
２　実習期間中の実習日および実習時間は、甲の職員の勤務日および勤務時間に準じるものとする。
３　実習生は、必要な事項の報告など、甲の実習指導者の指示に従うものとする。

(実習委託料)
第10条　乙は甲に対し、実習委託料として実習生1名につき1日2,000円(税込)を支払うものとする。ただし、実習期間中、実習生が実習に要した費用については、実習委託料とは別に清算するものとする。

(実習フィードバック・システム)
第11条　甲ならびに乙は、実習の経過と結果において相互の疑問と評価を容認し、相互に回答し協議することを通じて、その後の実習を有意義なものとするとともに、甲における実践のさらなる向上を目的として、合意書に基づき実習フィードバック・システムを構築するものとする。

(契約の解除、変更)
第12条　合意書第7条「実習中止の措置」に該当する状況に至った場合は、甲と乙との協議のうえ、本委託契約の解除もしくは変更を行うことができる。

(契約期間)
第13条　この契約の有効期間は、契約を締結した日から当該年度の末日までとする。ただし、甲乙双方から申し出が無い限り、毎年更新されるものとする。

(その他)
第14条　本委託契約の履行に関し、特に定めのない事項の取り扱いおよび解釈上、疑義が生じた場合の取り扱いについては、その都度、甲乙協議によるものとする。

以上、契約の締結を証するため、本書を2通作成し、甲乙両者記名捺印のうえ、各自1通を保有するものとする。

年　　月　　日

住　　所

施設・機関等名

代表者名

住　　所　　山口県周南市学園台843-4-2

機 関 名　　周南公立大学

代表者名　　学長　　髙田　　隆

誓　　約　　書（案）

年　　月　　日

様

周南公立大学人間健康科学部福祉学科　　年

住　　所

氏　　名　　印

年　　月　　日生

私は、ソーシャルワーク実習にあたり、貴施設（機関）の職務規定を遵守するとともに、特に個人情報の観点より実習上知り得た秘密に関する事項について、実習期間中及び実習期間後においても、決して他に漏らさないことを誓います。

ソーシャルワーク実習指導者配置計画

	施設名及び施設種別	実習指導者	相談援助業務経験年数	社会福祉士取得年月	実習指導者講習会修了年月
1	つづみ園地域包括支援センター (地域包括支援センター)	松田　俊也	17年	平成11年4月	平成21年11月
2	周南市社会福祉協議会 (社会福祉協議会)	木原正和 山本多恵	13年 22年	平成13年6月 平成11年4月	平成21年11月 平成21年11月
3	下松市社会福祉協議会 (社会福祉協議会)	廣石順丈 石田寿幸	28年 11年	平成10年4月 平成16年4月	平成21年11月 平成23年11月
4	特別養護老人ホームつづみ園 (特別養護老人ホーム)	武中　雅 松田　俊也	16年 12年	平成21年4月 平成23年5月	平成23年11月 平成30年10月
5	共楽養育園 (児童養護施設)	平島瞳	14年	平成20年4月	平成27年11月
6	つくし園 (障害者支援施設)	福田之広 藤井一彦 河村康信	25年 31年 28年	平成14年4月 平成18年4月 平成15年4月	平成21年11月 平成21年11月 平成20年11月
7	やまなみ荘 (特別養護老人ホーム)	坂本洋一	17年	平成15年4月	平成28年11月
8	くすのき苑 (地域密着型特別養護老人ホーム)	松本咲子	3年	平成19年4月	平成25年10月
9	光富士白苑 (特別養護老人ホーム)	島田和重	17年	平成15年5月	平成26年10月
10	相談支援センター拓未 (相談支援事業所)	末田真由美	15年	平成16年4月	平成26年10月
11	特別養護老人ホーム防府あかり園 (特別養護老人ホーム)	友景久枝 山本尚志	26年 17年	平成9年5月 平成10年5月	平成23年11月 平成20年10月
12	ライクホームはるか (児童養護施設)	松原修一 山本千尋	20年 3年	平成14年4月 平成31年4月	平成30年10月 令和3年10月
13	虹のかけ橋 (放課後等デイサービス)	室本好重 岡田一雄	41年 35年	平成6年5月 平成7年4月	平成23年11月 平成23年11月
14	歩夢ケアプランセンター (相談支援事業所・居宅介護支援事業所)	岡田一雄	35年	平成７年4月	平成23年11月
15	デイジーくらぶ (児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護)	竹内俊路	26年	平成14年4月	令和3年11月
16	鹿野学園成人部 (障害者支援施設)	川﨑一成	4年	平成22年3月	平成26年10月
17	鹿野学園成人部第二成人部 (障害者支援施設)	川﨑一成	4年	平成22年3月	平成26年10月
18	特別養護老人ホームくりや苑 (特別養護老人ホーム)	植村陽子	9年	平成27年3月	平成30年10月

ソーシャルワーク実習評価表（案）

周南公立大学人間健康科学部福祉学科　　実習生氏名（　　）

《記入上の留意点》

1. 達成度評価は、100%完全習得のみを目的とするものではなく、達成までの連続体をなすとする考えです。項目に示した行動目標に対して、実習生がどれくらい・どこまでできているのかを評価してください。
2. 評価尺度はA～Dの4段階です。評価尺度を参考に「評価」欄に記入してください。実習指導上、該当しない項目や体験させていない項目がある場合はNAを選択してください。
3. 総合評価は、実習全体を通した総合評価を、A～Dの中から選択してください。
4. 実習生に対する総評（高く評価できる点や今後の学習課題となる点など）を具体的に記入してください。
5. 評価票は事後指導の資料として実習生本人に開示します。

《評価尺度と評価基準》

A ：項目の課題を達成し、さらにそれを上回る成果を収めた（項目の９０%～）
B ：項目の課題を、ほとんど達成した（項目の８０%～）
C ：項目の課題を、ある程度達成した（項目の６０%～）
D ：項目の課題を、あまり達成できなかった（項目の５９%以下）
NA：体験させていない

《評価記入欄》

Ⅰ.基本的なコミュニケーションや援助関係形成に関する事項	評価
1. 利用者等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる。	
2. 利用者との援助関係を形成することができる。	
所見	
Ⅱ.利用者や地域の理解とそのニーズの把握及び計画立案に関する事項	評価
1. アセスメント･ツールの枠組みに沿って利用者や地域を客観的に把握し、全体像を説明できる。	
2. 利用者や地域のニーズを根拠または理由を示して説明できる。	
3. 支援目標を根拠を示して設定できる。	
4. 利用者の権利擁護及びエンパワメントの視点を理解し、実践することができる。	
所見	
Ⅲ.支援におけるチームアプローチ及び地域における施設・機関の役割に関する事項	評価
1. 実習施設・機関で働く各職種の業務内容を理解する。	
2. 実習施設・機関と関係する社会資源との役割を説明することができる。	
3. カンファレンスにおける各機関・施設の視点及び連携の方法を説明できる。	
4. 実習施設・機関の地域社会への働きかけの必要性と方法を説明できる。	
所見	

Ⅳ．組織の運営管理及び職業倫理に関する事項	評価
1．実習施設・機関の経営理念や支援方針を説明することができる。	
2．実習施設・機関の規則を理解し、遵守することができる。	
3．社会福祉士の倫理を理解し、実践することができる。	
所見	
Ⅴ．ソーシャルワークのスキルに関する事項	評価
1．以下の技術について、ワークシートを活用して説明することができる。	
・アウトリーチ	
・ネットワーキング	
・コーディネーション	
・ネゴシエーション	
・ファシリテーション	
・プレゼンテーション	
・ソーシャルアクション	
所見	

総合評価（いずれかを○で囲んでください）　A　・　B　・　C　・　D

「実習生に対する総評」

年　　月　　日

施 設・機関名

実習指導者氏名　　印

令和６年度　キャリア形成活動評価報告書

所属	周南公立大学	学籍番号	※本学で記入させていただきます	フリガナ	
				氏　名	

事業所さま所在地　社判等がございましたらご利用ください

事業所さま名

研修部署（配属先）	研　修　期　間	欠勤日数	遅刻・早退

下記の評価項目について、該当するものに〇をつけてください。

（A.優れている　B.普通　C.不十分である）

項　　目	主　な　着　眼　点	評　　価
1．インターンシップに対する自覚	就業体験を通じて、専門分野へのより深い興味･関心を高める等の自覚が深められたか	A・B・C
2．人格	礼儀・作法、言動、責任感等	A・B・C
3．勤務態度	出勤状況、勤務中の態度、人間関係等	A・B・C
4．実務能力	業務遂行状況等	A・B・C

総合所見	総合評価（〇をつけてください） A：研修生として優れている。 B：研修生として十分に努力した。 C：いま少し積極的な研修への取り組みが望まれる。 D：研修の効果が全く認められない。

研修担当責任者さま（評価記載者）	㊞

承諾書徴収先

No.	企業	業種	人数
1	徳山興産株式会社	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	10
2	共同産業株式会社	建設業	10
3	トクヤマ海陸運送株式会社	運輸業、郵便業	10
4	洋林建設株式会社	建設業	10
5	徳機株式会社	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	10
6	株式会社九内	建設業	10
7	アイザワ証券株式会社	金融業	50
8	株式会社ビークルーエッセ	その他のサービス業	5
9	エルクホームズ株式会社	建設業	15
10	有限会社ヤマモト工業	建設業	4
11	東洋ボデー株式会社	小売業	5
12	株式会社山口オートガラス	小売業	10
13	若山石油株式会社	小売業	5
14	株式会社京瀧	運輸業、郵便業	10
15	株式会社三知	小売業	6
16	社会福祉法人ひかり苑	社会保険・社会福祉・介護事業	6
17	株式会社岩崎宏健堂	小売業	10
18	株式会社アイテックス	情報通信業	5
19	第一生命株式会社	保険業	6
20	山口合同ガス株式会社	電気・ガス・熱供給・水道業	5
21	株式会社日本セレモニー	複合サービス事業	20
22	綜合警備保障株式会社	その他のサービス業	4
23	株式会社ケイ・アール・ワイ・サービスステーション	その他の専門・技術サービス業	35
24	岡田産業株式会社	不動産取引・賃貸・管理業	10
25	株式会社山陽パーツ	小売業	5
27	西京銀行		50
26	有限会社パートナーパブリシティ	その他の専門・技術サービス業	5
28	徳山商工会議所		10
29	(株)スズキ自販山口		5
			346

実習施設一覧（福祉学科）

No.	実習施設名	所在地	受入人数	
			地域福祉キャリア形成活動Ⅰ	地域福祉キャリア形成活動Ⅱ
1	しゅうよう保育園	山口県周南市上迫町9-3	5	
2	こもれび保育園	山口県周南市中央町2-12	5	
3	荘宮寺保育園	山口県周南市富田2438	2	
4	わかやま保育園	山口県周南市上迫町9-3	5	
5	遠石保育園	山口県周南市青山町1589	4	
6	徳山中央保育園	山口県周南市平和通1-31	5	
7	すみれ保育園	山口県周南市野村2-7-12	4	
8	ひまわり保育園	山口県周南市大河内700-336	5	
9	浅江東保育園	山口県光市浅江302-1	2	
10	浅江南保育園	山口県光市浅江7-4-23	2	
11	みたらい保育園	山口県光市室積東ノ庄30-26	2	
12	大和保育園	山口県光市三輪1106	2	
13	光井保育園	山口県光市光井3-4-1	5	
14	虹ヶ丘幼児学園	山口県光市虹ヶ丘4-22-1	5	
15	東光保育園	山口県光市木園1-11-2	5	
16	聖華保育園	山口県光市上島田3-6-1	5	
17	野原保育園	山口県光市中央3-5-12	2	
18	松原保育園	山口県光市室積新開2-1-17	1	
19	室積保育園	山口県光市室積5-13-27	5	
20	愛隣幼児学園	山口県下松市潮音町1-7-15	5	
21	平田保育園	山口県下松市美里町3-22-20	5	
22	くぼ保育園	山口県下松市山田229- 1	5	
23	花岡保育園	山口県下松市生野屋414-1	5	
24	あい保育園潮音	山口県下松市潮音3-12-15	5	
25	あい保育園宮前	山口県下松市生野屋1507-2	5	
26	第ニ保育園	山口県周南市岡田町2-23	2	
27	櫛浜保育園	山口県周南市栗屋859-4	1	
28	須々万保育園	山口県周南市須々万奥737	1	
29	尚白保育園	山口県周南市新宿通6-1-22	2	
30	大内保育園	山口県周南市大内町6-15	1	
31	菊川保育園	山口県周南市下上1975-4	2	
32	城ケ丘保育園	山口県周南市城ヶ丘3-13-6	2	
33	川崎保育園	山口県周南市川崎2-14-4	3	
34	富田南保育園	山口県周南市椎木町5-19	2	
35	三丘保育園	山口県周南市安田638-1	2	
36	勝間保育園	山口県周南市呼坂10418-176	4	
37	サンキ・ウエルビィ介護センター岩国	山口県岩国市牛野谷町二丁目16番32号	3	
38	サンキ・ウエルビィ介護センター柳井	山口県柳井市柳井1010-1	3	
39	サンキ・ウエルビィ介護センター下松	山口県下松市西豊井915-1	3	
40	サンキ・ウエルビィ介護センター徳山	山口県周南市五月町7番10号	3	
41	サンキ・ウエルビィ介護センター新南陽	山口県周南市政所2丁目7-20	3	
42	サンキ・ウエルビィ介護センター防府	山口県防府市新田600-5	3	
43	サンキ・ウエルビィ介護センター山口	山口県山口市維新公園三丁目12-15	3	

実習施設一覧（福祉学科）

No.	実習施設名	所在地	受入人数	
			地域福祉キャリア形成活動Ⅰ	地域福祉キャリア形成活動Ⅱ
44	サンキ・ウエルビィ介護センター小郡	山口県山口市小郡下郷217-1	3	
45	サンキ・ウエルビィデイサービスセンター防府	山口県防府市八王子二丁目8-8 ゆめタウン防府　3階	3	
46	サンキ・ウエルビィデイサービスセンター山口	山口県山口市平井1417-8 マンション平川1F	3	
47	サンキ・ウエルビィグループホーム岩国	山口県岩国市牛野谷町二丁目16番32号	3	
48	サンキ・ウエルビィグループホーム柳井	山口県柳井市柳井1013-1	3	
49	サンキ・ウエルビィグループホーム熊毛	山口県周南市呼坂本町9番7号	3	
50	サンキ・ウエルビィグループホーム周南	山口県周南市遠石１丁目10-57	3	
51	サンキ・ウエルビィグループホーム新南陽	山口県周南市政所2丁目7-20	3	
52	サンキ・ウエルビィ小規模多機能センター熊毛	山口県周南市呼坂本町9番7号	3	
53	サンキ・ウエルビィ小規模多機能センター周南	山口県周南市大字久米3503-1	3	
54	サンキ・ウエルビィ小規模多機能センター防府	山口県防府市新田600番の5	3	
		合計	177	

地域福祉キャリア形成活動【　】評価票(案)

周南公立大学人間健康科学部福祉学科

学籍番号		学年		氏名	
実習期間	令和　年　月　日（　）から 令和　年　月　日（　）まで 90時間(12日間程度)				
勤務状況	出勤日数　日	欠席日数　日	遅刻回数　回	早退回数　回	

評価段／評価項		評価の着眼点	4段階で評価し、該当箇所に○印をご記入下さい。 A:よくできた B:ふつう C:努力を必要とする D:不合格
実習態度	基本的習慣	1. 服装、言葉遣い、礼儀等の基本的生活習慣ができている。	A　B　C　D
	積極性	2. 実習の意義を理解し、自らが計画した目標を意識し積極的に行動する。	A　B　C　D
	責任感①	3. 時間や規則を守り、与えられた業務は責任を持って取り組む。	A　B　C　D
	責任感②	4. 日誌などを指定をされた方法で期限をまもり提出する。	A　B　C　D
	責任感③	5. 配属先の活動の流れを把握し、与えられた役割を担うことができる。	A　B　C　D
	協調性①	6. 指導者の指導や助言を素直に受け入れ、職員と協力して業務にあたる。	A　B　C　D
	協調性②	7. 子ども・利用者との関わりの中で必要な報告、連絡、相談を指導者へ的確に行うことができる。	A　B　C　D
	明朗性	8. 心身ともに健康で、明るい表情で、快活である。	A　B　C　D
	環境への配慮	9. 配属先の室内外の整頓や美化に努め、環境の整備に取り組む。	A　B　C　D
実習内容	施設の目的と子ども・利用者の理解	10. 施設の目的と子ども・利用者の活動、暮らしを理解することができる。	A　B　C　D
	子ども・利用者との関わり	11. 子ども・利用者の言動を受容し関わることができる。	A　B　C　D
	個人への配慮	12. 個別的な配慮を理解し、それに応じた関わりができる。	A　B　C　D
	支援内容の理解	13. 子ども・利用者との関わりを通じて、個々の福祉ニーズを把握する。	A　B　C　D
	衛生・安全	14. 衛生・安全への配慮や対応が適切にできる。	A　B　C　D
	日誌の記録と省察	15. 要点をとらえ的確に記録をし、自らの実習を振り返り、次の活動に活かすことができる。	A　B　C　D
	地域との関わり	16. 子ども・利用者の家庭環境や地域との関わりについて理解ができる。	A　B　C　D
総合評価		上記の各項目をもとに総合的に実習全体の評価をしてください。	**A　B　C　D**

総合的所見

※今後の学生指導に役立てたいと思います。実習生の特に優れている点、努力や改善を要する点などをお書きください。
また、本学へのご意見、その他お気付きの点などご自由にお書きください。

上記のとおり評価致します。

令和　年　月　日

施設名

施設長名　印

評価記入者

印

【お願い】 本評価票は、実習終了後10日以内にご返送下さい。

教育課程と指定規則との対比表

（看護師学校）（保健師学校）（周南公立大学）（人間健康科学部看護学科）

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表3（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	別表3 基礎分野 人間と生活・社会の理解	別表3 専門基礎分野 人体の構造と機能	別表3 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	別表3 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	別表3 専門分野 基礎看護学	別表3 専門分野 地域・在宅看護論	別表3 専門分野 成人看護学	別表3 専門分野 老年看護学	別表3 専門分野 小児看護学	別表3 専門分野 母性看護学	別表3 専門分野 精神看護学	別表3 専門分野 看護の統合と実践	別表3 臨地実習 基礎看護学	別表3 臨地実習 地域・在宅看護論	別表3 臨地実習 成人看護学	別表3 臨地実習 老年看護学	別表3 臨地実習 小児看護学	別表3 臨地実習 母性看護学	別表3 臨地実習 精神看護学	別表3 臨地実習 看護の統合と実践	別表3 計	別表1（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	別表1 公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援	別表1 公衆衛生看護学 公衆衛生看護活動展開論	別表1 公衆衛生看護学 公衆衛生看護管理論	別表1 疫学	別表1 保健統計学	別表1 保健医療福祉行政論	別表1 臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習Ⅰ	別表1 臨地実習 公衆衛生看護活動実習	別表1 臨地実習 公衆衛生看護管理実習	別表1 計	
	教育課程 ＼ 指定規則の教育内容						科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践		公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論		保健統計学	保健医療福祉行政論	個人・家族・集団・組織の支援実習Ⅰ	公衆衛生看護活動実習	公衆衛生看護管理実習		
			必修	選択			14		16		6	11	6（4）	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	23（※）	102（100）	2	16（14）			2	2	4（3）	2	3		31（28）	
総合科目	入門形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	1前	2		15	必修22単位＋選択科目の中から4単位以上選択	②																														
		周南Well-being創生論	2前	2		15		②																														
		持続可能な社会とダイバーシティ	1前		2	15		②																														
		教養スポーツ実習Ⅰ	1前	1		30		①																														
		教養スポーツ実習Ⅱ	1後		1	30		①																														
		健康とスポーツ□	1後		2	15		②																														
		人の健康生活	1後		1	15		①																														
		健康と福祉	2前		2	15		②																														
		メンタルヘルス入門	1前		1	15		①																														
	地域の持続性の向上のための科目群	自然災害と防災	2前	1		15		①																														
		社会調査法入門	2前		2	15		②																														
		地域づくり論	1後		2	15		②																														
		周南地域と産業	1後		2	15		②																														
		アントレプレナーシップ入門	2前		2	15		②																														
	リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	1前	2		15		②																														
		哲学	1前		2	15		②																														
		生活と経済経営	1後		2	15		②																														
		日本国憲法	1後		2	15		②																														
		心理学Ⅰ	1前	2		15		②																														
		社会学	1前		2	15		②																														
		中国語Ⅰ	1後		2	30		②																														
		中国語Ⅱ	2前		2	30		②																														
		韓国語Ⅰ	2後		2	30		②																														
		韓国語Ⅱ	3前		2	30		②																														
		ドイツ語Ⅰ	2後		2	30		②																														
		ドイツ語Ⅱ	3前		2	30		②																														
	リテラシー科目群	教養ゼミ	1前	2		15		②																														
		アカデミックライティング	1後		2	15		②																														
		情報リテラシー	1前	2		15		②																														
		データサイエンス入門	1後	2		15		②																														
		情報倫理	1後		2	15		②																														
		情報社会論	2前		2	15		②																														
		総合英語初級Ⅰ	1前	1		30		①																														
		総合英語初級Ⅱ	1後	1		30		①																														
		総合英語初中級Ⅰ	2前	1		30		①																														
		総合英語初中級Ⅱ	2後	1		30		①																														
		英会話初級Ⅰ	1前	1		30		①																														
		英会話初級Ⅱ	1後	1		30		①																														
		留学英語	1前		1	30		①																														
	小計						22	4	22			0								0								22	0				0	0		0		0	
専門基礎科目	専門基礎科目	人間と健康	1前	2		15	看護師学校必修23単位 保健師学校必修4単位	看護師学校：専門基礎科目・専門科目の選択科目の中から4単位以上選択			②																	23											4
		生涯発達論	1後	1		15					①																											
		公衆衛生	2後	2		15					②																						②					
		社会福祉学	2後	2		15					②																								②			
		人体の構造と機能Ⅰ	1前	2		15			②																													
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2		15			②																													
		栄養代謝学	2前	2		15				②																												
		微生物・感染制御学	2後	2		15				②																												
		臨床薬理学	2前	2		15				②																												
		周産期小児期疾病治療論	2前	2		15				②																												
		成人期疾病治療論	2前	2		15				②																												
		高齢期疾病治療論	2前	1		15				①																												
		精神疾病治療論	2後	1		15				①																												
		安全な患者介助	2後		1	15				①																												
		コミュニケーションスキル	3前		1	15				①																												
		臨床遺伝学	3前		1	15				①																												
		健康まちづくり論	2前		2	15				①	②																											
	小計						23		23			0								0								23	0				0	0		0		0	
専門科目	基礎看護分野科目	看護学概論	1前	2		15	看護師学校必修74単位 保健師学校必修6単位					②																74											6
		コミュニケーション論	1後	1		15						①																										
		基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助）	1後	2		30						②																										
		基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）	2前	2		30						②																										
		ヘルスアセスメント	2前	1		30						①																										
		看護過程	2後	2		15						②																										
		看護倫理	2後	1		15						①																										
		看護管理学	4前	1		15						①																										
	生涯発達看護分野科目	セクシュアルリプロダクティブ看護学概論	1後	1		15												①																			
		セクシュアルリプロダクティブ看護方法	2前	2		30												②																			
		セクシュアルリプロダクティブ看護実践	3前	1		30												①																			
		小児看護学概論	2前	1		15											①																				
		小児看護方法	2後	2		30											②																				
		小児看護実践	3前	1		30											①																				
		成人看護学概論	2前	2		15									②																						
		成人看護方法	2後	2		30									②																						
		成人急性期看護実践	3前	1		30									①																						
		成人慢性期看護実践	3前	1		30									①																						
		高齢者看護学概論	2前	1		15										①																					
		高齢者看護方法	2後	2		30										②																					
		高齢者看護実践	3前	1		30										①																					
	広域看護分野科目	地域・在宅看護概論	1後	1		15							①																								
		地域・在宅支援論	2後	2		15							②																								
		地域包括支援論	3前	1		15							①																								
		地域・在宅看護実践	3前	2		30							②																								
		精神看護学概論	2前	1		15													①																		
		精神看護方法	2後	2		30													②																		
		精神看護実践	3前	1		30													①																		
	統合分野科目	災害看護論	4前	1		15														①																	
		へき地・地域医療	4前	1		15														①																	
		多職種連携	3前	1		30														①																	
		研究方法論	3後	2		15														②																	
		卒業研究	4通	4		30														④																	
		家族看護学	3前	1		15							①	①	①	①	①	①	①	①																	
		国際保健	4後	1		15							①	①	①	①	①	①	①	①																	
		看護政策論	4後		1	15														①																	
		看護教育	4後		1	15														①																	
		医療経済学	4後		1	15														①																	

様式第2号(その2)

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（看護師学校）（保健師学校）（周南公立大学）（人間健康科学部看護学科）

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表3（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野 基礎看護学	専門分野 地域・在宅看護論	専門分野 成人看護学	専門分野 老年看護学	専門分野 小児看護学	専門分野 母性看護学	専門分野 精神看護学	専門分野 看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	臨地実習 地域・在宅看護論	臨地実習 成人看護学	臨地実習 老年看護学	臨地実習 小児看護学	臨地実習 母性看護学	臨地実習 精神看護学	臨地実習 看護の統合と実践	別表3 計	別表1（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護学 公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護学 公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習Ⅰ	臨地実習 公衆衛生看護活動実習	臨地実習 公衆衛生看護管理実習	別表1 計
			必修	選択			14		16		6	11	6（4）	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	23（※）	102（100）	2	16（14）			2	2	4（3）	2	3		31（28）
専門科目	実習科目 well-being実習Ⅰ（地域の成人・高齢者）	1前	1		45	看護師学校必修74単位 保健師学校必修6単位 看護師学校：専門基礎科目・専門科目の選択科目の中から4単位以上選択													①	①	①		①	①		74													6
	well-being実習Ⅱ（地域の幼児・学童期）	1前	1		45															①	①			①	①	①												
	well-being実習Ⅲ（地域の健康課題）	4前	2		45																					②												
	基礎看護実習Ⅰ	2前	1		45															①																		
	基礎看護実習Ⅱ	2後	2		45															②																		
	地域・在宅看護実習	3後	2		45																②																	
	成人急性期看護実習	3後	2		45																	②																
	成人慢性期看護実習	3後	2		45																	②																
	高齢者看護実習	3後	2		45																		②															
	小児看護実習	3後	2		45																			②														
	母性看護実習	3後	2		45																				②													
	精神看護実習	3後	2		45																					②												
	統合実習	4前	2		45																					②												
	小計					74	4	0		0		51								23								1	5			0	0	0	0			
	保健師課程科目 公衆衛生看護学概論	2前		1	15	保健師学校必修20単位																							①										
	公衆衛生看護活動Ⅰ	2後		2	15																								②	②								
	公衆衛生看護活動Ⅱ	2後		2	15																								②	②								
	公衆衛生看護方法	3前		2	30																								②	②								
	地区活動論	4前		2	15																								②	②								
	疫学演習	4前		2	30																												②					
	地域保健活動展開論	4前		1	15																								①	①								20
	公衆衛生看護管理論	4前		1	15																										①							
	保健医療福祉行政論	4前		1	15																													①				
	保健活動評価	4後		1	15																								①	①								
	公衆衛生看護実習Ⅰ	4通		3	45																															③	③	③	
	公衆衛生看護実習Ⅱ	4通		2	45																															②	②	②	
	小計					0	0	0		0		0								0								0	1	11		0	2	1	5			20
卒業要件単位数						127	22	23				51								23								119										
保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数																												2	16			2	2	3	5			30
指定規則に対する増単位数							8		1			10								0								19	0	2			0	0	0	0			2

選抜方法とアドミッション・ポリシーの相関表（スポーツ健康科学科）

入学者選抜の種別		選抜内容	評価割合（%）	アドミッション・ポリシー		
				AP①【知識・技能】 高等学校における教育・科目を広く修得しており、健康やスポーツへの興味・関心を有している。	AP②【思考力・判断力・表現力】 課題解決を行うための基礎的な思考力・判断力と、自らの考え方や意見を他者に論理的に伝えるための基礎的な表現力を備えている。	AP③【主体性・多様性・協働性】 地域や社会の動向に関心を持ち、多様化、複雑化する健康やスポーツの諸課題に取り組む意欲がある。
一般選抜	前期	共通テスト	75%	○	○	
		実技	19%	○		
		面接	6%		○	○
	中期	共通テスト	71%	○	○	
		小論文	23%	○	○	
		出願書類	6%	○		○
学校推薦型選抜	全国枠・地域枠	小論文	3分の1	○	○	
		面接	3分の1		○	○
		出願書類	3分の1	○		○
総合型選抜	全国枠	プレゼンテーション	75%		○	○
		口頭試問	25%	○		

選抜方法とアドミッション・ポリシーの相関表（看護学科）

入学者選抜の種別		選抜内容	評価割合（%）	AP① 人に関心があり、他者と尊重し合う価値観を備えている。	AP② 看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲および基礎学力を備えている。	AP③ 柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる。	AP④ 看護職者として社会に貢献する意思や具体的イメージを有している。
学校推薦型選抜	全国枠	小論文	50	○	○	○	○
		面接	37	○	○		○
		出願書類	13	○	○		○
	地域枠（A・B）	小論文	50	○	○	○	○
		面接	37	○	○		○
		出願書類	13	○	○		○
一般選抜	前期	学力試験	87		○		
		小論文	13	○	○	○	○
	後期	学力試験	87		○		
		小論文	13	○	○	○	○

選抜方法とアドミッション・ポリシーの相関表（福祉学科）

入学者選抜の種別		選抜内容	評価割合（%）	アドミッション・ポリシー		
				AP① 高等学校における教育・科目を広く修得しており、ボランティア活動等への興味・関心を有している	AP② 課題解決を行うための基礎的な思考力・判断力と、自らの考え方や意見を他者に的確に伝えるための基礎的な表現力を備えている	AP③ 社会の動向に関心を持ち、幅広い視野と深い考察を涵養することで、多様化、複雑化する福祉課題に取り組む意欲がある
総合型選抜	全国枠	小論文	3分の1		○	
		面接	3分の1		○	○
		出願書類	3分の1	○		
学校推薦型選抜	全国枠	小論文	50		○	
		面接	25		○	○
		出願書類	25	○		
	地域枠	小論文	50		○	
		面接	25		○	○
		出願書類	25	○		
一般選抜	前期	学力試験	85	○		
		面接	15		○	○
	後期	学力試験	85	○		
		面接	15		○	○

選抜方法一覧（スポーツ健康科学科）

１．一般選抜

【前期日程】

<table>
<tr><th>試験区分</th><th colspan="3">教科・科目等</th><th>配点</th></tr>
<tr><td rowspan="6">大学入学
共通テスト</td><td>外国語</td><td rowspan="2">必須</td><td>「英語(注2)」「フランス語」「ドイツ語」
「中国語」「韓国語」</td><td>200点</td></tr>
<tr><td>理科</td><td>「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」
「物理」「化学」「生物」「地学」(注3)</td><td>200点</td></tr>
<tr><td>国語</td><td rowspan="3">選択
1教科
1科目
(注1)</td><td>「国語」</td><td rowspan="3">200点</td></tr>
<tr><td>数学</td><td>「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」
「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」
「簿記・会計(注4)」「情報関係基礎(注4)」</td></tr>
<tr><td>地理歴史
・公民</td><td>「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」
「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」
「政治・経済」「倫理、政治・経済」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">個別試験</td><td colspan="3">実技</td><td>150点</td></tr>
<tr><td colspan="3">面接</td><td>50点</td></tr>
<tr><td colspan="4">合計</td><td>800点</td></tr>
</table>

【中期日程】

<table>
<tr><th>試験区分</th><th colspan="3">教科・科目等</th><th>配点</th></tr>
<tr><td rowspan="6">大学入学
共通テスト</td><td>外国語</td><td rowspan="2">必須</td><td>「英語(注2)」「フランス語」「ドイツ語」
「中国語」「韓国語」</td><td>200点</td></tr>
<tr><td>理科</td><td>「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」
「物理」「化学」「生物」「地学」(注3)</td><td>200点</td></tr>
<tr><td>国語</td><td rowspan="3">選択
1教科
1科目
(注1)</td><td>「国語」</td><td rowspan="3">200点</td></tr>
<tr><td>数学</td><td>「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」
「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」
「簿記・会計(注4)」「情報関係基礎(注4)」</td></tr>
<tr><td>地理歴史
・公民</td><td>「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」
「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」
「政治・経済」「倫理、政治・経済」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">個別試験</td><td colspan="3">小論文</td><td>200点</td></tr>
<tr><td colspan="3">書類</td><td>50点</td></tr>
<tr><td colspan="4">合計</td><td>850点</td></tr>
</table>

（注1）必須2科目と、指定された教科・科目の範囲から得点の高い1教科1科目の得点を採用する。ただし次の通りとする。
①地理歴史・公民を2科目受験している場合は、得点の高い科目の得点を採用する。
②数学又は地理歴史・公民の得点を採用する場合、大学入学共通テストの得点に、2を乗じたものとする。

（注2）大学入学共通テストの外国語「英語」の得点は、リーディング（100点満点）を160点満点に換算した得点とリスニング（100点満点）を40点満点に換算した得点を合計したものとする。

（注3）①理科の「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」については2科目で1科目とする。
②理科の「物理」「化学」「生物」「地学」または理科基礎科目を受験した場合は得点が高い科目を採用する。
③大学入学共通テストの得点に2を乗じたものを得点とする。

（注4）大学入学共通テストの数学のうち、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む）においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）のものに限る。

２．総合型選抜

試験区分	教科・科目等	配点
個別試験	プレゼンテーション	150点
	口頭試問	50点
	合計	200点

３．学校推薦型選抜

【全国枠・地域枠】

試験区分	教科・科目等	配点
個別試験	小論文	100点
	面接（個人面接）	100点
	出願書類	100点
	合計	300点

選抜方法一覧（看護学科）

1．一般選抜

【前期・後期日程】

試験区分	・			配点
大学入学共通テスト	国語	必須	「国語」（注１）	２00点
	外国語	必須	「英語」（注２）	２00点
	理科	必須	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」または「生物」（注３）	２00点
	数学	選択１教科１科目（注３）	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」	100点
	地理歴史・公民		「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」	
個別試験	小論文	必須		100点

（注１）① 近代以降の文章のみとする

②「国語」の得点は、２00点満点に換算し採用する。

（注２）大学入学共通テストの外国語「英語」の得点は、リーディング（100点満点）を160点満点に換算した得点とリスニング（100点満点）を40点満点に換算した得点を合計したものとする。

（注３）①「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」については2科目で1科目とする。

②基礎科目を選択する場合は「生物基礎」の受験を必須とする。

③理科の「生物」または理科基礎科目の両方を受験した場合は得点が高い科目を採用する。

④大学入学共通テストの得点に2を乗じたものを得点とする。

（注３）数学または地理歴史・公民から最も高い１科目の得点を採用する。

2．学校推薦型選抜

試験区分	教科・科目等			配点
個別試験	小論文	必須		100点
	面接	必須	個人面接	75点
	出願書類	必須		25点

選抜方法一覧（福祉学科）

1．一般選抜

【前期・後期日程】

試験区分	教科・科目等			配点
大学入学共通テスト	外国語	選択3教科3科目（注1）	「英語（注2）」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」「韓国語」	200点
	国語		「国語」	200点
	数学		「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計（注3）」「情報関係基礎（注3）」	200点（注4）
	理科		「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」	200点（注4）
	地理歴史・公民		「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」	200点（注4）
個別試験	面接	必須	個人面接（10分程度）	100点

（注1）指定された教科・科目の範囲から得点の高い3教科3科目の得点を利用する。ただし、次の①から③のとおりとする。

①理科の「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」については、2科目で1科目とする。

②地理歴史・公民は1教科とみなす。

③地理歴史・公民または理科の「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目受験している場合は、得点の高い科目の得点を採用する。

（注2）大学入学共通テストの外国語「英語」の得点は、リーディング（100点満点）を160点満点に換算した得点とリスニング（100点満点）を40点満点に換算した得点を合計したものとする。

（注3）大学入学共通テストの数学のうち、「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む）においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）の者に限る。

（注4）大学入学共通テストの得点に、2を乗じたものを得点とする。

※　2025年度入試からは、「情報」を選択科目として追加する。

2．学校推薦型選抜

【全国枠・地域枠】

試験区分	教科・科目等			配点
個別試験	小論文	必須		100点
	面接	必須	個人面接（10分程度）	50点
	出願書類	必須		50点

3．総合型選抜

【全国枠】

試験区分	教科・科目等			配点
個別試験	小論文	必須		50点
	面接	必須	個人面接（10分程度）	50点
	出願書類	必須		50点

○公立大学法人周南公立大学職員就業規則

（令和４年４月１日規程第７－１号）

目次

第１章　総則（第１条－第４条）
第２章　人事（第５条－第 13 条）
第３章　休職（第 14 条－第 17 条）
第４章　退職及び解雇（第 18 条－第 28 条）
第５章　勤務時間、休憩、休日（第 29 条－第 40 条）
第６章　休暇、休業（第 41 条－第 52 条）
第７章　服務規律（第 53 条－第 62 条）
第８章　給与・退職手当（第 63 条・第 64 条）
第９章　懲戒（第 65 条－第 76 条）
第 10 章　安全衛生（第 77 条―第 79 条）
第 11 章　災害補償（第 80 条－第 83 条）
第 12 章　教育・研修（第 84 条）
附則

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、公立大学法人周南公立大学（以下「法人」という。）に勤務する職員の服務及び就業の条件等を定めることにより、法人の円滑な運営と秩序の維持確立を目的とするものである。

（職員の定義）

第２条　この規則において「職員」とは、法人に勤務する常勤の者(臨時的に採用された者を除く)をいう。

２　職員は、教育職員と教育職員以外の職員とに分け、「教育職員」とは、教授、准教授、講師、助教及び助手の職にある者をいう。

（適用範囲）

第３条　この規則は、職員に適用する。

２　周南市又はその他の団体から派遣された職員の就業に関する事項については、前項の規定にかかわらず、法人と周南市又当該団体との間で締結

する取決め、協定等の規定による。

３　法人に勤務する者であって、臨時的に採用されたもの及び非常勤であるものの就業に関する事項については、別に定める。

（規則・規程の遵守）

第４条　職員は、法人の教育事業の発展に寄与するためこの規則及びこれに付属する諸規程を遵守し、法人秩序を維持するとともに、互いに協力してその職務を遂行し、教育事業の発展に努めなければならない。

第２章　人事

（任命権者）

第５条　職員の任免は、理事長がこれを行う。採用にあたっては、選考試験によるものとする。

（採用）

第６条　理事長は、就職を希望する者について、所定の選考手続を経て採用する者を決定する。

２　前項の所定の選考手続きとは、書類審査、筆記試験、適性検査、面接試験及びその他の選考方法をいい、これらのうち必要な選考方法によって、職員としての適格性の有無を公正に審査した後、合格した者を職員として採用する。

３　就職を希望する者は、あらかじめ法人が指定した書類を提出しなければならない。

４　採用内定者が次の各号の一に該当するときは、内定を取消すことがある。

（１）　前項に定める提出書類の記載事項又は面接時の発言等に虚偽や詐称があったとき

（２）　卒業又は所定の資格や免許の取得等採用の前提となる条件が達成されなかったとき

（３）　本人の責めによる事由により、指定された日から勤務を開始することができないとき

（４）　採用内定後に犯罪行為等があったとき又は選考時に過去の犯罪行為等を隠匿していたとき

（５）　暴力団体等に所属し又は関係しているとき

（６） 雇入日に出勤しなかったとき

（７） 採用を取り消すべき法人の運営上の理由があったとき

（８） その他、やむを得ず採用内定を取消さざるを得ない事情が生じたとき

（採用決定者の提出書類）

第７条 職員として採用された者は速やかに次の書類を法人に提出しなければならない。

（１） 誓約書

（２） 免許状(証)、資格証明書の写し

（３） 年金手帳（既に交付を受けている者に限る）

（４） 源泉徴収票（雇入の年に給与所得のあった者に限る）

（５） 雇用保険被保険者証（職歴のある者に限る）

（６） 給与所得者の扶養控除等（異動）申告書

（７） 通勤経路申請書

（８） 給与振込同意書

（９） 個人番号

(10) その他法人が提出を求めた書類

２ 理事長は、特別の理由があると認める場合には前項に掲げる書類の提出を省略し、又は猶予を与えることがある。

３ 職員は、第１項に定める提出書類の記載事項に変更を生じたときは、速やかに書面で理事長に届け出なければならない。

（番号法等に基づく提出および手続等）

第８条 職員は、自身および扶養家族等について、理事長から番号法および関連法令等（省令やガイドライン等を含む、以下「番号法等」という。）に基づく個人番号等の提供を求められた場合には、これに応じることとする。

２ 理事長は、職員から個人番号等の提供を受ける場合には、事前に使用目的を通知するものとする。

３ 理事長は、職員から提供された個人番号等について、番号法等に定められた安全管理措置を講じ、番号法等で定められた範囲で利用できるものと

する。

４　職員は、番号法等の改正により、個人番号の使用目的が拡大される等があった場合は、その内容に伴う法人の指示に対応することとする。

（試用期間）

第９条　新たに採用された者については出勤開始日から６ヶ月間を試用期間とする。ただし、理事長が適当と認めたときはこの期間を短縮し又は設けないことがある。

２　試用期間中の者について、健康状態、出勤状態、勤務状況、個人成績、協調性、業務適性等を総合的に判断して本採用の可否を決定する。この決定は試用期間満了日までに行う。

３　理事長が、本採用の可否の決定をすることが適当でないと判断した場合、当該試用期間の延長をすることがある。

４　試用期間中の職員は、勤務実績が良くないこと、心身に故障があることその他の事由により引き続き雇用しておくことが適当でないと認められる場合は、解雇されることがある。

５　採用の日から 14 日以内に解雇するとき又は第 65 条に定める諭旨解雇もしくは懲戒解雇事由に該当したときは、即時に解雇する。

６　試用期間は勤続年数に通算する。

（労働契約の締結）

第 10 条　理事長は、職員を採用するに際しては、労働契約を締結する。この場合において、別に定めるところにより、労働契約の期間(以下「任期」という。)を定めることができる。

（勤務条件の明示）

第 11 条　理事長は、職員の採用に際して、給与、勤務時間、その他の勤務条件が明らかとなる書面を交付して明示する。

（異動）

第 12 条　理事長は、職員に対し、業務上の必要により、配置換、兼務及び在籍出向を命じることができる。この場合において、職員は正当な理由のない限りこれを拒むことはできない。

（昇格・降格）

第 13 条　職員の昇格は勤務成績及びその他の能力の評定に基づいて行う。評定の方法は別途定めるものとする。

２　理事長は、職員が次の一つに該当する場合は、降格することができる。

（１）人事評価の結果が良くない場合

（２）勤務実績が良くない場合

（３）学部、大学院研究科等の設置に伴いその認可等に際し、教員審査の対象となる教育職員が、現在の職位より下位の職位の判定を受けた場合

（４）心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合

（５）その他職務に必要な適格性を欠く場合

第３章　休　職

（休職）

第 14 条　職員が次の各号の一に該当したときは、休職とする。なお、第１号の場合には、その傷病が休職期間中の療養で治癒する蓋然性が高いものに限る。

（１）　心身の故障のため、長期の休養を要する場合

（２）　刑事事件に関し起訴され、職務の正常な遂行に支障をきたす場合

（３）　学校、研究所、病院等の公共施設において、その教育職員の職務に関連があると認められる研究、調査等に従事することを理事長が承認する場合

（４）　水害、火災、その他の災害により生死不明又は所在不明となった場合

（５）　前各号のほか、特別の事情があって休職させることが適当と認めたとき

２　傷病による休職の場合、治癒とは従来の業務を健康時と同様に通常業務遂行できる程度に回復することを意味する。

（休職期間）

第 15 条　休職期間は休職事由を考慮の上、次の期間を限度として理事長が定める。

（１）　前条第１項第１号の場合

休職開始時における勤続年数	休職期間
勤続６ヶ月以上１年未満	３ヶ月
勤続１年以上５年未満	９か月
勤続５年以上１０年未満	１年
勤続１０年以上２０年未満	１年６か月
勤続２０年以上	２年

（２） 前条第１項第２号から第５号による場合　理事長が適当と認めた期間

２　休職期間中の給与は、公立大学法人周南公立大学職員給与規程（以下職員給与規程という）第 26 条の定めによる。

３　休職期間は、前条第１項第３号及び法人の都合による休職の場合を除き、勤続年数に算入しない。

４　休職者は毎月、月の初めに休職状況を法人へ報告しなければならない。なお、傷病による休職の場合には、医師の診断書を提出すること。

（復職等）

第 16 条　休職期間が満了したときは、速やかに復職しなければならない。

法人は、職員の休職事由が消滅した場合は次の基準により復職させる。

（１） 休職者が復職するときは、業務に支障のない旨の復職願いを２週間前までに提出し、法人の承認を得なければならない。

（２） 傷病による休職者が復職するときは、業務に支障のないことを証明する医師の診断書を添えて復職願いを提出し、法人の承認を得なければならない。

（３） 前号による診断書の提出に際し、診断書を作成した医師に対する面談のための事情聴取を法人が求めた場合、職員はその実現に協力しなければならない。

（４） 法人は第２号に規定する診断書以外に、法人の指定する医師への受診および診断書の提出を命ずることがある。正当な理由なくこれを拒否した場合、法人は第２号の診断書を休職事由が消滅したか否かの判断材料として採用しないことがある。

２　傷病による休職の場合、職場復帰の可否は次の判断基準により決定する。

（１） 復職に対し十分な勤労意欲を示していること

（２） 通勤時間帯に単独で安全に通勤できること

（３） 所定労働日に所定労働時間を継続して就労が可能なこと

（４） 業務に必要な作業が行えること

（５） 適切な睡眠覚醒リズムが整っており、昼間に眠気がないこと

（６） 業務遂行に必要な注意力、集中力が回復していること

３　職員は、休職事由が消滅したときは、直ちに法人に届け出なければならない。

４　復職後１週間以内に同一の私傷病で再び欠勤するに至った場合は、この欠勤期間も私傷病休職期間として通算する。

５　休職期間満了までに休職事由が消滅しない場合は当然退職とする。

（復職の取消）

第 17 条　職員が復職後６ヶ月以内に同一もしくは類似の事由により欠勤ないし通常の労務提供をできない状況に至った場合、復職を取消し、直ちに休職させる。

２　傷病による休職の場合、ICD(国際疾病分類)の大分類が同一の疾病に関しては、前項の同一もしくは類似の事由とみなす。

３　第１項の場合の休職期間は、復職前の休職期間の残期間とする。

第４章　退職及び解雇

（当然退職）

第 18 条　職員が次の各号の一に該当する場合は退職とし、職員としての身分を失う。

（１） 死亡したとき

（２） 休職期間が満了したとき

（３） 法人に連絡がなく 50 日を経過し、法人がその所在を知らないとき

（４） 任期のある教育職員が、当該期間を満了したとき

（定年）

第 19 条　職員の定年は、次に掲げるとおりとする。

（１） 教育職員　満 65 歳

（２）　教育職員以外の職員　満 60 歳

２　職員は、定年に達した日以後における最初の３月 31 日に退職する

（定年の特例）

第 20 条　教育研究又は法人運営における特別な事情があると理事長が認める場合は、前条に規定する定年によらないことができる。

（再雇用）

第 21 条　第１項第２号の規定により退職した者について、定年後も引続き雇用されることを希望する職員について、65 歳まで継続雇用する。

２　前項の採用の取扱いについては、別に定める。

（合意退職）

第 22 条　職員が退職希望日の１か月以上前に理事長に退職願を提出した場合、原則として理事長はその申込みを承諾する。

２　前項の退職願の提出が希望退職日の１か月以上前でない場合でも、事情によりその申込みを承諾することがある。

（辞職）

第 23 条　職員は、退職の届出に対し理事長の承認がない場合には、届出から２週間を経過した時点で労働契約を終了させることができる。

（退職前の現実労働）

第 24 条　職員は、退職日まで従前の職務に従事し、業務を後任者に引き継がなければならない。

２　前項の規定に反し、法人が損害を被った場合は、理事長は損害賠償を請求することがある。

（解雇）

第 25 条　職員が次の各号の一に該当する場合は、30 日（暦日）以上前に予告して解雇する。

（１）　採用時の誓約に違反したとき、又は法人への提出書類の記載事項又は面接時に申し述べた事項が事実と相違することが判明したとき

（２）　業務遂行に支障となる恐れがある既往症を隠していたことが判明したとき

（３）　業務遂行能力又は勤務成績が不良で就業に適しないと認められたとき

（４）　特定の職種や地位に従事することを条件として雇用されたが、その

職務遂行に必要な能力に欠くとき、又は職務に必要な免許状(証)が失効したとき

（５） 精神又は身体の故障により、業務に耐えられないとき又は労務提供が不完全であると認められたとき

（６） 業務に熱意なく、配置転換するも見込みがないとき又は他に適当な配置転換箇所がないとき

（７） 出勤状態が著しく悪いとき

（８） 職務に怠慢なとき

（９） 正当な理由なく無届け欠勤を繰り返したとき

(10) 業務上の指示、命令に従わず、業務遂行に支障を来したとき

(11) 協調性を欠き、職場のチームワークを乱したとき

(12) 本規則に違反したことを上司から指摘されても改めないとき

(13) 法人の職員としての適性を欠くとき

(14) 重大な過失のあったとき

(15) 本規則に違反し、第 65 条に定める懲戒処分を受けた後も改善あるいは改悛のあとが見られないとき

(16) 懲戒解雇事由に該当するが、その程度が軽微なとき

(17) 第 12 条に定める異動又は出向命令に正当な理由なく応じないとき

(18) 定員の過剰を生じたとき

(19) やむを得ない業務の都合によるとき

(20) 組織の改廃により廃職又は過員を生じ、かつ他に適当な配置先がない場合

(21) その他、前各号に準ずる事情が生じ、職員として勤務させることが不適当と認めたとき

２ 天災事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合等で労働基準監督署長の認定を受けたときは前項の予告をせずに即日解雇する。

３ 第１項の予告期間は労働基準法第 12 条に規定する平均賃金の支払い日数をもって当該予告期間を短縮することができる。

（解雇制限）

第 26 条　次の各号の一に該当する場合は解雇しない。

（１）　業務上の災害により療養のため休業する期間及びその後 30 日間。ただし、療養開始後３年経過後も傷病が治癒せず、打ち切り補償を支払ったとき、又は法律上支払ったと認められるときはこの限りではない。

（２）　産前産後の女性職員が法定休業する期間及びその後 30 日間

２　天災事変その他やむを得ない事由のために事業の継続が不可能になった場合で、行政官庁の認定を受けたときは、前項の規定は適用しない。

（貸与品の返還）

第 27 条　職員は、退職又は解雇の場合、直ちに法人からの貸与品を返還し、また法人に対し債務のあるときはこれを弁済しなければならない。

（退職時の証明）

第 28 条　法人は、退職又は解雇された者が退職証明書の交付を願い出た場合は、遅滞なくこれを交付する。

２　前項の証明事項は、使用期間、業務の種類、法人における地位、賃金、退職の理由（解雇の事由を含む）とし、本人から請求された事項のみを証明する。

３　職員が、解雇予告された日から解雇される日までの間において、解雇の事由の証明書を請求した場合は、法人はこれを遅滞なく交付する。

第５章　勤務時間、休憩、休日

（勤務時間）

第 29 条　１週間の所定勤務時間は、１か月（毎月１日から月末まで）ごとに平均して、１週間あたり 40 時間以内とする。ただし、妊娠中の女性及び産後１年を経過しない女性（以下「妊産婦」という。）の職員が請求した場合には、１か月単位の変形労働時間制は適用しない。

２　対象期間における各勤務日の始業・終業の時刻は別表１に定める。

３　理事長は、業務の都合により必要があるときは、前項の時刻を繰り上げ又は繰り下げることがある。

（１年単位の変形労働時間制）

第 30 条　法人は、職員代表と、１年以内の変形労働時間制に関する労使協定を締結した場合は、その対象となる職員については、前条の所定労働時

間及び第 35 条の休日の規定にかかわらず、その協定で定めるところによる。

２　変形期間の各日・各週の具体的な所定勤務時間は労使協定の定めによる。

３　本条は、妊産婦で請求した職員には適用しない。

（裁量労働制）

第 31 条　法人は、職員代表と、専門業務型裁量労働制に関する労使協定を締結した場合は、その対象（主として研究に従事する教育職員）とした教育職員の勤務時間は、第 29 条の所定労働時間及び第 35 条の休日の規定にかかわらず、同制度によることとし、業務の遂行手段及び時間配分については、職員の裁量に委ねるものとする。

２　専門業務型裁量労働制の適用に関し必要な事項については、労使協定の定めるところによる。

（クロスアポイントメント）

第 32 条　教員のうち、教授、准教授、講師及び助教は、クロスアポイントメント（本学の教員及び本学以外の機関の職員等の双方の身分を有し、本学及び当該他機関の業務を行うことをいう。以下同じ。）の適用を受けることがある。

２　クロスアポイントメントについて必要な事項は、別に定める。

（学外勤務）

第 33 条　職員が外勤又は出張など学外での勤務に就き、労働時間を算定し難いときは、所定の勤務時間を勤務したものとみなす。

（休憩）

第 34 条　職員の休憩時間は別表１の通りとする。

２　理事長は、業務上の必要性がある場合、前項に定める休憩時間の位置を変更することがある。

（休日）

第 35 条　休日は別表２に定める通りとする。

２　前項の休日のうち、法定休日を上回る休日は所定休日とする。

３　第１項にかかわらず、４週４日の変形休日制を適用することがある。

（休日振替）

第 36 条　理事長は、業務上の必要性があるときは、前条の休日を１か月以内の他の日に振り替えることがある。この場合、振替を行う休日の少なくとも前日までに振替日を指定して、職員に通知する。

（時間外、休日、深夜勤務）

第 37 条　理事長は、業務上の必要性があるときは、職員に時間外、休日、深夜勤務を命じることがある。職員は、正当な理由なくこれを拒否してはならない。

２　時間外勤務、休日勤務は、労働基準監督署長に届け出た協定の範囲内で命ずる。

３　やむを得ず時間外勤務及び休日勤務の必要性が生じた場合、職員は事前に所属長に申し出て、許可を得なければならない。職員が理事長の許可なく、時間外勤務又は休日勤務により法人の業務を行った場合、当該業務に該当する部分の通常賃金及び割増賃金は支給しない。

４　妊産婦が請求した場合は第１項による時間外勤務、休日勤務、深夜勤務及び次条に定める災害時の勤務をさせることはない。

（災害時の勤務）

第 38 条　前条に関わらず、災害その他避けることのできない事由によって臨時の必要があるときは、労働基準監督署長の許可を受け又は事後の届け出により、時間外又は休日勤務をさせることがある。

（適用除外）

第 39 条　次の各号に該当する職員については、この章の勤務時間、休憩、休日に関する規定を適用しない。ただし、深夜勤務に関する事項を除く。

（１）　監督もしくは管理の地位にあるもの

（２）　機密の事務を取り扱うもの

（日直・宿直）

第 40 条　職員は業務上必要ある場合は日直又は宿直の勤務を命ぜられることがある。

第６章　休暇、休業

（年次有給休暇）

第 41 条　年次有給休暇の算定期間は４月１日から翌年３月 31 日までとし、

初年度は採用時に継続し又は分割した 10 労働日の年次有給休暇を与える。

2　次年度以降は１年間継続勤務し、全労働日の８割以上勤務した職員に対して、前年度付与された日数に１労働日を加算した年次有給休暇を与える。また、雇入後３年を超える継続勤務については、前年度の付与日数に２日ずつ加算する。ただし、総日数が 20 日を超えないものとする。

3　前項の出勤率の算定にあたっては、年次有給休暇を取得した期間、産前産後の休業期間、育児・介護休業期間及び業務上の疾病による休業期間は出勤したものとして取り扱う。

4　当該年度に新たに付与した年次有給休暇の全部又は一部を取得しなかった場合には、その残日数は翌年度に限り繰り越される。

5　年次有給休暇の期間については、通常の給与を支払う。

6　理事長が認めた場合、病気、その他の理由による欠勤を年次有給休暇に振り替えすることができる。ただし、無許可欠勤に対する年次有給休暇の振替は原則認めない。

7　第１項の年次有給休暇が 10 日以上与えられた職員に対しては、第 42 条の規定にかかわらず、付与日から１年以内に、当該職員の有する年次有給休暇日数のうち５日について、理事長が職員の意見を聴取し、あらかじめ時季を指定して取得させることができる。ただし、職員が第 42 条、第 43 条又は第 45 条の規定による年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を５日から控除するものとする。

8　理事長は、前項の規定に基づき時季を指定して年次有給休暇を付与する場合は、事前に対象となる職員の意見を個別面談もしくは書面の提出を以て聴くものとするが、理事長と職員の年次有給休暇の希望時季が異なっていたとしても、理事長が時季を指定して年次有給休暇を付与することができる。

9　理事長は、前項の規定に基づき時季を指定した後も、職員が自ら時季を指定して年次有給休暇を取得した場合は、理事長は当該日数分の時季指定を取り消すことができる。

10　理事長は、前項の規定に基づき時季を指定した後も、職員の意見を聴いた上で指定した時季を変更することができる。

（年次有給休暇の請求手続）

第 42 条　職員は、年次有給休暇を取得しようとするときは、予め所定の様式により時季を指定して所属長を経由して理事長に届け出なければならない。

２　理事長は業務の正常な運営に支障があるときは、職員の指定した時季を変更することがある。

３　職員は 10 日以上の長期継続の年次有給休暇を申請する場合、指定する最初の休暇日より１週間前に届け出て、その休暇取得に関し、取得時季やその間の業務等について理事長と事前の調整を行わなければならない。

（年次有給休暇の半日単位での付与）

第 43 条　年次有給休暇は、日単位及び半日単位の付与とする。

２　半日単位の年次有給休暇の時間数は、３時間 45 分とする。

３　半日単位の年次有給休暇は、第 44 条の年次有給休暇の時間単位での付与と併用することができる。

（時間単位年休）

第 44 条　法人は、職員代表と、時間単位年休に関する労使協定を締結した場合は、第 41 条の規定にかかわらず、同協定の定める範囲の職員に対し、各年度における年次有給休暇（前年度から繰り越されたものを含む）のうち５日を限度として、時間単位とする年次有給休暇（以下「時間単位年休」という。）を付与することができる。

２　時間単位年休付与の対象者の範囲は、第２条に定める職員とする。

３　時間単位年休は、１時間単位で付与する。

４　時間単位年休に支払われる給与は、所定勤務時間勤務した場合に支払われる通常の給与の１時間当りの額に、取得した時間単位年休の時間数を乗じた額とする。

（年次有給休暇の計画的付与）

第 45 条　法人は、職員代表と年次有給休暇の計画的付与に関する労使協定を締結した場合は、代表する者と労働基準法第 39 条第５項に定められる労使協定を締結した場合、第 39 条で定める年次有給休暇のうち５日を超える部分については、その労使協定の定めるところにより計画的に付与す

るものとする。

２　前項の協定が締結された場合においては、職員は協定の定めるところに従って年次有給休暇を取得しなければならず、理事長は協定の定めるところにより、年次有給休暇の取得があったものとみなす。

（特別休暇）

第 46 条　職員は別表３に定める特別休暇を取得することができる。

２　前項の休暇日数には、第 35 条の休日を含むものとする。

３　職員は、第１項の特別休暇を取得しようとする場合、理事長に対し、事前に書面により申請し、その承認を得なければならない。ただし、やむを得ず事前に申請することが出来ない場合、事後速やかに申請し、承認を得ることとする。

４　前項の手続きを怠った場合、原則として無断欠勤として扱う。

５　第１項に定める休暇については有給とする。

（生理休暇）

第 47 条　生理日の勤務が著しく困難な女性職員から生理休暇の請求があったときは、必要と認める期間の休暇を認める。

２　前項の休暇については無給とする。

（産前産後の休暇）

第 48 条　６週間（多胎妊娠の場合は 14 週間）以内に出産する予定の女性職員から請求があった場合は休暇を与える。

２　出産した女性職員には出産日の翌日から８週間の休暇を与える。ただし、産後６週間を経過した女性職員から請求があったときは、医師が支障ないと認めた業務に就かせることがある。

３　前各項の休暇については無給とする。

（育児時間）

第 49 条　生後満１歳に達しない子を養育する女性職員から請求があったときは、休憩時間のほか、１日２回、１回 30 分の育児時間を与える。

２　前項の時間については無給とする。

（育児休業・介護休業等）

第 50 条　育児・介護休業、育児・介護のための時間外労働・深夜業の制限、

育児・介護短時間勤務、子の看護休暇および介護休暇に関し必要な事項は、別に定める。

２　前項の休業及び休暇については無給とする。

（公民権行使の時間）

第 51 条　職員が、勤務時間中に選挙権その他公民としての権利を行使するため、予め申し出た場合は、必要な時間を与える。

２　前項の時間については無給とする。

（母性健康管理のための休暇等）

第 52 条　女性職員から母子保健法に基づく保健指導又は健康診査を受けるために通院休暇の請求があったときは次の範囲で休暇を与える。

（１）　産前の場合

妊娠 23 週まで　　４週に１回

妊娠 24 週から 35 週まで　　２週に１回

妊娠 36 週から出産まで　　１週に１回

但し、医師又は助産婦（以下「医師等」という。）がこれと異なる指示をしたときにはその指示により必要な時間

（２）　産後（１年以内）の場合

医師等の指示により必要な時間

２　妊娠中又は出産後の女性職員から、保健指導又は健康診査に基づき勤務時間等について医師等の指導を受けた旨申し出があった場合、次の措置を講ずることとする。

（１）　妊娠中の通勤緩和

通勤緩和の指導の場合はその指導に基づき時差出勤、勤務時間の短縮等

（２）　妊娠中の休憩に関する措置

休憩時間等についての指導の場合にはその指導に基づき適宜休憩時間の延長、休憩時間の回数の増加等

（３）　妊娠中又は出産後の症状等に対応する措置

症状等に対応する指導を受けた場合にはその指導に基づき作業の制限、休業等

３　母性健康管理のために就業中に使用する時間及び休暇の期間は無給と

する。

第７章　服務規律

（誠実義務及び職務専念義務）

第 53 条　職員は、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）に定める公立大学法人の使命と業務の公共性を自覚し、その職員にふさわしい言動に努め、法人の諸規程及び業務上の指示命令を遵守し、職務上の責任を自覚し、誠実に自己の職務を遂行するとともに、相互に協力して職場の秩序維持に努めなければならない。

２　職員は、職務の遂行に当つては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。

（職務専念義務の免除）

第 54 条　職員は、勤務時間内において、次の各号のいずれかに該当する場合においては、あらかじめ理事長の承認を得て、その職務に専念する義務を免除されることができる。

（１）　研修を受ける場合

（２）　法人の厚生に関する計画の実施に参加する場合

（３）　前２号に規定する場合を除くほか、理事長が定める場合

（出退勤）

第 55 条　職員は、出勤及び退勤の際は、次の事項を遵守しなければならない。

（１）　始業時刻までには出勤し、始業時刻より直ちに業務に取りかかれるようにすること

（２）　出退勤の際は、本人自ら所定の方法により、出退勤の事実を記録すること

（３）　退勤の際は計器（パソコン等）、備品、書類等を整理格納した後に行うこと

２　次の各号の一に該当する職員に対しては、学内への入室を禁止又は退去を命ずる。

（１）　業務を妨害し、若しくは風紀秩序を乱し又はそのおそれのある者

（２）　酒気を帯びている者又は違法な薬物を使用していると認められる

者

（３） 火器、凶器その他業務に必要でない危険物を携帯する者

（４） 安全衛生上有害であると認められる者

（５） 業務上必要ないにもかかわらず、学内に立入り又は残留しようとする者

（６） 法令又は懲戒処分等により就業を禁止されている者

（７） その他前各号に準じ就業に不都合があると認められる者

（欠勤、遅刻、早退、職場離脱）

第 56 条　職員は、私傷病その他やむを得ない事由によって欠勤、遅刻、早退、職場離脱をせざるを得ないときは事前に所属長に届け出て、その承認を得なければならない。

２　欠勤、遅刻について事前に承認が得られない特別の事情があるときは、事後速やかに申請して、その承認を得なければならない。

３　理事長は、職員が私傷病を理由に欠勤する場合に医師の診断書の提出を求めることがある。なお、理事長が必要と認めたときは、診断書を提出した者に対し、法人の指定する医師への受診を求めることがある。

（遵守事項）

第 57 条　職員は次の事項を遵守し職務に精励しなければならない。

（１） 常に健康に留意し、明朗快活なる態度で就業すること

（２） 担当の業務又は指示された事項は期限内に誠実に責任をもって遂行すること

（３） 職員相互に人格を尊重し、秩序と品位の保持に努め、協力して職務の遂行を図ること

（４） 礼儀を尊び、上長の指示に従うこと。また上長の職責にある者は所属職員の人格を尊重し、適切な指導監督を行うとともに率先してその職責を遂行すること

（５） 職場の整理整頓につとめ、常に清潔に保つようにすること

（６） 勤務中は、学生や他の職員等に不快の念を与えぬよう容姿を清潔に整えるとともに、外見が華美にわたることのないようにすること

（７） 職員は学生に対し親切丁寧を旨とし、常に相手の立場を理解して、

その言動には細心の注意を払い、学生の安心と信頼を得るよう努めること

（８） 常に防犯に注意し、防犯に関する官庁等の指示を遵守すること

（９） 職務を妨害し又は職場の風紀秩序を乱さないこと

(10) みだりに職場を離れ又は怠慢な行為をしないこと

(11) 自己の職務上の権限を超えて専断的なことを行わないこと

(12) 法人の名誉及び信用を傷つけるようなことをしないこと

(13) 他の職員や関係先、学生と金銭貸借をしないこと

(14) 電熱器等の火気を許可無く使用しないこと

(15) 学内で印刷物を配布し又は掲示しようとするときは予め理事長の許可を得ること

(16) 理事長の許可なく、学校内又は施設において、政治活動、宗教活動、社会活動、販売・勧誘活動、その他集会、演説、貼り紙、募金、署名、文書配布など、業務に関係のない活動を行わないこと

(17) 自己の地位を利用し、学生や他の職員、取引先、関係業者等に対して金銭物品の贈与及び借用並びに供応その他の利益を与えないこと。また同様な利益を受けないこと

(18) 法人の設備、車両、機械、器具その他の備品を大切にし、原材料その他の消耗品の節約に努め、書籍や書類は丁寧に取扱い、その保管に努めること。破損や紛失を発見したときは直ちに法人へ届け出ること

(19) 法人の所有物を私用に供しないこと

(20) 私事に関する金銭取引その他の証書類に理事長の許可及び了解なしに勝手に法人の名称を使用しないこと

(21) 法人が所有する機密情報や学生情報その他の書類等を外部に持ち出し又は開示しないこと

(22) 自己の担当であるか否かを問わず、在職中又は退職後においても、法人や関係先等の機密、機密性のある情報、個人番号、学生情報、企画案、ノウハウ、データ、ＩＤ、パスワード、法人の不利益となる事項その他業務上知り得た秘密を他に漏らさないこと。またインターネットのブログ、掲示板、その他のソーシャルネットワーク等に載せないこと

(23)　本規則に反することを他人に教唆したり守れないような状態にしないこと

(24)　業務上の失敗、ミス、クレームは隠さず、ありのままに理事長に報告すること

(25)　職員は許可なく法人以外の職務に従事しないこと

(26)　その他上記に準ずる事項で法人の秩序を乱し又はそのおそれを発生させる行為をしないこと

（兼業）

第 58 条　職員の兼業については、別に定める。

（ハラスメントの防止）

第 59 条　セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメントその他ハラスメントの防止に関する事項は別に定める。

（所持品検査命令）

第 60 条　職員は学校や施設内に日常携帯品以外の私品を持ち込もうとするときは、あらかじめ理事長の許可を受けなければならない。

２　職員は、学外に法人の物品等を持ち出す場合は、あらかじめ理事長の許可を受けなければならない。

３　前各項に反し、職員が理事長の許可を得ずに私品を持ち込みないし、法人の物品を学外に持ち出すおそれがある場合、理事長は職員に対し、所持品の点検を求めることがある。職員はこの点検を正当な理由なくして拒否してはならない。

（電子端末の利用）

第 61 条　職員は法人が貸与したパソコン等の電子端末（以下、電子端末等という。）を業務遂行に必要な範囲で使用するものとし、私的に利用してはならない。

２　理事長は、必要と認める場合には、職員に貸与した電子端末等内に蓄積されたデータ等を閲覧することができる。

（携帯電話の利用）

第 62 条　職員は、就業時間中に理事長の許可なく、個人の携帯電話を私的に利用してはならない。

第８章　給与・退職手当

（給与）

第 63 条　職員の給与については公立大学法人周南公立大学職員給与規程の定めるところによる。

（退職手当）

第 64 条　職員の退職手当については公立大学法人周南公立大学職員退職手当規程の定めるところによる。

第９章　懲　戒

（懲戒の種類及び程度）

第 65 条　懲戒は、その情状により次の区分に従って行う。

（１）　戒告　理事長が文書をもって将来を戒める。

（２）　譴責　始末書を提出させ将来を戒める。

（３）　減給　始末書を提出させ１回の額が平均賃金の半額、総額が１給与支払期における給与総額の 10 分の１の範囲内で減給する。

（４）　降職　始末書を提出させ、役付を免じ、もしくは引き下げる。

（５）　停職　始末書を提出させるほか１２か月を限度として出勤を停止し、職務に従事させず、その間の給与は支給しない。

（６）　諭旨解雇　懲戒解雇相当の事由がある場合で本人に反省が認められるときは本人に説諭して解雇する。

（７）　懲戒解雇　予告期間を設けることなく、即時に解雇する。この場合において所轄労働基準監督署長の認定を受けたときは解雇予告手当（平均賃金の 30 日分）も支給しない。

（戒告、譴責、減給、降職又は停職）

第 66 条　職員が、次の各号の一に該当するときは、その程度により戒告、譴責、減給、降職又は停職を行う。

（１）　正当な理由なく事前の申請を行わず又は事前の承認を得ずに、欠勤、遅刻、早退又は職場離脱をしたとき（申請があっても正当な理由がなく理事長が承認しない場合を含む）

（２）　正当な理由なく、諸規程、通達又は職務上の指示・命令に従わなかったとき

（３） 勤務に関する手続き、その他の届出を怠ったとき又は偽りの届出をしたとき

（４） 所属長の指示、命令に違反し、職場の秩序を乱したとき

（５） 他の職員に対する暴行、脅迫以外の行為により職場内の秩序を乱したとき

（６） 職責を尽くさず、災害、業務上の障害その他の事故を発生させたとき

（７） 相手の意に反することを認識した上で、わいせつな言辞等の性的な言動を行ったとき

（８） 性的言動又は類似する形態の行為により、職員の有する具体的職務遂行能力の発揮を阻害ないし、そのおそれを生じさせたとき

（９） 嫌がらせ行為等を行ったとき

(10) 法人の機密もしくは個人情報（番号利用法上の特定個人情報ファイルを含む。）を外部に漏らしたとき、あるいは漏らそうとしたとき又は内部のもしくは他の事業所の機密や個人情報を不正に入手したとき

(11) 不正な手続き又は虚偽の報告によって法人を欺いたとき

(12) 正当な理由なく、理事長が命じる出張、配置転換、職種変更、出向を拒んだとき

(13) 安全又は衛生に関する規定に違反し、指示に従わなかったとき

(14) 法人の金銭又は物品を本人の過失により紛失したとき

(15) 本人の過失により法人の金銭又は物品の盗難にあったとき

(16) 故意又は過失により職場において法人の物品を損壊し、法人に損害を与えたとき

(17) 過失により職場において出火、爆発を引き起こしたとき

(18) 経費の不正な処理をしたとき

(19) 職員間で金銭の貸借を行い、職場秩序を乱したとき

(20) 理事長の許可なく学校内又は施設内において集会を開き又は演説、放送、掲示、印刷物の貼付、配布の行為をしたとき

(21) 職場のパソコンを規程やその他の指示に反して使用し、コンピューターウイルス等に感染させるなどして業務の運営に支障を生じさせた

とき又はその職務に関連しない不正な目的で使用し、業務の運営に支障を生じさせたとき

(22)　取引先、学生等に関して、自ら、若しくは他の役員・職員、又はその親族と関係があることを理由に有利な取扱いを行ったとき

(23)　業務上で以下の交通事故又は交通法規違反行為を行ったとき

ア　業務時間中に人に傷害を負わせる交通事故を起こしたとき

イ　業務時間中に酒酔い運転をしたとき

ウ　業務時間中に酒気帯び運転、著しい速度超過等の悪質な交通法規違反をしたとき、又はこの場合において物の損壊にかかる交通事故を起こして措置義務違反をしたとき

エ　業務時間外に飲酒の上運転して人に傷害を負わせたとき

オ　業務時間中又は業務時間外に、酒酔い運転又は酒気帯び運転と知りながら同乗したとき、又は酒酔い運転又は酒気帯び運転になることを知りながら飲酒を勧めたとき

(24)　業務外で非行行為により法人の名誉・信用を損ない又は法人に損害を及ぼしたとき、その他業務外の非行行為により社会秩序を乱したとき

(25)　その他前各号に準ずる程度の不都合な行為があったとき

（諭旨解雇又は懲戒解雇）

第 67 条　職員が、次の各号の一つに該当するときは、その情状に応じ、諭旨解雇又は懲戒解雇とする。

（１）　重要な経歴を偽り、その他不正な方法を用いて採用されたとき

（２）　法人の許可なく、在籍のまま他の役員に就任し又は他に雇用され、あるいは他に営業をなしたとき

（３）　職場において暴行、脅迫、監禁その他これに類する行為のあったとき

（４）　この規則及び諸規程又は業務上の指示、命令に違反し、行為態様が悪質なとき

（５）　正当な理由なく又は無届欠勤が継続して１４日以上に及んだとき

（６）　暴行若しくは脅迫を用いてわいせつな行為をし、又は職場における

上司・部下等の関係に基づく影響力を用いることにより強いて性的関係を結び若しくはわいせつな行為をしたとき、又は相手方の意に反することを認識の上で、わいせつな言辞等を執拗に繰り返したことにより相手が強度の心的ストレスの重積による精神疾患に罹患したとき

（７） 他の職員に対し、職権を背景として部下を抑圧した上で暴行若しくは脅迫行為をしたとき、又は他の職員に対する嫌がらせ行為等を執拗に繰り返したことにより相手が強度の心的ストレスの重積による精神疾患に罹患したとき

（８） 正当な理由なく、理事長が命じる配置転換、職種変更、出向又は昇格を拒んだとき

（９） 業務外において、法人の名誉・信用を著しく損ない又は法人に重大な損害を及ぼしたとき、その他学内の秩序が著しく乱された場合でその行為態様が悪質なとき

(10) 法人の重大な機密を外部に漏らし、あるいは漏らそうとし又は内部のもしくは他の事業所の重大な機密を不正に入手したとき

(11) 前号に違反し、法人の経営に関し、真相を歪曲して宣伝流布を行い又は法人に対して不当な誹謗中傷を行うことにより、法人の名誉・信用を毀損し法人に損害を与えたとき

(12) 刑法その他の法律に触れる行為をなし、法人の名誉を著しく傷つけ、職員として不適格と理事長が認めたとき

(13) 法人又は他人の金銭、物品を不正に持ち出し、あるいは窃取、搾取又は横領したとき

(14) 職務に関連し、不当な金品その他の利益を受け又は要求する行為を行ったとき

(15) 人を欺いて法人の金銭又は物品を交付させたとき

(16) 業務上の報告等を偽り、法人に対して重大な損害・影響を及ぼしたとき

(17) 故意により法人に重大な損害を与えたとき

(18) 故意に届出を怠り又は虚偽の届出をするなどして諸給与を不正に受給したとき

(19)　職場のパソコンを規程やその他の指示に反して使用し、コンピューターウイルス等に感染させるなどして業務の運営に支障を生じさせたとき、又はその職務に関連しない不正な目的で使用し、業務の運営に支障を生じさせ、法人に重大な損害を与えたとき

(20)　再三、懲戒を受けるも改悛の情が認められないとき

(21)　公務員等に贈賄行為を行ったとき

(22)　業務上で以下の交通事故又は交通法規違反行為を行った場合

ア　無免許運転を繰り返し、その他しばしば交通規程違反の運転をしたとき

イ　勤務時間中に酒酔い運転で人を死亡させ、もしくは重篤な傷害を負わせたとき

ウ　業務時間外に法人の所有車を飲酒の上運転して人に重篤な傷害を負わせ、もしくは死亡させたとき、又は業務時間外に法人所有車を飲酒の上運転して人に傷害を負わせた場合で、事故後の救護を怠る等の措置義務違反をしたとき

(23)　その他前各号に準ずる程度の不都合な行為があったとき

（管理監督者の監督責任）

第 68 条　管理監督者の指導ならびに管理不行届きにより、所属員が懲戒処分を受けたときは、管理監督者を懲戒処分することがある。

（弁明の機会）

第 69 条　理事長は必要あると認められたときは、本人又は関係者を出席させて、当該事案について説明又は陳述を求めるものとする。

（決定の通知）

第 70 条　理事長は懲戒の決定をしたときは、遅滞なく具申書にその結果を記録し、理事長より本人に通知する。

（懲戒前自宅待機措置）

第 71 条　職員の行為が諭旨解雇又は懲戒解雇事由に該当し、もしくはそのおそれがある場合、調査又は審議決定するまでの間、自宅待機を命ずることがある。なお、自宅待機の期間は給与を支給しない。

（懲戒の軽減）

第 72 条　情状酌量の余地があり又は改悛の情が明らかに認められる場合は、懲戒を軽減し、又は免除することがある。

（教唆及び幇助）

第 73 条　職員が、他人を教唆し又は幇助して第６６条又は第６７条に掲げる行為をさせたときは、行為に準じて懲戒に処す。

（加重）

第 74 条　第 66 条各号の一つの懲戒処分を受けた者が、その後１年以内にさらに懲戒に該当する行為をしたとき、又は同時に２つ以上の懲戒該当行為をしたときは、その懲戒を加重する。

（損害賠償）

第 75 条　職員が故意又は過失によって法人に損害を与えたときは、懲戒されたことによって損害の賠償を免れることはできない。

（秘密保持・個人情報の取扱い）

第 76 条　秘密保持に関する事項については、別に定める。

２　個人情報の取扱に関する事項については、別に定める。

第 10 章　安全衛生

（安全衛生）

第 77 条　法人は労働安全衛生法及びその他の関係法令に基づき、職員の安全衛生の確保及び改善を図るため、必要な措置を講ずる。

２　理事長は、安全衛生に関する法令、諸規程及び指示を守り、安全衛生、災害防止及び保健、衛生に努めなければならない。次の事項については特に遵守しなければならない。

（１）　安全衛生に関する規程並びに安全・衛生管理者等の命令、指示に従うこと

（２）　職場の整理整頓に努め、災害を未然に防止すること

（３）　消火設備その他危険防止のために設けられた設備を許可なく除去、変更等その効力を失わせるような行為をしないこと

（４）　療養及び病後の就業については、理事長の指示に従うこと

（健康診断）

第 78 条　法人は労働安全衛生法及びその他の関係法令に基づき、職員に対

し、毎年１回以上健康診断を行う。

２　職員は、正当な理由なく前項の健康診断を拒否してはならない。これに反した場合、第 65 条に規定する懲戒処分を行うことがある。

３　職員は、第１項に規定する定期健康診断の結果に異常の所見がある場合には、法人の指定する医師による再検査を受診しなければならない。正当な理由なくこれに反した場合には、理事長は当該職員の労務提供の受領を拒否する場合がある。

４　第１項に掲げる定期健康診断又は第３項に掲げる再検査の結果、必要があると認められるときは、就業を一定期間禁止し又は職場を変更するなどの措置をとることがある。

５　第１項に掲げる定期健康診断又は第３項に掲げる再検査以外にも、職員に対し、健康診断の受診ないし法人の指定する医師への健診を命じることがある。なお、正当な理由なくこれを拒否した場合には、理事長は当該職員の労務提供の受領を拒否する場合がある。

（就業禁止）

第 79 条　法人は労働安全衛生法及びその他の関係法令に基づき、職員が次の各号の一つに該当するときは就業を禁止する。

（１）　病毒伝ぱのおそれのある伝染病にかかったとき

（２）　精神障害のために自身を傷つけ又は他人に害を及ぼすおそれがあるとき

（３）　心臓、肝臓、肺、腎臓などの疾病で勤務のために病勢が著しく増悪するおそれがあるとき

（４）　前各号に準ずる疾病で厚生労働大臣が定めるものにかかったとき

（５）　前各号の他、感染症法等の法令に定める疾病にかかったとき

２　前項の規定にかかわらず、理事長は、次の各号の一つに該当する者については、その就業を禁止することがある。

（１）　職員の心身の状況が業務に適しないと判断したとき

（２）　当該職員に対して、国等の公の機関から外出禁止又は外出自粛の要請があったとき

（３）　前項第１号以外の伝染するおそれのある疾病にかかった者又は疾

病のため他人に害を及ぼすおそれのある者で医師が就業不適当と認めたとき

3　職員は、第１項第１号及び第２項の場合又はその疑いがある場合、直ちに所属長へ報告しなければならない。

4　職員と同居の家族又は同居人が伝染性の疾病に感染した場合、もしくはその疑いがある場合又は住居付近において伝染性の疾病が発生した場合、直ちに所属長へ報告し、必要な指示を受けなければならない。

5　第１項及び第２項の規定により就業禁止された期間は無給とする。ただし、第４項に該当する場合、疾病の感染を予防する必要がある場合の他法人が必要と認めるときは、その期間については平均賃金の 100 分の 60 を支払うものとする。

第 11 章　災害補償

（災害補償）

第 80 条　職員が業務上又は通勤途上において負傷し、若しくは疾病にかかり、又は死亡した場合は、法令の定めるところにより補償を行う。

（災害補償の例外）

第 81 条　負傷、疾病又は死亡の原因が職員の故意又は重大な過失による場合、又は天災地変による場合はこの規則による補償は行わない。

（補償を受ける権利）

第 82 条　この規則に定める補償を受ける権利は、職員の退職によって変更されることはない。また、これを譲渡し、又は担保に供してはならない。

（第三者の行為による事故）

第 83 条　法人は、第三者の行為によって生じた災害に対して補償を行ったときは、その補償の限度において、補償を受けた者が第三者に対して有する損害賠償の請求権を取得する。

2　前項の場合に、補償を受けるべき職員が当該第三者により同一の事由につき損害賠償を受けたときは、法人はその金額の限度において、この規則による災害補償を行わない。

3　第１項又は第２項における第三者に対する損害賠償請求権又は第三者により受けた損害賠償額には、それぞれ保険会社に対する保険金請求権又

は保険会社により受けた保険金額を含むものとする。

第 12 章　教育・研修

（教育・研修）

第 84 条　理事長は、法人の業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため、職員の研修機会の提供に努めるものとする。

２　職員は、研修に参加することを命ぜられた場合には、研修を受けなければならない。

３　教員は、その職責を遂行するために、業務に支障のない限り、理事長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

４　教員は、理事長の定めるところにより、長期にわたる研修を受けることができる。職員は、職務上必要とされる知識又は技能の習得により職員の能力開発及び向上を図ることを目的として、必要に応じ教育訓練を行うとともに、外部の教育訓練に参加させることがある。

附　則

この規則は、令和４年４月１日より施行する。

別表１（第 29 条、第 34 条関係）

始業時刻	終業時刻	休憩時間	実働時間
8 時 45 分	17 時 30 分	11 時 30 分～13 時 30 分の間で１時間	7.75 時間
8 時 45 分	12 時 30 分	なし	3.75 時間
13 時 30 分	17 時 30 分	なし	4.00 時間

別表２（第 35 条関係）

①	毎日曜日（法定休日）
②	毎土曜日
③	国民の祝日に関する法律に規定する休日
④	年末年始（日時はその都度決める）
⑤	その他理事長が指定する日

別表３（第 46 条関係）

本人が結婚するとき	7 日

子女（養女を含む）の結婚のとき	３日
配偶者の出産のとき	３日
配偶者・父母（養父母を含む）子女（養女を含む）が死亡したとき	７日
祖父母（養祖父母を含む）・伯叔父母・兄弟姉妹・孫又は配偶者の父母が死亡したとき	３日
配偶者の兄弟姉妹又は兄弟姉妹の配偶者が死亡したとき	２日
その他必要と認めた場合	法人が認めた期間

○公立大学法人周南公立大学職員の定年の特例に関する規程

（令和４年４月１日規程第７－８号）

（趣旨）

第１条　この規程は、公立大学法人周南公立大学職員就業規則（以下「就業規則」という。）第 20 条の規定に基づき、職員の定年の特例について必要な事項を定めるものとする。

（定年の特例）

第２条　理事長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、その対象となる職員の定年については、就業規則第 19 条に規定する定年によらず、当該各号に掲げる年齢とすることができる。

（１）　学部、大学院研究科等の設置に伴い、教員を採用する場合　完成年度（学部、大学院研究科等の開設後、学年進行が終了する年度をいう。以下同じ。）の末日におけるその者の年齢

（２）　学部、大学院研究科等の設置に伴い、法人に在職している教員を当該学部、大学院研究科等に所属の教員とする場合　完成年度の末日におけるその者の年齢

（３）　法人の能率的な運営に資するため、専門的かつ豊富な経験を有する者を理事長が指定する職（管理職手当が支給される管理又は監督の地位にある職に限る。）に採用する場合　65 歳（その者の採用日から 65 歳に達する日以後における最初の３月 31 日までの期間が５年に満たない場合にあっては、採用日の属する年度の４月１日における年齢に５を加えた年齢）

２　前項第２号に該当し、同項の規定により定年の特例措置を講ずる場合は、定年の変更に関する労働契約を締結しなければならない。

（その他）

第３条　この規程の実施について必要な事項は、理事長が別に定める。

附　則

この規程は、令和４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和４年 12 月 23 日から施行する。

令和9(2027)年度　全学部学科時間割

月

	期	科目名	履修年次	医療福祉	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1時限	1Q	実践英語(情報)	3					○		月1金1	内田　善彦	1142
	2Q	データ分析基礎	1					◎		月1金1	土屋　敏夫	1141
	2Q	情報行動心理学	3					○		月1金1	羽渕　由子	1142
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス6)	1			◎					丹羽　仁美	1121
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス8)	1			◎					ダーシー	1123
	前期	経営学入門Ⅰ(クラス1)	1	◎							木全　晃	1125
	前期	経営学入門Ⅰ(クラス2)	1	◎							石谷　康人	S1303
	前期	小児看護学概論(前)	2			◎			看		井上　みゆき	S1402
	前期	精神看護学概論(後)	2			◎			看		羽生貞親、他	S1402
	前期	スポーツ傷害論Ⅰ(体幹・重篤外傷)	2		○						小笠　博義	611
	前期	上級日本語Ⅰ	2	○							佐野　千亜紀	1122
	前期	地域マネジメント論	2･3･4				○				伊藤　敏安	S1302
	前期	国際マーケティング論	3	○							呉　贇	S1304
	前期	リコンディショニング論	3		○						久保　誠司	601
	前期	都市経済学	3	○							伏木　貞文	S1301
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						清原　泰治	521
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						岡井　理香	522
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						瀬尾　賢一郎	523
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						長澤　雅彦	524
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス6)	1			◎					丹羽　仁美	1121
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス8)	1			◎					ダーシー	1123
	後期	健康まちづくり論	1･2･3･4				○				難波　利光	S1304
	後期	スポーツ医学	1		○						小笠　博義、他	611
	後期	経営学入門Ⅱ(クラス1)	1	◎							木全　晃	S1302
	後期	経営学入門Ⅱ(クラス2)	1	◎							石谷　康人	S1303
	後期	女性アスリートスポーツ論	2		○						松生　香里	601
	後期	地域・在宅支援論	2			◎					家根明子、他	S1402
	後期	経済地理学	2･3･4	○							岩本　直	1125
	後期	メンタルトレーニング演習	3		○						水﨑　佑毅	心理学実験室
	後期	グローバル企業分析	3･4	○							伏木　貞文	1124
	3Q	線形代数基礎	1					○		月1金1	道山　知成	1141
	3Q	コーパス言語学	3					○		月1木1	立部　文崇	1142
	4Q	データサイエンス概論	1					○		月1金4	矢島　安敏	1141
2時限	1Q	実社会とデータ分析	1					◎		月2火1	矢島　安敏	1141
	1Q	社会調査法	3					○		月2火1	綿村英一郎	1142
	2Q	計算機概論	1					◎		月2火1	野村　典文、他	1141
	2Q	AI･推薦システム	3					○		月2火1	西郷　彰	オンライン
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス7)	1			◎					丹羽　仁美	1121
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス1)	1		◎						新枝　美帆	1122
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス9)	1	◎							中光　義亮	531
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス11)	1	◎							田中　数恵	532
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス13)	1	◎							原田　浩子	533
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス6)	1			◎					ダーシー	1123
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス3)	1		◎						ﾄﾗﾊﾞｽ･ｷｬﾝﾍﾞﾙ	534
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス12)	1	◎							ショーナ	1124
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス14)	1	◎							Scott Tracey	535
	前期	中級日本語	1	○					留	月23･水56	山本　晋也、他	525
	前期	心理学と心理的支援	1				◎				藤川　卓也	S1304
	前期	社会福祉法制	2				◎				脇野　幸太郎	S1303
	前期	スポーツ文化論Ⅰ(体育・スポーツ史・体育・スポーツ哲学)	2		○						清原　泰治、他	611
	前期	健康まちづくり論	2			○					難波　利光	S1301
	前期	社会政策	3	○							稲垣　円	S1302
	前期	多職種連携	3			◎					大平光子、他	S1401
	前期	幼児体育	3･4				○				瀬尾　賢一郎	記念館
	前期	スポーツバイオメカニクス演習	3		○						西山　健太	多目的スタジオ
	前期	レクリエーション実習	4		○						中嶋　克成	601
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						岩本　直	521
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						佐藤　裕哉	522
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						小林　啓祐	523
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						石谷　康人	524
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス7)	1			◎					丹羽　仁美	1121
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス1)	1		◎						新枝　美帆	1122
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス9)	1	◎							中光　義亮	531
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス11)	1	◎							田中　数恵	532
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス13)	1	◎							原田　浩子	533
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス6)	1			◎					ダーシー	1123
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス3)	1		◎						ﾄﾗﾊﾞｽ･ｷｬﾝﾍﾞﾙ	534
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス12)	1	◎							ショーナ	1124
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス14)	1	◎							Scott Tracey	535
	後期	日本語会話中上級Ⅱ	1	○					留		佐野　千亜紀	525
	後期	介護演習Ⅰ	1				○				北村　光子	S1303
	後期	微生物・感染制御学	2			◎			看		原田昌範	S1402
	後期	検査測定評価演習	2		○						小野　嵩志、他	611
	後期	地方財政論	3･4	○							田尾　真一	S1302
	後期	スポーツバイオメカニクス実習	3		○						西山　健太	多目的スタジオ
	3Q	VBAプログラミング	1					◎		月2火1	呉　韌	1141
	3Q	AI･画像情報処理	3					○		月2火1	松村　遼	1142
	4Q	情報エンジニアリング概論	1					○		月2火1	野村　典文	1141
	4Q	金融データ解析	3					○		月2水2	木島　正明	1142
3時限	1Q	ヒューマンコンピュータインタラクション	3					○		月3火3	土屋　敏夫	1141
	2Q	医療情報システム	3					○		月3火3	河内山隆紀	1141
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス8)	1			◎					丹羽　仁美	1121
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス2)	1		◎						新枝　美帆	1122
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス10)	1	◎							中光　義亮	531
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス12)	1	◎							田中　数恵	532
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス14)	1	◎							原田　浩子	533
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス7)	1			◎					ダーシー	1123
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス1)	1		◎						ﾄﾗﾊﾞｽ･ｷｬﾝﾍﾞﾙ	534
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス9)	1	◎							ショーナ	1124
	前期	英会話初級Ⅰ(クラス11)	1	◎							Scott Tracey	535
	前期	中級日本語	1	○					留	月23･水56	山本　晋也、他	525
	前期	自然災害と防災	2		○	◎		○			木村　玲欧	S1304
	前期	自然災害と防災	2･3･4				○				木村　玲欧	S1304
	前期	地域企業分析	2･3･4				○				梅田　勝利	S1301
	前期	介護演習Ⅱ	2				○				北村　光子	S1303
	前期	地域政策論	3	○							岩本　直	S1302
	前期	セクシュアルリプロダクティブ看護実践(前)	3			◎				月34	大平光子、他	S1401
	前期	精神看護実践(後)	3			◎			看	月34	羽生貞親、他	S1401
	前期	地域スポーツフィールド演習	3		○						清原　泰治	611
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						水﨑　佑毅	521
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						田尾　真一	522
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						百武　仁志	523
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						伏木　貞文	524
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス8)	1			◎					丹羽　仁美	1121
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス2)	1		◎						新枝　美帆	1122
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス10)	1	◎							中光　義亮	531
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス12)	1	◎							田中　数恵	532
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス14)	1	◎							原田　浩子	533
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス7)	1			◎					ダーシー	1123
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス1)	1		◎						ﾄﾗﾊﾞｽ･ｷｬﾝﾍﾞﾙ	534
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス9)	1	◎							ショーナ	1124
	後期	英会話初級Ⅱ(クラス11)	1	◎							Scott Tracey	535
	後期	地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰ	1				◎				北村光子、他	S1304
	後期	地方創生とDX	1					◎			立部　文崇	1125
	後期	高齢者看護方法	2			◎			看	月34	田淵　哲二、他	S1402
	後期	陸上競技(クラス1)	2		○						西山健太、他	総合グラウンド
	後期	経済統合論	3	○							岡本　次郎	S1302
	後期	保健活動評価	4			○					鶴田来美、他	S1401
	3Q	モバイルコンピューティング	3					○		月3火3	佐藤　裕哉	1142
	4Q	質的データ分析	3					○		月3火3	羽渕　由子	1141

火

	期	科目名	履修年次	医療福祉	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1時限	1Q	実社会とデータ分析	1	○				◎		月2火1	矢島　安敏	1141
	1Q	社会調査法	3	○				○		月2火1	綿村英一郎	1142
	2Q	計算機概論	1					◎		月2火1	野村　典文、他	1141
	2Q	AI･推薦システム	3					○		月2火1	西郷　彰	オンライン
	前期	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1				◎		社		竹下　徹	S1304
	前期	日本史Ⅰ	2	○	○						小林　啓祐	S1303
	前期	権利擁護を支える法制度	2				◎				脇野　幸太郎	S1302
	前期	高齢者看護学概論	2			◎			看		田淵啓二	S1402
	前期	財務会計論	2	○							林　徳順	S1301
	前期	地域デザイン実践	2	○							長澤　雅彦、他	1122
	前期	中国経済論	3	○							呉　贇	1121
	前期	財務管理論	3	○							長澤　賢一	1123
	前期	スポーツ産業学演習	3		○						中嶋　健	611
	前期	疫学演習	4				○		看	火12	鶴田来美	S1404
	前期	リコンディショニング実習Ⅱ	4		○						小野　高志	601
	通年											
	後期	心理学Ⅱ	1	○	○						武田　朋昭	1125
	後期	法律学Ⅰ	1	○							水野　陽一	1124
	後期	コミュニケーション論	1			◎					杉本　吉恵	S1404
	後期	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1				◎		社		守本　友美	S1304
	後期	子どもの遊びと援助	1･2･3･4				○				金子　幸	S1301
	後期	地域公共政策論	1･2･3･4	○			○	○			伊藤　敏安	S1302
	後期	日本史Ⅱ	2	○	○						小林　啓祐	S1303
	後期	中級統計学	2	○							河田　正樹	1122
	後期	小児看護方法	2			◎					井上みゆき、他	S1402
	後期	スポーツ産業学実習	3			○					中嶋　健	611
	後期	看護政策論(前)	4	○			○		看		岩澤　和子	S1401
	後期	看護教育(後)	4				○		看		渡邊　淳子	S1401
	後期	リコンディショニング実習Ⅲ	4			○					佐野村　学、他	601
	3Q	VBAプログラミング	1					◎		月2火1	呉　韌	1141
	3Q	法律学Ⅱ	2					○		月2火2	橋本　喜代太	1141
	4Q	情報エンジニアリング概論	1					○		月2火1	野村　典文	1141
	4Q	数値解析	3					○		火2金2	内田　善彦	1142
	前期	周南Well-being創生入門	1	◎	◎	◎	◎	◎			渡部　明	1125.1141
	前期	中国語Ⅱ	2	○	○	○		○		火23	河村　玉	521
	前期	中国語Ⅱ	2･3･4				○			火23	河村　玉	521
	前期	ダンス(クラス1)	2		○				教		大庭　尚子	多目的スタジオ
	前期	マーケティング論Ⅰ	2	○							呉　贇	S1304
	前期	民法Ⅰ	2	○							田村　耕一	1123
	前期	社会福祉法人会計	2･3･4				○				梅田　勝利	S1302
	前期	メンタルトレーニング論	3		○						水﨑　佑毅	601
	前期	多職種協働演習	3				○				守本　友美	S1303
	前期	国際経済学Ⅱ	3	○							村岡　浩次	S1301
	前期	疫学演習	4				○		看	火12	鶴田来美	S1404
	通年											
	後期	中国語Ⅰ	1	○	○	○		○		火23	河村　玉	521
	後期	中国語Ⅰ	1･2･3･4				○			火23	河村　玉	521
	後期	マーケティング論Ⅱ	2	○				○			呉　贇	S1304
	後期	小児看護方法	2			◎			看		井上みゆき、他	S1402
	後期	スポーツ傷害論Ⅱ(下肢・上肢)	2		○						小笠　博義	611
	後期	民法Ⅱ	2	○							田村　耕一	1123
	後期	国際経済学Ⅰ	2	○							村岡　浩次	S1301
	後期	介護演習Ⅲ	2					○			北村　光子	S1303
	後期	都市経済学演習	3	○							伏木　貞文	S1302
	後期	体つくり運動(クラス1)	3		○				教		前田一篤	記念館
	後期	開発途上国論	3	○							岡本　次郎	1121
	後期	実践英語(AI)	2					○		火2水2	橋本　喜代太	1141
	後期	生体情報システム	2					○		火2水2	日置　智子	1141
	後期	金融データ解析	3	○				○		月2水2	木島　正明	1142
	後期	ヒューマンコンピュータインタラクション	3					○		月3火3	土屋　敏夫	1141
	後期	医療情報システム	3					○		月3火3	河内山隆紀	1141
	前期	メンタルヘルス入門	1	○		○		○			羽生　貞親	1123
	前期	メンタルヘルス入門	1･2･3･4				○				羽生　貞親	1123
	前期	解剖学	1		◎						小笠　博義、他	611
	前期	中国語Ⅱ	2	○	○	○		○		火23	河村　玉	521
	前期	中国語Ⅱ	2･3･4				○			火23	河村　玉	521
	前期	ビジネス英会話	2	○				○		火34	ポーリーン	1121
	前期	ダンス(クラス2)	2		○						大庭　尚子	多目的スタジオ
	前期	経営史Ⅰ	2	○							呉　贇	1125
	前期	子どもの保健	2･3･4				○				光武　きよみ	S1303
	前期	小児看護実践(前)	3				◎			火34	半田浩美、他	S1401
	前期	高齢者看護実践(後)	3				◎			火34	田淵啓二、他	S1401
	前期	福祉サービスの組織と経営	3				◎				牛島　豊広	S1302
	前期	レクリエーション論	3			○					中嶋　克成	S1304
	前期	人的資源管理論	3	○							百武　仁志	S1301
	通年											
	後期	中国語Ⅰ	1	○	○	○		○		火23	河村　玉	521
	後期	中国語Ⅰ	1･2･3･4				○			火23	河村　玉	521
	後期	法律学Ⅱ	1	○							水野　陽一	1124
	後期	経営史Ⅱ	2	○							呉　贇	1125
	後期	ビジネス英作文	2	○				○			ポーリーン・ポールドウィン	1121
	後期	スポーツ文化論Ⅱ(スポーツ社会学・スポーツ史)	2			○					中嶋　健、他	611
	後期	看護倫理	2				◎		看		上野和美	S1402
	後期	体つくり運動(クラス2)	3			○			教		前田　一篤	記念館
	後期	税務会計論	3	○							林　徳順	S1301
	後期	医療経済学	4	○			○	○	看		大森　正博	S1401
	3Q	モバイルコンピューティング	3					○		月3火3	佐藤　裕哉	1142
	4Q	質的データ分析	3					○		月3火3	羽渕　由子	1141

令和9(2027)年度　全学部学科時間割

4時限

期	月 科目名	単位	総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室	火 科目名	単位	総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1Q	感性情報処理	2					○		月4火6	土屋　敏夫	1142	情報科学概論	1					◎		火4金4	木島　正明、他	1142
2Q	モデリングの数理	3					○		月4木2	小柳　淳二	1141											
1Q	Python応用	1					◎		月4金4	酒井　徹也	1142											
2Q	マーケティング･リサーチ	3	○				○		月4火2	谷村　琢也	オンライン											
前期	総合英語初級Ⅰ(クラス3)	1		◎						新枝　美帆	1122	人間と健康	1		◎	◎	◎				中嶋健、他	1125
	英会話初級Ⅰ(クラス2)	1		◎						ﾄﾗﾊﾞｽ･ｷｬﾝﾍﾞﾙ	534	経済学入門Ⅰ(クラス1)	1	◎							岩本　直	S1304
	英会話初級Ⅰ(クラス10)	1	◎							ショーナ	1124	経済学入門Ⅰ(クラス2)	1	◎							村岡　浩次	1141
	英会話初級Ⅰ(クラス13)	1	◎							Scott Tracey	535	ビジネス英会話	2	○				○		火34	ポーリーン	1121
	総合英語初中級Ⅰ(クラス5)	2				◎				西村　浩子	1121	人文地理学Ⅰ	2	○							佐藤　裕哉	1123
	ビジネス日本語Ⅰ	2	○					留		山本　晋也	524	児童･家庭福祉	2				◎				竹下　徹	S1303
	国際ビジネス特論Ⅱ	2	○							赤木　真由、他	S1303	財政学	2	○							田尾　真一	1124
	スポーツ心理学	2		○						水﨑　佑毅	601	ベースボール型球技	2		○						北　哲也	学内グラウンド
	ヘルスアセスメント	2			◎					杉本吉恵、他	S1402	基礎看護技術Ⅱ(診療に伴う技術)	2			◎					杉本吉恵、他	S1402
	セクシュアルリプロダクティブ看護実践(前)	3			◎			看	月34	大平光子、他	S1401	スポーツ生化学	3		○						奥本　正	601
	精神看護実践(後)	3			◎			看	月34	羽生貞親、他	S1401	小児看護実践(前)	3			◎				火34	半田浩美、他	S1401
	教育実習基礎講座Ⅱ	4	○	○			○	教		渡部　明、他	611	高齢者看護実践(後)	3			◎				火34	田淵啓二、他	S1401
	保育ソーシャルワーク演習	4				○				牛島　豊広	S1301	公民科教育法Ⅰ	3	○					教		大坂　遊	1122
												グローバルビジネス論	3	○							呉　賛	S1301
通年	専門ゼミⅠ	3	◎							岡本　次郎	521											
	専門ゼミⅠ	3	◎							石谷　康人	522											
	専門ゼミⅠ	3	◎							稲垣　円	531											
	専門ゼミⅠ	3	◎							岩本　直	532											
後期	総合英語初級Ⅱ(クラス3)	1		◎						新枝　美帆	1122	韓国語Ⅰ	1	○	○			○		火45	李　萬善	1141
	英会話初級Ⅱ(クラス2)	1		◎						ﾄﾗﾊﾞｽ･ｷｬﾝﾍﾞﾙ	534	韓国語Ⅰ	1-2-3-4				○			火45	李　萬善	1141
	英会話初級Ⅱ(クラス10)	1	◎							ショーナ	1124	韓国語Ⅰ	2			○					李　萬善	1141
	日本語会話中上級Ⅰ	1	○					留		立部　文崇	523	経済学入門Ⅱ(クラス1)	1	◎							岩本　直	S1304
	生活と経済経営	1			○					田尾　真一、他	S1304	経済学入門Ⅱ(クラス2)	1	◎							村岡　浩次	S1301
	生活と経済経営	1-2-3-4				○				田尾　真一、他	S1304	音楽理論	1-2-3-4				○				井町　美貴子	S1303
	生活と経済経営	2					○			田尾　真一、他	S1304	地域企業会計	1-2-3-4				○				梅田　勝利	S1302
	英会話初級Ⅱ(クラス13)	2	◎							Scott Tracey	535	国際マーケティング論	2	○							呉　賛	1124
	総合英語初中級Ⅱ(クラス5)	2				◎				西村　浩子	1121	機能解剖学Ⅱ(下肢･上肢)	2		○						小笠　博義、他	611
	高齢者看護方法	2			◎			看	月34	田淵　哲二、他	S1402	公民科教育法Ⅱ	3	○					教		大坂　遊	1122
	ビジネス日本語Ⅱ	2	○					留		山本　晋也	524	グローバル英語	3	○	○			○			ポーリーン・ポールドウィン	1121
	陸上競技(クラス2)	2		○						西山健太、他	総合グラウンド	デジタルファブリケーション演習	3	○							冨本　浩一郎	601
	教育実習基礎講座Ⅰ	3	○	○			○	教		渡部　明、他	611											
	保育ソーシャルワーク論	3･4				○				竹下　徹	S1302											
3Q	企業とデータ分析	1					○		月4木3	谷村　琢也	オンライン	経営と数理モデル	2	○				○		火4金5	小柳　淳二	1142
4Q	微分積分基礎	1					○		月4木3	木島　正明	601	シミュレーション	2	○				○		火4金5	内田　善彦	1142

5時限

期	月 科目名	単位	総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室	火 科目名	単位	総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1Q	品質管理とデータ分析	3					○		月5金3	小柳　淳二	1141											
2Q																						
前期	倫理学Ⅰ	1	○		◎					寺田　篤史	S1303	持続可能な社会とダイバーシティ	1	○	○	○		○			中嶋健、他	S1304
	倫理学Ⅰ	1-2-3-4				○				寺田　篤史	S1303	持続可能な社会とダイバーシティ	1-2-3-4				○				呉　賛、他	S1304
	教師論	1	○	○			○	教		渡部　明	1125	教育原理	2	○	○			○	教		渡部　明	1141
	ドイツ語Ⅱ	2	○	○			○		月5･金5	新枝　美帆	1121	基礎看護技術Ⅱ(診療に伴う技術)	2			◎			看		杉本吉恵、他	S1402
	ドイツ語Ⅱ	2-3-4				○			月5･金5	新枝　美帆	1121	地域コンテンツデザイン	2	○							長澤　雅彦	1123
	教育方法論Ⅰ	2	○	○			○	教		大坂　遊	1142	地理歴史科教育法Ⅰ	3	○					教		大坂　遊	1122
	経営戦略論Ⅰ	2	○							石谷　康人	S1304	スポーツ産業学	3		○			○			中嶋　健	611
	高齢期疾病治療論	2			◎			看		尾形　聡、他	S1402	行動経済学	3	○							田島　正士	S1302
	ドイツ語Ⅱ	3			○					新枝　美帆	1121	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3				◎		社		輪倉　一広	S1303
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	3				◎		社		竹下　徹	S1302	簿記上級Ⅰ	3	○							田村　匡礼	S1301
	スポーツ傷害評価演習	3		○						久保　誠司	601	地区活動論	4			○			看		鶴田来美、他	S1404
	公衆衛生看護管理論	4			○					鶴田来美、他	S1401											
通年	専門ゼミⅠ	3	◎							長澤　賢一	521											
	専門ゼミⅠ	3	◎							河田　正樹	522											
	専門ゼミⅠ	3	◎							木全　晃	523											
	専門ゼミⅠ	3	◎							小林　啓祐	524											
	専門ゼミⅠ	3	◎							佐藤　裕哉	525											
後期	ドイツ語Ⅰ	1	○	○			○		月5･金5	新枝　美帆	1121	韓国語Ⅰ	1	○	○			○		火45	李　萬善	1141
	ドイツ語Ⅰ	1-2-3-4				○			月5･金5	新枝　美帆	1121	韓国語Ⅰ	1-2-3-4				○			火45	李　萬善	1141
	ドイツ語Ⅰ	2			○					新枝　美帆	1121	韓国語Ⅰ	2			○					李　萬善	1141
	国際ビジネス特論Ⅰ	1	○							赤木　真由、他	S1303	道徳教育	2	○	○			○	教		渡部　明	1142
	教育方法論Ⅱ	2	○	○			○	教		大坂　遊	1142	ファイナンス論	2	○							長澤　賢一	S1303
	経営戦略論Ⅱ	2	○							石谷　康人	S1304	ミクロ･マクロ経済学演習	2	○							村岡　浩次	1121
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3				◎		社		守本　友美	S1302	地理歴史科教育法Ⅱ	3	○					教		大坂　遊	1122
												ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3				◎		社		小林　武生	S1302
												レクリエーション演習	3			○					中嶋　克成	601
												簿記上級Ⅱ	3	○							田村　匡礼	S1301
3Q	フィンテック･ブロックチェーン	3					○		月5木3	内田　善彦	1141											
4Q	AI･コンピュータと人間	3					○		月5木3	児玉　満、他	1141											

6時限

期	月 科目名	単位	総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室	火 科目名	単位	総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1Q	ニューラルネットワーク	2					○		月6･金2	松村　遼	1141	感性情報処理	2					○		月4火6	土屋　敏夫	1142
2Q	最適化モデリング	2					○		月6･金2	矢島　安敏	1141											
前期												機能解剖学Ⅰ(総論･体幹)	2		○						小笠　博義、他	611
通年	卒業研究	4			◎					家根　明子	新館5F	卒業研究	4			◎					岡田　純也	新館5F
	卒業研究	4			◎					井上　みゆき	新館5F	卒業研究	4			◎					杉本　吉恵	新館5F
	卒業研究	4			◎					上野　和美	新館5F	卒業研究	4			◎					田川　紀美子	新館5F
	卒業研究	4			◎					大達　亮	新館5F	卒業研究	4			◎					田淵　哲二	新館5F
	卒業研究	4			◎					大平　光子	新館5F	卒業研究	4			◎					辻　麻由美	新館5F
	専門演習Ⅰ	4		◎						中嶋　健	521	卒業研究	4			◎					鶴田　来美	新館5F
	専門演習Ⅰ	4		◎						江﨑　和希	生理学実験室	卒業研究Ⅱ	4				◎				牛島　豊広	521
	専門演習Ⅰ	4		◎						小笠　義博	522	卒業研究Ⅱ	4				◎				梅田　勝利	522
	専門演習Ⅰ	4		◎						奥本　正	生化学実験室	卒業研究Ⅱ	4				◎				金子　幸	523
	専門演習Ⅰ	4		◎						小野　高志	523	卒業研究Ⅱ	4				◎				難波　利光	524
	専門演習Ⅰ	4		◎						瀬尾　賢一郎	524	卒業研究Ⅱ	4				◎				脇野　幸太郎	525
	専門演習Ⅰ	4		◎						岡井　理香	525	専門ゼミⅡ	4	◎							河田　正樹	531
	専門ゼミⅡ	4	◎							赤木　真由	531	専門ゼミⅡ	4	◎							木全　晃	532
	専門ゼミⅡ	4	◎							石谷　康人	532	専門ゼミⅡ	4	◎							小林　啓祐	533
	専門ゼミⅡ	4	◎							稲垣　円	533	専門ゼミⅡ	4	◎							佐藤　裕哉	534
	専門ゼミⅡ	4	◎							岩本　直	534	専門演習Ⅰ	3			◎					清原　泰治	535
	専門ゼミⅡ	4	◎							岡本　次郎	535	専門演習Ⅰ	3			◎					尾形　聡	生理学実験室
												専門演習Ⅰ	3			◎					東恩納　玲代	1121
												専門演習Ⅰ	3			◎					松生　香里	生化学実験室
												専門演習Ⅰ	3			◎					佐野村　学	1122
												専門演習Ⅰ	3			◎					水﨑　佑毅	心理学実験室
												専門演習Ⅰ	3			◎					西山　健太	多目的スタジオ
後期																						
3Q	情報ネットワークとセキュリティ	2					○		月6木5	内田　善彦、他	1141	ソフトウェア工学	2					○		火6水4	野村　典文	オンライン
4Q	組み込みシステム	2					○		月6木5	髙藤　大介	1141	インターネットマーケティング	2	○				○		火6水4	西郷　彰	1141

令和9(2027)年度　全学部学科時間割

水曜日

	期	科目名	単位数	経済情報	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1時限	1Q	AI･機械学習基礎	2					◎		水1水2	松村　遼	1141
	2Q	会計情報と経営	2					○		水1水2	小柳　淳二	1141
	前期	教養ゼミ	1	◎							岡本　次郎	521
		教養ゼミ	1			◎					井上みゆき、他	1121･1122
		教養ゼミ	1		◎						尾形聡、他	522
		教養ゼミ	1		◎						佐野村　学、他	523
		教養ゼミ	1				◎				井上　浩	524
		教養ゼミ	1					◎			呉　靭	1123
		教養スポーツ実習Ⅰ	1	◎	◎	◎	◎	◎			清原泰治、他	体育館、グラウンド
		社会調査法入門	2	○	○	○					稲垣　円	531
		マクロ経済学Ⅰ(クラス1)	2	◎							長澤　賢一	S1304
		マクロ経済学Ⅰ(クラス2)	2	◎							田尾　真一	S1301
		上級日本語Ⅱ	2	○					留		佐野　千亜紀	533
		子どもの遊びと造形	2･3･4				○				弘中　順一	S1302
		福祉的ターミナルケア	2				○				北村　光子	S1303
		総合英語中上級Ⅰ	3	○	○			○			田中　数恵	532
		総合英語中上級Ⅰ	3･4				○				田中　数恵	532
		アントレプレナーシップ実践	3	○							赤木　真由	1124
	通年											
	後期	教養スポーツ実習Ⅱ	1	○	○	○					松生　香里、他	体育館、グラウンド
		障がいに対する理解	2		○						加地　信幸	611
		刑事司法と福祉	2				◎				脇野　幸太郎	S1303
		マクロ経済学Ⅱ(クラス1)	2	○							長澤　賢一	S1302
		マクロ経済学Ⅱ(クラス2)	2	○							田尾　真一	S1304
		公共経済学	3	○							田島　正士	S1301
		上級日本語Ⅲ	3	○					留		佐野　千亜紀	1122
		スポーツ傷害対応演習	3		○						久保　誠司	601
	3Q	Webアプリケーション開発	2	○				○		水1金1	児玉　満	1141
		AI･画像情報処理	3					○		月2水1	松村　遼	1142
	4Q	実践英語(数学)	2					○		水1木1	道山　知成	1141
2時限	1Q	AI･機械学習基礎	2					◎		水1水2	松村　遼	1141
	2Q	会計情報と経営	2					○		水1水2	小柳　淳二	1141
	前期	教養ゼミ	1	◎							木全　晃	1003
		教養ゼミ	1			◎					渡邊淳子、他	1121･1122
		教養ゼミ	1		◎						江﨑和希、他	521
		教養ゼミ	1		◎						松生　香里、他	522
		教養ゼミ	1				◎				伊藤　敏安	1123
		教養ゼミ	1					◎			矢島　安敏	1124
		教養スポーツ実習Ⅰ	1	◎	◎	◎	◎	◎			清原泰治、他	体育館、グラウンド
		臨床薬理学	2		◎				看		嶋本　顕	S1402
		発育発達論	2		○						東恩納　玲代	611
		コーチング論	3		○						西　博史	601
		租税論	3	○							田尾　真一	S1302
		専門ゼミ1	3					◎			内田　善彦	1126
		専門ゼミ1	3					◎			髙藤　大介	1127
		専門ゼミ1	3					◎			木島　正明	1128
		専門ゼミ1	3					◎			呉　靭	523
		専門ゼミ1	3					◎			児玉　満	525
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						赤木　真由	531
		地域ゼミ	2	◎	◎						稲垣　円	532
		地域ゼミ	2	◎	◎		◎				難波　利光	533
		地域ゼミ	2	◎	◎		◎				梅田　勝利	534
		地域ゼミ	2	◎	◎						寺田　篤史	535
	後期	教養スポーツ実習Ⅱ	1	○	○			○			松生　香里、他	体育館、グラウンド
		保育原理	1･2･3･4				○				金子　幸	S1304
		こころとからだのしくみ	1				○				原田　昌範、他	S1301
		総合英語中上級Ⅱ	3	○	○			○			西村　浩子	1121
		総合英語中上級Ⅱ	3･4				○				西村　浩子	1121
		専門ゼミ2	3					◎			内田　善彦	1126
		専門ゼミ2	3					◎			木島　正明	1128
		専門ゼミ2	3					◎			呉　靭	523
		専門ゼミ2	3					◎			児玉　満	525
		管理工学	3	○							河田　正樹	S1302
		公衆衛生	2			◎					長谷亮佑	S1402
	3Q	実践英語(AI)	2					○		火2水2	橋本　喜代太	1141
	4Q	生体情報システム	2					○		火2水2	日置　智子	1141
3時限	1Q											
	2Q											
	前期	教養ゼミ	1	◎							伏木　貞文	521
		教養ゼミ	1	◎							石谷　康人	522
		教養ゼミ	1	◎							佐藤　裕哉	523
		教養ゼミ	1		◎						清原泰治、他	524
		教養ゼミ	1				◎				竹下　徹	1123
		教養ゼミ	1					◎			小柳　淳二	1121
		教養スポーツ実習Ⅰ	1	◎	◎		◎	◎			松生　香里、他	体育館、グラウンド
		外国史Ⅰ	2	○	○						兼重　宗和	611
		セクシュアルリプロダクティブ看護方法	2			◎			看	水34	大平光子、他	S1402
		アルゴリズムとデータ構造	2					○			髙藤　大介	1141
		地域デザイン実践	2	○							長澤　雅彦、他	S1304
		証券投資論	3	○							長澤　賢一	S1302
		パラスポーツ論Ⅰ	3		○						宇野　直士	601
		専門ゼミ1	3					◎			酒井　徹也	1126
		専門ゼミ1	3					◎			立部　文崇	1128
		専門ゼミ1	3					◎			土屋　敏夫	525
		専門ゼミ1	3					◎			野村　典文	1122
		専門ゼミ1	3					◎			橋本　喜代太	535
		災害看護論	4			◎			看		藤田さやか	S1404
		家族看護学(前)	3			◎			看		山崎あけみ、他	S1401
		地域包括支援論(後)	3			◎			看		家根明子、他	S1401
	通年	地域ゼミ	2	◎	◎						大坂　遊	531
		地域ゼミ	2	◎	◎						山本　晋也	532
		地域ゼミ	2	◎	◎						中嶋　克成	533
		地域ゼミ	2	◎	◎		◎				伊藤　敏安	534
		地域ゼミ	2	◎	◎						寺田　篤史	1003
	後期	倫理学Ⅱ	1	○							寺田　篤史	1121
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4				○				寺田　篤史	1121
		人体の構造と機能Ⅱ	1			◎			看		宮本　達雄、他	S1404
		日本経済概論	1	○							岩本　直	S1304
		公衆衛生学	1		○						長谷　亮佑	611
		成人看護方法	2			◎			看	水34	中谷信江、他	S1402
		外国史Ⅱ	2	○	○						兼重　宗和	S1303
		地域企業運営	2･3･4				○				梅田　勝利	S1301
		専門ゼミ2	3					◎			羽渕　由子	1126
		専門ゼミ2	3					◎			髙藤　大介	1127
		専門ゼミ2	3					◎			立部　文崇	1128
		専門ゼミ2	3					◎			小柳　淳二	525
		専門ゼミ2	3					◎			野村　典文	1122
		専門ゼミ2	3					◎			橋本　喜代太	535
		パラスポーツ論Ⅱ	3		○						宇野　直士	601
	3Q	データの可視化	1					○		水3木2	酒井　徹也	1141
	4Q	ビジネスアナリティクス概論	1					○		水3木2	土屋　敏夫	1141

木曜日

	期	科目名	単位数	経済情報	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1時限	1Q	生体情報分析	3					○		木1金6	日置、酒井	1142
	2Q											
	前期	心理学Ⅰ	1	○	○	◎					武田　朋昭	S1304
		社会学と社会システム	1				◎				瀬崎　譲廣	S1302
		簿記初級Ⅰ	1	○							林　徳順	S1303
		周南Well-being創生論	2	◎	◎	◎	◎	◎			渡部明、他	1125･1141
		地域･在宅看護実践	3			◎			看	木12	家根明子、他	S1401
		社会福祉調査の基礎	3	○			◎				牛島　豊広	S1301
		スポーツ心理学実験演習	3		○						水﨑　佑毅	心理学実験室
	通年											
	後期	健康とスポーツ	1	○	○	○		○			松﨑　守利	1125
		健康とスポーツ	1･2･3･4				○				松﨑　守利	1125
		簿記初級Ⅱ	1	○							林　徳順	S1303
		社会福祉学	2			◎			看		永野典詞	S1402
		経済政策	2	○							岩本　直	S1302
		自治体の業務を学ぶ	3	○							長澤　賢一	S1304
		介護基礎理論Ⅱ	1				○				北村　光子	S1301
	3Q	コーパス言語学	3					○		月1木1	立部　文崇	1142
	4Q	実践英語(数学)	2					○		水1木1	道山　知成	1141
2時限	1Q	モデリングの数理	3					○		月4木2	小柳　淳二	1141
	2Q											
	前期	社会学	1	○	○	○		○			稲垣　円	1121
		介護基礎理論Ⅰ	1				◎				小林　武生	S1302
		健康と福祉	2	○		○		○			北村　光子	S1303
		健康と福祉	2･3･4				○				北村　光子	S1303
		スポーツ傷害予防論	2		○						佐野村　学	611
		簿記中級Ⅰ	2	○							林　徳順	S1301
		日本経済史	2	○							小林　啓祐	1124
		計量経済学	3	○							河田　正樹	1122
		国際政治経済学Ⅱ	3	○							岡本　次郎	1123
		地域･在宅看護実践	3			◎			看	木12	家根明子、他	S1401
		コンディショニング実習Ⅱ	3			○					小野　高志	記念館
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3				◎		社		輪倉　一広	521
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3				◎		社		牛島　豊広	522
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3				◎		社		守本　友美	523
	通年											
	後期	地域づくり論	1	○		○					稲垣　円	1121
		地域づくり論	1･2･3･4				○				稲垣　円	1121
		周南地域文化講座	1	○	○			○			小林　啓祐	1142
		周南地域文化講座	1･2･3･4				○				小林　啓祐	1142
		簿記中級Ⅱ	2	○							林　徳順	S1301
		コンディショニング実習Ⅰ	2			○					佐野村　学	601
		国際政治経済学Ⅰ	2	○							岡本　次郎	1123
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2				◎				輪倉　一広	521
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2				◎				小林　武生	522
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2				◎				井上　浩	523
		スポーツマネジメント	3			○					中嶋　健	S1302
		財務管理論	3	○							長澤　賢一	1122
		国際保健	4				◎		看		柳澤理子	S1401
		看護過程	2				◎		看		杉本吉恵、他	S1402
	3Q	データの可視化	1					○		水3木2	酒井　徹也	1141
	4Q	ビジネスアナリティクス概論	1					○		水3木2	土屋　敏夫	1141
3時限	1Q	確率統計基礎	2					○		木3金3	木島　正明	1141
	2Q	Javaプログラミング	2					○		木3金3	児玉　満	1141
	前期	子どもの理解	1				◎				金子　幸	S1304
		体力トレーニング論	1			○					西山　健太	611
		成人看護学概論	2				◎		看	木34	岡田純也、他	S1402
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2				◎		社		竹下　徹	521
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2				◎		社		牛島　豊広	522
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2				◎		社		井上　浩	523
		健康医学	2			○					木村　相泰	601
		ミクロ経済学Ⅰ(クラス1)	2	◎							田島　正士	1142
		ミクロ経済学Ⅰ(クラス2)	2	◎							伏木　貞文	1125
		運動分子生物学	3			○					松生　里香	S1302
		管理会計論	3	○							林　徳順	1122
		コンテクストデザイン実践	3	○							赤木　真由、他	1121
		臨床遺伝学	3				○		看		山縣芳明、他	S1401
		保健医療福祉行政論	4				○		看		鶴田来美、他	S1404
	後期	周南地域と産業	1	○	○	○		○			赤木　真由	1142
		周南地域と産業	1･2･3･4				○				赤木　真由	1142
		精神看護方法	2			◎			看	木34	羽生　貞親、他	S1402
		スポーツ栄養学	2			○					八木　香里	611
		ミクロ経済学Ⅱ(クラス1)	2	○							田島　正士	S1304
		ミクロ経済学Ⅱ(クラス2)	2	○							伏木　貞文	S1303
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2				◎		社		輪倉　一広	521
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2				◎		社		小林　武生	522
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2				◎		社		井上　浩	523
		運動生理学演習	3			○					江﨑　和希、他	生理学実験室･生化学実験室
		ケアマネジメント論	2･3･4				○				小林　武生	S1301
	3Q	企業とデータ分析	1					○		月4木3	谷村　琢也	オンライン
		フィンテック･ブロックチェーン	3					○		月4木3	内田　善彦	1141
	4Q	微分積分基礎	1					○		月4木3	木島　正明	601
		AI･コンピュータと人間	3	○				○		月5木3	児玉　満、他	1141

令和9(2027)年度　全学部学科時間割

水

	期	科目名	履修年次	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
4時限	1Q	データベース	2			○		水45	野村　典文	オンライン
	2Q	言語情報学	2			○		水45	立部　文崇	1141
	前期	教養ゼミ	1						田島　正士	521
		教養ゼミ	1						百武　仁志	522
		教養ゼミ	1						稲垣　円	523
		教養ゼミ	1						中嶋健、他	524
		教養ゼミ	1		◎				梅田　勝利	1123
		教養ゼミ	1			◎			橋本　喜代太	1124
		教養スポーツ実習Ⅰ	1	◎	◎	◎			東恩納　玲代、他	体育館、グラウンド
		セクシュアルリプロダクティブ看護方法	2	◎			看	水34	大平光子、他	S1402
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2		◎		社		竹下　徹	S1303
		運動生理学	2	○					江﨑　和希	601
		中小企業論	2						百武　仁志	S1304
		経営組織論Ⅰ	2						木全　晃	S1301
		教職ボランティア実習	3	○		○	教		大坂　遊、他	611
		コミュニケーションスキル	3	○			看		羽生貞親、他	S1401
		専門ゼミ1	3			◎			羽渕　由子	1126
		専門ゼミ1	3			◎			日置　智子	1127
		専門ゼミ1	3			◎			松村　遼	1128
		専門ゼミ1	3			◎			道山　知成	1121
		専門ゼミ1	3			◎			矢島　安敏	1122
		専門ゼミ1	3			◎			小柳　淳二	525
	通年									
	後期	人の健康生活	1	○	○	○			山本　八千代、他	S1304
		人の健康生活	1-2-3-4		○				山本　八千代、他	S1304
		成人看護方法	2	◎			看	水34	中谷信江、他	S1402
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2		◎		社		井上　浩	S1303
		エアロビックダンス	2	○					大庭　尚子	多目的スタジオ
		経営組織論Ⅱ	2	○					木全　晃	S1301
		リコンディショニング実習Ⅰ	2	○					久保　誠司	611
		専門ゼミ2	3			◎			酒井　徹也	1126
		専門ゼミ2	3			◎			日置　智子	1127
		専門ゼミ2	3			◎			松村　遼	1128
		専門ゼミ2	3			◎			道山　知成	1121
		専門ゼミ2	3			◎			矢島　安敏	1122
		専門ゼミ2	3			◎			土屋　敏夫	525
		アジアビジネス論	3	○					呉　贇	S1302
		教職実践演習	4	○	○	○	教		渡部　明、他	601
	3Q	ソフトウェア工学	2			○		火6水4	野村　典文	オンライン
	4Q	インターネットマーケティング	2	○		○		火6水4	西郷　彰	1141
5時限	1Q	データベース	2			○		水45	野村　典文	オンライン
	2Q	言語情報学	2			○		水45	立部　文崇	1141
	前期	中級日本語	1	○			留	月23・水56	山本　晋也、他	525
		日本国憲法	1	○		○			新井　誠	1125
		日本国憲法	1-2-3-4		○				新井　誠	1125
		周産期小児期疾病治療論	2		◎		看		平林啓、他	S1402
		スポーツ運動学	2		○				西　博史	611
		商法Ⅰ	2	○					川﨑　政之、他	531
		政治制度論	2	○					山脇　直祐	S1303
		野外教育論	3		○				三原　善伸	601
		職業指導Ⅰ	3	○			教		坂本　勲	1121
	通年									
	後期	安全な患者介助	2			○	看		杉本吉恵	S1402
		商法Ⅱ	2	○					川﨑　政之、他	531
		スポーツ傷害対応論	2		○				佐野村　学	611
		職業指導Ⅱ	3	○			教		坂本　勲	1121
		健康運動実習	3		○		教		奥本正、他	601
		日本国憲法	1			○			新井　誠	1125
	3Q									
	4Q									
6時限	前期	保健体育科教育法Ⅰ	2		○				瀬尾　賢一郎	611
		救急対応実践論Ⅰ	2		○				佐野村　学	601
	通年	卒業研究	4			◎			内田　善彦	521
		卒業研究	4			◎			木島　正明	522
		卒業研究	4			◎			呉　靭	523
		卒業研究	4			◎			児玉　満	524
		卒業研究	4			◎			酒井　徹也	531
		卒業研究	4			◎			髙藤　大介	532
		卒業研究	4			◎			立部　文崇	533
		卒業研究	4			◎			土屋　敏夫	534
		卒業研究	4			◎			野村　典文	535
		卒業研究	4			◎			橋本　喜代太	1121
		卒業研究	4			◎			羽渕　由子	1122
		卒業研究	4			◎			日置　智子	1123
		卒業研究	4			◎			松村　遼	1124
		卒業研究	4			◎			道山　知成	1126
		卒業研究	4			◎			矢島　安敏	1127
		卒業研究	4			◎			小柳　淳二	1128
	後期	保健体育科教育法Ⅱ	2		○				瀬尾　賢一郎	611
		救急対応実践論Ⅱ	2		○				佐野村　学、他	601
	3Q									
	4Q									

木

	期	科目名	履修年次	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
4時限	1Q	AI・自然言語処理	3			○		木45	橋本　喜代太	1141
	2Q									
	前期	哲学	1	○	○	○			渡部　明	1124
		哲学	1-2-3-4						渡部　明	1124
		創造的問題解決	1	○					赤木　真由	S1304
		韓国語Ⅱ	2	○	○			木45	李　萬善	1121
		韓国語Ⅱ	1-2-3-4					木45	李　萬善	1121
		韓国語Ⅱ	3			○			李　萬善	1121
		成人期疾病治療論	2			◎	看		尾形　聡、他	S1402
		社会保障Ⅰ	2						脇野　幸太郎	S1303
		社会保障論Ⅰ	2	○					脇野　幸太郎	S1303
		都市計画論	2	○					小林　啓祐	1142
		器械運動(クラス1)	2		○		教		瀬尾　賢一郎、他	記念館
		地誌学Ⅰ	3	○					佐藤　裕哉	531
		地域スポーツ文化論	3		○				清原　泰治	601
		地域経済論Ⅱ	3	○					村岡　浩次	S1302
		地域保健活動展開論	4		○		看		鶴田来美	S1404
	通年									
	後期	情報倫理	1		○	◎			渡部明	1141
		情報倫理	1-2-3-4			○			渡部明	1141
		スポーツバイオメカニクス	1		○				西山　健太	611
		経済史Ⅱ	1	○					小林　啓祐	1122
		精神看護方法	2			◎	看	木34	羽生　貞親、他	S1402
		社会保障Ⅱ	2			◎			難波　利光	S1303
		社会保障論Ⅱ	2	○					難波　利光	S1303
		体力測定と評価	2		○				東恩納　玲代	601
		地域経済論Ⅰ	2	○					村岡　浩次	S1304
		原価計算論	2	○					福原　道照	1121
		運動分子生物学演習	3		○				松生　里香	生理学実験室・生化学実験室
		地誌学Ⅱ	3	○					佐藤　裕哉	531
		子どもの遊びと言葉	3・4			○			金子　幸	S1301
	3Q	認知・感性とデータ分析	2			○		木4金6	土屋、橋本、酒井	1142
	4Q	大規模・オープンデータ分析	2			○		木4金6	松村、小柳、道山	1142
5時限	1Q	AI・自然言語処理	3			○		木45	橋本　喜代太	1141
	2Q									
	前期	看護学概論	1		◎		看		杉本吉恵・上野和美	S1404
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1			◎	社		輪倉　一広、他	S1304
		企業概論Ⅰ	1	○					百武　仁志	1125
		地域福祉経済論	2・3・4	○		○			伊藤　敏安	S1303
		韓国語Ⅱ	2	○	○			木45	李　萬善	1121
		韓国語Ⅱ	2・3・4			○		木45	李　萬善	1121
		器械運動(クラス2)	2		○		教		瀬尾　賢一郎、他	記念館
		社会科教育法Ⅰ	2	○			教		大坂　遊	1122
		商業科教育法Ⅰ	3	○			教		福原　道照	1123
		外国書購読(英語)	3	○					岡本　次郎	S1301
		スポーツ教育実践演習	3		○				岡井　理香	601
		へき地・地域医療	4			◎	看		原田昌範	S1401
		精神疾病治療論	2			◎	看		岡村　仁	S1402
		韓国語Ⅱ	3			○			李　萬善	1121
	通年									
	後期	地域・在宅看護概論(前)	1			◎	看		家根　明子	S1404
		セクシュアルリプロダクティブ看護学概論(後)	1			◎	看		大平　光子	S1404
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	○			社		輪倉　一広、他	S1304
		企業概論Ⅱ	1	○					百武　仁志	1125
		福祉自治論	1-2-3-4			○			水谷　利亮	S1303
		社会科教育法Ⅱ	2	○			教		大坂　遊	1122
		公衆衛生看護活動Ⅱ	2				看		鶴田来美、他	S1402
		救急処置法	2						後藤　慶	601
		スポーツ教育実践実習	3						岡井　理香	611
		商業科教育法Ⅱ	3	○			教		福原　道照	1123
	3Q	情報ネットワークとセキュリティ	2			○		月6木5	内田　善彦、他	1141
	4Q	組み込みシステム	2			○		月6木5	髙藤　大介	1141
6時限	1Q	IoTとAI	2			○		木6金6	橋本　喜代太	1141
	2Q									
	前期	卒業研究Ⅰ	3			◎			牛島　豊広	521
		卒業研究Ⅰ	3			◎			梅田　勝利	522
		卒業研究Ⅰ	3			◎			金子　幸	523
		卒業研究Ⅰ	3			◎			難波　利光	524
		卒業研究Ⅰ	3			◎			脇野　幸太郎	525
	通年	卒業研究	4		◎				堂本　司	新館5F
		卒業研究	4		◎				中谷　信江	新館5F
		卒業研究	4		◎				羽生　貞親	新館5F
		卒業研究	4		◎				半田　浩美	新館5F
		卒業研究	4		◎				百田　由希子	新館5F
		卒業研究	4		◎				福森　絢子	新館5F
		専門ゼミⅡ	4	◎					田尾　真一	531
		専門ゼミⅡ	4	◎					田島　正士	532
		専門ゼミⅡ	4	◎					長澤　賢一	533
		専門ゼミⅡ	4	◎					長澤　雅彦	534
		専門ゼミⅡ	4	◎					林　徳順	535
		専門演習Ⅱ	4		◎				中嶋　健	1121
		専門演習Ⅱ	4		◎				江﨑　和希	生理学実験室
		専門演習Ⅱ	4		◎				小笠　義博	1122
		専門演習Ⅱ	4		◎				奥本　正	生化学実験室
		専門演習Ⅱ	4		◎				佐野村　学	1123
		専門演習Ⅱ	4		◎				瀬尾賢一郎	1124
		専門演習Ⅱ	4		◎				岡井　理香	1003
	後期	牛島　豊広	4		◎				牛島　豊広	521
		梅田　勝利	4		◎				梅田　勝利	522
		金子　幸	4		◎				金子　幸	523
		難波　利光	4		◎				難波　利光	524
		脇野　幸太郎	4		◎				脇野　幸太郎	525
	3Q									
	4Q									

令和9(2027)年度　全学部学科時間割

	期	科目名	履修年次	金 総合健康	スポーツ	看護	福祉	情報	区分	開講曜限	担当者	教室
1時限	1Q	実践英語(情報)	3					○		月1金1	内田　善彦	1142
	2Q	データ分析基礎	1					◎		月1金1	土屋　敏夫	1141
		情報行動心理学	3					○		月1金1	羽渕　由子	1142
	前期	経済学・経営学の視点を学ぶ	1	◎							岡本　次郎、他	1125
		アントレプレナーシップ入門	2	○		○		○			石谷　康人	S1303
		中上級日本語Ⅰ	2	○					留		山本　貴子	1124
		地域福祉キャリア形成活動指導Ⅱ	2				◎				北村光子、他	S1302
		コンディショニング論	2		○						佐野村　学、他	601
		障害者福祉	3				◎				井上　浩	S1304
		運動処方	3		○						江﨑　和希、他	611
		公衆衛生看護方法	3			○			看	金12	鶴田来美、他	S1401
		社会的養護	3･4				○				川村　宏司	S1301
	通年											
	後期	生涯発達論	1			◎			看		梅村比丘	S1404
		栄養学	1		◎						尾形　聡	601
		異文化コミュニケーション	1	○				○			田中　数恵、他	1122
		異文化コミュニケーション	1･2･3･4				○				田中　数恵、他	1122
		学校保健	2		○				教		川崎　裕美、他	S1304
		総合英語初中級Ⅱ	2			◎					丹羽　仁美	1123
		人文地理学Ⅱ	2	○							佐藤　裕哉	S1303
		高齢者福祉	2				◎		社		小林　武生	S1302
		経営管理論	2	○							木全　晃	1142
		スポーツツーリズム論	3		○			○			小笠原　正志	611
		環境経済学	3	○							田島　正士	S1301
	3Q	Webアプリケーション開発	2	○				○		水1金1	児玉　満	1141
	4Q											
2時限	1Q	ニューラルネットワーク	2					○		月6･金2	松村　遼	1141
		数値解析	3					○		火2金2	内田　善彦	1142
	2Q	最適化モデリング	2					○		月6･金2	矢島　安敏	1141
	前期	人体の構造と機能Ⅰ	1			◎			看		宮本　達雄、他	S1404
		地域観光まちづくり論	1	○			◎	○	社		難波　利光	S1304
		生理学	1		◎						尾形　聡	611
		総合英語初中級Ⅰ(クラス7)	2			◎					丹羽　仁美	1123
		総合英語初中級Ⅰ(クラス9)	2	◎							田中　数恵	1124
		総合英語初中級Ⅰ(クラス11)	2	◎							中光　義亮	531
		総合英語初中級Ⅰ(クラス13)	2	◎							非常勤A	532
		総合英語初中級Ⅰ(クラス1)	2		◎						新枝　美帆	533
		日本語口頭表現	2	○					留		立部　文崇	521
		中上級日本語Ⅱ	2	○					留		山本　貴子	525
		総合英語初中級Ⅰ(クラス4)	2				◎				西村　浩子	1121
		ゴール型球技(クラス1)	2		○						水﨑　佑毅、他	記念館、学内グラウンド
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3				◎				輪倉　一広	522
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3				◎				小林　武生	523
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3				◎				井上　浩	524
		健康運動演習	3		○						江﨑　和希、他	601
		アジア経済論	3	○							岡本　次郎	S1303
		公衆衛生看護方法	3			○			看	金12	鶴田来美、他	S1401
		看護管理学	4			◎			看		上野和美	S1402
	通年											
	後期	アカデミックライティング	1	○	○	○		○			寺田　篤史	534
		医学概論	1				◎				木村　相泰	S1304
		総合英語初中級Ⅱ(クラス7)	2			◎					丹羽　仁美	1123
		総合英語初中級Ⅱ(クラス9)	2	◎							田中　数恵	1124
		総合英語初中級Ⅱ(クラス11)	2	◎							中光　義亮	531
		総合英語初中級Ⅱ(クラス13)	2	◎							原田　浩子	532
		総合英語初中級Ⅱ(クラス1)	2		◎						新枝　美帆	533
		中上級日本語Ⅲ	2	○					留		山本　貴子	521
		総合英語初中級Ⅱ(クラス4)	2				◎				西村　浩子	1121
		ネット型球技(クラス1)	2		○						西　博史、他	体育館
		保健体育科教育法Ⅳ	3		○				教		瀬尾　賢一郎	601
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3				◎				輪倉　一広	522
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3				◎				小林　武生	523
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3				◎				井上　浩	524
	3Q	多変量解析	2	○				○		金2金3	道山　知成	1141
	4Q	コンピュータグラフィックス	2					○		金2金3	呉　靭	1141
3時限	1Q	確率統計基礎	2					○		木3金3	木島　正明	1141
		品質管理とデータ分析	3					○		月5金3	小柳　淳二	1142
	2Q	Javaプログラミング	2					○		木3金3	児玉　満	1141
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス4)	1				◎				西村　浩子	1121
		英会話初級Ⅰ(クラス5)	1				◎				ポーリーン	1122
		統計学基礎Ⅰ	1	○							河田　正樹	S1304
		総合英語初中級Ⅰ(クラス8)	2			◎					丹羽　仁美	1123
		総合英語初中級Ⅰ(クラス10)	2	◎							田中　数恵	1124
		総合英語初中級Ⅰ(クラス12)	2	◎							中光　義亮	531
		総合英語初中級Ⅰ(クラス14)	2	◎							原田　浩子	532
		総合英語初中級Ⅰ(クラス2)	2		◎						新枝　美帆	533
		貧困に対する支援	2				◎		社		難波　利光	S1303
		ゴール型球技(クラス2)	2		○						水﨑　佑毅、他	体育館、グラウンド
		成人急性期看護実践(前)	3			◎			看	金34	渡邉多恵、他	S1401
		成人慢性期看護実践(後)	3			◎			看	金34	中谷信江、他	S1401
		保健体育科実践演習	3		○				教		瀬尾　賢一郎	611
		流通論	3	○							林　徳順	S1301
	通年											
	後期	総合英語初級Ⅱ(クラス4)	1				◎				西村　浩子	1121
		英会話初級Ⅱ(クラス5)	1				◎				ポーリーン	1122
		基礎看護技術Ⅰ(日常生活援助)	1			◎			看	金34	杉本吉恵、他	S1404
		統計学基礎Ⅱ	1	○							河田　正樹	S1304
		アスレティックトレーニング概論	1		○						佐野村　学	601
		総合英語初中級Ⅱ(クラス8)	2			◎					丹羽　仁美	1123
		総合英語初中級Ⅱ(クラス10)	2	◎							田中　数恵	1124
		総合英語初中級Ⅱ(クラス12)	2	◎							中光　義亮	531
		総合英語初中級Ⅱ(クラス14)	2	◎							原田　浩子	532
		総合英語初中級Ⅱ(クラス2)	2		◎						新枝　美帆	533
		ネット型球技(クラス2)	2		○						西　博史、他	体育館
		政策評価	2･3･4				○				伊藤　敏安	S1303
		NPO・ボランティア論	3				◎				牛島　豊広	S1302
		保健体育科実践実習	3		○						瀬尾　賢一郎	611
		環境経営	3	○							木全　晃	S1301
	3Q	多変量解析	2	○				○		金2金3	道山　知成	1141
	4Q	コンピュータグラフィックス	2					○		金2金3	呉　靭	1141

令和9(2027)年度　全学部学科時間割

	期	科目名	履修年次	金					区分	開講曜限	担当者	教室
				発達保健	スポーツ	看護	福祉	情報				
4時限	1Q	情報科学概論	1					◎		火4金4	木島　正明、他	1142
	2Q	Python応用	1					◎		月4金4	酒井　徹也	1142
	前期	総合英語初級Ⅰ(クラス5)	1				◎				西村　浩子	1121
		英会話初級Ⅰ(クラス4)	1				◎				ポーリーン	1122
		経済史Ⅰ	1	○							小林　啓祐	S1304
		総合英語初中級Ⅰ(クラス3)	2		◎						新枝　美帆	533
		プログラミング	2					○			髙藤　大介	1141
		経済統計	2	○							河田　正樹	601
		栄養代謝学	2			◎			看		八木香里	S1402
		特別活動及び総合的な学習の時間	3	○	○			○	教		石橋　孝明	S1302
		成人急性期看護実践(前)	3			◎			看	金34	渡邉多恵、他	S1401
		成人慢性期看護実践(後)	3			◎			看	金34	中谷信江、他	S1401
		保健医療と福祉	4				◎	○	社		守本　友美	S1301
	通年	地域ゼミ	2				◎				金子　幸	522
		地域ゼミ	2				◎				北村　光子	523
		地域ゼミ	2				◎				脇野　幸太郎	524
		専門ゼミⅠ	3	◎							田尾　真一	531
		専門ゼミⅠ	3	◎							田島　正士	532
		専門ゼミⅠ	3	◎							赤木　真由	534
		専門ゼミⅠ	3	◎							長澤　雅彦	535
	後期	基礎看護技術Ⅰ(日常生活援助)	1			◎			看	金34	杉本吉恵、他	S1404
		総合英語初級Ⅱ(クラス5)	1				◎				西村　浩子	1121
		英会話初級Ⅱ(クラス4)	1				◎				ポーリーン	1122
		内科学	1		◎						尾形聡	611
		やまぐち地域福祉発達史	1･2･3･4				○				真木　奈美	S1304
		総合英語初中級Ⅱ(クラス3)	2		◎						新枝　美帆	533
		公衆衛生看護活動Ⅰ	2			○			看		鶴田来美、他	S1402
		ソーシャルアントレプレナーシップ	2	○				○			林　浩喜	521
		商業学	2	○							林　徳順	S1303
		教育行政論	3	○	○			○	教		石橋　孝明	S1302
	3Q	線形代数基礎	1					○		月1金4	道山　知成	1141
	4Q	データサイエンス概論	1					○		月1金4	矢島　安敏	1141
5時限	1Q											
	2Q											
	前期	数学	1	○	○						河田　正樹	1122
		ドイツ語Ⅱ	2	○	○			○		月5･金5	新枝　美帆	1121
		ドイツ語Ⅱ	3			○					新枝　美帆	1121
		ドイツ語Ⅱ	2･3･4				○			月5･金5	新枝　美帆	1121
		生徒指導論	2	○	○			○	教		石橋　孝明	1141
		公衆衛生看護学概論	2			○			看		鶴田来美、他	S1402
		金融論	2	○							長澤　賢一	1125
		保健体育科教育法Ⅲ	3		○						瀬尾　賢一郎	611
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	4				◎		社		輪倉　一広	521
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	4				◎		社		井上　浩	522
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	4				◎		社		守本　友美	523
	通年	専門ゼミⅠ	3	◎							林　徳順	531
		専門ゼミⅠ	3	◎							百武　仁志	532
		専門ゼミⅠ	3	◎							伏木　貞文	533
		専門ゼミⅠ	3	◎							村岡　浩次	534
		専門ゼミⅠ	3	◎							呉　賛	535
	後期	ドイツ語Ⅰ	1	○	○			○		月5･金5	新枝　美帆	1121
		ドイツ語Ⅰ	1･2･3･4				○			月5･金5	新枝　美帆	1121
		ドイツ語Ⅰ	2			○					新枝　美帆	1121
		教育課程論(クラス1)	1	○	○			○	教		大坂　遊	S1304
		教育課程論(クラス2)	1	○	○			○	教		石橋　孝明	S1303
		特別支援教育	3	○	○			○	教		中嶋　克成	611
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3				◎		社		輪倉　一広	521
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3				◎		社		小林　武生	522
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3				◎		社		井上　浩	523
	3Q	経営と数理モデル	2	○				○		火4金5	小柳　淳二	1142
	4Q	シミュレーション	2	○				○		火4金5	内田　善彦	1142
6時限	1Q	IoTとAI	2					○		木6金6	橋本　喜代太	1141
		生体情報分析	3							木1金6	日置、酒井	1142
	2Q											
	前期											
	通年	卒業研究	4								藤井　宝恵	新館5F
		卒業研究	4								松浦　純平	新館5F
		卒業研究	4								山本　八千代	新館5F
		卒業研究	4								渡邊　淳子	新館5F
		卒業研究	4								渡邊　多恵	新館5F
		専門演習Ⅱ	4		◎						清原　泰治	521
		専門演習Ⅱ	4		◎						尾形　聡	生理学実験室
		専門演習Ⅱ	4		◎						東恩納玲代	522
		専門演習Ⅱ	4		◎						松生　香里	生化学実験室
		専門演習Ⅱ	4		◎						小野　高志	523
		専門演習Ⅱ	4		◎						水﨑　佑毅	心理学実験室
		専門演習Ⅱ	4		◎						西山　健太	524
		専門ゼミⅡ	4	◎							百武　仁志	531
		専門ゼミⅡ	4	◎							伏木　貞文	532
		専門ゼミⅡ	4	◎							村岡　浩次	533
		専門ゼミⅡ	4	◎							呉　賛	534
	後期											
	3Q	認知･感性とデータ分析	2					○		木4金6	土屋、橋本、酒井	1142
	4Q	大規模･オープンデータ分析	2					○		木4金6	松村、小柳、道山	1142

周南公立大学時間割　1年前期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1	総合英語初級Ⅰ	◎	丹羽仁美(非常勤／看護)	1121					教養ゼミ	◎	井上みゆき　羽生貞親　渡邊多恵	1121．1122	心理学Ⅰ	◎	未定(非常勤)	S1304				
	英会話初級Ⅰ	◎	ダーシー・ドワイヤー(非常勤/看護)	1123					教養スポーツ実習Ⅰ	◎	清原泰治,江崎和希,松生香里,東恩納玲代,西山健太,水崎佑毅,宇野直士,大庭尚子,西博史,北哲也,岡崎祐介	体育館、グラウンド								
2	総合英語初級Ⅰ	◎	丹羽仁美(非常勤／看護)	1121	周南Well-being創生入門	◎	渡部明	1125	教養ゼミ	◎	渡邊淳子　加茂尚子　堂本司	1121.1122	社会学	○	稲垣円	1121	人体の構造と機能Ⅰ	◎	宮本達雄、岸博子、板橋岳志	S1404
	英会話初級Ⅰ	◎	ダーシー・ドワイヤー(非常勤/看護)	1123				1141	教養スポーツ実習Ⅰ	◎	清原泰治,江崎和希,松生香里,東恩納玲代,西山健太,水崎佑毅,宇野直士,大庭尚子,西博史,北哲也,岡崎祐介	体育館、グラウンド								
3	総合英語初級Ⅰ	◎	丹羽仁美(非常勤／看護)	1121	メンタルヘルス入門	○	羽生貞親	1123												
	英会話初級Ⅰ	◎	ダーシー・ドワイヤー(非常勤/看護)	1123																
4					人間と健康	◎	中嶋健,大平光子,難波利光,江崎和希,小野高志,瀬尾健一郎,北村光子,金子幸,梅田勝利	1125					哲学	○	渡部明	1124				
5	倫理学Ⅰ	◎	寺田篤史	S1303	持続可能な社会とダイバーシティ	○	中嶋健,大平光子,難波利光,江崎和希,小野高志,瀬尾健一郎,北村光子,金子幸,梅田勝利	S1304					看護学概論	◎	杉本吉恵・上野和美	S1404				

＊総合英語初中級Ⅰと英会話初級Ⅰは1･2限か3･4限のどちらか

周南公立大学時間割　1年後期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1	総合英語初級Ⅱ	◎	丹羽仁美(非常勤／看護)	1121	コミュニケーション論	◎	杉本吉恵	S1404	教養スポーツ実習Ⅱ	○	松生香里、東恩納玲代、水崎佑毅、宇野直士(非常勤)、大庭尚子(非常勤)、西博史(非常勤)、岡崎祐介(非常	体育館、グラウンド	健康とスポーツ	○	松﨑守利	1125	生涯発達論	◎	梅村比丘	S1404
	英会話初級Ⅱ	◎	ダーシー・ドワイヤー(非常勤/看護)	1123																
2	総合英語初級Ⅱ	◎	丹羽仁美(非常勤／看護)	1121	中国語Ⅰ	○	河村玉(非常勤)	521					地域づくり論	○	稲垣円	1121	アカデミックライティング	○	寺田篤史	531
	英会話初級Ⅱ	◎	ダーシー・ドワイヤー(非常勤/看護)	1123																
3	総合英語初級Ⅱ	◎	丹羽仁美(非常勤／看護)	1121	中国語Ⅰ	○	河村玉(非常勤)	521	人体の構造と機能Ⅱ	◎	宮本達雄、岸博子、板橋岳志	1121	周南地域と産業	○	赤木真由	1142	基礎看護技術Ⅰ(日常生活援助)	◎	杉本吉恵･上野和美･藤井宝恵･堂本司･福森絢子･磯濱真理子･助手	S1404 ※(1)(4)
	英会話初級Ⅱ	◎	ダーシー・ドワイヤー(非常勤/看護)	1123																
4	生活と経済経営	○	田尾真一，長澤賢一，田島正士，百武仁志、赤木真由	S1304					人の健康生活	○	大平光子、山本八千代、岡田純也、大達亮	S1304	情報倫理	○	渡部明	1141	基礎看護技術Ⅰ(日常生活援助)	◎	杉本吉恵･上野和美･藤井宝恵･堂本司･福森絢子･磯濱真理子･助手	S1404 ※(1)(4)
5									日本国憲法	○	新井誠(非常勤)	1125	地域･在宅看護概論(前) セクシュアルリプロダクティブ看護学概論(後)	◎ ◎	家根明子 大平光子	S1404				

＊総合英語初中級Ⅱと英会話初級Ⅱは1･2限か3･4限のどちらか

集中講義

科目名	看護	区分	担当者	日程
教養スポーツ実習Ⅱ	○		松生香里、東恩納玲代、水崎佑毅、宇野直士（非常勤）、大庭尚子（非常勤）、西博史（非常勤）、岡崎祐介（非常	マリンスポーツ：夏季休暇中に集中演習、スノースポーツ：後期後半の集中演習
情報リテラシー	◎		日置智子	オンデマンド配信
データサイエンス入門	◎		呉靭、日置智子	オンデマンド配信
留学英語	○		田中　数恵、西村　浩子	前期中集中講義
well-being実習Ⅰ（地域の成人・高齢者）	◎	看	杉本吉恵、上野和美、堂本司、藤井宝恵、福森絢子、磯濱真理子、岡田純也、松浦順平、中谷信江、渡邊多恵、山田裕紀、高橋登志枝、田淵啓二、辻麻由美、加茂尚子、羽生貞親、大達亮、家根明子、久乗エミ、堀井利江、大平光子、渡邊淳子、百田由希子	第10週
well-being実習Ⅱ（地域の小児・学童期）	◎	看	杉本吉恵、上野和美、堂本司、藤井宝恵、福森絢子、磯濱真理子、大平光子、渡邊淳子、百田由希子、山本八千代、井上みゆき、半田浩美、羽生貞親、大達亮、鶴田来美、田川紀美子、木倉悠子	21～22週のうち1週

講義室とは別に使用する可能性の高い実習室	
※(1)	4F S1406 臨床系実習室
※(2)	3F S1306　小児･母性系実習室
※(3)	3F S1305　地域･在宅実習室
※(4)	4F S1405 シミュレーション室 + S1403 ディブリーフィングルーム

周南公立大学時間割　2年前期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1	小児看護学概論（前） 精神看護学概論（後）	◎ ◎	井上みゆき 羽生貞親・大達亮	S1402	高齢者看護学概論	◎	田淵啓二	S1402	社会調査法入門	○	稲垣円	531	周南Well-being創生論	◎	渡部明，田島正士，木全晃，赤木真由，中嶋健，清原泰治，土屋敏夫，大平光子，鶴田来美，脇野幸太郎	1125 1141	アントレプレナーシップ入門	○	石谷康人	S1303
2	健康まちづくり論	○	難波利光	S1304	中国語Ⅱ	○	河村玉（非常勤）	521	臨床薬理学	◎	嶋本顕	S1402	健康と福祉	○	北村光子	S1303	総合英語初中級Ⅰ	◎	丹羽仁美（非常勤／看護）	1123
3	自然災害と防災	◎	木村玲欧	S1304	中国語Ⅱ	○	河村玉（非常勤）	521	セクシュアルリプロダクティブ看護方法	◎	大平光子・渡邉淳子・百田由希子	S1402 ※(2)(4)	成人看護学概論	◎	岡田純也・松浦順平	S1402	総合英語初中級Ⅰ	◎	丹羽仁美（非常勤／看護）	1123
4	ヘルスアセスメント	◎	杉本吉恵・上野和美・藤井宝恵・堂本司・福森絢子・磯濱真理子・助手	S1402 ※(1)	基礎看護技術Ⅱ （診療に伴う技術）	◎	杉本吉恵・上野和美・藤井宝恵・堂本司・福森絢子・磯濱真理子・助手	S1402 ※(1)(4)	セクシュアルリプロダクティブ看護方法	◎	大平光子・渡邉淳子・百田由希子	S1402 ※(2)(4)	成人期疾病治療論	◎	尾形　聡・原田有彦・池永茂・河岡　徹・山下浩司・原田有彦・加茂　健太・松谷朗・池田安宏	S1402	栄養代謝学	◎	八木香里	S1402
5	高齢期疾病治療論	◎	尾形　聡、松谷　朗、岡原仁志、加茂　健太	S1402	基礎看護技術Ⅱ （診療に伴う技術）	◎	杉本吉恵・上野和美・藤井宝恵・堂本司・福森絢子・磯濱真理子・助手	S1402 ※(1)(4)	周産期小児期疾病治療論	◎	平林啓、市山高志、山本滋、立石浩	S1402	精神疾病治療論	◎	岡村　仁	S1402	公衆衛生看護学概論	○	鶴田来美・田川紀美子・木倉悠子	S1402

周南公立大学時間割　2年後期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1	地域・在宅支援論	◎	家根明子・久乗エミ・羽生貞親・堀井利江	S1402	小児看護方法	◎	井上みゆき・山本八千代・半田浩美	S1402 ※(2)(4)					社会福祉学	◎	永野典詞	S1402	総合英語初中級Ⅱ	◎	丹羽仁美（非常勤／看護）	1123
2	微生物・感染制御学	◎	原田昌範	S1402	小児看護方法	◎	井上みゆき・山本八千代・半田浩美	S1402 ※(2)(4)	公衆衛生	◎	長谷亮佑	S1402	看護過程	◎	杉本吉恵・上野和美・藤井宝恵・堂本司・福森絢子・磯濱真理子・助手	S1402	総合英語初中級Ⅱ	◎	丹羽仁美（非常勤／看護）	1123
3	高齢者看護方法	◎	田淵啓二・辻麻由美・加茂尚子	S1402 ※(1)(4)	看護倫理	◎	上野和美	S1402	成人看護方法	◎	中谷信江・渡邉多恵・松浦順平・山田裕紀・岡田純也・高橋登志枝	S1402 ※(1)(4)	精神看護方法	◎	羽生貞親・大達亮	S1402 ※(3)(4)	総合英語初中級Ⅱ	◎	丹羽仁美（非常勤／看護）	1123
4	高齢者看護方法	◎	田淵啓二・辻麻由美・加茂尚子	S1402 ※(1)(4)	韓国語Ⅰ	○	李萬善（非常勤）	1141	成人看護方法	◎	中谷信江・渡邉多恵・松浦順平・山田裕紀・岡田純也・高橋登志枝	S1402 ※(1)(4)	精神看護方法	◎	羽生貞親・大達亮	S1402 ※(3)(4)	公衆衛生看護活動Ⅰ	○	鶴田来美・田川紀美子・木倉悠子	S1402
5	ドイツ語Ⅰ	○	新枝美帆（非常勤）	1121	韓国語Ⅰ	○	李萬善（非常勤）	1141	安全な患者介助	○	杉本吉恵	S1402 ※(1)(4)	公衆衛生看護活動Ⅱ	○	鶴田来美・後藤　慶、椎木　文、松本由希子	S1402	ドイツ語Ⅰ	○	新枝美帆（非常勤）	1121

＊総合英語初中級Ⅱは1・2限か3・4限のどちらか

集中講義

科目名	看護	区分	担当者	日程
情報社会論	○		渡部　明	後期後半
基礎看護実習Ⅰ	◎	看	杉本吉恵・上野和美・藤井宝恵・堂本司・福森絢子・助手A・助手B、磯濱真理子、田川、辻、渡邉、百田、久乗、木倉、堀井、加茂、山田、高橋	8～9週のうち 1週間
基礎看護実習Ⅱ	◎	看	杉本吉恵・上野和美・藤井宝恵・堂本司・福森絢子・助手A・助手B、磯濱真理子、田川、辻、渡邉、百田、久乗、木倉、堀井、加茂、山田、高橋	46～49週のうち 2週間

講義室とは別に使用する可能性の高い実習室	
※(1)	4F S1406 臨床系実習室
※(2)	3F S1306　小児・母性系実習室
※(3)	3F S1305　地域・在宅実習室
※(4)	4F S1405 シミュレーション室 + S1403 ディブリーフィングルーム

周南公立大学時間割　3年前期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1													地域･在宅看護実践	◎	家根明子･久乗エミ･堀井利江･助手	S1401 ※(3)(4)	公衆衛生看護方法	○	鶴田来美･田川紀美子･木倉悠子	S1401 ※(3)(4)
2	多職種連携	◎	大平光子･半田浩美･渡邉多恵	S1401									地域･在宅看護実践	◎	家根明子･久乗エミ･堀井利江･助手	S1401 ※(3)(4)	公衆衛生看護方法	○	鶴田来美･田川紀美子･木倉悠子	S1401 ※(3)(4)
3	セクシュアルリプロダクティブ看護実践(前)	◎	大平光子･渡邉淳子･百田由希子、助手	S1401 ※(2)(4)	小児看護実践(前)	◎	半田浩美･井上みゆき･山本八千代	S1401 ※(2)(4)	家族看護学(前)	◎	山崎あけみ･津村明美	S1401	臨床遺伝学	○	山縣芳明･武藤正彦･牧　優子･大下真美	S1401	成人急性期看護実践(前)	◎	渡邉多恵･松浦順平･山田裕紀	S1401 ※(1)(4)
	精神看護実践(後)	◎	羽生貞親･大達亮･助手	S1401 ※(3)(4)	高齢者看護実践(後)	◎	田淵啓二･辻麻由美･加茂尚子･助手B･助手C	S1401 ※(3)(4)	地域包括支援論(後)	◎	家根明子･久乗エミ･堀井利江･助手	S1401					成人慢性期看護実践(後)	◎	中谷信江･岡田純也･高橋登志枝･山田裕紀	S1401 ※(1)(4)
4	セクシュアルリプロダクティブ看護実践(前)	◎	大平光子･渡邉淳子･百田由希子、助手	S1401 ※(2)(4)	小児看護実践(前)	◎	半田浩美･井上みゆき･山本八千代	S1401 ※(2)(4)	コミュニケーションスキル	○	羽生貞親、大達亮	S1401	韓国語Ⅱ	○	李萬善(非常勤)	1121	成人急性期看護実践(前)	◎	渡邉多恵･松浦順平･山田裕紀	S1401 ※(1)(4)
	精神看護実践(後)	◎	羽生貞親･大達亮･助手	S1401 ※(3)(4)	高齢者看護実践(後)	◎	田淵啓二･辻麻由美･加茂尚子･助手B･助手C	S1401 ※(3)(4)									成人慢性期看護実践(後)	◎	中谷信江･岡田純也･高橋登志枝･山田裕紀	S1401 ※(1)(4)
5	ドイツ語Ⅱ	○	新枝美帆(非常勤)	1121									韓国語Ⅱ	○	李萬善(非常勤)	1121	ドイツ語Ⅱ	○	新枝美帆(非常勤)	1121

周南公立大学時間割　3年後期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1 2 3 4	領域実習 （地域･在宅看護実習、成人急性期看護実習、成人慢性期看護実習、高齢者看護実習、 小児看護実習、母性看護実習、精神看護実習）																			

集中講義

科目名	看護	区分	担当者	日程
研究方法論	◎	看	井上みゆき・渡邉淳子・家根明子・田淵啓二	2月中集中講義
地域・在宅看護実習	◎	看	家根明子・久乗エミ・田川紀美子・木倉悠子・堀井利江・鶴田来美	28～39、44～45週
成人急性期看護実習	◎	看	松浦順平・渡邉多恵・山田裕紀・助手・中谷信江・高橋登志枝・岡田純也	28～35週
成人慢性期看護実習	◎	看	松浦順平・岡田純也・中谷信江・高橋登志枝・渡邉多恵・山田裕紀・助手A、百田由希子	36～39、42～45週
高齢者看護実習	◎	看	田淵啓二・辻麻由美・加茂尚子・助手B・助手C	28～35、42～45週
小児看護実習	◎	看	井上みゆき・山本八千代・半田浩美・助手	28～38週
母性看護実習	◎	看	大平光子・渡邉淳子・百田由希子・助手	28～38週
精神看護実習	◎	看	羽生貞親・大達亮・助手	28～31、38～39、42～45週

講義室とは別に使用する可能性の高い実習室	
※(1)	4F S1406 臨床系実習室
※(2)	3F S1306　小児･母性系実習室
※(3)	3F S1305　地域･在宅実習室
※(4)	4F S1405 シミュレーション室 + S1403 ディブリーフィングルーム

周南公立大学時間割　4年前期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1					疫学演習	○	鶴田来美	S1404 ※(3)(4)												
2					疫学演習	○	鶴田来美	S1404 ※(3)(4)									看護管理学	◎	上野和美	S1404
3									災害看護論	◎	藤田さやか	S1404	保健医療福祉行政論	○	鶴田来美･田川紀美子･木倉悠子	S1404				
4													地域保健活動展開論	○	鶴田来美	S1404				
5	公衆衛生看護管理論	○	鶴田来美･木倉悠子	S1401	地区活動論	○	鶴田来美･田川紀美子･木倉悠子	S1404					へき地･地域医療	◎	原田昌範	S1401				
6	卒業研究	◎	全教員	S1501～ S1529	卒業研究	◎	全教員	S1501～ S1529												

周南公立大学時間割　4年後期

	月				火				水				木				金			
	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室	科目名	看護	担当者	教室
1					看護政策論(前) 看護教育(後)	○ ○	岩澤和子 渡邊淳子	S1401 S1401												
2													国際保健	◎	柳澤理子	S1401				
3	保健活動評価	○	鶴田来美･田川紀美子･木倉悠子	S1401	医療経済学	○	大森　正博	S1401												
4																				
5																				
6	卒業研究	◎	全教員	S1501～ S1529	卒業研究	◎	全教員	S1501～ S1529												

集中講義

科目名	看護	区分	担当者	日程
well-being実習Ⅲ （地域の健康課題）	◎	看	（全教員）杉本吉恵、上野和美、堂本司、藤井宝恵、福森絢子、磯濱真理子、鶴田来美、田川紀美子、木倉悠子、家根明子、久乗エミ、堀井利江、羽生貞親、大達亮、山本八千代、井上みゆき、半田浩美、田淵啓二、辻麻由美、加茂尚子、岡田純也、松浦順平、中谷信江、渡邊多恵、山田裕紀、高橋登志枝、大平光子、渡邊淳子、百田由希子	16～19週のうち 2週間
統合実習	◎	看	（全教員）杉本吉恵、上野和美、堂本司、藤井宝恵、福森絢子、磯濱真理子、鶴田来美、田川紀美子、木倉悠子	8～13週のうち 2週間
公衆衛生看護実習Ⅰ	○	看	鶴田来美・田川紀美子・木倉悠子	20～22週または 23～25週
公衆衛生看護実習Ⅱ	○	看	鶴田来美・田川紀美子・木倉悠子・家根明子・久乗エミ・堀井利江	26～27週または 28～29週

講義室とは別に使用する可能性の高い実習室	
※(1)	4F S1406 臨床系実習室
※(2)	3F S1306　小児･母性系実習室
※(3)	3F S1305　地域･在宅実習室
※(4)	4F S1405 シミュレーション室 + S1403 ディブリーフィングルーム

人間健康科学部福祉学科　時間割

※科目名の前に「○」印があるものは必修科目

	期	月						火						水						木						金					
		科目名	配当年次	区分	開講曜限	担当者	教室	科目名	配当年次	区分	開講曜限	担当者	教室	科目名	配当年次	区分	開講曜限	担当者	教室	科目名	配当年次	区分	開講曜限	担当者	教室	科目名	配当年次	区分	開講曜限	担当者	教室
1時限	前期	地域マネジメント論	2・3・4			伊藤　敬安	S1302	○ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	社		竹下　徹	S1304	○ 教養ゼミ	1			井上　浩	524	○ 社会学と社会システム	1	社		瀬崎　譲廣	S1302	○ 地域福祉キャリア形成活動指導Ⅱ	2			北村・小林・牛島、他3名	S1302
								○ 権利擁護を支える法制度	2	社		脇野　幸太郎	S1302	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			江﨑　和希		○ 周南Well-being創生論	2			渡部・中嶋・大平、他7名	1125・1141	○ 障害者福祉	3	社		井上　浩	S1304
														○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			東恩納　玲代		○ 社会福祉調査の基礎	3	社		牛島　豊広	S1301	社会的養護	3・4			川村　宏司	S1301
														○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			松生　香里													
														総合英語中上級Ⅰ	3・4			田中　数恵	532												
														子どもの遊びと造形	2・3・4			弘中　順一	S1302												
														福祉的ターミナルケア	2			北村　光子	S1303												
	後期	健康まちづくり論	1・2・3・4			難波　利光	S1304	○ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	社		守本　友美	S1304	○ 刑事司法と福祉	2	社		脇野　幸太郎	S1303	健康とスポーツ-1	1・2・3・4			松﨑　守利	1125	異文化コミュニケーション	1・2・3・4			田中・山本・西村・立部	1122
								子どもの遊びと援助	1・2・3・4			金子　幸	S1301							介護基礎理論Ⅱ	1			北村　光子	S1301	○ 高齢者福祉	2	社		小林　武生	S1302
								地域公共政策論	1・2・3・4			伊藤　敏安	S1302																		
2時限	前期	幼児体育	3・4			瀬尾　賢一郎	記念館	○ 周南Well-being創生入門	1			渡部　明	1125.1141	○ 教養ゼミ	1			伊藤　敏安	1123	○ 介護基礎理論Ⅰ	1			小林　武生	S1302	○ 地域観光まちづくり論	1			難波　利光	S1304
		○ 心理学と心理的支援	1			藤川　卓也	S1304	中国語Ⅱ	2・3・4		火23	河村　玉	521	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			西山　健太		○ ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	社		輪倉　一広	521	○ 総合英語初中級Ⅰ-4	2			西村　浩子	1121
		○ 社会福祉法制	2			脇野　幸太郎	S1303	多職種協働演習	3			守本　友美	S1303	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			岡崎　祐介		○ ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	社		牛島　豊広	522	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	社		輪倉　一広	522
								社会福祉法人会計	2・3・4			梅田　勝利	S1302							○ ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	社		守本　友美	523	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	社		小林　武生	523
																				健康と福祉	2・3・4			北村　光子	S1303	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	社		井上　浩	524
	通年													○ 地域ゼミ	2			難波　利光	533												
														○ 地域ゼミ	2			梅田　勝利	534												
	後期	介護演習Ⅰ	1			北村　光子	S1303	中国語Ⅰ	1・2・3・4		火23	河村　玉	521	保育原理	1・2・3・4			金子　幸	S1304	周南地域文化講座	1・2・3・4			小林　啓祐	1142	○ 医学概論	1	社		木村　相泰	S1304
								介護演習Ⅲ	2			北村　光子	S1303	総合英語中上級Ⅱ	3・4			西村　浩子	1121	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2			輪倉　一広	521	○ 総合英語初中級Ⅱ-4	2			西村　浩子	1121
														こころとからだのしくみ	1			原田 昌範、光武きよみ	S1301	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2			小林　武生	522	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	社		輪倉　一広	522
																				○ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2			井上　浩	523	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	社		小林　武生	523
																				地域づくり論	1・2・3・4			稲垣　円	1121	○ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	社		井上　浩	524
3時限	前期	介護演習Ⅱ	2			北村　光子	S1303	メンタルヘルス入門	1・2・3・4		羽生　貞親	1123	○ 教養ゼミ	1			竹下　徹	1123	○ 子どもの理解	1			金子　幸	S1304	○ 総合英語初級Ⅰ-4	1			西村　浩子	1121
		自然災害と防災	2・3・4			木村　玲欧	S1304	中国語Ⅱ	2・3・4		火23	河村　玉	521	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			水﨑　佑毅		○ ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	社		竹下　徹	521	○ 英会話初級Ⅰ-5	1			ポーリーン	1122
		地域企業分析	2・3・4			梅田　勝利	S1301	子どもの保健	2・3・4			光武 きよみ	S1303	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			宇野　直士		○ ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	社		牛島　豊広	522	○ 貧困に対する支援	2	社		難波　利光	S1303
								○ 福祉サービスの組織と経営	3	社		牛島　豊広	S1302	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			大庭　尚子		○ ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	社		井上　浩	523						
														○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			西　博史													
														○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			北　哲也													
	通年													○ 地域ゼミ	2			伊藤　敏安	534												
	後期	○ 地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰ	1			北村・小林・牛島、他3名	S1304	中国語Ⅰ	1・2・3・4		火23	河村　玉	521	倫理学Ⅱ	1・2・3・4			寺田　篤史	1121	周南地域と産業	1・2・3・4			赤木　真由	1142	○ 総合英語初級Ⅱ-4	1			西村　浩子	1121
														地域企業運営	2・3・4			梅田　勝利	S1301	○ ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	社		輪倉　一広	521	○ 英会話初級Ⅱ-5	1			ポーリーン	1122
																				○ ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	社		牛島　豊広	522	政策評価	2・3・4			伊藤　敏安	S1303
																				○ ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	社		井上　浩	523	○ NPO・ボランティア論	3			牛島　豊広	S1302
																				ケアマネジメント論	2・3・4			小林　武生	S1301						
4時限	前期	○ 総合英語初中級Ⅰ-5	2			西村　浩子	1121	○ 人間と健康	1		大平・中嶋・難波、他6名	1125	○ 教養ゼミ	1			梅田　勝利	1123	哲学	1・2・3・4			渡部　明	1124	○ 保健医療と福祉	4	社		守本　友美	S1301
		保育ソーシャルワーク演習	4			牛島　豊広	S1301	○ 児童・家庭福祉	2	社		竹下　徹	S1303	○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			坪井　恭紀		韓国語Ⅱ	2・3・4			李　萬善	1121	○ 英会話初級Ⅰ-4	1			ポーリーン	1122
														○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			宇野　直士		○ 社会保障Ⅰ	2	社	木45	脇野　幸太郎	S1303	○ 総合英語初級Ⅰ-5	1			西村　浩子	1121
														○ 教養スポーツ実習Ⅰ	1			清原　泰治													
														○ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	社		竹下　徹	S1303												
	通年																									○ 地域ゼミ	2			金子　幸	522
																										○ 地域ゼミ	2			北村　光子	523
																										○ 地域ゼミ	2			脇野　幸太郎	524
	後期	生活と経済経営	1・2・3・4			田尾・長津・田島・百武・赤木	S1304	韓国語Ⅰ	1・2・3・4		火45	李　萬善	1141	人の健康生活	1・2・3・4			山本・大平・岡田・大達	S1304	情報倫理	1・2・3・4			渡部明	1141	○ 総合英語初級Ⅱ-5	1			西村　浩子	1121
		○ 総合英語初中級Ⅱ-5	2			西村　浩子	1121	音楽理論	1・2・3・4			井町　美貴子	S1303	○ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	社		井上　浩	S1303	○ 社会保障Ⅱ	2	社		難波　利光	S1303	○ 英会話初級Ⅱ-4	1			ポーリーン	1122
		保育ソーシャルワーク論	3・4			竹下　徹	S1302	地域企業会計	1・2・3・4			梅田　勝利	S1302							子どもの遊びと言葉	3・4			金子　幸	S1301	やまぐち地域福祉発達史	1・2・3・4			真木　奈美	S1304
5時限	前期	倫理学Ⅰ	1・2・3・4			寺田　篤史	S1303	持続可能な社会とダイバーシティ	1・2・3・4			呉・小林・田尾、他7名	S1304	日本国憲法	1・2・3・4			新井　誠	1125	○ 社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	社		輪倉　一広・難波　利光	S1304	ドイツ語Ⅱ	2・3・4		月5・金5	新枝　美帆	1121
		ドイツ語Ⅱ	2・3・4			新枝　美帆	1121	○ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	社		輪倉　一広	S1303							地域福祉経済論	2・3・4			伊藤　敏安	S1303	○ ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	社		輪倉　一広	521
		○ 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	3	社	月5・金5	竹下　徹	S1302													韓国語Ⅱ	2・3・4		木45	李　萬善	1121	○ ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	社		井上　浩	522
																										○ ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	社		守本　友美	523
	後期	ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4			新枝　美帆	1121	韓国語Ⅰ	1・2・3・4		火45	李　萬善	1141							○ 社会福祉の原理と政策Ⅱ	1	社		輪倉・難波・守本・竹下	S1304	ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4		月5・金5	新枝　美帆	1121
		○ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3	社	月5・金5	守本　友美	1121													福祉自治論	1・2・3・4			水谷　利亮	S1303	○ ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	社		輪倉　一広	521
								○ ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	社		小林　武生	S1302													○ ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	社		小林　武生	522
																										○ ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	社		井上　浩	523
6時限	前期																			○ 卒業研究Ⅰ	3			牛島　豊広	521						
																				○ 卒業研究Ⅰ	3			梅田　勝利	522						
																				○ 卒業研究Ⅰ	3			金子　幸	523						
																				○ 卒業研究Ⅰ	3			難波　利光	524						
																				○ 卒業研究Ⅰ	3			脇野　幸太郎	525						
	通年							○ 卒業研究Ⅱ	4			牛島　豊広	521																		
								○ 卒業研究Ⅱ	4			梅田　勝利	522																		
								○ 卒業研究Ⅱ	4			金子　幸	523																		
								○ 卒業研究Ⅱ	4			難波　利光	524																		
								○ 卒業研究Ⅱ	4			脇野　幸太郎	525																		
	後期																														

《実習》

科目名	配当年次	区分	担当者
○ 地域福祉キャリア形成活動Ⅰ	1後		北村・小林・牛島・金子・梅田・伊藤
○ 地域福祉キャリア形成活動Ⅱ	2前		北村・小林・牛島・金子・梅田・伊藤
○ ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後・3前	社	輪倉・小林・井上・守本・脇野・竹下・牛島
○ ソーシャルワーク実習Ⅱ	3後・4前	社	輪倉・小林・井上・守本・脇野・竹下・牛島

《集中講義》

科目名	配当年次	区分	担当者
ワークショップデザインⅠ	2・3・4通		赤木真由、岡井理香、寺田篤史、大坂遊
ワークショップデザインⅡ	3・4通		赤木真由、寺田篤史
ワークショップデザインⅢ	4通		赤木真由、寺田篤史

《メディア》

科目名	配当年次	区分	担当者
○ 情報リテラシー	1前		日置智子
○ データサイエンス入門	1後		呉勤、日置智子
Python入門	1・2・3・4前		酒井徹也

学術雑誌等の一覧（スポーツ健康科学科）

No.	データベース	出版社
1	医中誌WEB	医学中雑誌刊行会
2	メディカルオンライン	メテオ
3	スポーツ産業史	Ｊ-DAC
No.	学術雑誌	出版社
1	週刊　保健衛生ニュース	(有)社会保険実務研究所
2	体育の科学	杏林書院
3	保健の科学	杏林書院
4	子どもと発育発達	杏林書院
5	健康づくり	公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
6	心理学評論	心理学評論刊行会
7	レクリエ	世界文化社
8	体力科学	日本体力医学学会
9	法律時報	日本評論社
10	楽しい体育の授業	明治図書出版
11	法学教室	有斐閣
12	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine(JPFSM)	日本体力医学学会
13	月刊スポーツメディスン	ブックハウスエイチディ
14	救急医学	へるす出版
15	たのしい体育・スポーツ	学校体育研究同志会
16	体育科教育	大修館書店
17	スポーツ産業学研究	日本スポーツ産業学会
18	リハビリテーション　スポーツ	日本リハビリテーションスポーツ学会
19	学校保健研究	日本学校保健学会事務局支部
20	臨床スポーツ医学	文光堂　営業部

学術雑誌等の一覧（看護学科）

No.	データベース（国内）	出版社	アクセス
1	最新看護索引	医学中雑誌刊行会	1
2	系統別 看護師国家試験問題・保健師国家試験問題	医学書院	フリー
No.	データベース（海外）	出版社	アクセス
1	CINAHL with Full Text	EBSCO	1
2	Ovid Nursing Edge Collection + American Journal of Nursing	ovid	フリー／1
No.	学術雑誌（国内）	出版社	契約冊数
1	コミュニティケア	株式会社 日本看護協会出版会	12
2	BRAIN NURSING	メディカ出版	6
3	精神看護	医学書院	6
4	精神科看護	精神看護出版	12
5	精神医学	精神医学学会	1
6	精神療法	金ごう出版統計協会	1
7	月刊 ナーシング	株式会社 学研メディカル秀潤社（システム情報センター）	12
8	看護研究	医学書院	6
9	訪問看護と介護	医学書院	12
10	緩和ケア	（株）青海社	6
11	ホスピスケア	ホスピスケア研究会	2
12	Clinical Study	メヂカルフレンド社	12
13	呼吸器ジャーナル	医学書院	1
14	INFECTION CONTROL	メディカ出版	1
15	OPE NURSING	メディカ出版	1
16	Emer Log	メディカ出版	6
17	がん看護	南江堂	6
18	看護教育	医学書院	12
19	小児看護	へるす出版	12
20	看護展望	メヂカルフレンド社	12
21	看護管理	医学書院	12
22	プチナース	（株）照林社	12
23	看護	株式会社 日本看護協会出版会	12
24	整形外科看護	メディカ出版	12
25	臨床老年看護	日総研出版	6
26	消化器ナーシング	メディカ出版	1
27	周産期医学	東京医学社	1
28	with NEO	メディカ出版	1
29	PERINATAL CARE	メディカ出版	1
30	助産雑誌	医学書院	1
31	看護人材育成	日総研出版	1
32	公衆衛生情報	公衆衛生協会	1
33	公衆衛生	医学書院	1
34	健康教室	東山書房	1
35	保健師ジャーナル	医学書院	1
36	医療と福祉	日本医療ソーシャルワーカー協会	1
37	児童養護	全国児童養護施設協会	4
38	子どもの虐待とネグレクト	岩崎学術出版社	1
39	児童青年精神医学とその近接領域	児童精神医学学会	1
40	家族看護学研究	日本家族看護学会	2
41	産業保健と看護	メディカ出版	1
42	訪問看護とかいご	日本訪問看護振興財団	1
43	エキスパートナース	照林社	1

No.	学術雑誌（海外）	出版社	契約冊数
1	Journal of Advanced Nursing	Wiley-Blackwell	1
2	Journal of Clinical Nursing	Wiley-Blackwell	1
3	Journal of Pediatric Nursing	W.B. SAUNDERS COMPANY	1
4	Nursing Ethics <with Free Access>	Sage Publications Ltd.	1
5	Public Health Nursing	Wiley-Blackwell	1
6	JAMA Psychiatry (for Institution only)	AMERICAN MEDICAL ASSOCIATION	1
7	Geriatric Nursing	Elsevier Health Sciences (Mosby)	1
8	Nursing Research (for Institution)	Lippincott Williams & Wilkins	1
9	Journal of Family Nursing	SAGE PUBLICATIONS, INC.	1
10	Nursing Outlook	Elsevier Health Sciences (Mosby)	1

学術雑誌等の一覧（福祉学科）

No.	誌名	出版社	契約冊数
3	The British journal of social work		8
4	Health and social work		4
5	Journal of rehabilitation		4
6	Social work : journal of the National Association of Social Workers		4
7	医療情報学	篠原出版新社	6
8	介護福祉学	国際文献社	2
9	介護予防・健康づくり	杏林書院	2
10	家族療法研究	金剛出版	3
11	月刊ケアマネジメント	環境新聞社	12
12	月刊福祉	全国社会福祉協議会出版部	12
13	健康づくり	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団	12
14	厚生の指標	一般財団法人　厚生労働統計協会	12
15	厚生労働	日本医療企画	12
16	子どもと発育発達	杏林書院	5
17	社会福祉学	金剛出版	4
18	社会保険旬報	社会保険研究所	36
19	週刊社会保障	株式会社　法研	50
20	週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所	50
21	障害者問題研究	全国障害者問題研究会	4
22	心理学評論	心理学評論刊行会	4
23	総合リハビリテーション	医学書院	12
24	ソーシャルワーク研究：社会福祉実践の総合研究誌	株式会社　相川書房	4
25	地域福祉情報	ジャパン通信情報センター	12
26	日本醫師會雑誌	日本醫師會出版部	12
27	発達	ミネルヴァ書房	4
28	福利厚生	株式会社　労務研究所	24
29	保健の科学	杏林書院	12
30	理学療法ジャーナル	医学書院	12
31	レクリエ：高齢者介護をサポートするレクリエーション情報誌	株式会社世界文化ライフケア	6
32	老年社会科学	ワールドプランニング	4

周南公立大学 人間健康科学部　看護学科　カリキュラムマップ

養成する人材像

看護学科では、豊かな人間性と高い倫理観、幅広い教養を備え、高度な専門知識と技術を活用し、多職種・他業種と連携協働して、
あらゆる健康状態にある人びとが生涯にわたり、社会とのつながりの中で、その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践、探求できる人材を養成する。

- **DP１** 人間の尊厳を理解し、社会の一員として、倫理観や社会の規範に基づいた行動を修得している
- **DP２** 人間の心身の仕組み、あらゆる健康状態にある人びとの健康生活の保持増進、疾病予防、健康の回復のための治療及び健康や生活に関わる社会資源・制度に関する基礎的知識を修得している
- **DP３** 多様な価値や文化を尊重し合う視点を持ち、あらゆる健康状態にある人びとがその人らしくより豊かに生きることを支援する倫理的態度を修得している
- **DP４** 看護実践に必要な専門的知識・技術と科学的根拠に基づく、対象者にとっての最適な看護を追求できる基礎的能力を修得している
- **DP５** 対象者を中心とした保健・医療・福祉チームや他業種との連携協働において、看護職の役割を果すために必要とされる相互に尊重しあうコミュニケーションスキルの基礎を修得している
- **DP６** 知的好奇心を持ち、自ら課題を見出し、課題解決に向けて継続的・主体的に探究、学習する能力を修得している

- **CP１** 総合科目には、人間の尊厳の理解や社会に関する幅広い教養を修得し、倫理的行動、論理的な思考、知識を活用する能力を育むための科目および、人びと、地域、多分野におけるwell-beingのとらえ方に関する科目を配置する
- **CP２** 専門基礎科目には、看護学を学ぶ上で必要な人間の心身の仕組み、あらゆる健康状態にある生活者の健康生活の保持増進、疾病予防、健康の回復のための治療及び健康や生活に関わる社会資源・制度に関する基礎的知識に関する科目を配置する
- **CP３** 専門科目には、看護実践に必要な各看護領域の専門知識・技術及び科学的根拠に基づき、多職種・他業種との連携協働により、対象者にとっての最適な看護を追求する上で必要となる科目を配置する
- **CP４** 専門科目には、あらゆるライフサイクル及びあらゆる健康状態にある生活者の健康上の課題や強みを発見し、生涯にわたりその人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践、探求する上で必要となる科目を配置する

